

茨城県土浦市

東出・神出・中居遺跡

宅地造成事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成11年（1999年）

土浦市教育委員会
土浦市遺跡調査会

茨城県土浦市

ひがし で じん で なか い
東出・神出・中居遺跡

宅地造成事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成11年（1999年）

土浦市教育委員会
土浦市遺跡調査会

序

土浦市は霞ヶ浦や桜川などの水資源に恵まれ、太古から人々が生活するのに適したところがありました。そのため市内には貝塚、古墳、集落跡など数多くの遺跡が存在しております。これらの遺跡は当時の様子を知る手掛かりとなることはもちろんのこと、現代に生きる私たちが豊かな生活を送ることができる先人の業績でもあります。

このような貴重な文化遺産を保護し、後世に伝えることは私達の大切な使命であり郷土の発展のためにも重要なことと思われます。

今回の調査は、株式会社熊谷組と茨城セキスイハイム株式会社の宅地造成事業に伴い東出遺跡、神出遺跡、中居遺跡の発掘調査による記録保存を目的として行われたものであります。

調査の結果、古墳時代から平安時代にかけての集落跡の他に、市内でも数少ない中世の遺跡が発見されました。

この調査によって得られた情報が、土浦周辺の古代文化の解明に役立てて頂ければ幸いです。

最後になりましたが、調査から報告書の刊行にあたり、株式会社熊谷組と茨城セキスイハイム株式会社をはじめ、関係者の皆様方のご協力とご支援に対して心から厚く御礼を申し上げます。

平成11年10月

土浦市教育委員会

教育長 尾 見 彰 一

調査組織

土浦市遺跡調査会組織（9年度）		土浦市遺跡調査会組織（10年度）	
会長	須田 直之 土浦市文化財保護審議会長	会長	須田 直之 土浦市文化財保護審議会長
副会長	尾見 彰一 土浦市教育委員会教育長	副会長	尾見 彰一 土浦市教育委員会教育長
理事	大塚 博 土浦市文化財保護審議会委員	理事	大塚 博 土浦市文化財保護審議会委員
	五頭 英明 土浦市企画調整課長		五頭 英明 土浦市企画調整課長
	山地 隆治 土浦市市区画整理課長		古渡 善平 土浦市市区画整理課長
	坂入 勇 土浦市建築指導課長		萩野 房男 土浦市建築指導課長
	石神 進一 土浦市都市計画課長		石神 進一 土浦市都市計画課長
	細田 俊康 土浦市耕地課長		岡田 和訓 土浦市耕地課長
	内海崎保生 土浦市土木課長		内海崎保生 土浦市土木課長
	半岡 和夫 山武考古学研究所		岩沢 茂 土浦市教育委員会文化課長
監事	中川 茂男 土浦市教育委員会教育次長	監事	中川 茂男 土浦市教育委員会教育次長
	小野 政夫 土浦市監査事務局長		小野 政夫 土浦市監査事務局長
幹事	宮本 昭 土浦市教育委員会文化課長	幹事	米柄 稔 上高津貝塚ふるさと歴史の広場考古資料館長
	矢口 俊則 上高津貝塚ふるさと歴史の広場副館長		萩島 優 土浦市教育委員会文化課長補佐
	萩島 優 土浦市教育委員会文化課長補佐		小貫 俊男 土浦市教育委員会文化課長補佐
	小貫 俊男 土浦市教育委員会文化財係長		塙谷 修 土浦市立博物館係長
	塙谷 修 土浦市立博物館係長		石川 功 上高津貝塚ふるさと歴史の広場考古資料館主幹
	櫻 陽介 上高津貝塚ふるさと歴史の広場主幹		黒澤 春彦 上高津貝塚ふるさと歴史の広場考古資料館主幹
	石川 功 上高津貝塚ふるさと歴史の広場主幹		中澤 達也 土浦市立博物館主幹
	黒澤 春彦 上高津貝塚ふるさと歴史の広場主幹		岡口 満 上高津貝塚ふるさと歴史の広場考古資料館主幹
	中澤 達也 土浦市立博物館主幹		比毛 京男 上高津貝塚ふるさと歴史の広場考古資料館主幹
	岡口 満 上高津貝塚ふるさと歴史の広場主幹		宮本 札子 土浦市教育委員会文化課文化財係主事
	橋場 君男 上高津貝塚ふるさと歴史の広場主幹		
	宮本 札子 土浦市教育委員会文化課文化財係主事		

調査担当者

平岡 和夫 山武考古学研究所所長
 桜谷 優 山武考古学研究所員
 高野 浩之 山武考古学研究所員
 上生 朝治 山武考古学研究所員
 長谷川秀久 山武考古学研究所員
 近藤晋一郎 山武考古学研究所員

調査参加者

望月 典明、秋山 和、塚原なお子、中島 実、佐々木倭枝、中村 勝也、矢口 弘子、石黒よし子、中島みよ子、中島よしい、桜井 隆夫、石神 洋、安達 浩二、小柳 道雄、加藤 博司、木村 時政、飯田志満子、松井 久子、川村 俊夫、高田 初男、小野 肇、幸丸 松雄、吉田 京子、土肥あや子、宮崎 京子、矢口 ミチ、矢口 照江、矢口多美子、矢口 雄工、神林 昌子、河原井秋彦、川中 四郎、細田 正吾、宮本 義雄、寺田 好雄、小角みや子、河合 淳子、市村 晃代、桜井 圭子、市原 静代、鈴木 規弘、長谷川 誠、六川 貴洋、千葉 考之、金井 克子、伊藤 知子、松戸 芳子、平岡恵矢子、藤崎 徳江、中野富美子、大久保敦子、高野 敏江、鏡原美和子、富田 珍子、石黒 力、木村 裕、中村 仁、桜戸 洋子、櫻戸 美香、中島 一輝、堀 大輔、山中美千子、日置 真志、寺島 邦助、伊藤 順子、河村 公子、藤井 陽子、今泉 郁美、大野 知子

例　　言

1. 本書は茨城県土浦市小岩田東一丁目1634番地に所在する東出遺跡と1582-1番地に所在する神出遺跡、1587番地に所在する中居遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、株式会社熊谷組北関東支店と茨城セキスイハイム株式会社の行う宅地造成に伴う事前調査として土浦市遺跡調査会が山武考古学研究所の協力を得て実施したものである。
3. 発掘調査は平成9年12月24日～平成10年6月30日まで実施した。出土品の整理作業及び報告書作成は平成10年7月1日～平成11年3月31日まで行った。
4. 東出・神出・中居遺跡の試掘調査は、土浦市教育委員会黒沢春彦が行った。本調査は東出遺跡を平岡和夫、桐谷優が行い、神出遺跡・中居遺跡を平岡和夫、高野浩之、近藤晋一郎、土生朋治、長谷川秀久が行った。整理作業は、桐谷、高野、土生が行い、執筆は、黒澤、桐谷、高野、長谷川、土生が執筆し、全体の総括を平岡和夫が行った。
5. 発掘調査及び整理に関わり、次の諸氏又は諸機関のご指導・ご協力を賜った。記して謝意を表したい。
(50音順 敬称略)
茨城県教育委員会、㈱熊谷組北関東支店、茨城セキスイハイム㈱、開成測量㈱、㈱常陸測建、赤井博之、大間武、小野正敏、瓦吹堅、川又清明、斎木秀夫、佐々木義則、塙谷修、白石真理、中野晴久、白田正子、平川南、吹野富美男、桃崎祐輔、古岡康鶴、吉澤悟
6. 本報告書に関わる出土品及び記録図面・写真などは一括して上高津貝塚ふるさと歴史の広場に保管している。

凡　　例

1. 遺構に使用した記号は次のとおりである。

竪穴住居跡……SI　　土坑……SK　　溝……SD　　掘立柱建物跡……SB　　柱穴……P

2. 遺構・遺物の実測図中の表示は以下のとおりである。



赤彩土師器：赤色

土師器

礎石・礎板石：黄褐色

火葬墓の還元箇所：青色　　火葬墓の酸化箇所：赤色

----- 竪穴住居跡床面の硬化した範囲

3. 遺構・遺物の表示は次のとおりである。

- (1) 水糸レベルは海拔高度を示す。
- (2) 遺物番号は、本文、挿図、写真図版とも一致する。
- (3) 遺構の縮尺は基本的に1/60であるが、図の大きさによって適宜変更しそれぞれ表示した。
- (4) 遺物の縮尺は原則として土器が1/4、石器・金属製品は1/2で表示した。器種や大きさにより異なる場合にはそれぞれにスケールで表示した。
- (5) 遺構の計測値で（）で表されたものは推定値である。遺物観察表中の器高欄の（）は現存高を表し、口径・底径欄の（）は復元径を表す。

抄 錄

ふりがな	ひがしで・じんで・なかいいせき							
書名	東出・神出・中居遺跡							
副書名								
卷次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編者名	平岡 和夫	著者名	黒澤春彦 桐谷優 高野浩之 土生朗治 長谷川秀久					
編集機関	土浦市教育委員会・土浦市遺跡調査会・山武考古学研究所							
所在地	〒300-0812 茨城県土浦市下高津 2-7-36 土浦市教育委員会内 TEL: 0298-(26)-3484							
発行年月日	1999年10月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひがしで 東出遺跡	つちうらしこいわいたひがし 土浦市小岩田東 一丁目1634外	08-208		36度 3分 23秒	140度 11分 71秒	19971224 ~ 19980228	1,084m ²	民間宅地 造成事業
じんで 神出遺跡	つちうらしこいわいたひがし 土浦市小岩田東 一丁目1582-1外	08-208	5274	36度 3分 29秒	140度 11分 68秒	19980101 ~ 19980630	7,600m ²	民間宅地 造成事業
なかい 中居遺跡	つちうらしこいわいたひがし 土浦市小岩田東 一丁目1587外	08-208		36度 3分 31秒	140度 11分 71秒	19980101 ~ 19980331	600m ²	民間宅地 造成事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
東出遺跡	集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代 中世	竪穴式住居跡1軒 竪穴式住居跡1軒 竪穴式住居跡1軒 火葬墓1基、土坑15基、溝1条		土師器 土師器、須恵器 土師器、須恵器			
神出遺跡	集落跡	古墳時代 平安時代 中世	竪穴式住居跡20軒 竪穴式住居跡22軒 掘立柱建物跡8棟、地下式櫛 29基、火葬墓5基、竪穴造溝 12基、道・溝13条、テラス条 造溝2カ所、礎石建物跡1棟 土坑約460基、柱穴状ピット 約980本		土師器、須恵器 土師器、須恵器、灰釉 古瀬戸、志戸呂、常滑、 青磁、白磁、土師質土器 硯石、砥石、銅錢	15世紀代を中心と した中世の館?・ 墓城、時期不明の 礎石建物、滑石製 印版が出土している。		
中居遺跡	集落跡	平安時代	竪穴式住居跡1軒 土坑29基		土師器、須恵器			

目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
第1章 序章	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 試掘調査の成果	1
第3節 位置と考古学的環境	4
第4節 調査方法と調査経過	9
第2章 東出遺跡	11
第1節 遺跡の概要	11
第2節 遺構と遺物	12
第3節 調査のまとめ	18
第3章 神山遺跡	19
第1節 遺跡の概要	19
第2節 遺構と遺物	20
1 古墳時代	20
2 平安時代	44
3 中世以降	59
(1) 掘立柱建物跡	59
(2) 碓石建物跡	66
(3) 柱穴群	69
(4) テラス状遺構	80
(5) 坑穴遺構	81
(6) 地下式壙	85
(7) 火葬墓	94
(8) 道・溝状遺構	98
(9) 土坑	105
(10) 出土遺物	124
4 遺構外出土遺物	132
第3節 調査のまとめ	135
第4章 中居遺跡	137
第1節 遺跡の概要	137
第2節 遺構と遺物	137
第3節 調査のまとめ	144
第5章 考察	145
第1節 神出遺跡古墳時代集落跡について	145
第2節 神出遺跡中世の遺構と遺物について	151
写真図版	

挿図目次

第1回	宅地造成工事地区と発掘調査地区	序	第62回	神出遺跡 3号掘立柱建物跡	62
第2回	試掘調査トレンド設定図	2	第63回	神出遺跡 7号掘立柱建物跡	63
第3回	第4トレンドチト層構式図	3	第64回	神出遺跡 9号掘立柱建物跡	64
第4回	トレンド出土遺物	3	第65回	神出遺跡 9号掘立柱建物跡	65
第5回	周辺遺跡分布図(1)	6	第66回	神出遺跡10~12号掘立柱建物跡	67
第6回	周辺遺跡分布図(2)	7	第67回	神出遺跡13号掘立柱建物跡	68
第7回	東山・神山、中居遺跡調査区設定図	10	第68回	神出遺跡柱穴群(1)	77
第8回	東出遺跡全体図	11	第69回	神出遺跡柱穴群(2)	79
第9回	東山遺跡1号住居跡・出土遺物	12	第70回	神出遺跡1号テラス状遺構・出土遺物	80
第10回	東出遺跡2号住居跡・出土遺物	13	第71回	神出遺跡2号テラス状遺構・出土遺物	81
第11回	東山遺跡3号住居跡・出土遺物	14	第72回	神出遺跡2~4号・6~8号堅穴造構出土遺物	82
第12回	東出道路火葬墓	15	第73回	神出遺跡9~14号堅穴出土遺物	84
第13回	東出遺跡1~10号土坑	16	第74回	神出遺跡1~5号地下式窓	86
第14回	東出遺跡15~17号土坑	17	第75回	神出遺跡6~9号地下式窓	88
第15回	東山遺跡外出土遺物	17	第76回	神出遺跡10~13,15,,16号地下式窓	89
第16回	神出道路遺構配位置図	19	第77回	神出遺跡17~21号地下式窓	91
第17回	神山遺跡・号住居跡・出土遺物	20	第78回	神出遺跡22~26号地下式窓	92
第18回	神出遺跡5号住居跡	21	第79回	神出遺跡27~29号地下式窓	93
第19回	神出遺跡9号住居跡	22	第80回	神出遺跡1号火葬墓	94
第20回	神出遺跡9号住居跡出土遺物	23	第81回	神出遺跡2号火葬墓	95
第21回	神出遺跡14号住居跡	26	第82回	神出遺跡3号火葬墓	95
第22回	神出遺跡14号住居跡出土遺物	27	第83回	神出遺跡4~5号火葬墓	96
第23回	神出遺跡15~25号住居跡・出土遺物	28	第84回	神出遺跡6~7号火葬墓	97
第24回	神山遺跡18号住居跡・出土遺物	29	第85回	神出遺跡8号火葬墓	97
第25回	神山遺跡19号住居跡・出土遺物	30	第86回	神出遺跡1~2号道	98
第26回	神山遺跡20号住居跡・出土遺物	30	第87回	神出遺跡3号道・出土遺物	99
第27回	神出遺跡28号住居跡・26~28号住居跡出土遺物	32	第88回	神出遺跡4号道・出土遺物	100
第28回	神山遺跡29~30号住居跡・出土遺物	34	第89回	神出遺跡5~6号道	101
第29回	神出遺跡32号住居跡・出土遺物	35	第90回	神出遺跡1~4号溝	103
第30回	神出遺跡32号住居跡出土遺物	36	第91回	神出遺跡5~10~13号溝	104
第31回	神出遺跡34号住居跡・出土遺物	36	第92回	神出遺跡541~543,549,637号土坑・出土遺物	105
第32回	神出遺跡58号住居跡・出土遺物	38	第93回	神出遺跡土坑A1類	106
第33回	神山遺跡39号住居跡・出土遺物	39	第94回	神出遺跡1坑A2類	107
第34回	神出遺跡41号住居跡・出土遺物	39	第95回	神出遺跡土坑A3,A4,A5類	108
第35回	神山遺跡42号住居跡・出土遺物	40	第96回	神出遺跡土坑A5,A6,B1,B2類、15号土坑	109
第36回	神出道路85,87,88,92,110,163,171号土坑出土遺物	41	第97回	神出遺跡近・現代の季節園飾	110
第37回	神出道路149,172,191,197,365,41号土坑出土遺物	42	第98回	神出遺跡出土輪軸陶器	123
第38回	神出道路518,555,596,639号土坑・その他出土遺物	43	第99回	神出遺跡山土灘-H系施錫陶器(1)	124
第39回	神出遺跡・号住居跡・出土遺物	44	第100回	神出遺跡出土灘土系施錫陶器(2)	126
第40回	神出遺跡1号住居跡・出土遺物	45	第101回	神山遺跡出土常滑	126
第41回	神出遺跡3~5号住居跡・出土遺物	46	第102回	神出遺跡出土製品土御賀土器小皿	127
第42回	神山遺跡6~8号住居跡・出土遺物	47	第103回	神山遺跡出土在地系土器・瓦質土器	128
第43回	神出遺跡7~9号住居跡・出土遺物	47	第104回	神出遺跡出土石錢袋	129
第44回	神山遺跡10号住居跡・出土遺物	48	第105回	神出遺跡出土石製品	131
第45回	神出遺跡11号住居跡・出土遺物	48	第106回	神出遺跡出土繩文土器	132
第46回	神出遺跡12号住居跡・出土遺物	49	第107回	神出遺跡出土繩文土器・石器	133
第47回	神出遺跡13号住居跡・出土遺物	50	第108回	中居遺跡全体図	137
第48回	神出遺跡16号住居跡・出土遺物	51	第109回	中居遺跡1号住居跡・出土遺物	138
第49回	神山遺跡17号住居跡・出土遺物	51	第110回	中居遺跡テラス状遺構・出土遺物	139
第50回	神出遺跡21号住居跡・出土遺物	52	第111回	中居遺跡1~11号土坑	141
第51回	神山遺跡22号住居跡・出土遺物	53	第112回	中居遺跡12~20号土坑	142
第52回	神出遺跡24号住居跡・出土遺物	53	第113回	中居遺跡構造外出土遺物	143
第53回	神山遺跡27号住居跡・出土遺物	54	第114回	神山遺跡出土古墳時代須恵器	146
第54回	神出遺跡31号住居跡・出土遺物	55	第115回	堅穴住居跡の構造変化	148
第55回	神出遺跡35号住居跡・出土遺物	55	第116回	堅穴住居跡断面図	149
第56回	神出遺跡36号住居跡・出土遺物	55	第117回	神出遺跡町域穴狀土坑	150
第57回	神出遺跡40号住居跡・出土遺物	56	第118回	神出遺跡古墳時代の堅穴住居の分布	150
第58回	神出遺跡164,371,614号土坑・その他の出土遺物	58	第119回	神出遺跡中世の遺構群の変遷	153
第59回	神出遺跡灰軸陶器	59			
第60回	神山遺跡1号掘立柱建物跡	60			
第61回	神出遺跡2号掘立柱建物跡	61			

表 目 次

表 1 東州・神出・中居遺跡周辺道路一覧表	8	表 4 神出遺跡土坑一覧表	111
表 2 東出遺跡土坑一覧表	15	表 5 中居遺跡テラス内土坑一覧表	138
表 3 神出遺跡柱穴一覧表	69	表 6 中居遺跡土坑一覧表	143

写真目次

《東出遺跡》

- 図版 1 1. 道路全景, 2. 1号住居跡, 3. 1号住居跡カマト近景, 4. 2号住居跡, 5. 3号住居跡
 図版 2 1. 1号火葬墓, 2. 10号土坑, 3. 11号土坑, 4. 13号土坑, 5. 1号溝, 6. 基本堆積土層, 東出遺跡出土遺物
《神出遺跡》
 圖版 3 1. 北区全景, 2. 西区全景
 圖版 4 1. 中央区・南区全景, 2. 南区全景, 3. 南区全景, 4. 中央区全景, 5. 中央区全景
 圖版 5 1. 4号住居跡出土状況, 2. 同完掘状況, 3. 同貯蔵穴層断面, 4. 同貯蔵穴遺物出土状況, 5. 5号住居跡完掘状況, 6. 9号住居跡完掘状況, 7. 同貯蔵穴遺物出土状況, 8. 14号住居跡遺物出土状況, 9. 14号住居跡完掘状況, 10. 同貯蔵穴遺物出土状況, 11. 15・25号住居跡完掘状況, 12. 18号住居跡完掘状況, 13. 19号住居跡遺物出土状況, 14. 20号住居跡完掘状況, 15. 23号住居跡完掘状況, 16. 28・29号住居跡完掘状況
 圖版 7 1. 31・32・34号住居跡遺物出土状況, 2. 32号住居跡遺物出土状況, 3. 同遺物出土状況, 4. 34号住居跡遺物出土状況, 5. 同遺物出土状況, 6. 38号住居跡遺物出土状況, 7. 同P2遺物出土状況近景, 8. 39号住居跡遺物出土状況
 圖版 8 1. 1号住居跡遺物出土状況, 2. 2号住居跡完掘状況, 3. 3号住居跡完掘状況, 4. 10号住居跡カマド完掘状況, 5. 11号住居跡完掘状況, 6. 12号住居跡遺物出土状況, 7. 13号住居跡カマド完掘状況, 8. 16号住居跡遺物出土状況
 圖版 9 1. 17号住居跡遺物出土状況, 2. 21号住居跡遺物出土状況, 3. 27号住居跡完掘状況, 4. 31号住居跡完掘状況, 5. 35号住居跡遺物出土状況, 6. 36号住居跡完掘状況, 7. 37号住居跡カマド完掘状況, 8. 40号住居跡完掘状況
 圖版10 1. 1号掘立柱建物跡挖掘状況, 2. 2号掘立柱建物跡完掘状況, 3. 同P2土層断面, 4. 9号掘立柱建物跡P2確認状況, 5. 9・12号掘立柱建物跡
 圖版11 1. 碳石建物跡, 2. 同確認状況, 3. 同調査状況, 4. 碳石No4近景, 5. 碳石No5近景
 圖版12 1. 1号テラス完掘状況, 2. 2号テラス完掘状況
 圖版13 1. 1号火葬墓完掘状況, 2. 1号火葬墓土層断面, 3. 2号火葬墓完掘状況, 4. 3号火葬墓完掘状況, 5. 4号火葬墓完掘状況, 6. 5号火葬墓完掘状況, 7. 7号火葬墓完掘状況, 8. 8号火葬墓完掘状況
 圖版14 1. 85号土坑遺物出土状況, 2. 110号土坑遺物出土状況, 3. 163号土坑遺物出土状況, 4. 165号土坑遺物出土状況, 5. 191号土坑遺物出土状況, 6. 197号土坑遺物出土状況, 7. 596号土坑遺物出土状況, 8. 639号土坑遺物出土状況
 圖版15 1. 354・359号土坑完掘状況, 2. 371号土坑遺物出土状況, 3. 614号土坑完掘状況, 4. 615号土坑完掘状況, 5. 155号土坑遺物出土状況, 6. 164号土坑遺物出土状況, 7. 549号土坑完掘状況, 8. 637号土坑遺物出土状況
 圖版16 1. 215・218号土坑完掘状況, 2. 235・255・263号土坑完掘状況, 3. 255・260号土坑土層断面, 4. 298・301号土坑完掘状況, 5. 365号土坑完掘状況, 6. 410号土坑完掘状況, 7. 509・622号土坑完掘状況, 8. 541・543号土坑完掘状況
 圖版17 1. 1号地下式横穴完掘状況, 2. 3号地下式横穴完掘状況, 3. 4号地下式横穴完掘状況, 4. 4号地下式横穴層断面, 5. 5・9号地下式横穴完掘状況, 6. 12号地下式横穴完掘状況, 7. 13号地下式横穴完掘状況, 8. 18号地下式横穴完掘状況
 圖版18 1. 19号地下式横穴完掘状況, 2. 20号地下式横穴完掘状況, 3. 21号地下式横穴完掘状況, 4. 23号地下式横穴完掘状況, 5. 25号地下式横穴完掘状況, 6. 26号地下式横穴完掘状況, 7. 27号地下式横穴完掘状況, 8. 28号地下式横穴完掘状況
 圖版19 1. 2号堅穴遺構完掘状況, 2. 3号堅穴遺構完掘状況, 3. 7号堅穴遺構完掘状況, 4. 8号堅穴遺構完掘状況, 5. 9号堅穴遺構完掘状況, 6. 10号堅穴遺構出土状況, 7. 12号堅穴遺構完掘状況, 8. 14号堅穴遺構完掘状況
 圖版20 1. 2号道路完掘状況, 2. 3・4号道路完掘状況, 3. 3号道路遺物出土状況, 4. 4号道路遺物出土状況, 5. 1号溝完掘状況, 6. 3・4・5号溝完掘状況, 7. 10号溝土層断面, 8. 12号溝完掘状況
 圖版21 1. H1グリッド内ビット群完掘状況, 2. H7グリッド内ビット群完掘状況, 3. 16グリッド内ビット群完掘状況, 4. 17グリッド内ビット群完掘状況, 5. 365号土坑完掘状況, 6. H9グリッド内ビット群完掘状況, 7. 17グリッド内ビット群完掘状況, 8. 18グリッド内ビット群完掘状況
 圖版22 9号住居跡出土遺物, 14号住居跡出土遺物, 32号住居跡出土遺物
 圖版23 4・9号住居跡出土遺物
 圖版24 9・14号住居跡出土遺物
 圖版25 15・18・19・28・29・32号住居跡出土遺物
 圖版26 32・38号住居跡出土遺物
 圖版27 1・2・12・16・17・21・22・35・36・38・40・41号住居跡出土遺物
 圖版28 古墳時代土坑遺物
 圖版29 平安時代土坑遺物その他、灰釉陶器、瀬戸系陶器
 圖版30 古墳時代土坑遺物その他、灰釉陶器、瀬戸系陶器
 圖版31 古窓戸片、輸入陶磁器、石製品、出土鏡器
 圖版32 17号地下式横穴土坑ヤマトシジミ・オタニシ、遺構外出土遺物
《中居遺跡》
 圖版33 1. 道路全景, 2. 1号住居跡遺物出土状況, 3. 1号土坑遺物出土状況, 4. 7号土坑遺物出土状況, 5. 14号土坑完掘状況
 圖版34 1. テラス状遺構遺物出土状況, 2. テラス状遺構完掘状況, 3. テラス状遺構遺物出土状況, 4. テラス状遺構遺物出土状況, 中居遺跡出土遺物



第1図 宅地造成工事地区と発掘調査地区

第1章 序 章

第1節 調査に至る経緯

平成7年8月、株式会社熊谷組北関東支店と茨城セキスイハイム株式会社から70,000m²に及ぶ開発の事前協議申請が土浦市に提出された。(その後事業範囲が52,447m²に縮小したため平成9年10月1日に事前協議申請が再提出された)それを受けた同市教育委員会文化課は現地踏査を行った。開発エリア内は、周知の遺跡である神出遺跡があり、それ以外の地点で遺物の散布が見られることから、他にも遺跡の存在が考えられた。そのため市教育委員会では、遺跡の分布や遺構の密度を知るために試掘調査が必要との回答を行なった。

試掘調査は平成9年10月1日から10月4日にかけて行なわれた。結果、神出遺跡を含む3か所で埋蔵文化財が確認された。新しく発見された遺跡は、字名から「東出遺跡」「中居遺跡」と命名し、10月13日付で文化庁宛に57条の6を提出した。市教育委員会は試掘調査の結果をもとに遺跡の範囲や、埋蔵文化財の密度を割り出し、現状保存が困難な場合は発掘調査が必要であるとの旨を10月28日付で事業主に提出した。

その後事業主と市教育委員会との間で埋蔵文化財の取扱いについての協議を重ねた。その結果、現状の工事計画では埋蔵文化財の現状保存が困難であることから、発掘調査により埋蔵文化財の記録保存を行うことで合意した。市教育委員会は事業主から提出された57条の2を11月10日付で文化庁に進呈した。

発掘調査にあたっては、土浦市教育委員会が土浦市遺跡調査会に依頼し、緊急な開発事業のため山武考古学研究所の協力のもと実施する運びとなった。平成9年12月17日、事業主と土浦市遺跡調査会、土浦市教育委員会の三者で契約を締結した。発掘調査は平成10年1月12日、東出遺跡から行なわれ、1月28日付で、98条の2を文化庁宛に提出した。

第2節 試掘調査の成果

開発事業地内において数回にわたり現地踏査を行ったところ、周知の遺跡である神出遺跡の範囲以外にも、遺物の散布が見られた。また、谷や山林等で地下の状況が不明な場所もあることから、遺跡の有無の確認と遺構の密度を知ることを目的としてトレンチ法による試掘調査を行った。トレンチは未買収地区を除いて17本設定し、平成9年10月1日から10月4日にかけて実施した。トレンチの総延長は414m、総面積は850m²を測る。(第2図)以下各トレンチの概要について述べる。

第1・2トレンチは事業地内北東部、標高22mを測る細長い尾根状の台地に設定したが、遺構・遺物は発見されなかった。表土は約30cmでその下は白色の粘土層である。

第3トレンチは事業地内北部、標高21~22mを測る南に張り出す細い尾根状の台地上に設定した。現状は山林である。斜面に遺物が散布していることから遺構の存在が考えられたが、試掘の結果、遺構・遺物は発見されなかった。表土は約50cmでその下は白色の粘土層である。

第4・5トレンチは事業地内北部、標高14~19m、南に傾斜する斜面上に設定した。低地との比高差は約3mを測る。表面で遺物が散布していることから遺跡の存在が考えられる地点である。試掘の結果、略穴住居跡と平安時代以降の遺物包含層が確認された。遺物は平安時代から中世にかけての土師器や須恵器、陶器などが出土した。表土は斜面のため50~90cmと厚く、その下に遺物包含層が堆積している。遺構を掘りこんでいる層は粘性土まりの強い褐色土層である。(第3図)新発見の遺跡であるため、字名から「東出遺跡」と命名した。



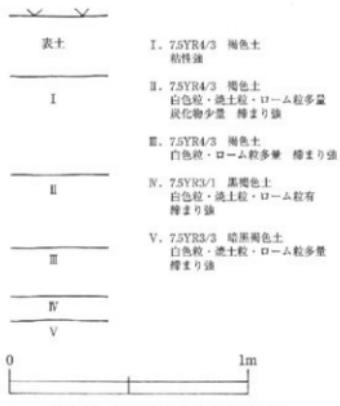
第2図 試掘調査トレンチ設定図

第6・7トレンチは事業地内の中央部、東西に入り込む谷に設定した。現在の標高は13mであるが、2m前後砂による盛土をしている。以前は水田として利用していたが現在はセイタカアワダチソウが生い茂る荒れ地となっている。盛土が砂で厚いことや、低地のため水が湧くことなど試掘調査の条件は悪いが、近年、低地での遺跡の発見が見られることから2か所トレンチを設定した。調査の結果、水田跡などの遺構を確認することはできなかったが、古墳時代の土師器が数点出土した。遺物は台地上からの流れ込みと考えられる。土層は盛り土の下に青色の砂質の層が約20cm、青褐色土が約30cm、灰褐色土が約40cm、その下に明るい灰褐色土が堆積している。土師器は明るい灰褐色土から出土した。

第8トレンチは事業地内中央、北側に臨む谷より一段高い場所に設定した。標高は14mを測る。土器片が数点発見されたが台地上からの流れ込みと考えられる。

第9・10・11・12トレンチは事業地内南部、標高約20~21mの東西に延びる台地上に設定した。この周辺は神出遺跡に含まれるため表面上に土器の散布がみられる。発見された遺構は、土坑や古墳時代の堅穴住居跡である。遺物は古墳時代から平安時代の土師器や須恵器、中世の陶器などで、第10トレンチからは古墳時代後期の壺や高壺が出土した。(第4図2・3) 試掘から遺構はこの一帯に濃密に分布していることが判明した。表土は20~30cmでその下に遺構面であるローム層が堆積しているが、西に向かうほど粘土質になり、事業地内の西部では白色の粘土層となる。

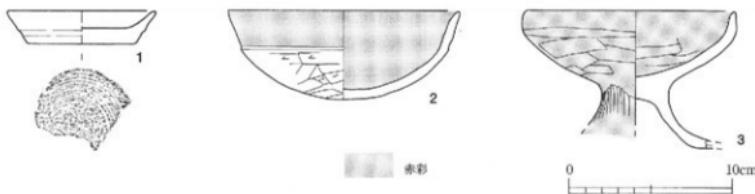
第13トレンチは事業地内の南部、台地上の南端に設定した。標高は19mを測る。表土の下は白色の粘土層



第3図 第4トレンチ土層模式図



調査状況



第4図 トレンチ出土遺物

で、この層が遺構確認面である。発見された遺構は竪穴住居、土坑、溝などで、土師器や中世の陶器が数点出土した。

第14・15トレンチは神出遺跡が台地より一段下がった地点に設定した。この場所は花室川に面した斜面上で、幅15m前後のテラス状を呈する地形である。標高は15mを測る。調査の結果、14トレンチの西側で黒色の落ち込みが確認できた。この黒色土から土師器や須恵器が出土した。表土は20cm程度で、その下に粘性のあるローム層や砂層が堆積している。

第13～15トレンチ周辺は神出遺跡の範囲に含まれていないが、試掘の結果、遺構の存在が確認できた。立地や性格から同一の遺跡として捉えることにした。

第16トレンチは事業地内の南部、花室川流域の低地より一段高い斜面上に設定した。標高は10mで、低地との比高差は4mを測る。北側は急斜面となり台地へ続いている。表面に遺物が散布していることから、埋蔵文化財の存在する可能性が考えられる場所である。調査の結果、土坑などの遺構と、土師器が数点出土した。字名から「中居遺跡」と命名した。

第17トレンチは事業地内の東部、東西に延びる細長い尾根状の台地に設定した。現状は緑の生い茂る山林である。表土の下は砂層や白色の粘土層である。土師器が2点出土したが遺構は確認されなかった。

以上が試掘の概要である。この結果をもとに遺跡の範囲を決定した。事業地内における遺跡の面積は、東出遺跡が1,600m²、神出遺跡7,600m²、中居遺跡600m²、合計9,800m²である。また、遺跡の性格は、古墳時代から平安時代にかけての集落跡や包含層と中世の遺跡であることが判明した。

第3節 位置と考古学的環境

1. 地理的環境

今回調査した東出遺跡・神出遺跡・中居遺跡は茨城県土浦市小岩出来1丁目に所在する。土浦市は茨城県の南部に位置し、東は霞ヶ浦町、北は千代田町、新治村、西はつくば市、南は牛久市、阿見町に隣接している。また東は霞ヶ浦に面し、市の中央を流れる桜川や、南部を流れる花室川が注いでいる。市の面積は約92km²、人口は約134,000人を数える。南北にJR常磐線、国道6号線、常磐自動車道が通り、この他に国道125号線や354号線が通っている。

土浦周辺の地形を概観すると、北部に新治台地、中央に桜川低地、南部に筑波・稻敷台地が広がっている。岡台地の標高は20～40mを測り、河川によって開析された谷が複雑に入り込んでいる。また筑波・稻敷台地にはつくば市東部に水源を持つ花室川が流れている。台地の地層をみると、基本的に砂層(木下層)の上に、常緑粘土層、関東ローム層、表土が堆積している。

調査した3遺跡は花室川左岸の台地に所在する。この台地は花室川とその小支谷に挟まれた細長い尾根状を呈し、標高は17～21mを測る。神出遺跡はこの台地上から花室川を南に臨むテラス状の斜面上に立地する。台地の標高は21m前後でテラスは16mである。中居遺跡は神出遺跡のある台地の下、標高9mを測るテラス状の斜面に立地している。東出遺跡は神出遺跡の北にある小支谷に面した南向きの標高14～19mを測る斜面上に立地している。

2. 歴史的環境

神出遺跡が存在する花室川流域は環境に恵まれ数多くの遺跡が存在する。ここでは土浦市を中心に周辺の遺跡の概要について述べる。

旧石器時代の遺跡としては池の台遺跡(9)、和台遺跡(15)、永国遺跡(17)などがある。これらの遺跡

からナイフ形石器が出土した。永国遺跡例は杉久保系である。また、花室川はナウマンゾウの化石が発見されたことでも知られている。

縄文時代になると遺跡の数は増加する。早期の遺跡としては永国遺跡、ビヤ首遺跡（14）、茅山期の炉穴が8基発見された内路地台遺跡（50）などがある。前期の遺跡としては、烏山遺跡（60）、右羽貝塚東遺跡（54）、宮塚遺跡（55）などがあり、烏山遺跡から闇山期、右羽貝塚東遺跡からは黒浜期の竪穴住居跡が発見された。中期の遺跡としては和台遺跡、六十原遺跡（12）、六十原A遺跡（13）で集落跡が調査された。和台遺跡や六十原遺跡からは二段に掘り込まれた住居跡が発見されている。後晩期の遺跡では池の台遺跡、小松貝塚（10）がある。小松貝塚は主に加曾利B期から安行期かけて形成された貝塚で、ハマグリやヤマトシジミが多い。注口土器やヘアピンなどの骨角器などが出土した。

弥生時代になると遺跡の数は減少する。この周辺では和台遺跡、烏山遺跡、永国遺跡で後期の集落跡が発見されている。

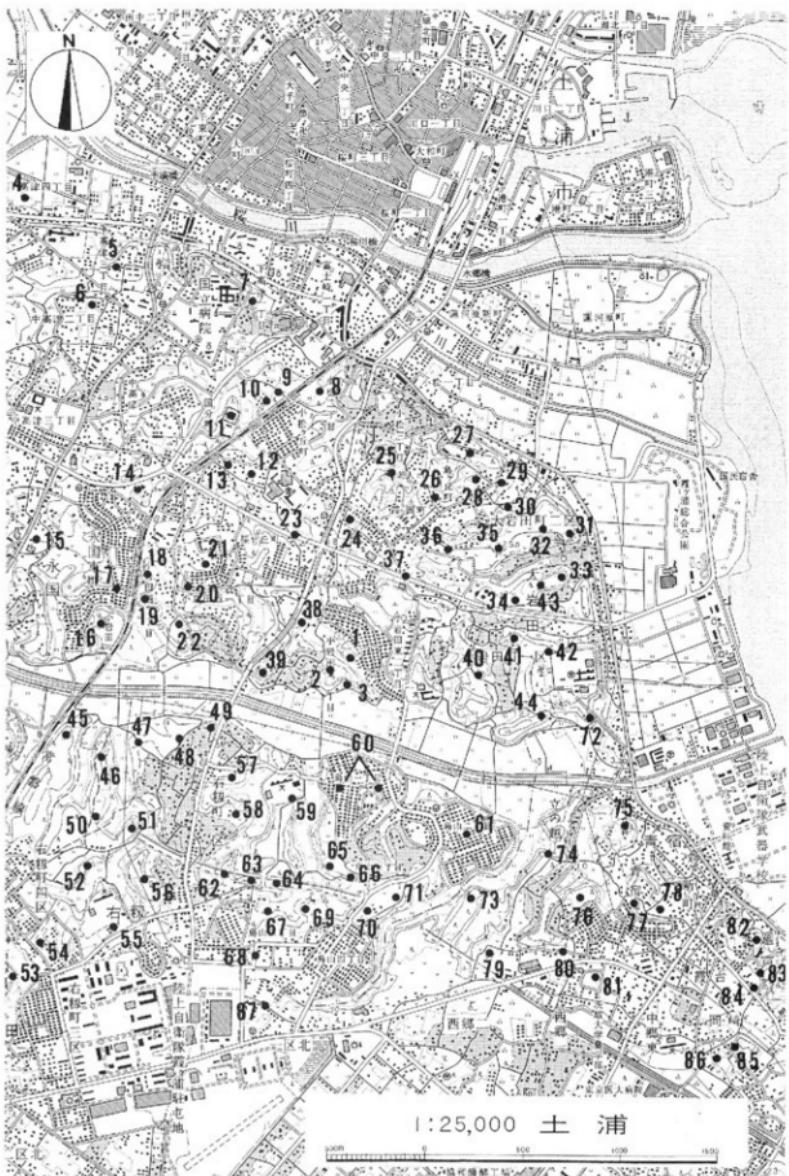
古墳時代以降再び遺跡は増加する。古墳時代前期では中根遺跡（52）、烏山遺跡、和台遺跡、水峯遺跡（59）、永国遺跡、東谷遺跡（28）、南丘遺跡（70）で確認されている。烏山遺跡からはメノウの玉作工房が発見され、東谷遺跡からは北陸系の甕が出土した。中期の遺跡は今回調査した神出遺跡（2）で住居跡が発見されている。古墳では崩れ地内より高坏が出土した三芳古墳（27）がある。後期の遺跡は池の台遺跡、内出後遺跡（38）、神出遺跡、房谷遺跡（25）、西郷遺跡（79）、南丘遺跡があり、池の台遺跡や神出遺跡からは集落跡が発見されている。後期の古墳では須恵器の甕や提瓶、壺、蓋などが出土したと伝えられている五蔵古墳（42）、道路工事中に石棺が出土した桜ヶ丘古墳（23）、烏山遺跡の中にあった石倉山古墳群（61）、人物埴輪が出土した高津天神古墳群（7）などが存在する。

奈良・平安時代、神出遺跡周辺は茨城郡と信太郡の境であった。この時期の遺跡としては念代遺跡（47）平坪遺跡（48）、烏山遺跡、長峰遺跡（64）、西郷遺跡、南丘遺跡、内路地台遺跡などがある。烏山遺跡からは刻書のある紡錘車や「大家」と書かれた墨書き土器、神出遺跡と花室川を挟んで対岸に位置する念代遺跡からは「大部」や「中家」の墨書き土器が出土している。また長峰遺跡からは灰陶器の椀が出土した。土浦周辺の奈良・平安時代の遺跡の特徴として灰釉陶器が出土すること、掘立柱建物を伴う集落が多いことなどがあげられる。

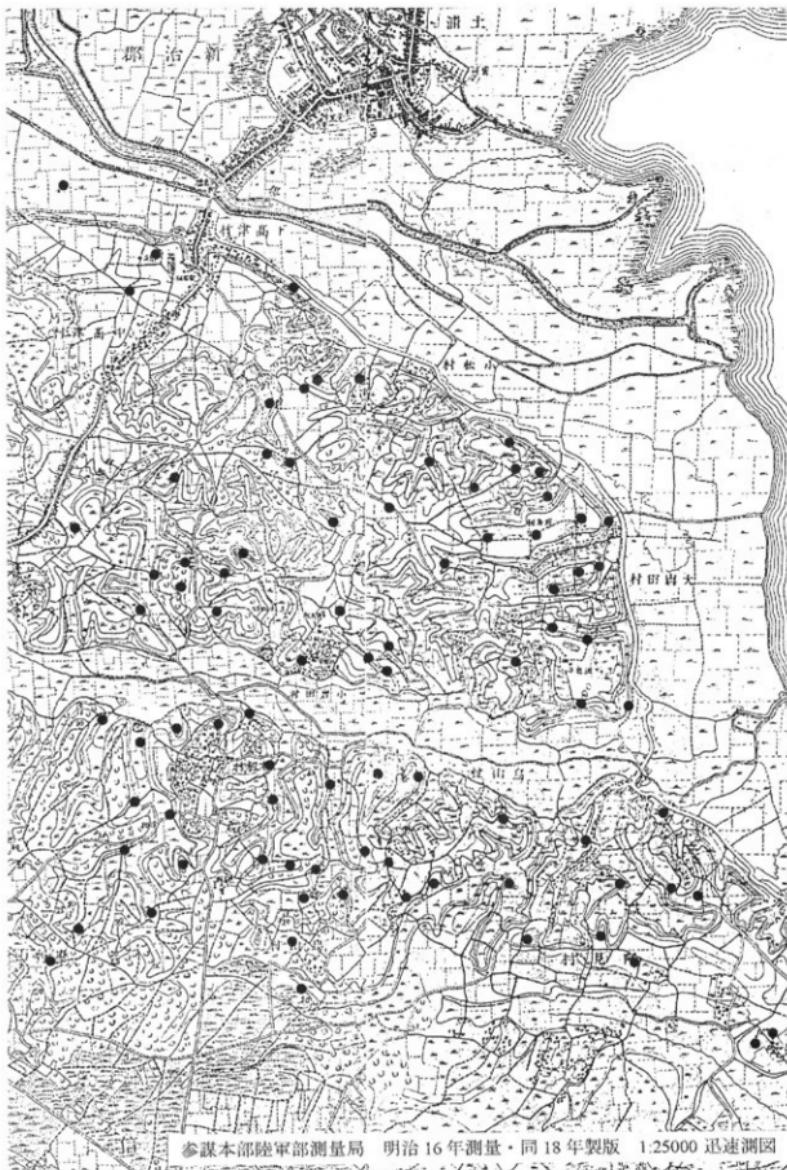
中世以降の遺跡としては土畝や掘跡が確認された右柄館跡（51）や南古屋敷遺跡（39）、岩田館址（40）などの城館址、大岩田貝塚（43）、右羽十三塚（45）、地下式壙から内耳土器や陶磁器が出土した宮塚遺跡（55）、土坑や溝が発見された霞ヶ岡遺跡（37）、近世の墓が発見された内出後遺跡、今回調査した東出遺跡（1）、神出遺跡などがある。大岩田貝塚は内耳土器などの破片が散布していることから中世の貝塚と思われる。

註

- 1 土浦市教育委員会『池の台遺跡調査報告』1981.1
- 2 日本窯業史研究所『茨城県土浦市 永国遺跡』1983.9
- 3 茨城県教育財團『茨城県教育財團文化財調査報告第111集 主要地方道士浦竈ヶ崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書』1997.3
- 4 茨城県教育財團『茨城県教育財團文化財調査報告第61集 「般國道125号線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書』1991.3
- 5 土浦市教育委員会『六十原A遺跡』1996.6
- 6 上高津貝塚ふるさと歴史の広場「中根遺跡」年報3号1998.3
- 7 土浦市教育委員会『三芳古墳東谷遺跡B地点』1998.12



第5図 周辺遺跡分布図(1) (国土地理院発行 1/25,000に加筆)



第6図 周辺遺跡分布図(2)

表1 東出・神出・中居遺跡周辺遺跡一覧表

國中番号	遺跡名	時代					國中番号	遺跡名					時代
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良平安		田石器	繩文	弥生	古墳	奈良平安	
1 東出遺跡				○	○	○	45 右粉十三塚				5245		○○
2 神出遺跡	5274	○		○	○	○	46 牧の内遺跡				5213		○○
3 中居遺跡				○			47 念代遺跡				5214		○○
4 下高津小学校遺跡	5265			○			48 平坪遺跡				5215	○	○○
5 弁天社遺跡	5264		○				49 沖ノ台遺跡				5219		○○
6 西原遺跡	5263	○					50 内路地台遺跡				5212	○	○○
7 高津天神古墳群	1812			○			51 右粉館跡						○○
8 小松遺跡	5256			○			52 中根遺跡						○○
9 池の白遺跡	5257	○	○	○			53 宮前遺跡				5208	○	
10 小松貝塚	1789			○			54 右切貝塚東遺跡				5209	○	
11 四分遺跡	5258	○					55 宮塚遺跡				5210	○	
12 六十原遺跡		○					56 小谷遺跡				5211		○○
13 六十原A遺跡			○				57 玉地塚遺跡				5218	○	
14 ピア音遺跡	5259	○					58 松原遺跡				5217	○	○○
15 和台遺跡		○	○	○	○		59 永峰遺跡				5216		○○
16 宮久保遺跡	5261			○			60 烏山遺跡				3451	○○	○○
17 水国遺跡	5260	○					61 石倉山古墳群				1819		○○
18 阿ら地遺跡	5252			○			62 宮塚遺跡						○○
19 才ノ内遺跡			○	○			63 斎元遺跡						○○
20 油麦田遺跡	5251			○			64 長峰遺跡						○○○
21 桜ヶ丘遺跡	5254		○				65 北平南遺跡				5223	○	○○
22 いさる遺跡	5253			○			66 堂後遺跡				5225	○	○○
23 桜ヶ丘古墳	5255			○			67 烏山A遺跡				5220		○○○
24 池ノ堀遺跡	1791			○			68 烏山B遺跡				5221		○○○
25 房谷遺跡				○			69 小西遺跡				5222	○	○○
26 小松古墳	1813			○			70 南丘遺跡						○○○
27 三芳古墳	1814			○			71 北平北遺跡				5224		○○○
28 東谷遺跡	5248			○			72 丸山古墳群				3981		○○○
29 鶴ヶ岡北遺跡	5247			○			73 立の越鶴跡				5660		○○○
30 鶴ヶ岡古墳	5249			○			74 立の越古墳群				3979		○○○
31 ひさご塚古墳	1815			○			75 青宿古墳群				1682		○○○
32 内根A遺跡	5269			○			76 雄野協進跡				5659	○	○○○
33 木曾北遺跡	5273			○			77 青宿貝塚				1685	○	
34 木曾遺跡	5272			○			78 ビラタ塚古墳群				5657		○○○
35 内根B遺跡	5270	○					79 西郷遺跡				5661	○	○○
36 内根C遺跡	5271			○			80 宮脇遺跡				5658		○○○○○
37 犬ヶ岡遺跡	5246			○			81 阿見貝塚				1687	○	
38 内出後遺跡	5250	○	○				82 遷戸城跡				5720		○○○
39 南古屋敷遺跡				○			83 遷戸貝塚				1686	○	○○
40 岩田館址					○		84 遷戸遺跡				5664		○○○○○
41 中内山古墳群	1816				○		85 岡崎古墳				5665		○○○○○
42 五歳遺跡	5275				○		86 両崎館跡				5666		○○○○○
43 大岩田貝塚	3999					○	87 区北遺跡				3981	○	
44 法泉寺古墳群	5276												

参考文献

- 土浦市教育委員会『国製 土浦の歴史』1991.3
- 土浦市教育委員会『土浦の遺跡』1984.3
- 土浦市教育委員会『土浦市埋蔵文化財地図』1992.3

●上高津貝塚ふるさと歴史の広場
『花室川の歴史と文化』1997.4
●上高津貝塚ふるさと歴史の広場
『年報4』1998.7

第4節 調査方法と調査経過

1. 調査方法

調査は試掘結果にもとづいて、表層を覆う耕作土の除去を重機により行った。耕作土直下から確認された各遺構の掘り下げは人力によって行い、遺構内各施設の正確な検出、遺構の切り合い関係の把握、遺物の出土状況、土層の堆積状況の把握に努めた。土層断面は実測を行い、土色帖を用いて記録・写真撮影を行った。

調査区内には公共座標に沿って10m四方のグリッドを設定した。南から北へアルファベット（A～X）を、西から東へ算用数字（1～18）を付して実測や遺物取り上げの基準とした。遺構・遺物の出土状況の記録は原則として1／20縮尺を基準とし、遺構全体図は1／200縮尺とした。写真撮影は、白黒35mm、カラースライド35mm、白黒6×7判を用いて調査の過程で随時行った。空撮による遺構全景撮影はラジコンヘリコプターにより行った。

2. 調査経過

本調査は平成9年12月24日より平成10年6月30日まで実施した。以下は東出、神出、中居3遺跡における調査経過である。

《東出遺跡》

平成9年
12月 下旬：調査準備を行い、表土除去を開始する。
平成10年
1月 上旬：事務器、発掘器材の搬入。表土除去終了。調査区は谷地形になっており、黒褐色土からは全体に堆積している。その中に焼土の堆積層を数か所確認した。
中旬：降雪による悪天候が続き作業に入ることができなかつた。
下旬：遺構確認及び精査作業を行う。確認された遺構は堅穴住居跡3軒、土坑1基、溝1条であった。谷地形を埋没させた黒褐色土は遺物包含層の可能性もあるためサブトレシングによる試掘を行った。
2月 上旬：遺構精査作業を行う。確認されている土坑のなかに火葬基1基があることがわかる。
中旬：各遺跡の記録保存を終了させ、教育委員会への終了確認を受け終了する。

《神出遺跡》

平成10年
1月 中旬：調査準備を行う。上浦市教育委員会黒沢氏との調査区域の確認及び調査方法の打ち合わせを行った。
下旬：北区を除く3地区の表土除去、及び南区の遺構確認作業を行う。南区は土坑10数基1条、中央区は白色粘土質の堅穴屋根跡に1基、ビット5基、土坑1基を確認した。
2月 上旬：西区の表土除去を開始する。南区、中央区の掘り込み作業を終了。北区は堅穴屋根跡を始め住居跡8件、溝1条、土坑10数基を確認した。中央区は地下式窓5基が東西方向に並んで検出された。

中旬：表土除去は西区、北区の一部を除いて終了し、遺構確認及び精査作業を行う。西区では中央を分断する溝状遺構の南側で遺構が失し、住居跡6件、地下式窓8基確認されたほか多数の土坑、ビットが集中し、東側で住居跡6件を確認した。
下旬：南区の住居跡調査を行う。竈の遺存状態は良好である。
並行して地下式窓の掘り下げを行う。6号地下式窓主室の深さは約3メートルを割る。
3月 上旬：南区では遺構実測を行い、中央区西側では遺構の掘り下げを行う。
中旬：残りの表土除去を行い、北区の北側では住居跡が重複して検出された。南区では住居跡の測定、地下式窓の実測を行った。西区の遺構撃り下げを開始する。
下旬：西区の遺構調査を終結する。調査区内北側及び東側で6世紀代の遺物を伴った野戸穴吹土坑が点在して検出された。住居跡に伴う可能性が

あるため周辺を丹念に調査するが、柱穴等の痕跡は確認出来なかつた。

4月 上旬：西区の遺構掘り下げを継続する。ピットが集中する南側に新たに掘立て建物跡2棟を確認する。遺構実測と並行して北区の掘り込みを開始する。
中旬：西区、中央区、南区の空撮を行う。大槻不動の影響を受ける。
下旬：西区の住居・掘立て建物の精査及び実測作業を行。北区では北門に集中する住居群の精査を行開始する。調査した古墳時代の堅穴住居跡跡藏穴は1メートル前後の深さをもつっている。
5月 上旬：前半は連休の快晴になるため、作業効率を考慮して西区及び北区の遺構実測を中心に行われる。後半は西区の堅穴路の調査と並行して遺構全体測量を行。
中旬：西区の遺構全体測量を終了する。北区は南側の遺構構造を開始する。堅穴遺構8基に加えピットが集中して確認された。地下式窓・住居跡の精査を行う。
下旬：天候が不順なため測量がいかどらない。北区の堅穴路の精査を終了する。調査区南西寄りで掘立て建物跡の精査を確認する。礫石疑問跡の精査を開始する。
6月 上旬：北区において2回目の空港を実施した。遺構精査を終了し発掘器材、遺物を搬出する。
中旬：遺構全体測量を行。遺構実測を終了し、教育委員会の終了確認を受ける。
下旬：現地プレハブ内にて遺構図面の整理作業を行う。木板をもって終了する。

《中居遺跡》

平成10年
1月 上旬：表土除去を開始する。
中旬：継続して表土除去を行う。調査区南側で東西に伸びる落ち込みを広範囲に確認した。
下旬：東西に伸びる落ち込み部分トレーシングを実施する。その結果約1メートルの急激な高低差を確認。並行して遺構確認及び精査作業を開始し、土坑10数基、ピット10数基を確認した。遺構実測作業を開始した。
2月 上旬：引き続き落ち込み部のトレーシング、遺構精査作業を行う。
中旬：落ち込み全体の掘り下げを開始した。その結果東側で平坦なテラス状遺構を、西側で堅穴住居跡1軒を確認した。
下旬：テラス状遺構、住居跡の精査作業を行う。遺構実測作業を継続して行う。
3月 上旬：1号住居跡は精査精査作業を行う。
中旬：各遺構の実測作業を終了し、安全対策を施し終了する。



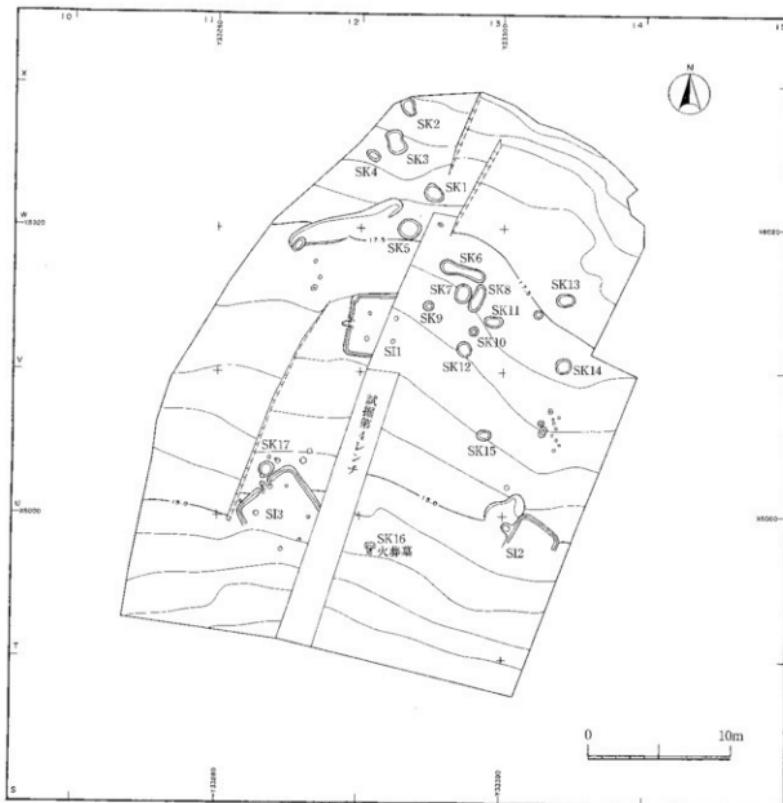
第7図 東出・神出・中居遺跡調査区設定図

第2章 東出遺跡

第1節 遺跡の概要

本遺跡は、標高12~20mの台地縁辺の傾斜地形にある。遺構の確認面は黒褐色堆積土で、確認面から竪穴住居跡3軒のほか土坑や溝が検出された。住居跡は古墳時代後期1軒、奈良時代1軒、平安時代1軒である。その他に中世に属すると考えられる火葬墓1基、粘土張り土坑2基、時期不明の溝1条と土坑13基が検出された。

出土遺物は古墳時代後期から平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器等で、火葬墓からは骨片が出土している。その他に遺構外から繩文土器片、古瀬戸片が少量出土している。



第8図 東出遺跡全体図

第2節 遺構と遺物

堅穴住居跡3軒、土坑17基、溝1条の調査が行われた。土坑のうち11号と13号土坑は粘土張り土坑、16号土坑は火葬墓である。その他の時期不明土坑と溝は第13・14図・第1表と全体図面で参照願いたい。

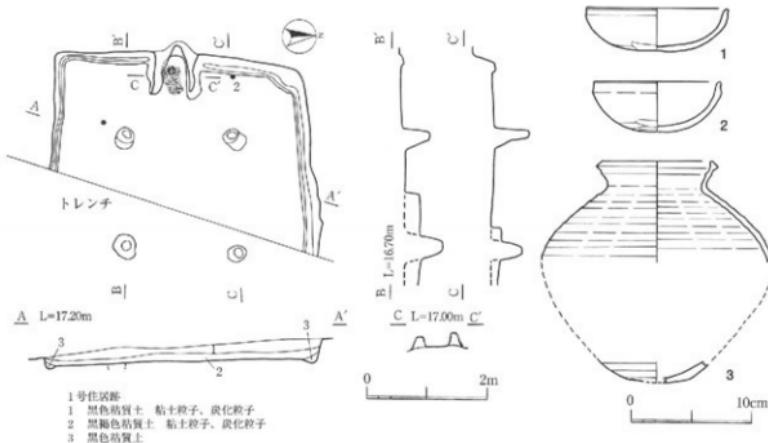
1 堅穴住居跡

1号住居跡（第9図・写真図版1）

本住居跡はM1グリッドに位置している。規模は南北方向4.1m、東西方向推定4.2mである。残存する壁高は30cmを測る。主軸はN-52°Wを示す。堅溝は掘り方上幅15~22cmで深さ5~6cmである。主柱穴は、4本で塗から1.1m離れた床面上にあり、上端径4~42cm、深さ45~62cmである。カマドは確認面上場で20cm程堅穴外に突出する。袖部は塗から70cm程屋内に延び、基底部幅20~25cm、高さ20cm残存している。火床部底面は焼化しており、中央部奥塗より向かってやや左寄りに支脚が残存している。住居覆土は黒色もしくは黒褐色粘土質が堆積している。出土遺物は、竈右脇の堅直下床面から土師器壺（No2）が出土している。その他覆土中から出土したNo1の土師器壺も口径11cm程度と小形であり7世紀後半頃のものと考えられる。覆土中からは湖西産と見られる須恵器壺、横方向平行叩きの須恵器壺等8世紀代の遺物が出土している。

東出遺跡1号住居跡遺物観察表

番号	種類	形	口径	深さ	底面	胎土	色調	表面・技法の特徴	台帳番号	出土地点	備考
1	土師器	壺	(11.6)	3.6	40	半透明・白色粒多量	褐~暗褐色		2	SI 1	
2	土師器	壺	(10.4)	4.1	45	半透明・白色粒多量	褐色	外面成形・範極時のヒビ多く唇面調整	3	SI 1	
3	須恵器	壺	(10.4)	7.6	12	鉄分微粒少量	灰白色	器形・技法の特徴、その他	1	SI 1	湖西産



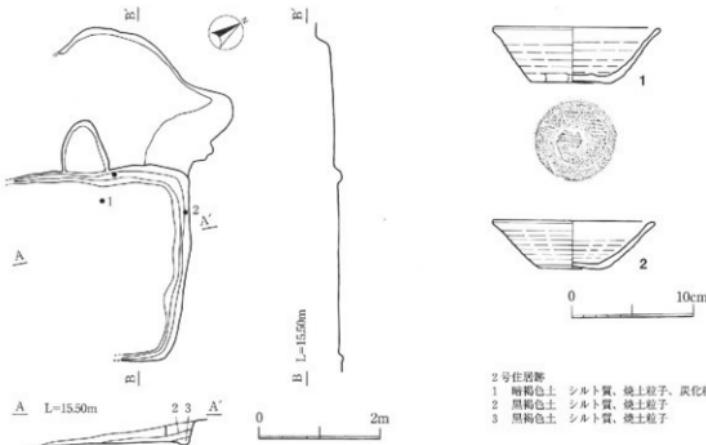
第9図 東出遺跡1号住居跡・出土遺物

2号住居跡（第10図・写真図版1）

本住居跡はT13グリッドにかかる位置にある。規模は主軸方向3.08m、残存する壁高は30cmを測り、主軸はN-52°-Wを示す。カマドは、北西壁を幅75cm、奥行き1m程掘り込んでおり、掘り方だけ確認できた。壁溝は幅9~15cm、深さ3~5cmで底部分も含めて床の残存部はすべて巡っている。住居覆土は2層からなり、黒褐色粘質土を主体とする。遺物は、覆土中から須恵器壺（No1・2）が出土している。

東出遺跡2号住居跡遺物観察表

番号	種類	器 様	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	須恵器	壺	13.7	6.6	4.5	100	半透明・白色粒子少量、素面模様子少量	灰白色	底部回転ヘラ切り縁し無調整	4	SI2	
2	須恵器	壺	(13.2)	5	3.9	30	半透明・白色粒子少量、素面模様子少量	灰褐色	体部下端手持ちヘラ削り	5	SI2	内外面墨化



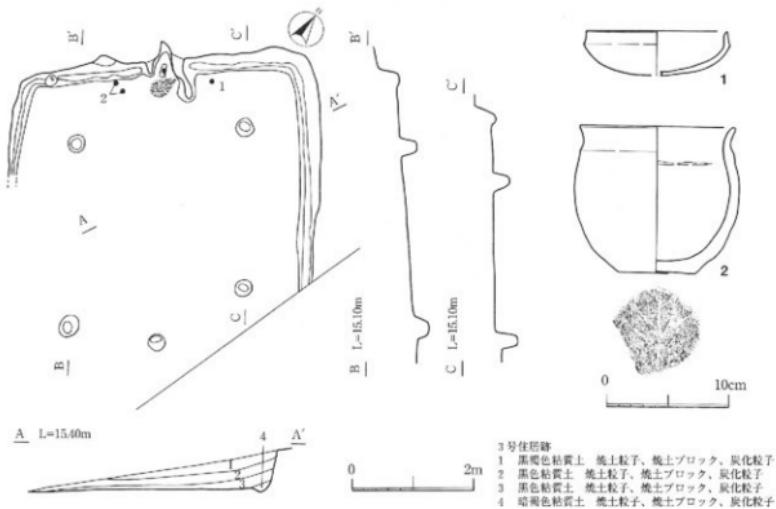
第10図 東出遺跡2号住居跡・出土遺物

3号住居跡（第11図・写真図版1）

本住居跡はT11~U11グリッドに位置する。規模は北西壁側の長さ4.6mを測り、北東壁は南側で削平されるが、柱穴との関係から約4.7mの長さが推定される。残存する壁高は40cmを測り、主軸はN-48°-Wを示す。主柱穴はP1~P4で上溝径30~40cm、深さ20~37cmである。P5は出入り口施設に関係する穴で深さ17cmである。竈は向かって右側の袖部の遺存がよく、壁から長さ80cm、基底部幅15cm、高さ10cmで、暗褐色粘質土を主体として構築していた。火床部が焼土化しており、火床奥に土製支脚が転倒して出土している。出土遺物は電線の床上から、土器器の壺・小形壺が出土している。

東出遺跡3号住居跡遺物観察表

番号	種類	器 様	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土器器	壺	(11.5)	3.6	4.0	100	白黄・暗赤褐色粒子少量	褐色		6	SI3	摩耗
2	土器器	壺	(12.8)	8.9	5.0	50	透明・半透明・白色粒子多量	暗赤褐色	火熱による器壁の変色著しい	7	SI3	底部墨化



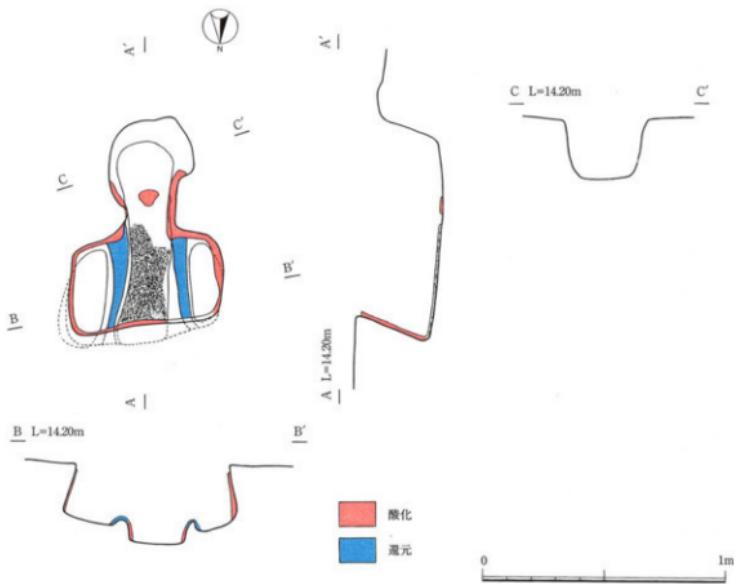
第11図 東出遺跡3号住居跡・出土遺物

2 火葬墓（第12図・写真図版2）

火葬墓は遺跡の南部の最も低い標高14.8mの地点で単独一基のみが発見された。調査時土坑番号（16号土坑）を付して調査を行った。この旧16号土坑は、独特の形態から火葬遺構と考えられる。規模は主土坑長軸1.3m、短軸0.8m、深さ0.5mを測る。主土坑と直交方向に主土坑の底面よりも10cm掘り下げて幅0.4m、長さ1.97mの溝を切っている。溝は土坑の壁をくり抜いて外に突出し不整円形の土坑と接続している。不整円形土坑の規模は上端で径0.7mの不整円形である。南北方向に長い溝を主軸と考えて、主軸方位はN-13°Eである。底面や側壁面は強い火熱を受けて焼成化や還元化が見られる。覆土は、底面に薄い黒色の炭化層、その上に厚さ3cm程度の骨片・骨粉混じりの黒褐色粘質土層、さらにその上を黒褐色土層が覆っている。遺物は火葬骨片のみで総重量は20gを計る。

3 粘土張り土坑（第14図・写真図版2）

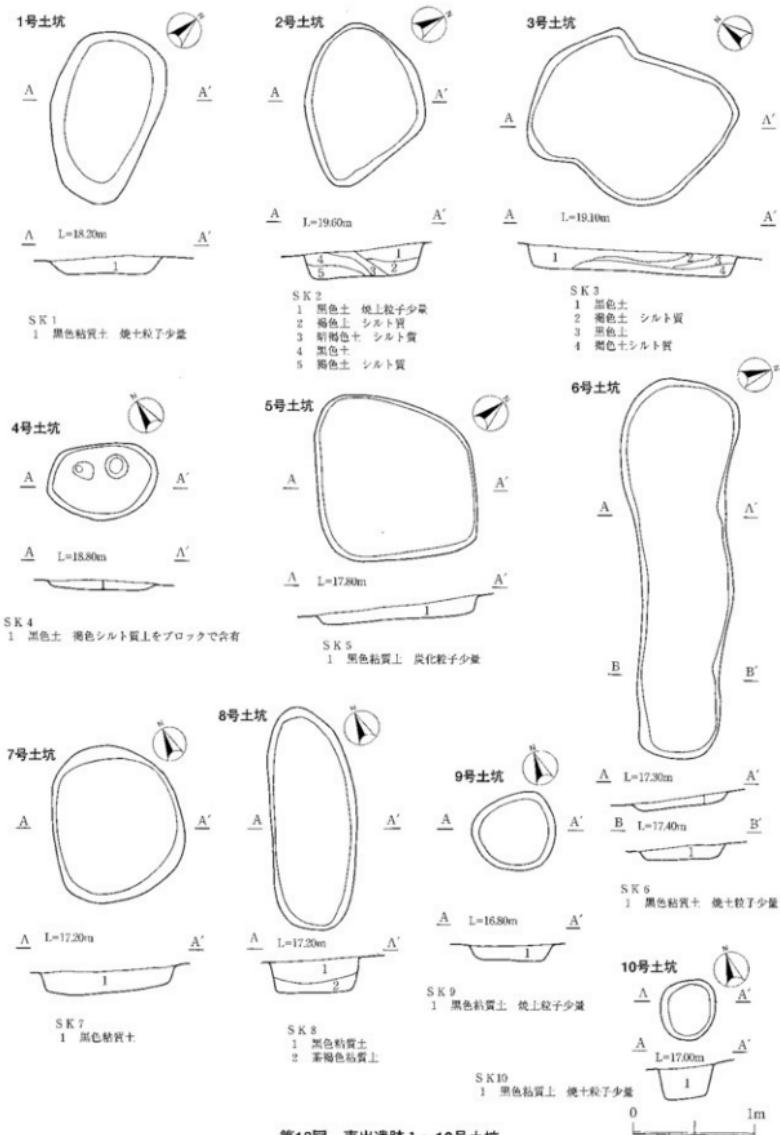
粘土張り土坑は遺跡の比較的高所、標高17.5m付近に2基が近接してつくられている。11・13号土坑とともに方形基調の土坑で、粘土を土坑内に張り付け構築されており、2基とも土坑底面が焼成化し類似遺構と考えられる。11号土坑は壁の周間に厚さ10cmの褐色粘土が見られ、13号土坑は底面に厚さ4cmの褐色粘土が残っていた。覆土は11号土坑が底面に赤褐色土、その上にシルト質暗褐色土が堆積している。13号土坑は焼土・炭化粒子を含む黒色粘質土が堆積している。



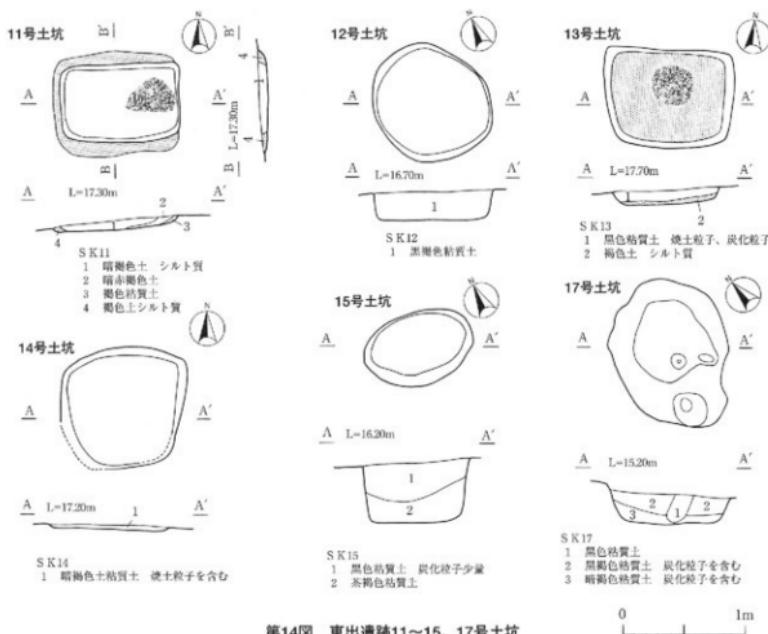
第12図 火葬墓

表2 東出遺跡土坑一覧

番号	位置	平面形	長軸×短軸×深さ (m)	出土 遺物	備考
1	W-13	楕円形	1.41×0.85×0.12		
2	W-13	不整形	1.35×0.98×0.22		
3	W-13	不整形	1.72×1.39×0.17	繩文小片、平安土師器・須恵器小片	
4	W-13	楕円形	1.65×0.62×0.06		
5	V,W-13	不整形	1.65×1.04×0.10	土師器・須恵器小片	
6	L-13	不整長方形	0.67×0.61×0.18	繩文小片、平安須恵器瓶（5孔式）	
7	L-13	円形	1.29×1.06×0.17	繩文小片	
8	L-13	楕円形	1.08×0.71×0.26	繩文小片、平安土師器・須恵器小片	
9	L-13	円形	3.02×0.76×0.13		
10	L-13	円形	0.52×0.46×0.25		
11	L-13	方形	1.03×0.83×0.06		粘土張り土坑
12	L-13	円形	1.03×0.9×0.22		
13	V-14	方形	1.07×0.81×0.11	繩文小片、平安土師器・須恵器小片	粘土張り土坑
14	V-14	不整形	1.02×0.98×0.03		
15	U-13	楕円形	0.94×0.59×0.5	7～9世紀土師器・須恵器	
16	T-13	不整形	1.65×0.41×0.25		火葬墓
17	U-12	不整形	1.3×0.95×0.23	7世紀土師器環小片	



第13図 東出遺跡1~10号土坑



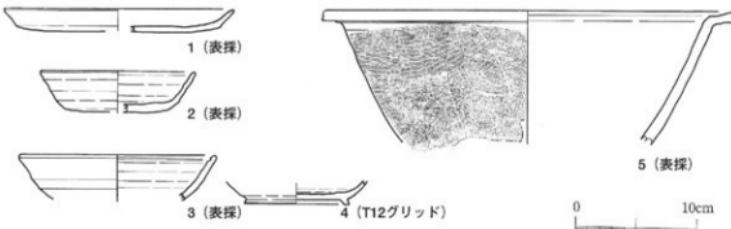
第14図 東出遺跡11~15、17号土坑

4 遺構外出土遺物 (第15図・写真図版2)

東出遺跡の表探遺物として、奈良時代前半頃の土師器・須恵器が出土している。須恵器壺はバケツ形壺と呼ばれる平底の壺で、器高が低く体部の叩きは横方向でやや目が細かい。須恵器壺も口径、底径が大きく端部に沈線を持ち、7世紀末～8世紀前葉墳の特徴を持っている。

東出遺跡表探遺物観察表

番号	種類	器種	口径	蓋高	底径	残存率	胎 土	色調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	埋土地点	備考
1	土師器	壺	(18.8)	19	40	赤褐色、白色・雲母微粒少量	褐色			8	表探	内外擦痕
2	須恵器	壺	(12.6)	34	40	半透明、白色絞多量	青灰色	底部一方向、周縁手持ち丁寧ヘラ削り		9	表探	
3	須恵器	壺	(16.1)		20	半透明、白色粒～繩	新褐色	口縁端部内面沈線		10	表探	
4	須恵器	高台付壺	8.6	40	雲母粒、半透明繩	暗灰色	底部高台内側斜い小窪形(肩を回転で落している)			11	表探	内面擦痕
5	須恵器	壺	34		20	云母微粒多量、白色・半透明繩少量	灰褐色	外面横方向格子叩き		12	表探	



第15図 東出遺跡遺構外出土遺物

第3節 調査のまとめ

本遺跡は台地縁辺の傾斜地形という立地環境であるにもかかわらず古代と中世の遺構が検出され、当時の人々の生活の跡が確認された。古代の遺構は古墳時代後期から平安時代の竪穴住居跡で、古墳時代後期1軒、奈良時代1軒、平安時代1軒である。出土遺跡は7世紀後半の土師器・須恵器、9世紀代の土師器・須恵器、灰釉陶器である。須恵器の中では8世紀前半の湖西產と考えられる蓋形土器が出土している。東出遺跡の古代の竪穴住居跡は台地上の好立地環境からあえて傾斜地形を利用して選択した跡地に特色が見られる。偶然の一一致かもしれないが南側の谷を狭んで隣接する神出遺跡の南側傾斜面で8世紀前半の湖西產須恵器の壺を出土した竪穴住居跡があり、神出遺跡では台地上に同時期の遺構が見られず共通した理由があるのかもしれない。

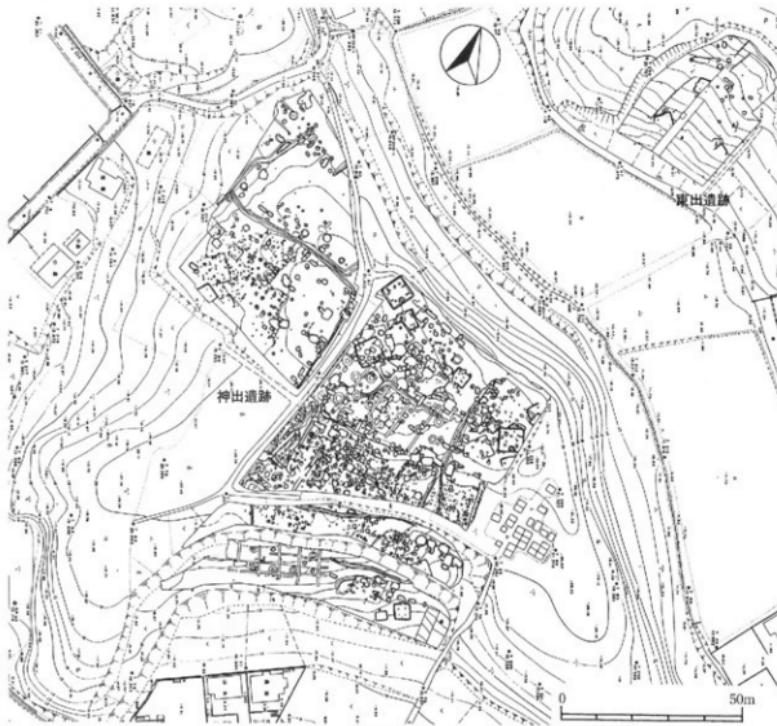
中世に属すると考えられる遺構は火葬墓1基、粘土張り土坑2基である。火葬墓は、神出遺跡から7基確認されており、16世紀前後の時期のものと推測され、本跡のものも形態的類似から同時期頃の可能性が考えられる。粘土張り土坑は、方形プランで内壁が火熱を受けており、六文銭を伴うような近世の円形プランではないものの墓壙の可能性もある。中世の出土遺物は火葬墓から火葬骨片、遺構外から古瀬戸平碗小片が出土している。中世においては墓域としての利用が認められるものの不明な点が多い。時期不明であるがその他に溝1条と土坑13基が検出されている。

第3章 神出遺跡

第1節 遺跡の概要(第16図)

神出遺跡は、花室川を南に見下ろす標高20~22mの台地上から標高13~19mの台地斜面上にかけて立地する。この台地は北西方向から南東方向へ向かって延びる舌状台地で、北西部に一部くびれがあり、現況はここに台地を横切る切り通しが通っている。このくびれ部から見て南方向から東南方向に向かって緩やかな起伏を持った台地面が広がっており、台地南端までは約170m、台地東南方向へは約150mで、その先は尾根状に幅を狭めてさらに細長い舌状地形が延びて台地端部に至っている。台地南辺は河川にえぐられるようなカーブを描く傾斜地形で、畠地として利用するため段状の地形削平が行われている。

神出遺跡は古墳時代から中・近世の時期に渡る遺跡である。古墳時代前期・後期・平安時代の集落跡と、掘立柱建物跡や溝、方形堅穴造構等中世の館跡にかかる遺構、さらに地下式壙や火葬墓といった墓に関連する遺構、その他に近世の土坑墓や土坑、時期不明の礎石建物跡等からなっている。検出された遺構数は、古墳時代の堅穴住居跡20軒、平安時代の堅穴住居跡22軒、中世の掘立柱建物跡8棟、地下式壙29基、火葬墓(火葬墓)5基、堅穴造構12基、溝13条、テラス状造構2箇所、時期不明の礎石建物跡1棟、その他土坑



第16図 神出遺跡遺構配置図

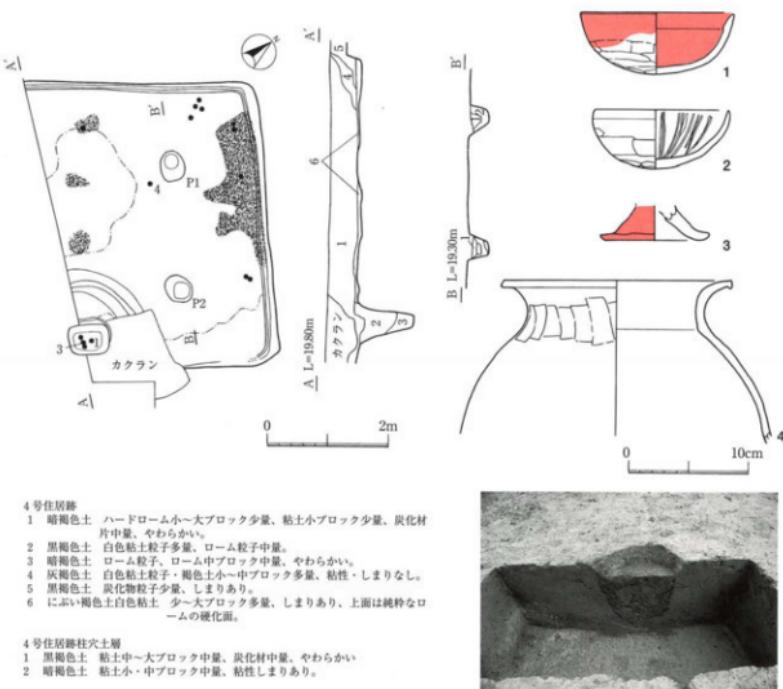
約460基、柱穴約980本である。古墳時代の堅穴住居跡は、古墳時代前期の1軒を除いてほとんどが5世紀後半から6世紀前半の大型の住居跡で、尾根状に延びる台地の最高地点を中心に分布している。平安時代の集落は9世紀後半から10世紀代を中心であるが遺存状態は悪く出土遺物も少ない。中世の掘立柱建物跡は、柱穴状のビットが数多く確認されたものの明瞭に建物の配列として捉えられたものが少なく、柱間や柱列の不規則な掘立柱建物跡は相当存在していたものと推測される。方形堅穴造構や地下式壇、柱穴、土坑は出土遺物が乏しく時期の決定の困難なものが多い。

出土遺物は古墳時代の土師器、須恵器、土製品、平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器、中世の輸入陶磁器、古瀬戸、常滑、土師質土器、土製品、石製品、金属製品、遺構外から縄文土器片・石器等が出土している。

第2節 遺構と遺物

1 古墳時代

(1) 堅穴住居跡



第17図 神出遺跡 4号住居跡・出土遺物

P1土層断面

4号住居跡（第17図・写真図版5）

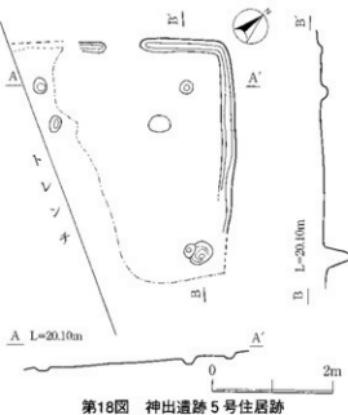
本住居跡はM1グリッドに位置する。規模は長軸方向4.45mを測り、平面形は方形になると考えられる。残存する壁高は45cmを測る。主軸はN-57°-Wを示す。出入り口周辺に特に硬化した馬蹄形の高まりを持つている。馬蹄形の中央部やや壁寄りに長軸67cm 短軸50cm 深さ90cmの穴が開いている。穴の下層にロームブロックを含んだ自然堆積層があり土師器の壊が落下した状態で出土していた。中層は厚く堆積し、上層は住居跡覆土3層が穴に流れ込むように堆積している。この穴の周縁の、床の硬化した馬蹄形の高まり部分が山入り口に掛けられた梯子を降りた時の最初の床面への着地点と考えられる。主柱穴は2本確認でき、調査エリア外に残り2本が存在しているものと思われる。P1は、深さ30cm 上端径49cmで、深くなるほど狭くなり底径22cmを測る。覆土上層は上屋の焼失の影響を受けた土層で主柱が炭化し、一部残存し周囲が焼土化していた。P2は、深さ34cm 上端径50cmで、底径21cmを測る。P2は、上屋焼失前に主柱の抜き取りが行われたのか、P1と対照的にローム大ブロック主体の、上屋焼失にかかわらない土層の堆積が見られた。住居跡土は3層から成っている。住居跡の埋没が始まった直後は實際に初層の自然堆積がみられる。続いて上屋の焼失に伴う炭化材片や焼土の堆積が北壁・西壁際から住居中央部床面に向かって傾斜して堆積している。出土遺物はP1付近覆土から甕（No4）、貯蔵穴覆土下層から壊（No1）と短脚高壠（No3）、土玉が出土している。土玉は覆土中から合計4点出土している。

神出遺跡4号住居跡遺物観察表

番号	施設	跡種	口径	基高	底径	残存率	船 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土場所
1	土師器	壺	12.6	5.1	—	100	半透明粒多量	黒褐色	内面から外側底部上手赤彩	1	SII4
2	土師器	壺	11.2	4.8	—	90	白色微粒少量	褐～黒褐色	—	2	SII4
3	土師器	高壠	—	—	9	40	白色微粒、透明・半透粒	明褐色	外側赤彩	3	SII4
4	土師器	甕	(18.9)	—	—	10	透明細粒多量	黒	体部外側中央部スス付着	4	SII4

5号住居跡（第18図・写真図版5）

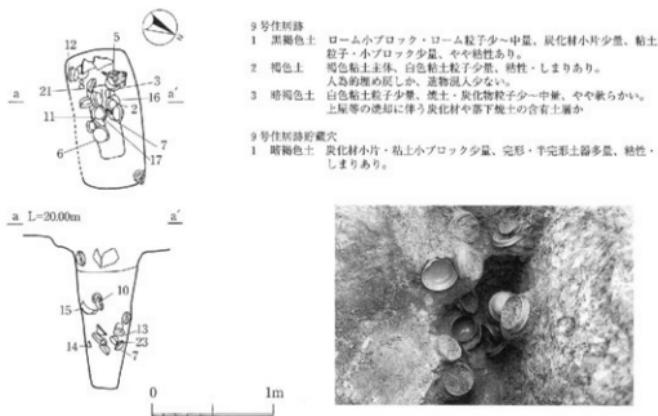
本住居跡はM2グリッドに位置する。規模は耕作等による流失によって不明。壁はほとんど残存していない。残存している壁溝から方形を呈すると思われ、主軸はN-48°-Wを示す。甕も残存していない。遺物は古墳時代の土師器瓦片と壊片が数片出土している。



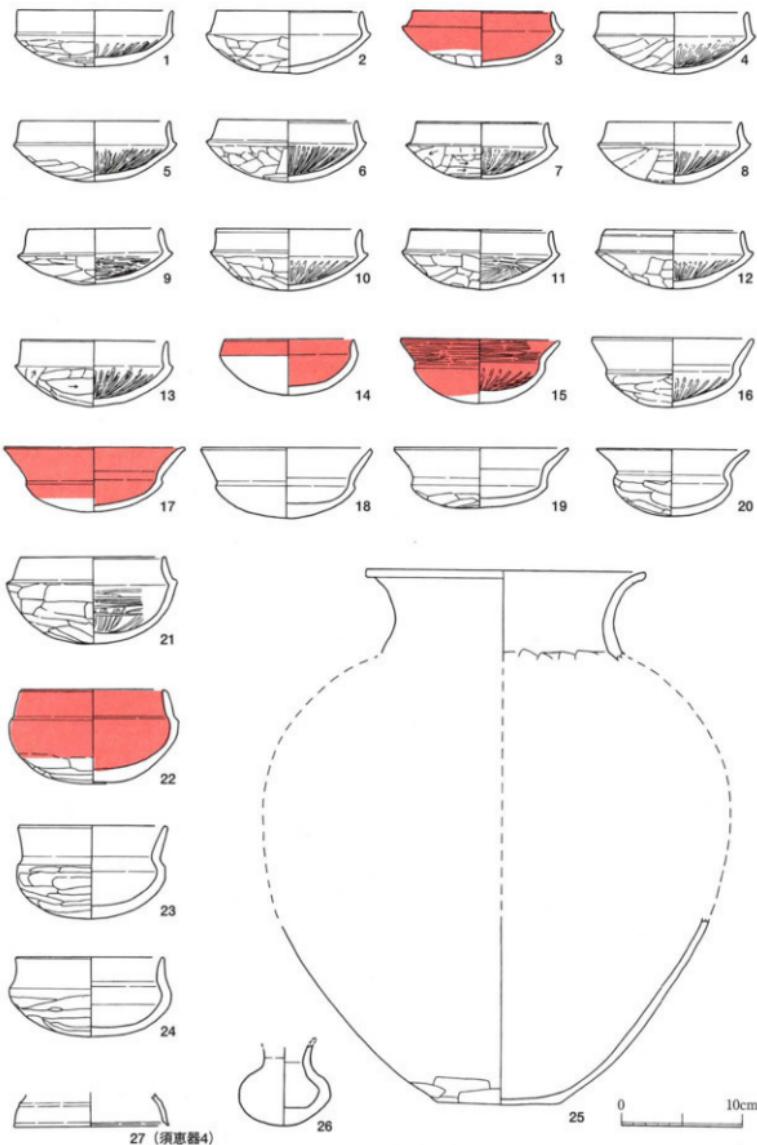
第18図 神出遺跡5号住居跡

9号住居跡（第19-20図・写真図版5-6）

本住居跡はM1からN1グリッドにかかる位置にあり中世の2号掘立柱建物跡と重複している。規模は長軸方向5.55mを測り西南側の壁は地形の削平のため残存していない。床面が常総粘土層を掘り込んで構築されており硬化面の範囲は記録できなかった。残存する壁高は21cmを測る。主軸はN-35°-Wを示す。北西



第19図 神出遺跡 9号住居跡



第20図 神出遺跡 9号住居跡出土遺物

壁中央部に竈が付設されており、壁の掘り込みはほとんど確認されなかった。袖部は住居内に約1m程突出して延びており最大幅は約1.4mある。袖部は相対的に白色に見えるにぶい褐色粘土の大ブロックを芯にしてにぶい褐色粘土ブロック混じりの褐色粘土で覆うようにして構築している。火床面は2面あり焼土化が著しく、火床中央部に土質支脚の基部が残っていた。燃焼室の規模は奥行き80cm、巾37cmを測る。柱穴は5か所で、P1～P4は主柱穴である。南東壁中央部直下に平面長方形で長辺2.3m、短辺1.1m、深さ2.26mの深い穴が開く。いわゆる貯蔵穴という名称で一般化して呼称されている穴で、これ以降「貯蔵穴」という名称で記述していくが、あくまでも一般呼称として使用するのであってこの穴の性格を意味していない。貯蔵穴の埋没過程は、自然堆積土の流入に混じって多量の土師器壊が中層に見られるので、住居廃絶後、貯蔵穴のある出入り口側では貯蔵穴内に暗褐色土の流入があり、途中から土器の廃棄が行われている。貯蔵穴が完全に埋没する前に炭化材の堆積が覆土層に見られる。上屋焼却に伴うと予想される炭化材や落丁焼土の堆積が東壁際の土層に見られる。それを覆つて壁際から褐色粘土主体の人为的埋め戻し層になる遺物の混入の少ない土層が堆積する。出土遺物は、竈の左袖脇の床面上に完形の壊が2個体（No4・18）、竈内に甕の口縁部や体部片が残されていた。住居跡北コーナー壁直下の床上からはミニチュアサイズの甕形土器（No26）が出土している。注目されるのは、貯蔵穴中層から出土した20個体程の壊（No1～3、5～17、21、23）である。完形品以外に半完形品を含んでいるため廃棄遺物と考えられる。貯蔵穴上層からは甕（No25）と幅12cm、厚さ2cmほどの板状の炭化材が2片貯蔵穴に落ち込むようにして穴の縁から出土している。No27の須恵器蓋小片はNo20の土師器の壊とともにこの遺構から出土している土師器群の時期を考える上での参考資料となるものである。古く見てMT15、おそらくTK10段階頃のものであろうか。その他覆土中と床面から計測可能な個体で、長辺1.75cm、短辺1.3cm、厚さ1.1cm程の桃の種の核が2点、計測不可能な個体もあわせて4個体分が出土している。

神出遺跡9号住居跡出土遺物観察表

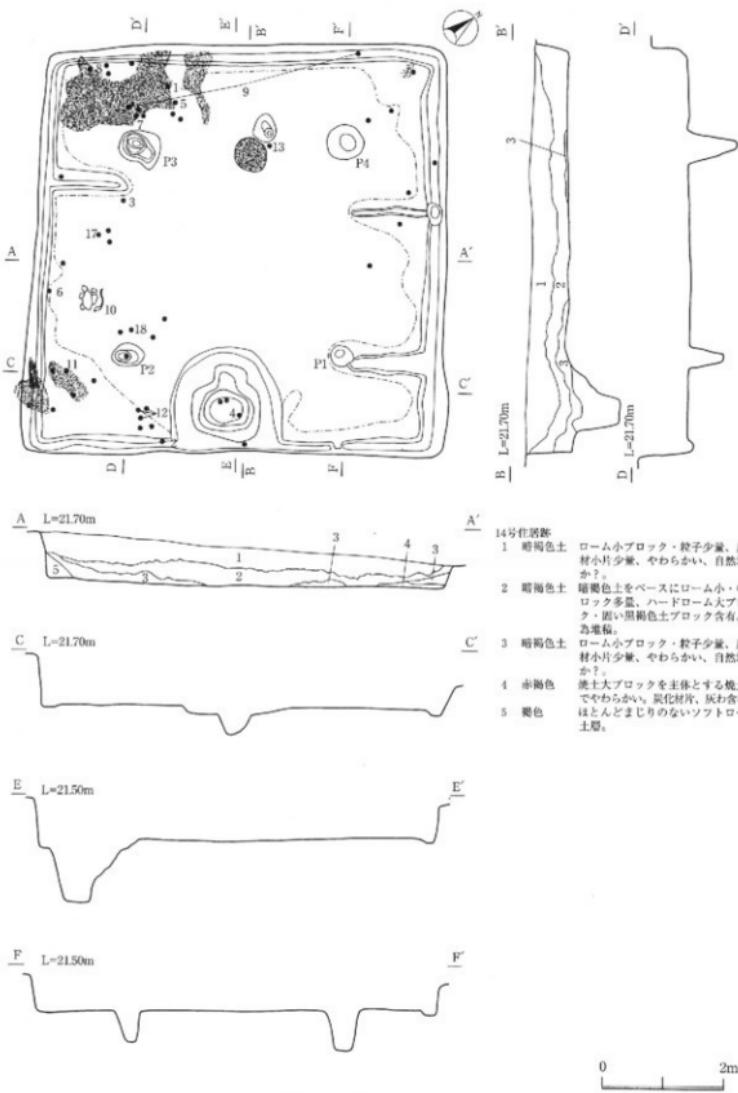
番号	種類	器種	口径	高さ	底径	投げ重	胎土	色調	器形・技法の特徴、その他の	台帳番号	出土地點	備考
1	土師器	环	12.5	4.6	—	100	透明、半透明、白色微粒	白	内面丁寧な放射状ヘラ磨き	5	S19	
2	土師器	环	12	5.2	—	100	細砂多量	青褐色	内外面に墨斑あり、底部多方向ヘラ削り	6	S19	
3	土師器	环	11.3	4.6	—	100	白色微粒子、透明	白	内外面赤彩	7	S19	
4	土師器	环	12.1	5.1	—	100	透明、半透、白色微粒子	暗褐色	内面丁寧な放射状ヘラ磨き	8	S19	
5	土師器	环	12.2	5	—	100	透明、白色微粒	暗褐色	内面やや雜な放射状ヘラ磨き	9	S19	
6	土師器	环	11.5	5.1	—	100	透明、半透、白色微粒	赤～黒褐	—	10	S19	
7	土師器	环	11	5.1	—	100	透明、半透、白色微粒	黒	—	12	S19	
8	土師器	甕	11.8	4.7	—	100	透明粒多量	黄～黒褐	内面やや雜な放射状ヘラ磨き	11	S19	
9	土師器	环	11	4.6	—	100	透明、半透明粒子	暗褐色	—	13	S19	
10	土師器	环	12	5.1	—	100	透明、半透、白色微粒	青～赤褐	—	14	S19	
11	土師器	环	11.7	5	—	100	透明、半透、白色微粒	暗褐色	—	15	S19	
12	土師器	环	11.4	4.9	—	100	透明粒、半透明、白色微粒	黒～墨色	—	16	S19	
13	土師器	环	12	5.4	—	100	半透明粒多量、透明粒	暗褐色	—	17	S19	
14	土師器	环	10.7	4.5	—	100	透明、半透、白色微粒	黒	内外面赤彩	18	S19	底部墨色
15	土師器	环	13	5.2	—	100	半透明、白色微粒少量	明褐色	内外面赤彩	19	S19	
16	土師器	环	13.2	5.7	—	100	透明、半透明粒、白色微粒子程	—	—	20	S19	
17	土師器	环	14.7	5.3	—	100	透明、半透、白、黑色微粒	明褐色	内外面赤彩	21	S19	
18	土師器	环	14	5.8	—	100	透明、半透明粒多量	茶褐色	—	22	S19	内面赤彩
19	土師器	环	14.3	5	—	100	透明、半透、白色微粒子	棕	—	23	S19	
20	土師器	环	12.5	5.5	—	100	透明、半透、白色微粒子	棕	赤く焼ける胎土を使用	24	S19	
21	土師器	环	11.8	7.1	—	100	透明、半透、白色微粒子	黒～墨色	内面雜なヘラ磨き	25	S19	
22	土師器	环	11.7	7.7	—	100	半透明、白、白色微粒子	明褐色	底部は小さく崖みりング状に接地する	26	S19	内面赤彩
23	土師器	环	12	7.7	—	100	透明、半透、灰粒多量	棕	—	27	S19	
24	土師器	环	12	6.5	—	100	透明、半透明粒多量	明褐色	—	28	S19	
25	土師器	蓋	(22.9)	—	11	30	半透明粒多量、玄母粒微少量	褐	底部片側被熱融、他の層スス付着	31	S19	
26	土師器	小形甕	—	7.3	—	90	半透明、白色微粒多量	明褐色	粗雑な作りでミニチュア土製品に近い	30	S19	越中や和歌
27	須恵器	蓋	(12.8)	—	—	5	白色微粒子	青灰	—	29	S19	TK10

14号住居跡（第21-22図・写真図版6）

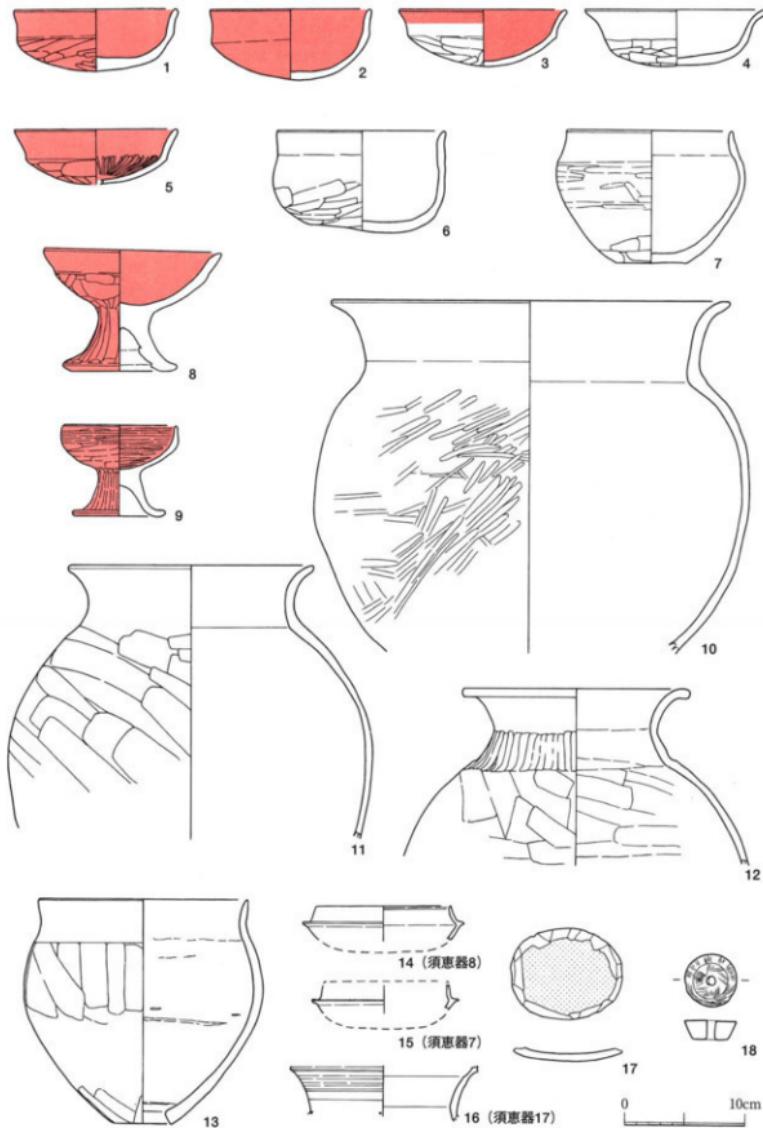
本住居跡は N 6、M 6 グリッドに位置する。規模は長軸方向6.5m、短軸方向6.5mを測り、主軸は N-54°-W を示す。残存する壁高は75cm を測る。床面積は42.3m²を測り、平面形は方形を呈する。南東壁中央部直下に平面形長方形で長辺1.13m、短辺0.8m、深さ1.02mの貯蔵穴が開く。柱穴は、4か所で上端径30~60cmで底の方はやや狭くなっている。住居廃絶後の柱の抜き取り、あるいは上屋倒壊のためか、大きな穴として確認された。貯蔵穴の落ち込みの縁の部分に上端径30cm、深さ45cm 程の穴が開く。貯蔵穴の縁のくずれと重なって明瞭でないが、出入り口に斜めに埋め込まれる一本柱状の梯子穴と考えられる。貯蔵穴をまたぐような位置にある点は貯蔵穴の用途を限定してくると思われる。問仕切り溝は、3本確認できた。1本は壁からP 1に向かって延びており、他2本は壁から柱筋を結ぶ線上ぐらいまでの長さで独立して終わっている。P 3とP 4を結ぶ線のやや内側寄りに、長径53cm、短径60cmの地床窓が確認された。住居の土壠断面で南東壁に接した付近から、住居跡の覆土とは明らかに違う、厚さ10cm、高さ60cmのソフトロームが地山壁に縦方向に長くはりついて残っていた。一部には厚さ4cm弱の炭化層も表面に見られた。炭化層が壁体の痕跡、ソフトロームは壁体の裏込めに由来するのではないかと現場で判断した。覆土は、堀際の床上に炭化材片を含んだ焼土ブロック層が最初に堆積しており、上屋の焼失か焼却にかかるものと見られる。焼土層の上は、人為的な堆積土層で中央部で厚さ約25cm 程である。その上の層は自然堆積土層である。出土した遺物はほとんど上層滅失後の人為堆積土層中前後に投棄されており、時期的にほぼ同時期の廃棄遺物である。器種は底部の残存していない大型の甕（No10）、普通サイズの甕片（No12）、坏は赤彩のものが多く、黒色処理のものは破片で1点と不明土製品（No17）のもので1点出土している。不明土製品は長径9cm、短径7.5cm、黒色処理の坏底部を欠いて椭円形に整形したものである。坏碗類よりも一回り大きいサイズの鉢、甕を小形にしたような单孔の瓶（No13）もある。高坏は大型のもの（No8）と小形短脚のもの（No9）がありいずれも赤彩されている。覆土中出土の須恵器細片（No14-15-16）は MT15~TK10段階頃のものであろうか。その他に滑石製紡錘車（No18）、球形の土玉と円孔方向の両端を削り両端に平坦面を持つ土玉が出土している。

神出遺跡14号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	口径	底面	形状	残存状況	胎土	色調	器形・技法の特徴、その他の	台帳番号	出土地点	備考	
1	土師器	坏	13.4	5.1	100	白色微粒、質白微粒	褐	内外面赤彩	33	SI14		
2	土師器	坏	13.3	5.8	90	半透明、白色微粒少量	褐	内外面赤彩	34	SI14		
3	土師器	坏	13.8	4.7	100	透明、半透明、白色微粒	褐	内外面赤彩	35	SI14		
4	土師器	坏	15	4.6	70	白色微粒、黑色微粒	褐		36	SI14		
5	土師器	坏	13.5	4.6	35	白色微粒少、粗質土少	赤褐	内外面赤彩	37	SI14		
6	土師器	鉢	13.8	8.5	100	透明、白、灰色微粒少量	褐	使用済有り内面コゲ、外面スス付着	38	SI14	貼付	
7	土師器	坏	13.7	11	57	白色微粒、質は微粒	茶褐		39	SI14		
8	土師器	高坏	14.7	10	9.1	90	半透明、白色微粒少量	明褐	内外面赤彩	40	SI14	
9	土師器	高坏	9.2	7.5	7.6	80	透明、半透明粒少	明褐	内外面赤彩	41	SI14	
10	土師器	甕	32.9	-	60	半透明、透明、白色粒子	褐	体部外面ヘラ焼き	42	SI14		
11	土師器	甕	20.3	-	10	半透明粒多量	米褐		43	SI14		
12	土師器	甕	(18.8)	-	20	半透、透明微粒、白色粒	褐		44	SI14		
13	土師器	甕	17.3	19	4.7	30	透明、半透、白色粒子	明褐	体部外面糊状	45	SI14	
14	須恵器	坏	(11.1)	-	5	白色微粒	灰		289	SI14	MT15~TK10	
15	須恵器	坏	(10.3)	-	5	白色微粒	灰		292	SI14	MT15か	
16	須恵器	甕	(15)	-	10	白色微粒	灰	颈部外面カキ目、体部平行叩き	46	SI14	MT15	
番号	種類	名称	高さ	幅	孔径	残存率	胎土	色調	器形・技法の特徴、その他の	台帳番号	出土地点	備考
17	土製品	円盤状	9.2	7.6	-	100	日立つ含有物なし	明褐	坏底部利用の不明土製品	47	SI14	
番号	種類	名称	高さ	幅	孔径	残存率	石質			台帳番号	出土地点	備考
18	石製品	紡錘車	1.3	1.6	0.9	100	滑石			268	SI14	



第21図 神出遺跡14号住居跡



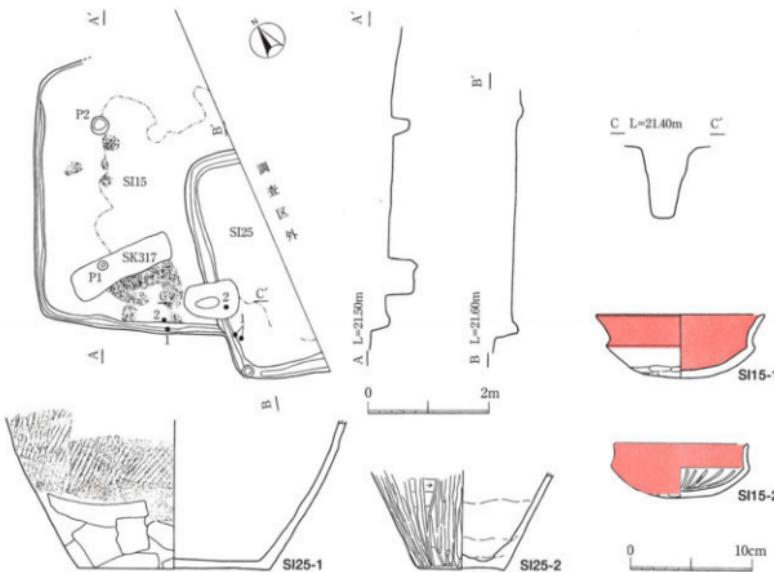
第22図 神出遺跡14号住居跡出土遺物

15号住居跡（第23図・写真図版6）

本住居跡はN10、N11グリッドに位置する。規模は北側が傾斜地のため削平されているが、柱穴の位置から推定して約4mである。南東部を25号住居跡に接している。床は主柱よりも内側が硬化している。残存する壁高は24cmを測り、主軸はN-36°-Eを示す。南西壁直下に平面形長方形で長辺0.9m、短辺0.56m、深さ1.12mの貯蔵穴が開く。主柱は2本確認した。P2は上端径30cm深さ30cm。P1は317号土坑の底面にわずかに確認し、床面からの深さは48cmである。覆土は床上に焼土・炭化材片を残し、最下層に炭化物を含有する。下層（2～4層）は自然堆積で上層（1層）は人為堆積である。出土遺物は覆土中から赤彩土器器坏（SI 15-1・2）と土玉、甕部片が少量出土している。外面黒色の無赤彩坏片も見られた。

神出遺跡15号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	貯 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備考
1	土師器	壺	14	5.2	100	半透明・白色・黑色微粒多量	褐色	外底面中央指頭痕		49	SI15	内面磨耗
2	土師器	壺	(11)	4.5	100	半透明粒・白色微粒	褐色	底部ヘラ削り後全体に磨きに入る		50	SI15	



第23図 神出遺跡15・25号住居跡・出土遺物

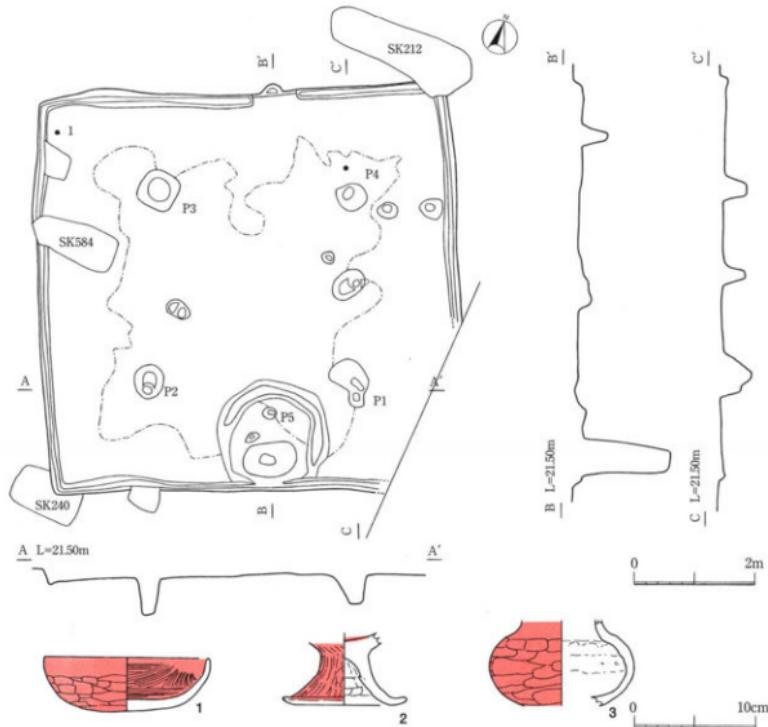
18号住居跡（第24図・写真図版6）

本住居跡はL10グリッドに位置する。規模は長軸方向6.8m、短軸方向6.4m、残存する壁高は15cmを測る。床面積は43.5m²を測り、平面形は方形、主軸はN-18°-Wを示す。ピットは、P1～P12まで穴があくが住居の主柱はP1～P4で上端径45～55cm、深さ38～60cmで上端径が大きくなるにしたがって狭くなるので柱の抜き取りないし上屋の倒壊の可能性がある。P5・P6は出入り口施設に関係する穴か。P7～P10は主柱にならない性格不明である。南東壁中央部直下に平面長方形で長辺0.87m、短辺0.64m、深さ1.42mの貯蔵穴が開く。貯蔵穴の周囲は馬蹄形状に高さ7cm程度の高まりを持っている。竈、炉等の火處の痕跡が確

認できなかった。覆土は残存している所でも厚さ10cm程度である。出土遺物は6世紀前半代の土師器坏片が多く、坏(No1)、高坏(No2)、土玉、小形短頸壺(No3)が出土している。

神出遺跡18号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	坏	13.6	4.5		100	半透明:白色粒少量、灰色織	明褐色	内外面赤彩	52	SI18	
2	土師器	高坏				35	透明:粒子	明褐色	内外面赤彩	53	SI18	
3	土師器	短頸壺				30	透明粒少量:白色微粒多量	灰~褐色	外面赤彩	54	SI18	



第24図 神出遺跡18号住居跡・出土遺物

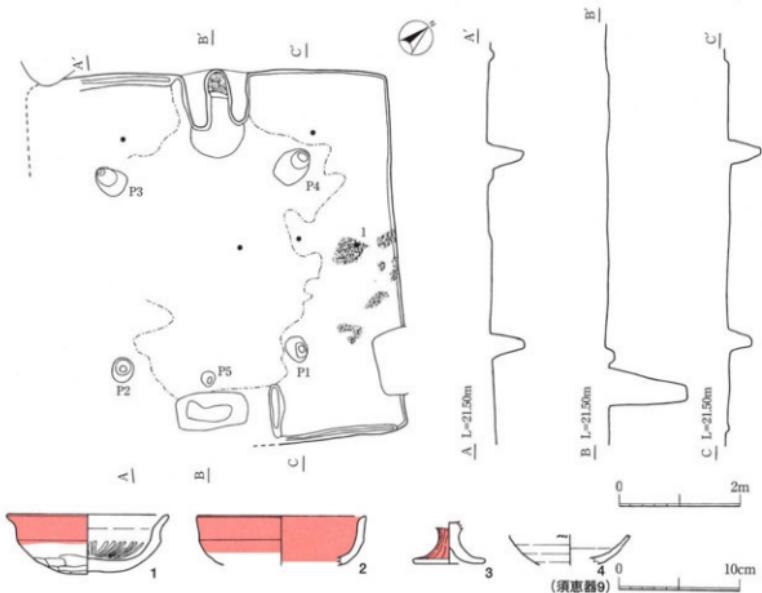
19号住居跡（第25図・写真図版6）

本住居跡はK9, K10グリッドに位置する。規模は北東壁の長さ5.9mを測り、北西壁は南側で削平されるが、掘り方の確認範囲から5.8mまで延びていると推定される。残存する壁高は6cmを測る。主軸はN-48°Wを示す。主柱穴はP1～P4で上端径30～40cm深さ38～55cmである。P5は出入り口施設に関係する穴で深さ10cmである。南東壁中央部直下に平面形長方形で長辺1.16m、短辺0.59m、深さ1.27mの貯蔵穴が開く。竈は北西壁中央部に構築され、壁外への掘り込みをほとんどもない。全幅1.12m、全長0.9mを測り、燃焼室は幅の狭い縦長の形態で内法で奥行き95cm、幅38cmを測り、比較的古いタイプの形態を持

っている。貯蔵穴の北東側には南東壁から主軸方向に向かって、長さ88cm、掘り方幅下端で約10cmの間仕切り溝が確認された。覆土は、ロームブロックを等質に混ぜたような人為的な堆積と観察された。北東壁際には焼土の堆積が見られた。出土遺物は、土師器が赤彩土師器壺（No1・2）と小形短脚高壺（No3）、須恵器が波状文の入った無蓋高壺の部品細片（No4）である。

神出遺跡19号住居跡出土遺物観察表

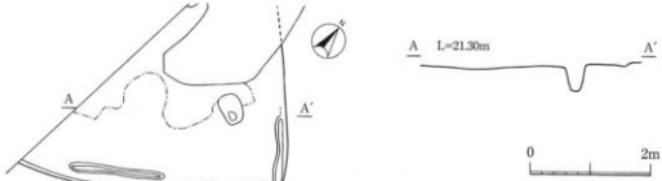
番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	壺	13.5	4.7	7.0	透明・白色粒	褐	外面部小さく窪む、底部厚く重量感	48	SI19		
2	土師器	壺	(14.5)	2.0	半透明粒多量・白色粒子	明褐	内外面赤彩		56	SI19		
3	土師器	高壺		6	4.0	半透明、透・雲母微粒子	明褐	外面部赤彩		57	SI19	
4	須恵器	無蓋高壺			5	白色微粒多量、白色粒	暗灰			300	SI19-7 MT15-T03	



第25図 神出遺跡19号住居跡・出土遺物

20号住居跡（第26図・写真図版6）

本住居跡はK10グリッドに位置する。規模はエリア外に延びているため不明だが、一辺4.2m以上はある。



第26図 神出遺跡20号住居跡

主柱穴は1か所で径34cm、深さ40cmが確認できた。壁・覆土は残存しておらず、床は搅乱が広く入っているが一部硬面化が確認された。主軸はN-43°-WないしN-47°-Eである。出土遺物は、極少量6世紀前半代の土師器片が床面付近から出土している。

23号住居跡

本住居跡はM5グリッドに位置する。28号住居跡及び26号住居跡の覆土を掘り込んで住居を構築しているが304号・316号・337号・349号・27号住居跡に掘り込まれており調査は床面の一部を確認するにとどまった。壁は28号住居跡とほぼ同じ方向を向いて南西壁の壁溝のみ一部確認されている。床上からは炭化材片が出土し、床も一部被熱を受けて赤変している所もあり、住居廃絶後上屋は焼失しているようである。

他の住居跡のように深い貯蔵穴が確認できないので、39号住居のように比較的新しい時期で、深い貯蔵穴があかなかいタイプの住居かもしれない。

26号住居跡

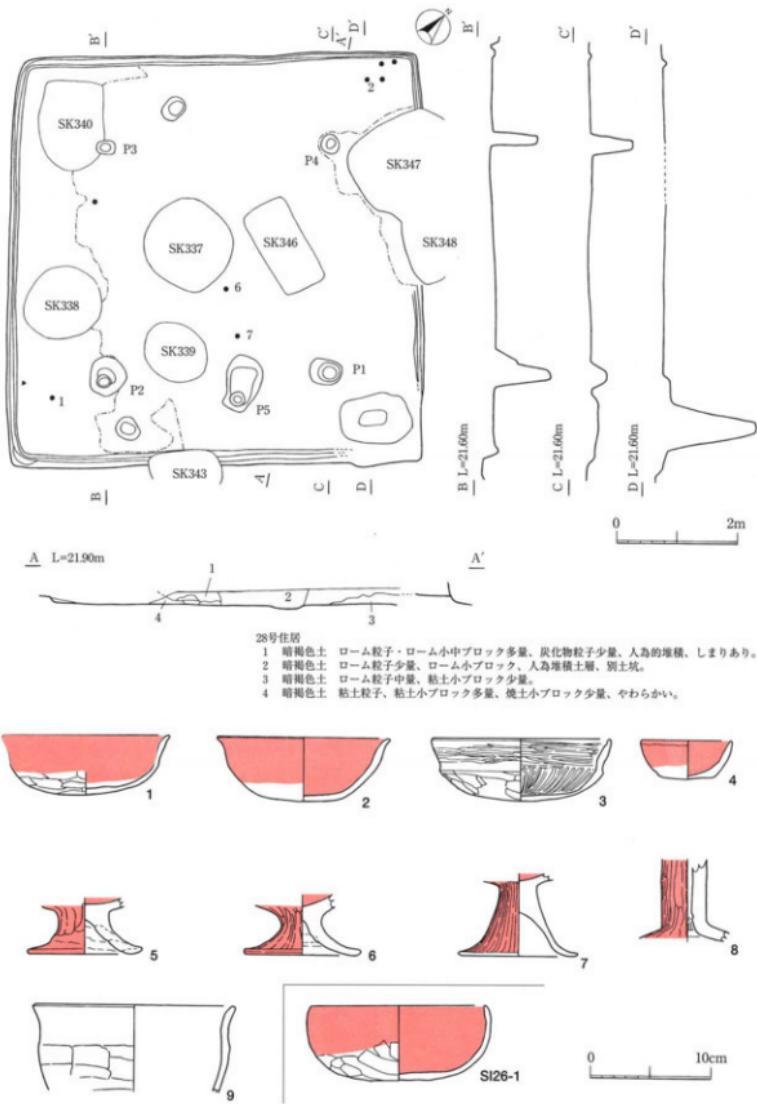
本住居跡はM5グリッドに位置する。23・27号住居に掘り込まれ、他にも新しい時期の土坑に掘り込まれ壁の立ち上がりは確認できなかった。薄い覆土に覆われ、床が一部残存していた箇所から6世紀前半代の土師器壺(NoSI26-1)が出土している。

28号住居跡(第27図・写真図版6)

本住居跡はM5、M6、L6グリッドに位置する。26・23号住居に覆土を掘り込まれ、337・338・342・343・346号土坑には床面も掘り込まれている。規模は長軸方向6.75m、短軸方向6.55mを測る。残存する壁高は29cmを測る。床面積は44.2m²を測り、平面形は方形を呈する。主軸はN-45°-Eを示す。ピットは、5か所確認された。P1～P4は主柱穴で径20～30cm、深さはP1が25cmで他の3本は70～90cmである。P5は出入り口の梯子穴である。P6・P7は床面を壊すように開けられている。南西コーナー部に平面形長方形で長辺1.15m、短辺0.80m、深さ1.54mの貯蔵穴が開く。その他に竈や炉は確認できなかった。覆土はより新しい住居跡に掘り込まれており不明瞭だが、貯蔵穴の覆土で見ると、下層に暗褐色自然堆積土層があり、その上に焼土層が薄く乗り、その上にブロックを含んだ人が堆積土層が貯蔵穴を埋没させている。出土遺物は、床上から小形の高环脚部が2点(No6・7)、その他覆土中から赤彩環(No1・2・4)、赤彩高环片、土玉が出土している。No2の壺は、内面に横方向の細かなヘラ磨きが施され全体に丁寧な調整である。No3の壺は他の壺の胎土が半透明粒子が多く含んでいるのに対して、白色微粒を少量・スコリア粒・同微粒状のものをやや含む鉄分の多い胎土である点や、他の壺類が赤彩を施しているのに対してもともと赤褐色に焼き上がる鉄分の多い土を使っていて、ていねいな磨きの優品である点等特に異質である。

神出跡28号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備考
1	土師器	环	13.8	5	9.5	95	透明・半透明粒多量	明麗	内外面赤彩	59	SI28	
2	土師器	环	14.4	5.3	8.0	80	半透明粒・暗赤褐色粒	明麗	体部内面頬かく丁寧な多方向のヘラ磨き	60	SI28	明褐色
3	土師器	环	14.8	5.2	7.0	70	白色微粒・暗赤褐色粒	赤褐	丁寧なヘラ磨き、頬部内面弱い沈線	61	SI28	赤褐色
4	土師器	小形环	7.6	5.2	4.5	60	透明・白色微粒	明麗	内外面赤彩	62	SI28	
5	土師器	高环	—	3.2	9.4	40	半透明粒子多量	明麗	内外面赤彩	63	SI28	
6	土師器	高环	—	9.8	5.0	半透明	白色微粒子	灰褐		64	SI28	
7	土師器	高环	—	9.8	5.0	半透明	白色微粒子	褐	赤彩	65	SI28	
8	土師器	高环	—	—	6.0	半透明	雲母粒子	褐	外表面赤彩	66	SI28	
9	土師器	环	(6.7)	—	3.0	透明粒子・白色微粒子	茶褐	外表面コケ付着	67	SI28	薄として使用	
SDS1	土師器	环	14.4	6	8	30	半透明粒多量	明麗	外表面ヘラ削りは小さい単位で丁寧	58	SI26	



第27図 神出遺跡28号住居跡・26・28号住居跡出土遺物

29号住居跡（第28図・写真図版6）

本住居跡はM 6 グリッドに位置する。30号住居に覆土を、27号住居には北西部の床面を、28号住居には中央部から南部にかけての広い範囲の床面を掘り込まれている。床が残存していたのは、北東部の全体の1/4である。規模は長軸方向9.3m、短軸方向9.0mを測る。残存する壁高は41cmを測る。主軸はN-18°-Eを示す。柱穴は4か所、P 1は径32cm 深さ84cm で他の柱は住居跡を壊している土坑の底や住居の床下から見つかったが、70cm を越える深い掘り込みになっている。南西コーナー部に平面長方形で長辺1.13m、幅辺0.82m、深さ0.87m の貯蔵穴が開く。出土遺物は、貯蔵穴覆土中から、小形の土師器の壺（No 6）、貯蔵穴底面から木製盤類似の坏部を持った高坏（No 5）が、床面からは須恵器壺の口縁部片（No 4）が出土している。

神出遺跡29号住居跡出土遺物観察表

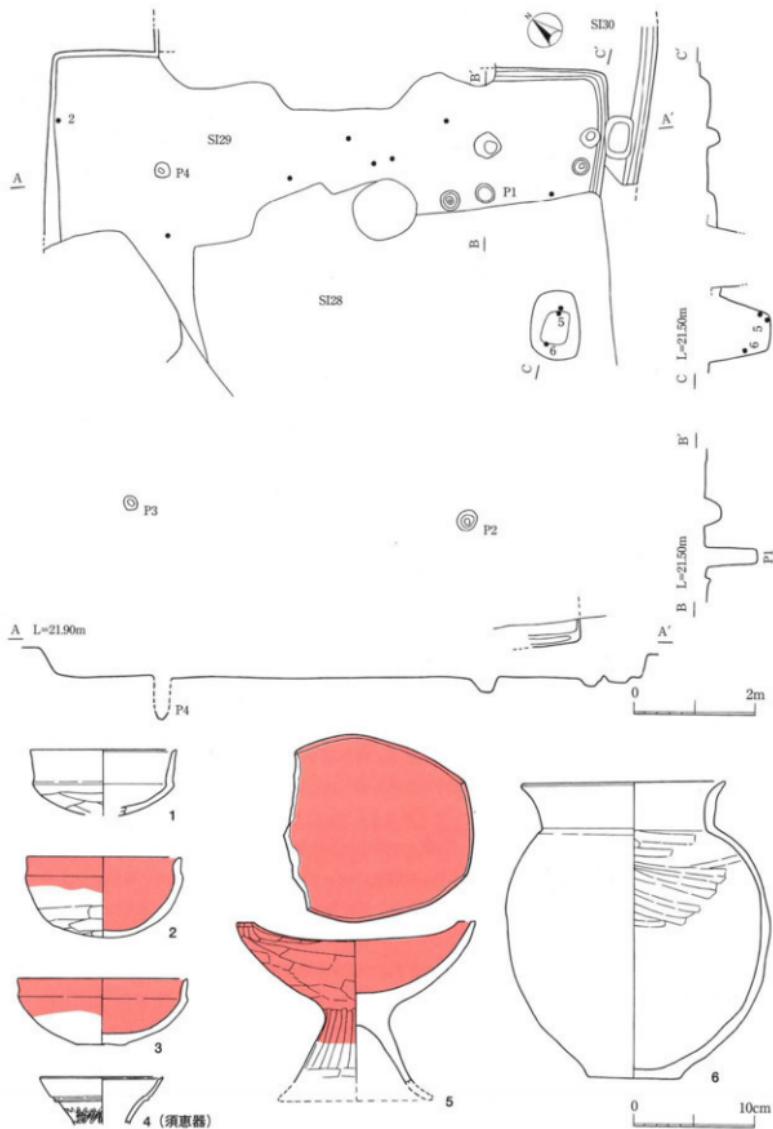
番号	種類	名前	高さ	幅	孔径	残存率	胎	色調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備考
1	土師壺	壺	12	5.5	30	半透明白色粒や目立つ	輪	赤褐色	口縁等外周クロナデ状の丁寧な横ナギ	256	SI29	豊かな斜削
2	土師壺	壺	(108)	6.5	60	半透明、白色微粒子	輪	内面一外周口縁部赤採		257	SI29	
3	土師器	壺	14	5.4	70	半透明粒、雲母微粒	輪	時刷	小さな平底の底部、赤採崩きなし	258	SI29	
4	粗粘器	はそ	(103)	5	白色粒中程、黑色微粒			暗灰		257	SI29	TK23か
5	土師器	舟形壺	(197)	70	半透明、白色直筋		明褐	走筋		259	SI29	
6	土師器	壺	15	24	75	80	半透明、白色粒子	暗褐	底部一方向へラ削り、外周全体スス付	260	SI29	押裏か

30号住居跡（第28図）

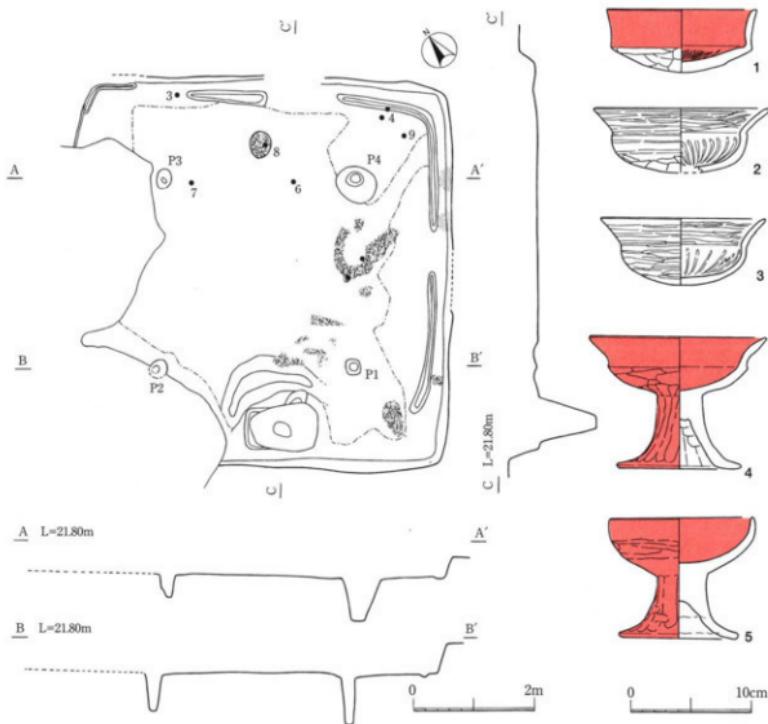
本住居跡は M 6 グリッドに位置する。規模は南東壁が2.6m、南東壁と直交して床が6.5m 残存していた。壁高は10cm 程残っていた。主軸はN-31°-Wである。主柱となる穴は確認できなかった。出土遺物は、5世紀後半代の赤彩坏片が少量出土している。

32号住居跡（第29-30図・写真図版 7）

本住居跡は N 6, N 7, M 6, M 7 グリッドにまたがって位置する。20-21号地下式壙に南部を壊されている。規模は長軸方向6.2m、短軸方向 6 m を測る。残存する壁高は45cm、床面積は37.2m² を測り平面形は方形を呈する。主軸はN-32°-Eを示す。柱穴は4か所確認された。柱穴径はいずれも20~24cm で、深さは P 1 が40cm、P 2 が61cm、P 3 が69cm、P 4 が80cm である。南東壁中央部直下に平面長方形で長辺1.1m、幅辺0.76m、深さ0.93m の貯蔵穴が開く。貯蔵穴の周囲は馬蹄形状に高さ約 7 cm の高まりを持っている。炉の痕跡らしきものが北東壁側の2本の主柱穴を結ぶ線よりも外に径約40cm の楕円形の範囲に見られたが被熱痕が弱くかかどうかは断定できない。床上には焼土や炭化物が残存しており、住居廃絶後上屋は燃えて失われているようである。覆土の断面観察から、P 4 の西側60cm ぐらいう位置に粘土の火・中プロックを多量に含んだ竈袖部の残骸のような堆積が見られた。また、平面図中の壁から離れて内側にめぐるように示してある焼溝は、古い焼溝であり最終床面が溝の上につくられていた。覆土の主体は、上層から床近くまで40cm 程の厚さで堆積している人為堆積土である。最下層の壁際の堆積層中の焼土大プロック、炭化物の含有は上層の人為堆積土層と合わせて考えると上層の焼却にかかるものとの推測也可能である。出土遺物は土師器の壺、甕・鍛冶滓などで、甕の破片の中には底部に屋内炉での使用を窺わせる3点支持痕跡のあるものも含まれていた。その他に158g の鍛冶滓が出土している。磁性のほとんどない塊状で長さ6.5cm、幅5.2cm、厚さ 3 cm を測る。炉底あるいは炉壁の楕状のカーブに沿ってはりついた溶融滓の厚さは、0.7cm で内側は不整形の滓が付着している。



第28図 神出遺跡29・30号住居跡・出土遺物



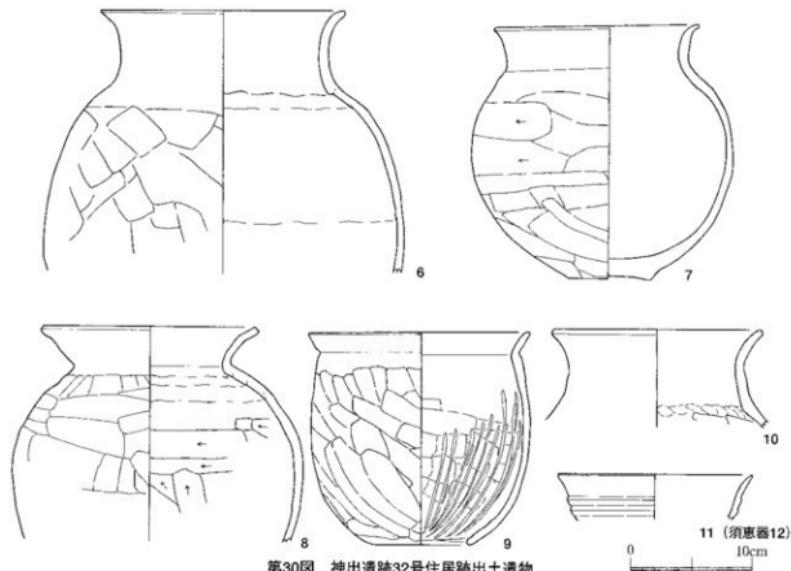
第29図 神出遺跡32号住居跡・出土遺物

神出遺跡32号住居跡出土遺物観察表

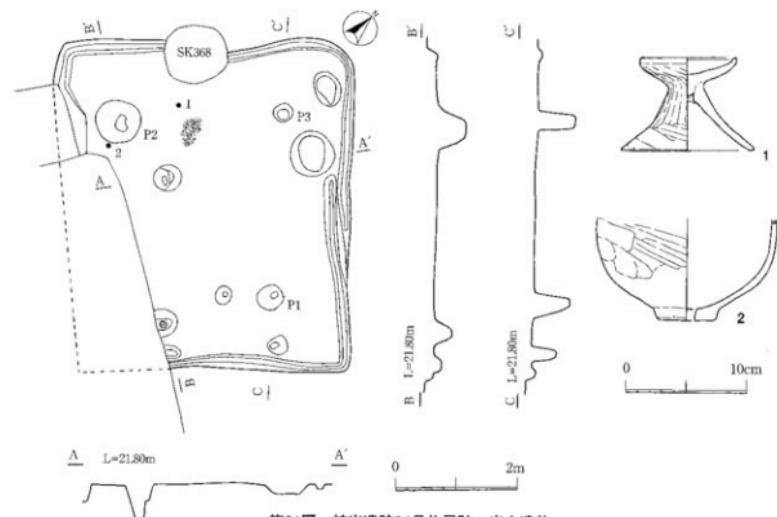
番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地點	備 考	
1	土師器	环	12.4	5.4	100	半透明微粒多量・白色粒少量	褐	底部外面ナデ状の丁寧なヘラ削り	71	SI32			
2	土師器	环	14.5	(5.2)	90	透明・雲母粒子	相一褐色	ヘラ磨き主体、無赤彩环	72	SI32			
3	土師器	环	13.6	5.5	70	半透明・白色微粒子	橙	ヘラ磨き主体、無赤彩环	73	SI32			
4	土師器	高环	14.7	11	10	70	半透明・白色粒子	明褐色	内外面赤彩	74	SI32		
5	土師器	高环	12	10	10	60	半透明粒子・暗褐色微粒	明褐色	内外面赤彩	75	SI32		
6	土師器	甕	21	50	白色粒、雲母微粒	明褐色	体部外面ヘラ削り後ヘラナデ	76	SI32				
7	土師器	甕	17	21	7	90	半透明・白色粒子多量	褐	体部外面スス付着、内外面に2点支持痕跡	77	SI32		
8	土師器	甕	(18)	40	半透明纏多量・雲母微粒	褐	体部外面スス付着、口縁端部に平坦面	78	SI32				
9	土師器	甕	(18.3)	17.5	8	60	白色微粒、透明粒少量	明褐色	内面ヘラナデ後ヘラ磨き、内面調整が丁寧	79	SI32		
10	土師器	甕	(17.4)	20	半透明粒、白色微粒	褐	内面頭部と体部の境に指頭圧痕あり	80	SI32				
11	須恵器	蓋高环	(16)	5	白色微粒、白色裡	青灰			296	SI32	TK6-MT15		

34号住居跡（第31図・写真図版7）

本住居跡はN6, N7グリッドに位置する。31・32号住居に南西部を掘り込まれている。規模は長軸方向5.25m、短軸方向4.77mを測る。残存する壁高は12cmを測り、主軸はN-43°-Wを示す。床は硬化面が残存していないので、覆土を除去しやや軟質の掘り方の上層面を検出した。この面で長径50cm、短径30cmの焼土化した範囲が確認されたので炉跡と認識した。主柱穴は、3か所確認。その他ビットを6か所確認したが



第30図 神出遺跡32号住居跡出土遺物



第31図 神出遺跡34号住居跡・出土遺物

性格は不明である。出土遺物は床面から器台（No1）、瓶片（No2）が出土している。本跡唯一の古墳時代前期の住居跡である。

神出遺跡34号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	器台	-	-	80	透明・白色粒子	褐	赤く発色する成分の多い胎土	83	SI34		
2	土師器	瓶	-	-	5	40	透明・白色微粒子	褐	武都柳庄痕、体下平部縁付着	84	SI34	

38号住居跡（第32図・写真図版7）

本住居跡はL6グリッドに位置する。規模は南北方向7.25mである。壁、覆土は確認できなかった。床は中央部から北部にかけて硬化面が残存しているが西から南の壁はすでに流失し掘り方の範囲で確認した。主軸はN-50°-Wを示す。竈と北コーナー部の間のP4寄りの位置に平面長方形で長辺0.78m、短辺0.64m、深さ0.58mの貯蔵穴が開く。主柱穴は4か所、いずれも上端は1mを越える程の大きさなり鉢状の穴となっており、P2の抜き取り穴の中には10点以上の灰、甕が投げ捨てられていた。P5は、竈の対面の南西壁中央付近にある。竈は床面の高さで粘土の貼り付き痕跡として袖の一部が残っていた。P2から出土した遺物は、土師器の坏がすべて黒色処理を施したもので、甕は体部下半にヘラ磨きが見られるが、口縁端部のつまみ上げを行っていないので、定型化した常総甕の出現の前段階頃に位置づけられるかもしれない。

神出遺跡38号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考	
1	土師器	坏	14.2	4	100	透明・白色微粒	褐	内外面黑色処理	87	SI38			
2	土師器	坏	13.6	4.5	100	透明微粒少量	褐	内外面黑色処理	88	SI38			
3	土師器	坏	12.6	4.7	100	透明・半透明粒少量	褐	黑色過度釉跡あり、外底面「京」字なヘラナデ	89	SI38	切削痕有り		
4	土師器	坏	12.6	5	100	半透明粒子	褐	内外面黑色処理、丸井の部のハケ巻り痕有り	90	SI38			
5	土師器	坏	13	4.5	100	黄色微粒、赤褐色粒	褐	内外面黑色処理	91	SI38			
6	土師器	甕	15.2	-	60	透・半透疊多量、青母微粒	褐	底部の一カ所にスス付着	94	SI38			
7	土師器	甕	19.3	-	70	透・半透・白色微粒多量	褐	内凹口ガ、外底全体ススとふきこぼれ付着	93	SI38			
8	土師器	甕	22.1	34.5	8	80	半透明確多、雲母粒子少	褐	体部外側中央部膨脹の丸れ、施墨か	92	SI38		

39号住居跡（第33図・写真図版7）

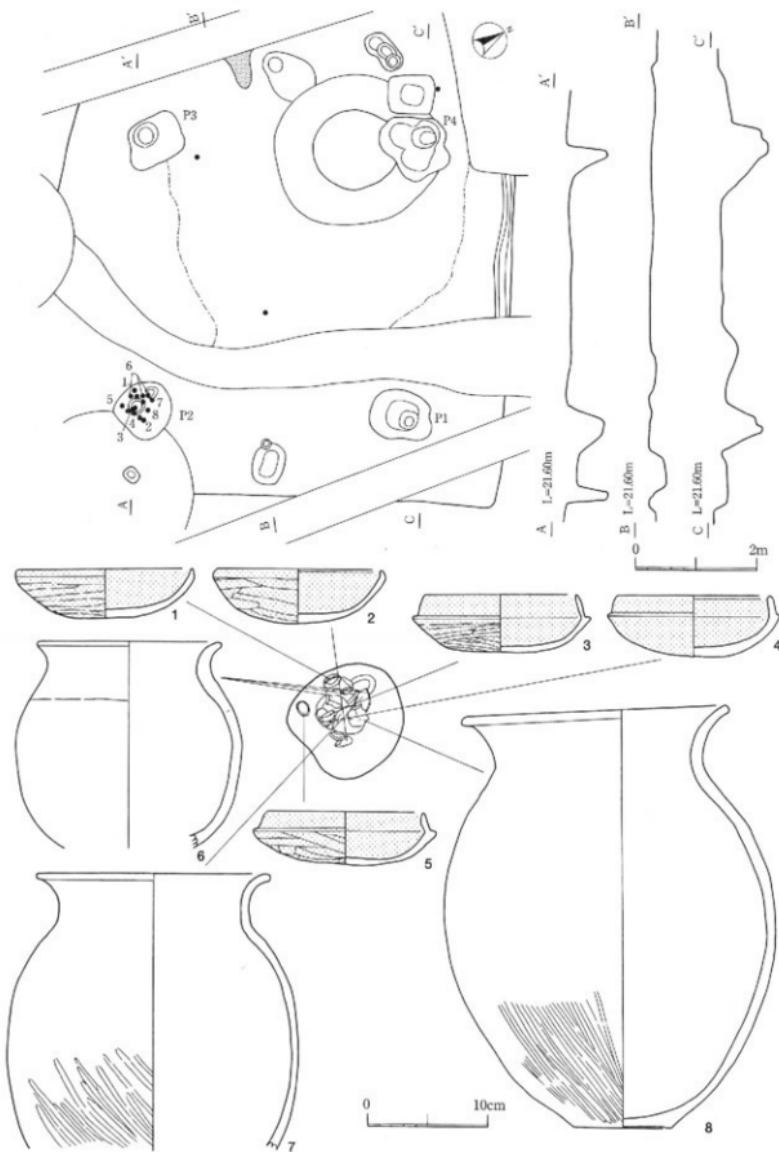
本住居跡はK6グリッドに位置する。規模は長軸方向6.75m、短軸方向6.5mを測る。床面積は43.9m²を測り、平面形は方形を呈する。主軸はN-33°-Wを示す。床は北半分に残存し、地形的に南下がりの南部はすでに流失して確認できなかった。主柱は4か所で、上端径50cm前後で深さは55~78cmである。竈は北壁中央部に床面と同じレベルでにぶい褐色粘土の薄い堆積として確認された。出土遺物は北コーナー部の住居掘り方内から甕の体部、底部片が出土しており、6世紀代の竈を持った住居跡となると思われる。図化した小形の鉢形土器（No1）はP6覆土中から出土したもので、古墳時代前期の遺物である。

神出遺跡39号住居跡出土遺物観察表

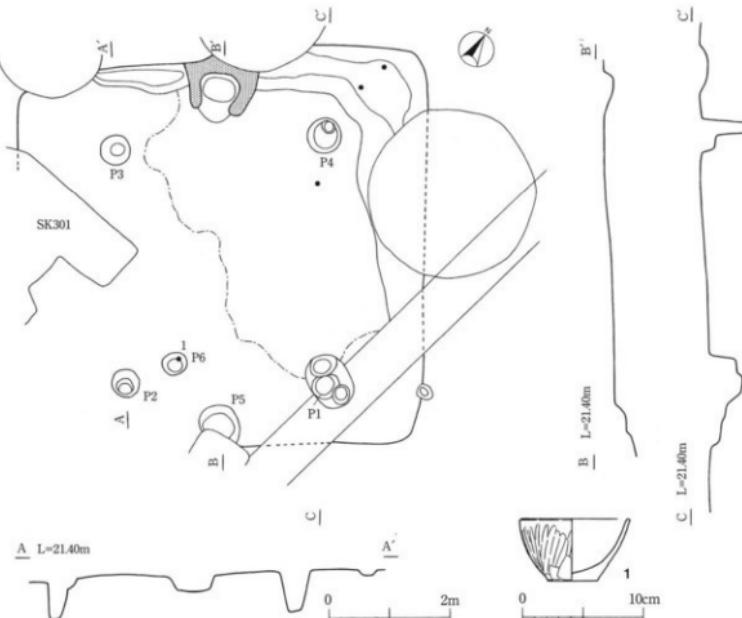
番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	小形鉢	9	4	5.1	90	透明・白色軟質粒	褐	外面黒いハラナデ	96	P6	

41号住居跡（第34図）

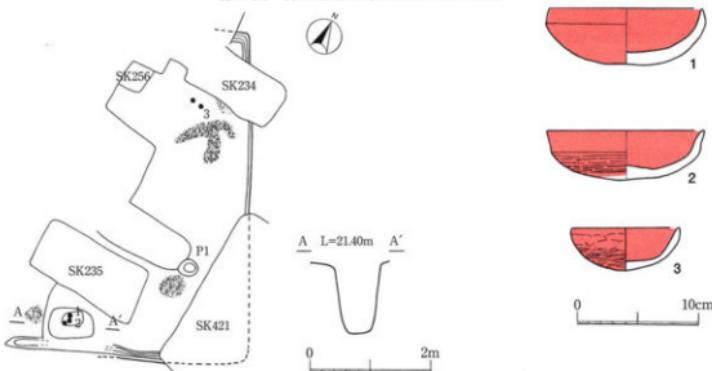
本住居跡はL9グリッドに位置する。234・235・256・421号土坑によって床面を広く掘り込まれている。規模は南北方向5.2mで、西側2/3は流出して残っていない。主軸はN-19°-Wを示す。南壁直下に平面長方形で長辺0.73m、短辺0.50m、深さ1.16mの貯蔵穴が開く。床面上には焼土が堆積している。出土遺物は、貯蔵穴中から赤彩された土師器坏（No1・2）、床面からNo3の上師器の小形赤彩坏が出土している。



第32図 神出遺跡38号住居跡・出土遺跡



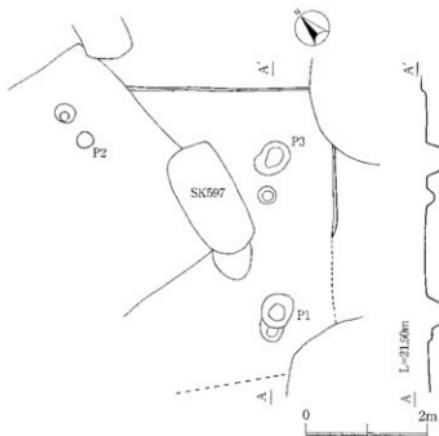
第33図 神出遺跡39号住居跡・出土遺物



第34図 神出遺跡41号住居跡・出土遺物

神出遺跡41号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土器器	环	12.6	4.5	-	60	透明・灰・白色粒	明褐色		97	SI41	
2	土器器	环	13	4	-	50	半透明・スコリア粒	褐	内面赤彩ハケ塗りのまま	98	SI41	
3	土器器	环	8.8	3.5	-	60	半透明粒子中量	褐~橙	外面赤彩ヘラ磨き、内面赤彩ハケ痕明顯	99	SI41	



第35図 神出遺跡42号住居跡

(2) 古墳時代の土坑 (第36-37-38図・第4表)

本遺跡からは、総数670基余りの土坑が確認・調査されている。その中で古墳時代の土坑は16基である。内訳は古墳時代前期の遺物を出土した土坑が1基、古墳時代後期前半の土坑が15基である。この中で長方形気味の平面形の一群(85-87-88-92-110-163-166-172-197)は、堅穴住居跡に付随する貯蔵穴とよく似た形態と覆土の堆積、遺物の出土状況である。しかし、調査中に行った数度の精査に関わらず、近辺に堅穴住居の柱穴が確認できなかった。そのためこれらの土坑が単独土坑の可能性があるものの、第5章考察の中で触れているが住居に付随する穴の可能性がより高いと判断し、堅穴住居跡の貯蔵穴と考えることとした。詳しくは第5章考察を、これらの土坑の規模その他については第4表土坑一覧表を参照願いたい。

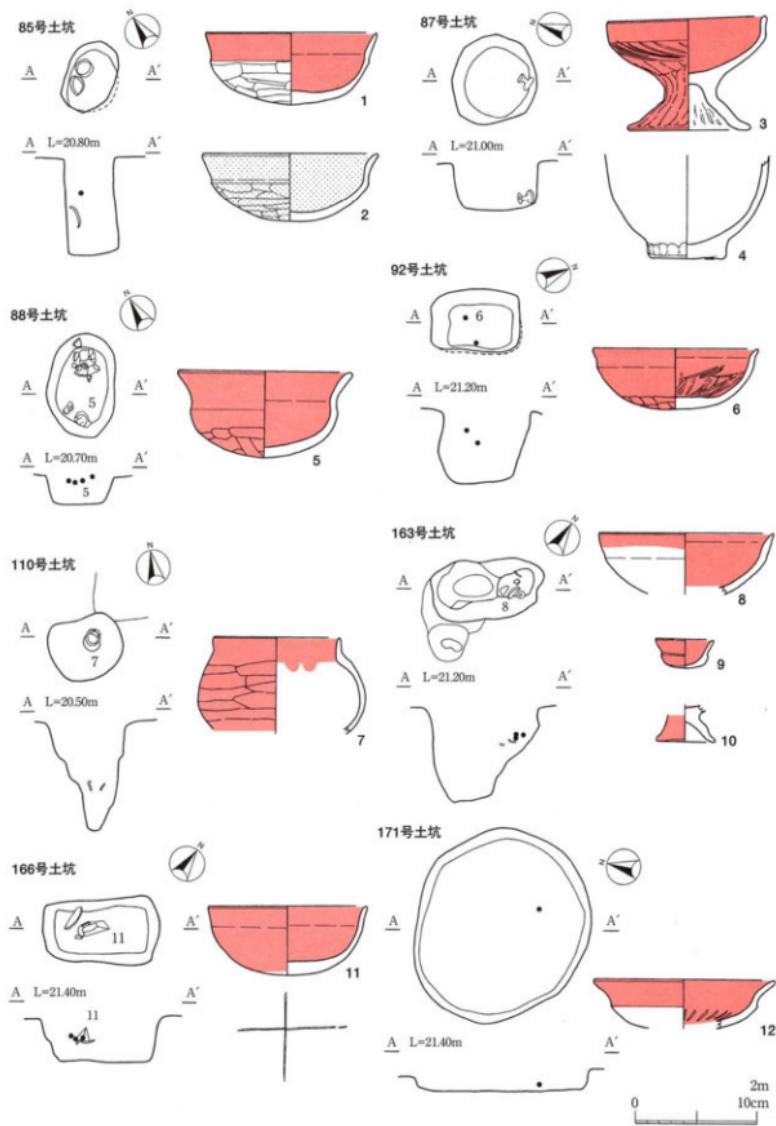
単独土坑として考えられるものの中でも、191号土坑は小形円筒形の土坑で壁面には被熱痕がなく覆土下層に焼土と炭化物が入っており、その上から須恵器の小形壺と底面に被熱痕のある完形壺、摩耗の激しい壺、赤彩壺破片が出土している。出土状況から祭祀坑(祭祀後のかたづけ埋納坑)と考えたい。須恵器はTK23段階頃の撤入品と思われる。

また、639号土坑は調査エリア南部の台地縁辺にあり、底面平坦で壁が一部オーバーハングしたプラスコ形の土坑である。常緑粘土層を掘り込み、良質粘土の採取可能な層を底面付近に持ち、掘り広げている点などから粘土採掘坑と考えられる。出土遺物は、底面の塙際からNo24・25の古墳時代前期の土師器鉢、壺が出土している。

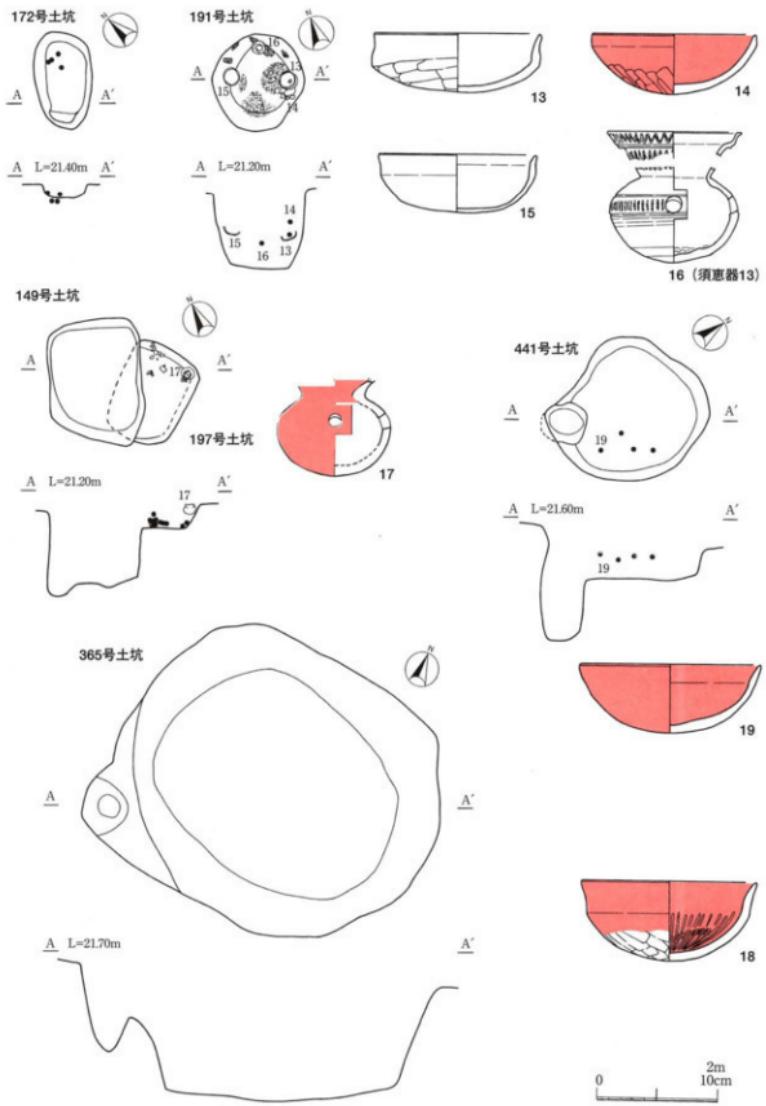
555号土坑は直徑2m程の円筒形で底面平坦な土坑である。5世紀後半から6世紀前半の堅穴住居跡出土遺物と共に通した時期のものである。性格ははっきりしないが、おそらく堅穴住居跡に付随する屋外貯蔵施設やゴミ穴的なものかと推測される。時期不明の土坑の分類(第2節(9)土坑)のB2類としたものに所属する可能性が考えられる。

42号住居跡(第35図)

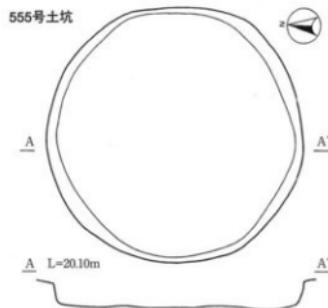
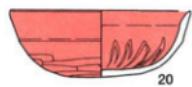
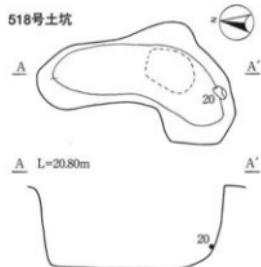
本住居跡はK7グリッドに位置する。12号住居・316号土坑・597号土坑によって掘り込まれている。北東壁は長さ3.35m残存し、南東壁は3m程残存しているが、主柱の位置等から考えていずれも4.5m以上はあったと推測される。主軸はN-47°Wを示す。床は硬化面としてとらえられなかった。壁は13cmの高さまで残存する。主柱は3本確認し、南東壁際の2本は上端径50cm以上あり柱掘り方の径を反映しているものと考えられる。深さは、25~40cmである。出土遺物は、土師器細片が少量出土している。



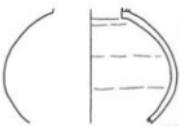
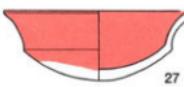
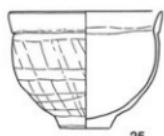
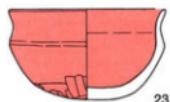
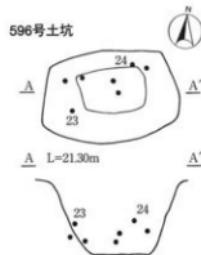
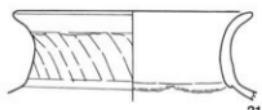
第36図 神出遺跡85.87.88.92.110.163.166.171号土坑出土遺物



第37図 神出遺跡149.172.191.197.365.441号土坑出土遺物



22



0 2m
10cm

第38図 神出遺跡518.555.596.639号土坑・その他出土遺物

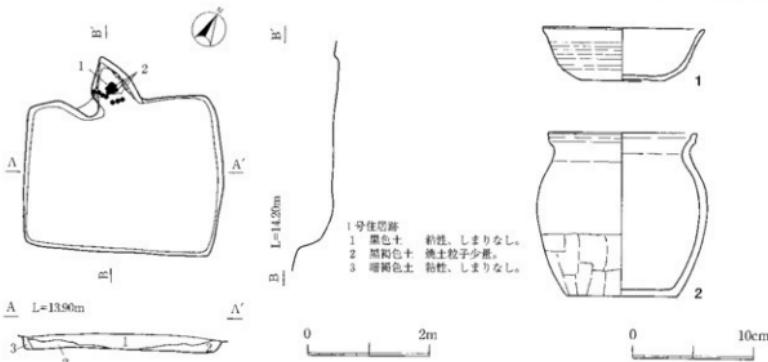
神出遺跡土坑出土遺物観察表

番号	種類	器種	山径	器高	底径	残存	胎	色	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	同土地点	備考
1	土師器	坏	11.1	—	59	100	半透明・灰・黄白色粒子	褐	内定面削・削切痕。外側底部丁寧なヘラ削り	100	SK85	
2	土師器	坏	14.4	—	57	100	透明・半透明粒子	褐	内外面黒色処理(塗か?)	101	SK86	
3	土師器	坏	13.2	9.2	10.2	90	半透明・白色粒子・灰・灰角擦	明褐	环部外底石的に利用された擦痕	102	SK87	
4	土師器	体	—	6.5	—	60	透明・半透明粒子	褐		103	SK87	
5	土師器	坏	14.4	—	7.2	60	透・半透・白色微多	褐	内外面赤色塗彩	104	SK88	
6	土師器	坏	(12.7)	4.9	—	50	透明・白色粒子	赤褐	赤彩・内底面にヘラ磨き	105	SK92	
7	土師器	壺	10.5	—	—	40	透明・半透明粒子・白色微粒	褐	内面から外壁内面にかけて赤色・内面に擦痕あり	106	SK110	
8	土師器	高坏	(14.0)	—	—	40	透明・半透明粒子・白黄色粒	褐	内面・外壁口縁部擦痕	109	SK163	
9	土師器	壺(?)	4.8	2.3	—	100	半透明・白色微粒子	灰褐	赤彩	110	SK163	
10	土師器	壺(?)	—	4.9	50	透・半透・白色微粒	灰褐	赤彩	111	SK163		
11	土師器	坏	13.2	5.7	—	90	透明・半透明粒子多量	褐	底部斜削丸底	112	SK166	
12	土師器	高坏	(15)	4	—	40	透明粒子多量・半透明粒子少量	褐	外底面ヘラ削り後丁寧なヘラナデ	113	SK171	
13	土師器	坏	13.8	4.8	—	100	透明粒・灰斑・黄白颗粒	棕	外底面に焼・内底面晶色に変色	114	SK191	壺須恵用
14	土師器	坏	13.6	4.8	—	60	素持・黄白色粒	赤褐	赤保坂・裏面に焼付着	115	SK191	
15	土師器	高坏	13.2	4.9	—	100	半透明粒子多量	褐・灰褐	内面に塗抹痕跡わずかに残る	116	SK191	全体に塗抹
16	須恵器	(はそく)	11.1	11	—	80	白色微少量	灰青		117	SK191	
17	土師器	(はそく)	—	—	—	70	透明・白色・黑色微粒	明褐		108	SK149	
18	土師器	坏	14.6	6.6	—	90	透明・半透明・白色微粒	明褐	内面や荒い放射状ヘラ磨き	118	SK365	
19	土師器	坏	15.1	5.6	—	70	透明・半透明・白色粒多量	褐	内外面赤彩	119	SK441	
20	土師器	坏	14.8	5.5	—	80	半透明・白色微粒子	褐	内外向外赤彩	120	SK518	
21	土師器	壺	—	—	—	10	半透明粒・雜多量	褐	道部外面瓶方向へヘラ削り後ナデ	121	SK555	
22	土師器	高坏	—	—	20	透明・半透明粒・赤褐色粒	明褐	赤探	122	SK555		
23	土師器	坏	12.9	7.3	—	90	半透明粒・赤褐色粒多量	褐	赤探・外表面スス・内面コゲ付着	126	SK596	裏として使用
24	土師器	高坏	(14.4)	12.8	5.8	70	透明・半透明・白色粒	褐	体部外表面スス付着・下部第二次被熱	127	SK596	
25	土師器	鉢	12.6	9.6	4	70	半透明・白色粒	褐	外・内底部強烈な二次被熱ト平底部スス付着	129	SK639	
26	土師器	壺	—	—	40	半透明・白色微粒多量	褐		130	SK639	外向赤彩	
27	土師器	坏	13.7	5.7	—	80	半透明・白色粒・白黃微粒	明褐	内外表面赤色塗彩ハケ目	132	P622	
28	土師器	坏	11.5	4.5	—	80	白色微粒多量	褐	外底面底幅の狭いヘラ削り	131	5号室穴(5号墓[1])	

2. 平安時代

1号住居跡 (第39図・写真図版8)

本住居跡はF10グリッドに位置する。規模は長軸方向3.08m、短軸方向2.37mを測り残存する壁高は58cmを測る。床面積は7.3m²を測り、平面形は長方形を呈する。竈の対面側の壁から竈を向く方向を主軸として、主軸方位はN-28°-Wを示す。竈は、住居跡北壁を掘り込んで構築されている。竈は奥行き80cm、幅50cmである。覆土は自然堆積で、基本的に2層からなる。初層は壁際が厚く、床中央部に向かって薄くなりながら床上を覆う焼土混じりの黒褐色土である。2層はしまりのない黒色土である。出土遺物は土師器主体で竈の覆土中から二次被熱を強く受け橙色に発色した坏(No.1)と壺(No.2)が出土している。その他須恵器



第39図 神出遺跡1号住居跡・出土遺物

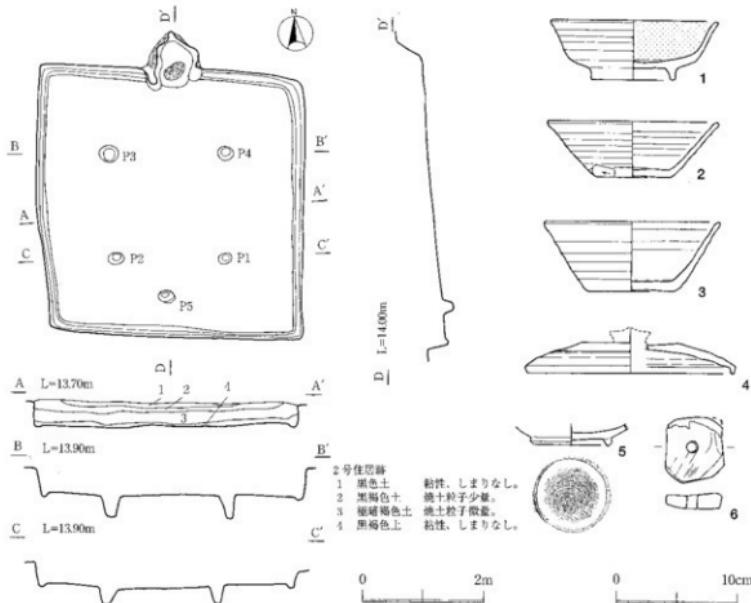
はバケツ形壺、長頭瓶片等が出土している。須恵器細片は30点の内雲母を含むものが25片（83%）、雲母を含まない硬質の焼成品が3片（10%）ある。

神出遺跡 1号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	口径	基高	底径	残存率	胎	土	色調	蓋形・技法の特徴	その他	台帳番号	出土施点	備考
1	上部器 環	(13.0)	4.1	6.5	60	半透明粒、雲母微粒多量	橙一層	褐色	織かじロクロ目、底部ヘラ切り無調整		133	SI1	
2	下部器 壺	(12.3)	13.5	9.1	80	透・半透明、白色粒子多量	橙	褐色	底下半部横腹ヘラ削り		134	SI1	

2号住居跡（第40図・写真図版8）

2号住居跡はG9、G10グリッドに位置する。規模は長軸方向4.31m、短軸方向4.29mを測る。残存する壁高は43cmを測る。床面積は18.5m²を測り、平面形は方形を呈する。主軸はN-23°-Wを示す。壁溝掘り方上幅0.08~0.13mで竈部分を除いて全周する。窓は、ほぼ垂直に立ち上がっている。主柱穴は、4本で壁から1.2~1.3m離れた床上にあり、深さ0.26~0.4mである。出入り口ピットは、南壁中央部から0.6m離れた床上に深さ0.38mで、窓穴外に向かってやや外傾している。竈は確認面上場で0.64m窓穴外に突出し、竈内の規模は奥行き90cm、幅60cmを測る。袖部の残存状況は悪いが、底面と内壁は焼土化して残存しており、中央部奥壁から、約0.1m離れた向かって右側中央部に支脚が残存していた。竈覆土は上層から、ほぼ水平に4層で堆積している。出土遺物は、ロクロ成型の土師器坏（No1）・須恵器坏・蓋、灰釉陶器（No5）である。No2の須恵器坏は新治産、No3は木葉下座である。他に細片で出土している須恵器片数101点の内雲母を含む個体が73片（72%）、雲母を含まない硬質の焼成品が22点（22%）、海面骨針を含むもの6片（6%）である。器種は壺、壺、瓶、壺、灰釉陶器は楕が出土している。他に砥石の中央に穿孔した紡錘車



第40図 神出遺跡 2号住居跡・出土遺物

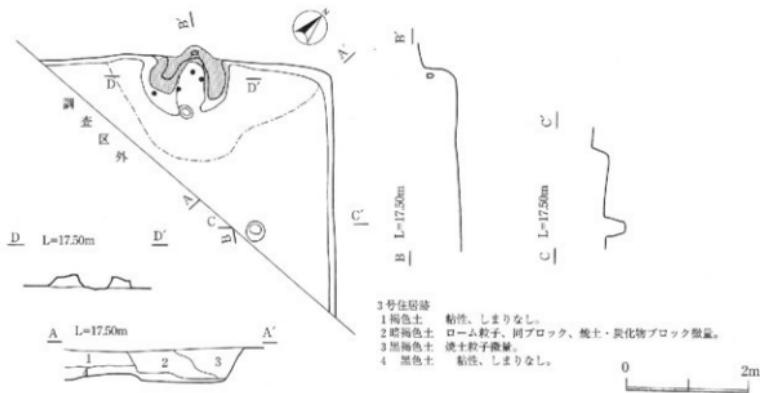
状の石製品が出土している。

神出遺跡 2号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎	土	色	調	器形、技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備考
1	上部器	壺	(13.9)	49	7.1	60	白色織	雲母微粒子	褐	ロクロ成型、内面黒色處理	135	SI2		
2	須恵器	壺	(14.2)	46	6.1	60	透・半透粒	雲母微粒子	灰	底部一方向、体部下端手持ちヘラ削り	136	SI2		
3	須恵器	壺	(14.6)	57	7	60	白・灰織	半透粒、骨針灰白	灰白	体下端ヘラ削り、底面周辺丁寧なナダ調整	137	SI2	木棚下底	
4	須恵器	壺	(17)	(8)	49	透明・白色織	雲母微粒子	灰			138	SI2		
5	須恵器	壺		62	40	白色・黑色微粒子		灰白	灰軸ハケ取り、底部糸切り、肩台接合調整等	139	SI2			
6	石製品	敲錘車	5.3	3.8	13	40	砂岩質		灰白	小形の砾石の中央部に穿孔	142	SI2	裏[かみ]	

3号住居跡（第41図・写真図版8）

本住居跡はH9グリッドに位置し、規模は長軸方向4.6m、短軸方向4mを測る。残存する壁高は53cmを測る。床面積は18.4m²を測り、平面形は方形と考えられる。主軸はN-45°-Wを示す。竈は上端で40cm程竪穴外に突出する。袖部は、黒褐色土を芯材にして、暗褐色粘質土や暗褐色砂質土で構築されており、竪穴内に80cm伸びている。内壁は焼土化しており、中央奥壁から確認面に向かって径15~20cmの煙道が残存していた。底面奥壁から約10cm離れた向かって右側中央部に支脚が残存していた。出土遺物は竈から細片が、覆土中から湖西産の須恵器表部片や雲母を含んだ回転ヘラ削り調整の須恵器壺底部小片が出土しており、わずかに時期をうかがうことができる。



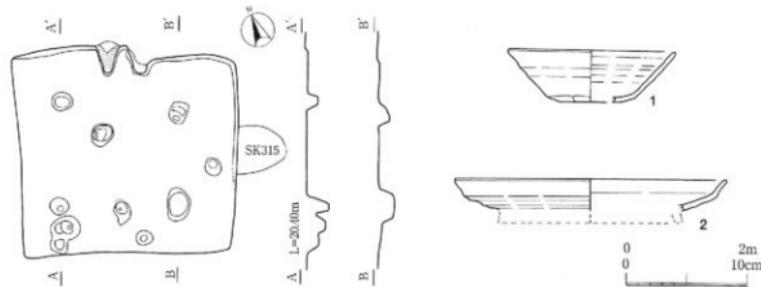
第41図 神出遺跡 3号住居跡

6号住居跡（第42図）

本住居跡はN1グリッドに位置する。規模は長軸方向3.6m、短軸方向3.35mを測る。主軸はN-22°-Wを示す。床面積は12.1m²を測り、平面形は基本的に方形を呈するが北壁は竈をはさんで西側は東側よりも30cmほど奥に掘り込まれている。いくつかある柱穴には主柱になるものがみられない。竈内法は奥行き80cm、巾60cmで、袖部は褐色粘土で構築されている。出土遺物は、須恵器の壺（No1）、壺（No2）、三方透かしの高壺脚部片で胎土に雲母粒を含んでいる。

神出遺跡 6号住居跡出土遺物観察表

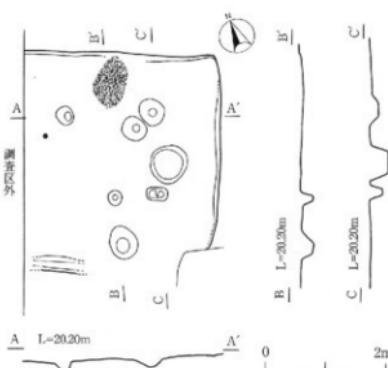
番号	種類	器種	口径	高さ	底径	残存率	胎土	色調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	用土地点	備考
1	須恵器	环	(13.0)	4.2	(4.8)	40	半透・透明、雲母粒子	灰白	削輪ヘラ切り。体部下端手持ちヘラ削り	143	SI6	
2	須恵器	盤	(22.5)			20	半透・透明、雲母粒子	灰~褐色		144	SI6	



第42図 神出遺跡 6号住居跡・出土遺物

7号住居跡（第43図）

本住居跡は N 1 グリッドに位置する。規模は長軸方向 3.3m を測る。壁はほとんど残存せず、かろうじて床は残存していた。主軸は N-23°-W を示し、北壁側床面に竈の痕跡が、焼土・炭化物を伴なったくぼみとして確認できた。出土遺物は少なく細片であるが、内面黒色処理した器壁の薄い摩耗したロクロ土師器片、5孔式の瓶底部片が出土している。いずれも胎土中に雲母微粒を含み二次被熱を受けている。



第43図 神出遺跡 7号住居跡

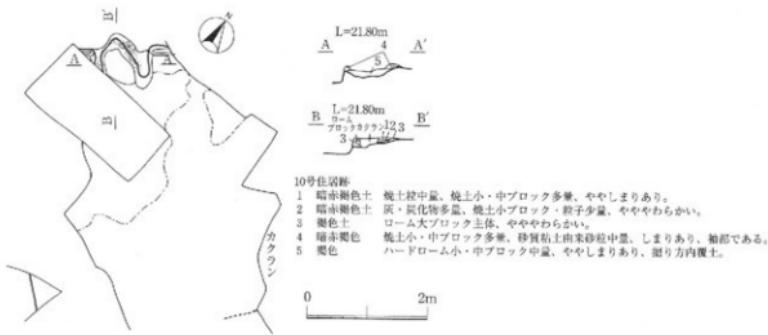
8号住居跡焼土焼構

本跡は O 3 グリッドに位置する。焼土の広がりとして確認された。当初竪穴住居跡の焼失による床面の焼土化したものとして調査を進めたが、壁溝、柱穴、竈や炉の痕跡、掘り方をもたないことがはっきりした。

10号住居跡（第44図・写真図版8）

本住居跡は L 7, M 7 グリッドに位置する。確認面で竈と硬化した床面の一部が確認できたが、数多くの土坑に埋されており、平面形を追うのは困難であった。主軸は N-32°-W を示す。竈は上端で 24cm 程竪穴外に突出する。竈内法は奥行き 80cm、幅 60cm で袖部には褐色粘土や暗褐色砂質土ブロックが見られ、内燃が赤変していた。袖部は砂質粘土に由来する砂粒を含んだ暗褐色土で構築されていたようである。竈覆土 2 層は

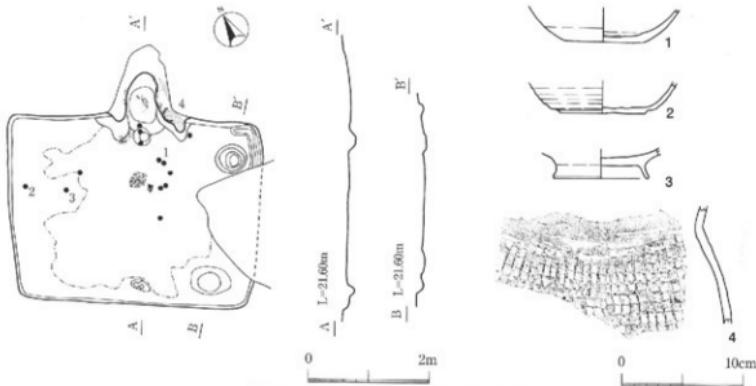
やわらかな炭化物混じりの灰層であった。出土遺物は土師器細片が数片、歴史時代の須恵器壺体部片が1点出土している。



第44図 神出遺跡10号住居跡

11号住居跡（第45図・写真図版8）

本住居跡はL8, M8グリッドにかかる位置にある。規模は長軸方向3.8m 短軸方向2.9m、残存する壁高は12cmを測る。平面形は長方形で、床面積は11.0m²を測る。床の硬化面は竈前面とP2周辺からP1前面まで広がっており西壁際は硬化が弱い。竈前面の床はやくぼみ非常に硬化している。主軸はN-27°-Eを示す。ピットは、P1が竈対面の南壁際であり床の硬化面がP1際まで及んでいる点から出入り口の梯子穴、P2、P3は深さから見て主柱になりにくい。P1は竈の脇に位置し浅く窟んだ穴で、上端径は47cmあったが底面を精査すると下端は径19cm程の平らな面になり、覆土のようすから見て、底径20cm程の平底容器の抜き取り穴の可能性がある。P3は、やや深めで性格不明のピットである。竈は、北東壁を壁外に1.1m程掘り込み構築しており、規模は内法奥行き98cm、幅44cmである。竈袖部には土師器の壺を逆位に埋め込ん



第45図 神出遺跡11号住居跡・出土遺物

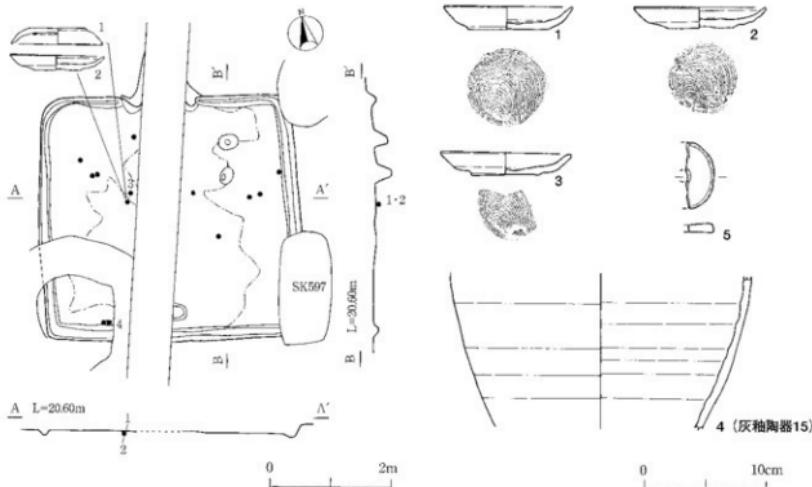
で補強している。住居覆土は3層からなり、縁際に焼から50cm程までロームを主体とする初層の三角堆積が見られる。住居を埋没させている主体土壙は、炭化材片を多く含む土層である。遺物は、回転切り離し無調整の底部を持った土師器坏（No1・2）と内面細かなヘラ磨きの土師器楕（No3）、格子叩き壺片（No4）が、その他に須恵器のバケツ形をした平底壺ないし瓶片が出土している。

神出遺跡11号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	始上	色調	器形・技法の特徴	台帳番号	出土地点	備考
1	土師器	坏		65	40	透明粒子・白色微粒子	梭	灰	底部回転ヘラ切り離し無調整	145	SH11	
2	土師器	坏		(69)	30	透・半透粒・白色微粒子	灰	底部ヘラ切り離し無調整		146	SH11	
3	土師器	楕		8	30	半透明粒子・白色微粒子	梭	内黒、細かいヘラ磨き		147	SH11	
4	須恵器	瓶		10	透明・白色粒多量		明鶴	体部外側格子叩き		148	SH11	

12号住居跡（第46図・写真図版8）

本住居跡はK6, K7, L6, L7グリッドに位置する。規模は長軸方向4.15m、短軸方向3.85mを測る。残存する壁高は10cmを測る。床面積は16.0m²を測り、平面形は方形を呈する。主軸はN-17°-Eを示す。床面は、擾乱によって中心部が破壊されているが、竈前面から南壁際まで床の硬化が見られた。竈は耕作によるトレンチャードで大部分が壊され、向かって左袖がわずかに残存している。覆土の1～2層は、焼土・炭化物粒を多く含み上層の焼失にかかる土層である。3層は床下の掘り方に堆積した土層であり、上面が硬化している。床上には部分的にロームの純層があり、床補修にかかるものと見られる。覆土中の出土遺物は、平安時代9世紀の土師器、須恵器主体でそこに古墳時代前期の壺部片や古墳時代後期6世紀の土師器坏片が混入している。床面出土の遺物の中で最も新しいものは、糸切り底の土師器小皿（No3）で、同じ種のものは、床下の掘り方内に、2点（No1・2）合わせ口にして埋納されていた。その他、破片で灰釉陶器の大形瓶類の体部片（No4）が南壁際床面から出土している。その他覆土中からは須恵器坏底部利用の鋸鉋車片（No5）、刀子片も出土している。



第46図 神出遺跡12号住居跡・出土遺物

神出遺跡12号住居跡出土遺物観察表

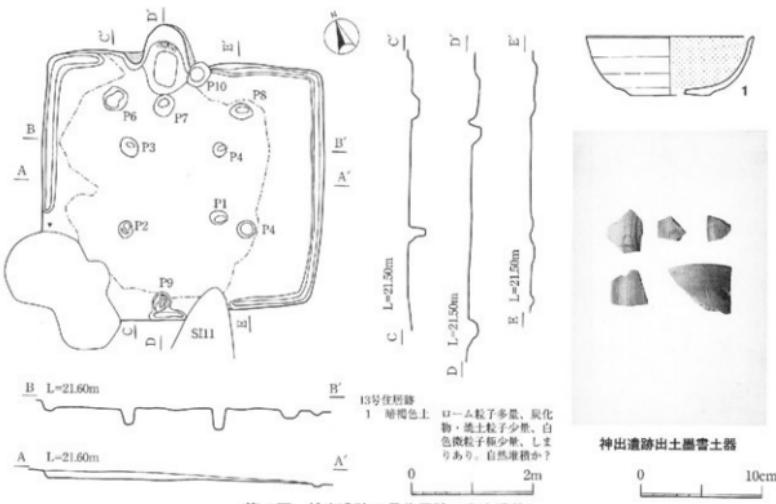
番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎土	色調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備考
1	土師器	壺	10.4	2	6.3	70	透・半透・黄白微粒	褐	底部回転糸切り	149	SI12	
2	土師器	壺	10.9	1.8	5.2	90	透・半透・雲母微粒	褐	底部回転糸切り	150	SI12	
3	土師器	壺	(10.8)	1.8	(5.6)	90	透明・半透明微粒	褐	底部回転糸切り	151	SI12	
4	灰陶器	人形埴輪					5 黒色微粒子極少量	灰白		152	SI12	
5	埴輪	名類	馬さ	壺	孔様	残存率	胎土	色調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備考
							50 雲母粒・微粒子多量	灰		153	SI12	

13号住居跡（第47図・写真図版8）

本住居跡はM8グリッドに位置する。規模は南北方向（竈に向かって左側）4.15m、東西方向4.50mで北壁は竈をはさんで西側が37cm程度に掘り込まれている。残存する壁高は12cmを測る。床面積は17.4m²を測り、耕作による擾乱が一部見られた。主軸はN=17°-Eを示す。ピットはP1-P10まで床上に確認できた穴を掘り込んだが、覆土や深さからみて主柱になる穴ではなく、ほとんどは耕作による擾乱穴であった。P9は住居に伴う出入り口ピットの可能性がある。竈は、袖部・火床が残らず奥壁の一部に焼土が見られただけで全体に残存状態が悪かった。残存する覆土は1層厚さ12cmで、ローム粒子・炭化物・焼土粒子を含んだ自然堆積土層である。覆土中からの出土遺物は土師器高台付焼と底部糸切りの土師器皿小片がやや目立ち、土師器の内黒帯や甕・須恵器片が主体であった。墨書き土器片も2点出土している。墨書き土器は遺跡全体で5片出土しており、40号住居出土のものを含めてすべて細片である。住居以外ではK9グリッドや表探遺物として確認されている。

神出遺跡13号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎土	色調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備考
1	土師器	壺	(13.8)	(6.5)	4.9	30	透明・半透明微粒少量	明褐	ロクロ巻形、内面黒色処理後ヘラ削き	154	SI13	



第47図 神出遺跡13号住居跡・出土遺物

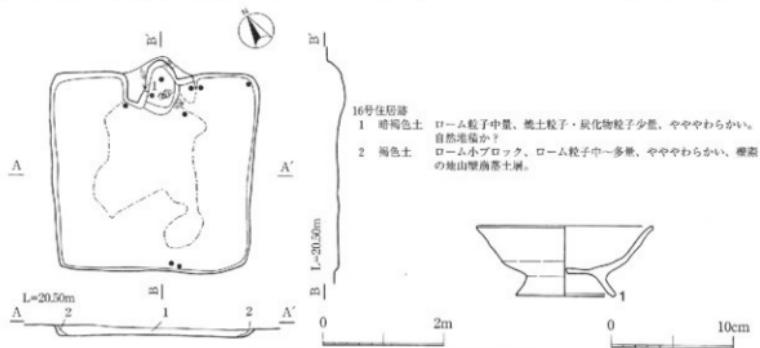
16号住居跡（第48図・写真図版8）

本住居跡はL10グリッドに位置する。規模は長軸方向3.2m、短軸方向3.1mを測る。残存する壁高は17cm

を測る。床面積は $9.9m^2$ を測り、平面形は方形を呈する。主軸はN-30°-Eを示す。竈は向かって右袖は残存せず、火床底面から側壁は焼土化していた。竈内法は奥行き86cm、幅50cmで、火床面上には炭化物粒子を含んだ灰層が堆積し、中央部に石製支脚が残存していた。支脚の石質は雲母片岩で長さ16cm、幅12.5cm、厚さ5cmである。住居覆土は自然堆積である。遺物は、竈覆土から二次被熱を受けた土師器の高台付櫛が出土している。その他の出土遺物では、須恵器壺の体部片が覆土から出土しており、胎土中に海綿骨針や長石・チャート隕を含み木葉下窓跡群と見られる。

神出遺跡16号住居跡出土遺物観察表

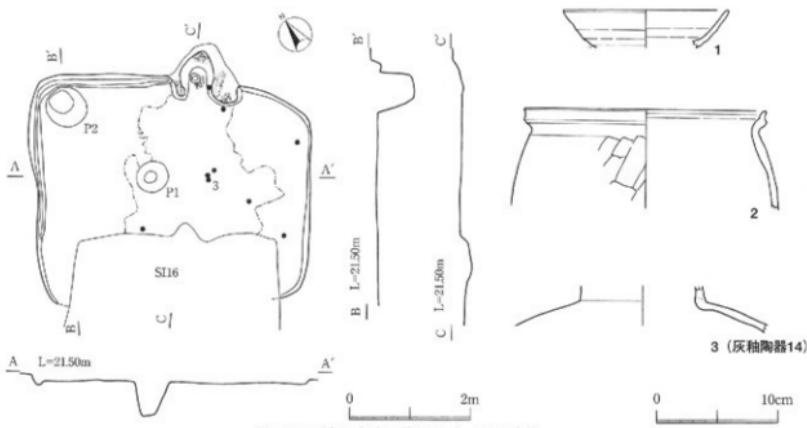
番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	同土地点	備 考
1	土師器	楕	14.6	8.2	5.8	60	透・半透彌多、雲母粒	明褐色	内面黒色処理後ヘラナゲ、底部穿孔	155	SI16	二次被熱



第48図 神出遺跡16号住居跡・出土遺物

17号住居跡（第49図・写真図版9）

本住居跡はL10グリッドに位置する。16号住居に南側の床を掘り込まれ、18号住居の覆土を掘り込んでいる。規模は長軸方向4.5mを測る。残存する壁高は13cmを測る。平面形は隅丸方形で、主軸はN-37°-Eを示す。



第49図 神出遺跡17号住居跡・出土遺物

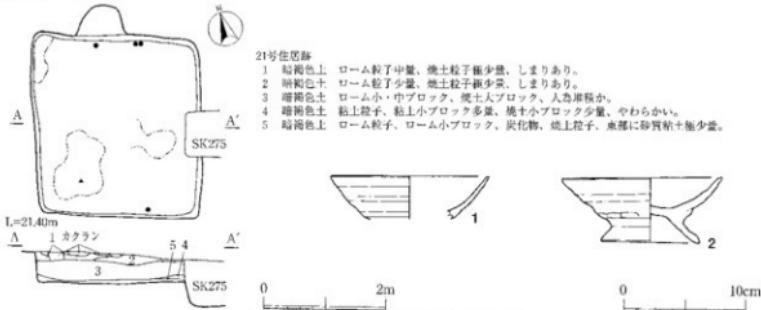
ピットは2箇所確認できた。P1は床を壊しており、住居跡よりも新しく、規模は径54cm、深さ58cmである。P2は住居跡北西コーナーにあり、径64cm、深さ55cmである。位置的にP2は住居に伴う可能性がある。竈内法は奥行き80cm、幅50cmを測る。床の硬化面は竈前面から2m程の幅で南に向かって延びている。出土遺物は破片で灰釉陶器の広口瓶の肩部片（No3）、土師器坏（No1）、甕片（No2）が出土している。

神出遺跡17号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎	色	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地點	備考
1	土師器	杯	13.0	—	—	10	半透明、空は微粒子	褐色	内面供食ペラ削き。外面ロクロナデ	156	SI17	
2	土師器	甕	20.	—	—	5	透明・半透明粒子多	褐色		157	SI17	
3	灰釉陶器	広口瓶	—	—	—	5	半透明微少量	灰白		158	SI17	

21号住居跡（第50図・写真図版9）

本住居跡はL8グリッドに位置する。規模は長軸方向2.85m 短軸方向2.63mを測る。残存する壁高は52cmを測る。床面積は7.5m²を測り、平面形は方形を呈す。長軸方向はN-14°-Eを示す。東側の中央部を土坑によって壊されている。住居東壁側の覆土の下層に粘土の堆積がわずかに見られる。北側に竈の掘り込み状の突出があるが、壁の上部を浅く掘り込むだけの突出部分である。覆土上層中にはほぼ平坦な硬化面が部分的に3箇所見られる。床は地山ハードロームを削り出しており、表面は固いが生活痕による汚れの乏しい状態である。南壁の床近くの覆土下層から土師器のやや足の長い高台付椀が出土地して。竈をもたないが、土坑によって東壁にあった竈が壊されている可能性も考えられる。しかし他の平安時代の住居跡とくらべ掘り込みのみ深いことや壁溝を持たないことは異質な点である。調査時に方形窓穴の可能性も考え調査したが結論はでなかった。出土遺物は、10世紀代の南関東的な形態的要素を持つ須恵器高台付坏（No2）や底部回転糸切りで底部周辺手持ちペラ削りの土師器坏片、底部回転糸切りの内黒土師器椀片等が覆土から出土している。



第50図 神出遺跡21号住居跡・出土遺物

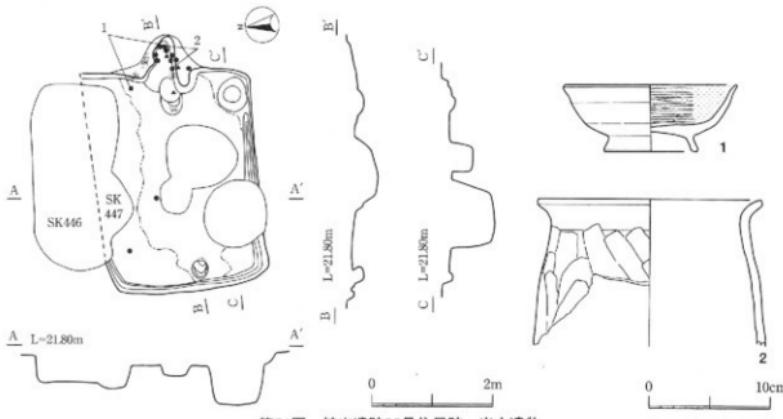
神出遺跡21号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎	色	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地點	備考
1	土師器	杯	13.1	—	—	10	半透明・質白色微粒子	明褐色		159	SI21	
2	須恵器	高台付坏	13.1	5.4	8	60	透明・半透明粒子多	白色微	体部下端手持ちペラ削り後高台張り付け	175	SK275(SI21)の遺物	

22号住居跡（第51図）

本住居跡はM7グリッドに位置する。規模は長軸方向3.43m、短軸方向2.52mを測る。残存する壁高は16cmで北壁側と南部を446、447号土坑その他に掘り込まれている。床面積は8.6m²で方形を呈する。主軸はN-109°-Eを示す。ピットは2か所確認されP1は竈対面の壁直下にあり出入り口施設に関わる穴の可能

性がある。P2は南西コーナー部に上端径50cm、下端から約5cm下がって一旦平坦になり、底径25cm程度の浅いくぼみ穴として確認された。竈は東壁側に壁を65cm程掘り込んで構築している。竈内壁は板状に剥離する石材を立ててつくっており、火床部中央には石製支脚が残っていた。竈内法は奥行き90cm、巾40cmを測る。出土遺物は、No 1・2の土師器高台付壺と甕が竈内から、須恵器壺の体部片(13×15cm)を打ち欠いて調整した楕円形の不明土製品が覆土から出土している。

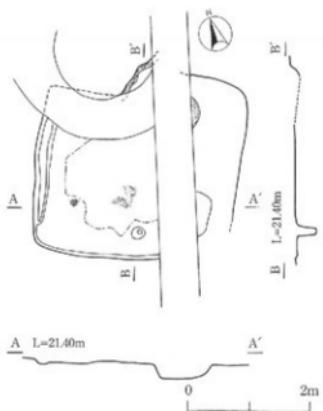


第51図 神出遺跡22号住居跡・出土遺物

神出遺跡22号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	壁高	底径	成形率	胎 土	色 質	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	高台付壺	(14.3)	5.5	8	50	雲母粒～微粒多量	暗褐色	高台の一部橙色化、コゲ痕あり	160	SE22	
2	土師器	甕	(18.4)		5		透明・半透明粒、雲母微粒			161	SE22	

24号住居跡 (第52図)



第52図 神出遺跡24号住居跡

本住居跡はK7グリッドに位置する。規模は長軸方向3.26m、短軸方向3.05mを測る。主軸はN-23°Eを示す。残存する壁高は7cmを測る。床は、中央部が硬化し、床上に炭化材片焼土の堆積が見られた。耕作により床中央部が壊され、南東コーナー付近は床が流失し握り方が露出していた。壁際には幅3cmの塗溝が確認された。ピットは1ヵ所、出入り口施設にかかるピットで径17cm、深さ34cmを測る。竈は耕作のトレッシャーにより壊されており、向かって左奥壁が確認面から深さ15cmまで(床から5cmまで)赤変して残存していた。竈に一部残っていた粘土は砂質褐色粘土である。覆土は炭化材片、焼土ブロックを含有する暗褐色土である。出土遺物はわずかに格子叩きの須恵器壺体部細片が出土

している。

25号住居跡（第23図）

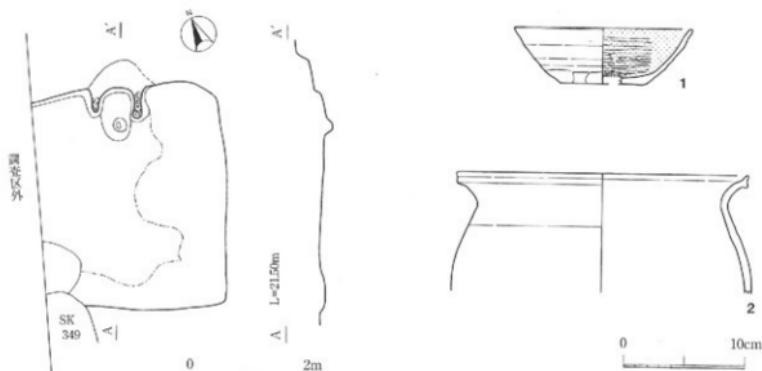
本住居跡はN11グリッドに位置し、東側半分はエリア外に延びている。規模は南北方向3.7mを測る。残存する壁高は30cmを測る。主軸はN-18°-Eを示す。床は南西コーナー付近を除いて全体が硬化している。ピットは南西コーナーに1か所、壁溝と重なって確認されたが住居に伴うものかどうかは不明である。遺物は南西コーナー寄りの西壁直下の床から土師器と須恵器の壺形土器の底部が2点出土している。

神出遺跡25号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	須恵器	壺		15.8	20	半透明・雲母微粒子	灰白			163	SI25	
2	土師器	壺		7.2	15	透明・半透明粒多量	褐			162	SI25	

27号住居跡（第53図・写真図版9）

本住居跡はM5、M6グリッドに位置し、西壁はエリア外にある。28・29・30号住居と重複し、いずれよりも新しい。規模は南北方向3.45m、残存する壁高は34cmを測る。主軸はN-24°-Eを示す。北壁に両袖の遺存状態のよい竈が壁を50cm程掘り込んで設置されている。竈は内法で奥行き85cm、巾150cmを測る。床は竈前面が特に硬化しているが、東→南の壁際の床面が不明瞭であった。出土遺物は、土師器の壺（No1）・壺（No2）が覆土から出土している。



第53図 神出遺跡27号住居跡・出土遺物

神出遺跡27号住居跡出土遺物観察表

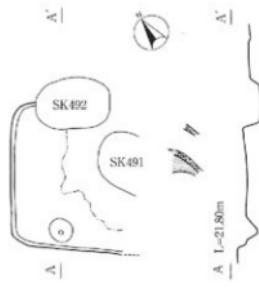
番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	壺	(14.6)	4.5	(7)	30	透明・白色微粒子	褐	内面黒色処理	164	SE27	
2	土師器	壺	(20)		10	透明・半透明粒・雲母微粒子	褐			165	SE27	

31号住居跡（第54図・写真図版9）

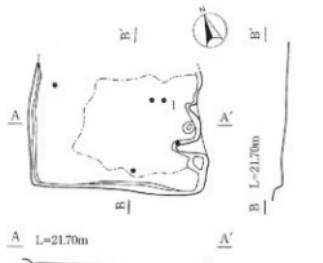
本住居跡はN6グリッドに位置する。規模は北西壁で2.3m残存し、壁高は19cmを測る。主軸はN-49°-Wを示す。491号、492号土坑に床面を壊されているが、残存部分での床面の硬化は住居中央部に認められた。32号住居覆土中に491号土坑に壊され、わずかに竈の焼土と粘土が確認され、東竈の残存と考えられる。

神出遺跡31号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土加器	壺	(14)		10	雲母微粒子	褐	内面黒色処理		166	SI31	



第54図 神出遺跡31号住居跡・出土遺物



第55図 神出遺跡35号住居跡・出土遺物

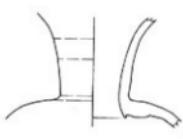
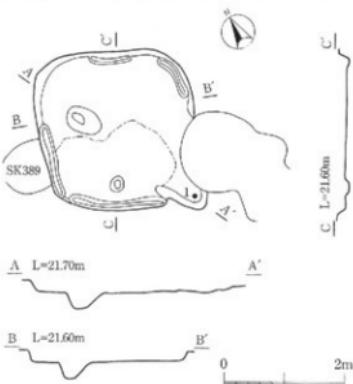
られる。出土遺物は覆土中に縄文土器片、古墳時代前期・中期土師器片、歴史時代土師器・須恵器片を含み9世紀以降の住居跡と考えられる

35号住居跡（第55図・写真図版9）

本住居跡はN7グリッドに位置する。439号土坑によって東側の竈の煙道部分が掘り込まれている。規模は長軸方向2.7mを測り、残存する壁高は9cmである。北側の壁は地形が傾斜しているため削平を受けている。主軸はN=112°-Eを示しており、いわゆる東竈の住居である。床は竈前面から、住居中央部にかけて硬化が著しかった。竈は両袖部がわずかに残っており、奥壁の一部が焼土化していた。竈の規模は、内法で奥行き55cm、幅45cmを測る。出土遺物は床上から土師器高台付椀（No1）が出土している。

神出遺跡35号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	深さ	底面形状	残存率	胎	色調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備考
1	土師器	高台付椀	15	5	74	80	透明釉・白色微粒子	橙	器形・技法の特徴、その他	167	SI35	



第56図 神出遺跡36号住居跡・出土遺物

36号住居跡（第56図・写真図版9）

本住居跡はM8グリッドに位置する。規模は長軸方向2.45m、短軸方向2.45mを測る。残存する壁高は18cmを測る。床面積は6.0m²を測り、平面形は隅丸方形を呈す。主軸はN-24°-Eを示す。竈が南コーナー部に付設されている。竈の遺存状況は悪いが、火床上には炭化物微粒子を含んだ灰が薄く堆積しその奥に須恵器高杯が支脚に転用されている。竈の規模は、内法で奥行き65cm、幅40cmを測る。覆土は人為的な堆積土が床面全体から竈内まで覆っている。

神出遺跡36号住居跡出土遺物観察表

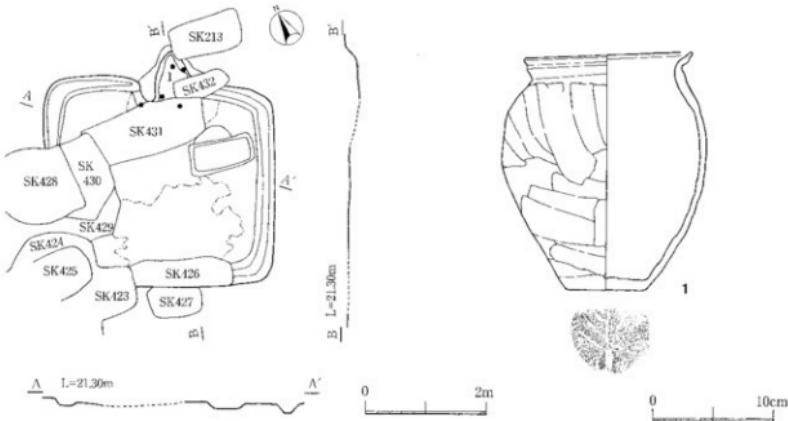
番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土遺点	備 考
1	須恵器	高杯					10 透明・半透明粒、白色微粒	青灰		169	SI36	

37号住居跡

本住居跡はM8、L8グリッドに位置する。588・284・463号土坑に掘り込まれ竈だけが残存していた。竈から見て主軸はN-13°-Wである。竈の壁外への掘り込みは約70cm、規模は内法で奥行き80cm、幅37cmを測る。

40号住居跡（第57図・写真図版9）

本住居跡はL10グリッドに位置する。423・425・426・430・431・432号土坑に掘り込まれている。規模は長軸方向3.65m、短軸方向3mを測る。残存する壁高は10cmを測る。床面積は11.0m²を測り、平面は隅丸方形、主軸はN-29°-Eを示す。床は南側半分が硬化している。竈は左袖部から煙道部にかけて残存していた。出土遺物は、小形の土師器甕（No1）が竈から出土している。土師器内黒坏小片に墨書（No2）が見られた。



第57図 神出遺跡40号住居跡・出土遺物

神出遺跡40号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土遺点	備 考
1	土師器	甕	13.8	19.7	7	90	透明・白色粒多量	褐	体下半部器壁強化、にぶい褐色點土付着	171	SI40	

(2) 土坑 (第58図・表4)

平安時代の土坑の可能性のあるものは、9号土坑、164号土坑、371号土坑、614号土坑である。形態上は方形ないし稍円形で、深さも比較的浅い。遺物は9世紀代の須恵器や10世紀以降の回転糸切りによる土師器皿や灰釉陶器が出土している。371号土坑からは、古墳時代～平安時代（10世紀代まで）の土師器片等とともに銅鏡の一部のような銅製品片（No 5）が出土している。口縁部が残存せず、腐蝕も激しい。

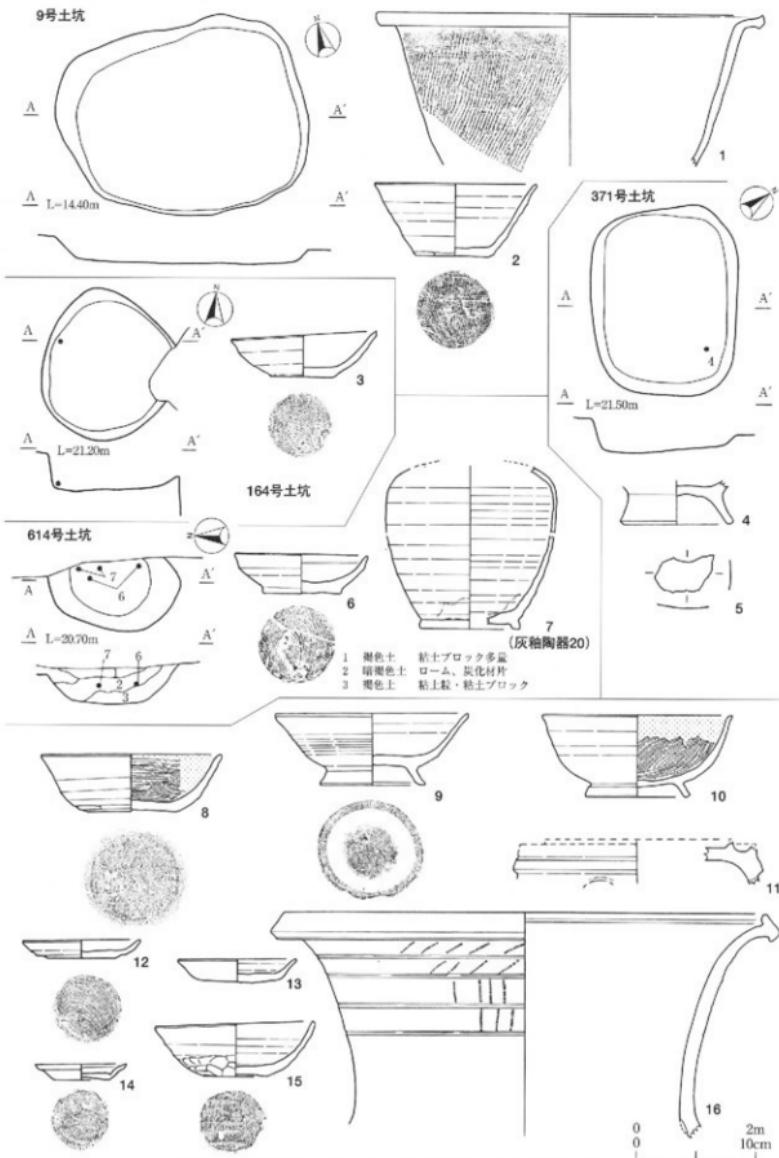
614号土坑のNo 6の土師器皿はNo 7の灰釉陶器とともに炭化材片を含んだ中層から出土している。L1縁端部に特徴があり、外面に稜を持っています。付近の土坑からも同じタイプの小皿No14が出土しており、いずれも砂紋を多く含み中間のかわらけとは胎土の点で異質である。土師器皿も灰釉陶器も接合可能な破片で出土しており、同時廃棄遺物である。No 7の灰釉陶器長頸瓶は、高台内面の貼り付け部の調整が雑で釉調も濃緑色を呈している。灰釉長頸瓶の生産地や時期的検討は今後の課題であるが、これまで猪鉄産と見られていたもののうち多くは遠江産であることが指摘されている。釉の発色が濃いもの、砂っぽくスカスカとした感じ、長石を多く含有し、一部表面に融け出してセルロイド状を呈するもの、高台部が歪んでいたり、接合部の調整が雑であったりするものがそれらに当たるということである。その他の土坑出土遺物は、より新しい時代の土坑中への混入遺物と考えられる。の中でも特徴を持った個体を図化している（No 8～16）。No11の須恵器硯は窓がアーチ状に開き、これまでつくば市柴崎遺跡で出土しているものと同じタイプである。No16の須恵器壺口縁部は、沈線五段区画の中に櫛目状刻突による列点文が付き、胎土・色調から瀬戸産の可能性の高い個体である。この須恵器壺は8世紀前半頃のものだが、中世に一度掘り上げられたらしく、古窯戸平挽や在地系折り縁皿等とともに中世の2号テラス面に据られた土坑中に廃棄されていた。図示した土坑の規模は表4を参照していただきたい。

神出遺跡土坑出土遺物観察表

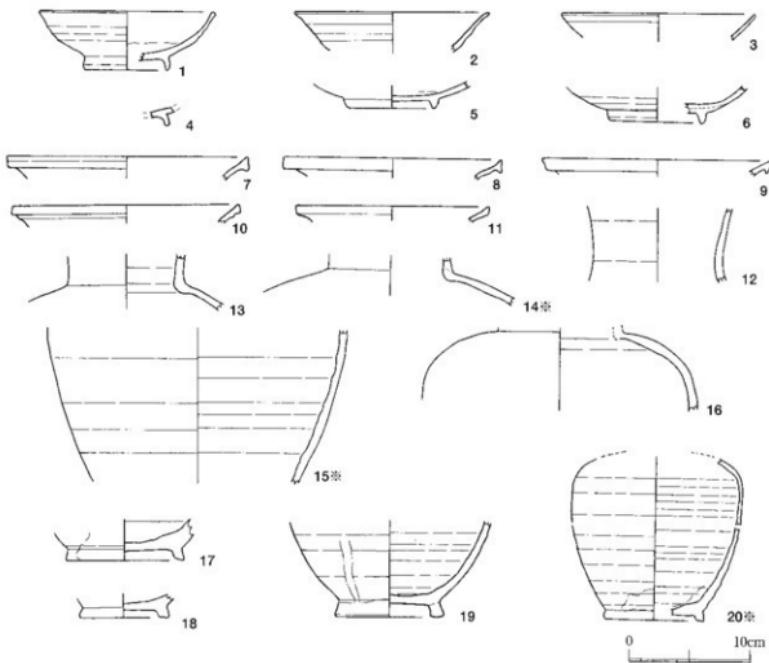
番号	種類	縦径	横径	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土位置	備考
1	須恵器 甕	32		10	白色	灰陶	内面に火照痕あり		174	SK9	
2	須恵器 壺	13	6	5.8	20	半透明灰、灰丸窓、骨針	灰	底部一方側へラブリ、ヘラ記号有り	173	SK9	本堂下室
3	土師器 壺	12	3.4	5.2	100	白色・半透明微粒、骨針	灰	底部回転糸切り	212	SK164	
4	土師器 高台壺		9.2	20	白色微粒多量	滑～褐			176	SK371	
5	金剛輪品 銅鏡片	46	29		5				177	SK371	
6	土師器 小皿	11	3.2	6.6	100	半透明、白色微粒多量	滑	底面部回転糸切り	222	SK614	
8	土師器 壺	149	47	70	70	半透明灰、白色微粒	滑	底面部回転糸切り	182	SK15	
9	土師器 高台壺	15.8	5.9	8.6	60	尖底粒～微粒多量	滑		180	SK491	
10	土師器 高台壺	(18.6)	6.8	(8.6)	50				178	SK421	
11	須恵器 圓窓甕	(20.4)		19	透明	半透明灰～疊	灰～青灰	アーチ状の窓孔か	179	SK472	
12	土師器 小皿	9.8	1.5	5.6	100	半透明、赤褐色	滑	底面部回転糸切り	230	SK582	
13	土師器 小皿	9.8	2		半透明、白色微粒中量	滑	外面部底部からによる弱い削り		240	2号テラス P1	
14	土師器 小皿	7.6	1.3	4.4	100	金糸母微粒	滑	見込みに復活板、底部に人差し指～中指幅	224	SK615	
15	土師器 壺	13.2	4.4	5	100	透明、半透明、白色微粒	滑	底面部回転糸切り後一方側へラブリ	181	11レンジ火葬場	
16	須恵器 甕	(42)		5	白色、黑色微粒	灰白	沈縁で5段に区画し列点紋を刻突		183	SK17	他

神出遺跡出土灰釉陶器観察表(1)

番号	種類	縦径	横径	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土位置	備考
1	灰釉陶器 甕	(14.5)	4.9	(6.8)	45	白色微粒少量	灰白	高台の接合部が鋸で内面無開窓	184	地下式S	
2	灰釉陶器 甕	(16)			5		灰白		324	地下式J1	
3	灰釉陶器 甕	(16)			5	白色微粒少量	灰		325	SI18	
4	灰釉陶器 甕				5		灰白		326	SK542	
5	灰釉陶器 甕				7.2	10	白色微粒少量	灰白	186	SK21	
6	灰釉陶器 甕				(7.6)	15	黑色微粒	灰白	185	SK399	
7	灰釉陶器 広口甕	(20)			5		灰白		319	J8G	
8	灰釉陶器 広口甕	(18)			5	白色微粒少量	灰		321	SI1	
9	灰釉陶器 広口甕	(19)			5		灰白		322	SI21	
10	灰釉陶器 広口甕	(19)			5		灰白		323	SI21	
11	灰釉陶器 広口甕	(16)			5		灰白		320	SK264	
12	灰釉陶器 広口甕				5	白色微粒少量	灰白		190	J8G	



第58図 神出遺跡9、164、371、614号土坑・その他出土遺物



第59図 神出遺跡出土灰釉陶器（※印の土器は各遺構の出土遺物の図中にも同じものあり）

神出遺跡出土灰釉陶器観察表(2)

番号	種類	形様	口径	底面	灰被り	残存率	胎	色調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地點	備考	
13	光釉陶器	広口瓶				5	黒色微粒少量	灰白		305	IIIG		
16	光釉陶器	短脚盃				10	白色微粒少量	灰白		187	地下式9		
17	灰釉陶器	長頸瓶				9.6	5	黒色微粒少貯	灰白	189	表採		
18	灰釉陶器	長脚板				7.2	10	白色微粒少量	灰	188	地下式7		
19	灰釉陶器	長脚板				9	20		灰分と長石粒の施けた不均質な胎土	225	E10		
20	灰釉陶器	長脚板				(8.2)	40	白色微粒、黒褐色	灰白	高台内回の溝整縫、濃緑色釉	223	SKG14	

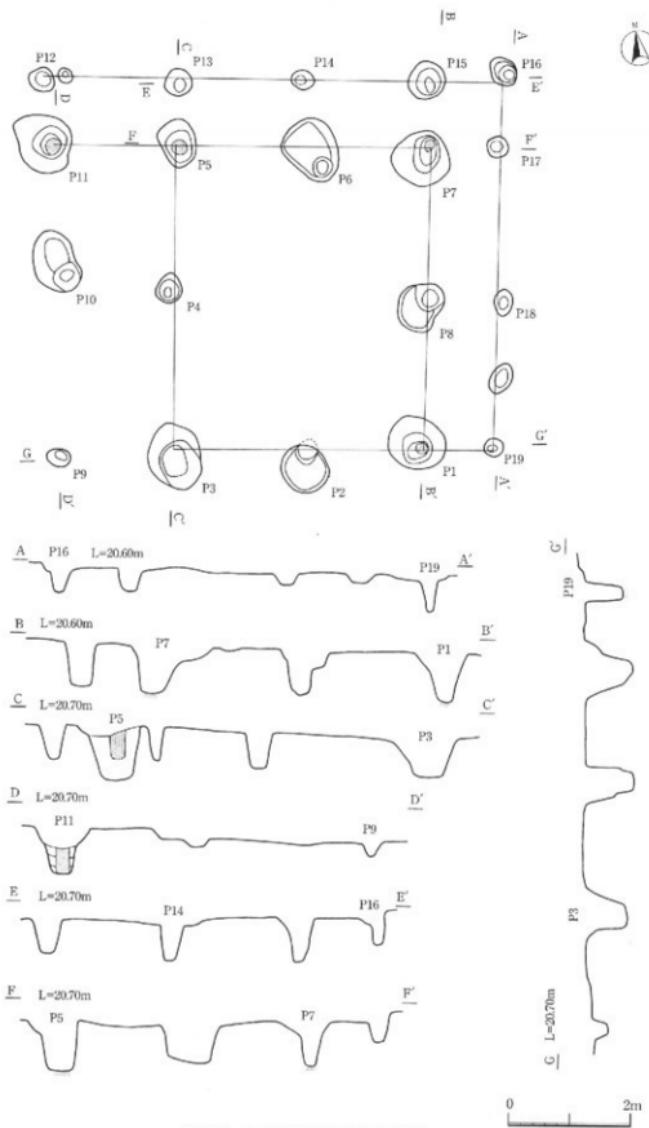
3. 中世以降

該期の遺構は掘立柱建物跡7棟、礎石建物跡1棟、方形竪穴遺構10基、地下式爐29基、火葬墓7基、土坑約560基、道・溝16条、柱穴約400本、テラス状遺構2箇所である。出土遺物は原則として種類ごとにまとめて最後に掲載した。(最後に掲載したものと同じものが遺構図中に数点再掲載してある。)

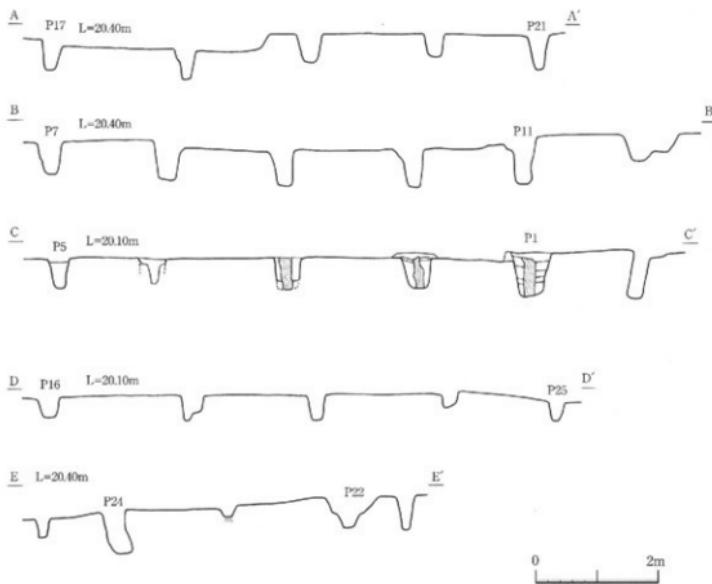
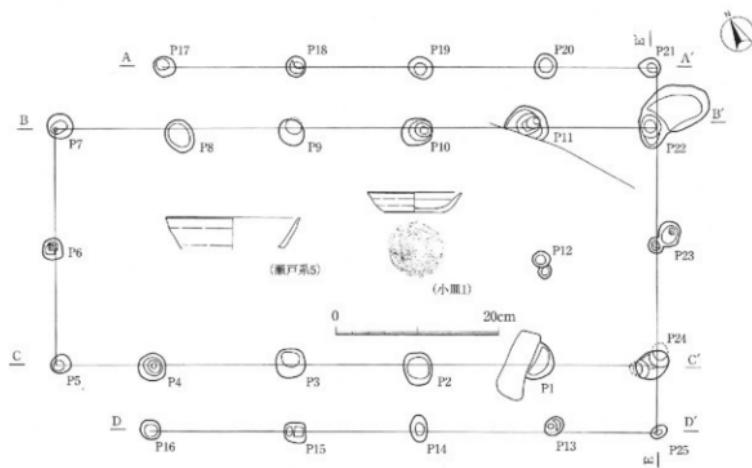
(1) 掘立柱建物跡

神出遺跡の緩斜面上に数多く残された柱穴状ピットの内掘立柱建物跡として認識できたものは8棟である。分布状況は遺跡の西の標高20m付近に3棟、遺跡の中央部から東部の標高20m付近に5棟である。

なお、遺構番号の欠番は9号掘立柱建物跡の一部分と礎石建物跡についた番号を整理時に削除したため生じたものである。



第60図 神出遺跡 1号掘立柱建物跡



第61図 神出遺跡2号掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡（第60図・写真図版10）

梁行2間、桁行3間の建物である可能性が考えられる。しかし遺構確認面の南西部が粘土とロームの整地土層で、さらに西側に庇ないし縁の柱列が延びる可能性がある。北側と東側が建物に向かって傾斜する地形で閉じているため庇列のない南側が正面となると推測され、主軸はN-12°-Eを示す。柱間は梁行方向で2.5m、桁行方向で2.1m、庇ないし縁は母屋柱列から1.2m離れ、主柱列と対応した列上に主柱穴よりもより細い掘り方で掘られている。

2号掘立柱建物跡（第61図・写真図版10）

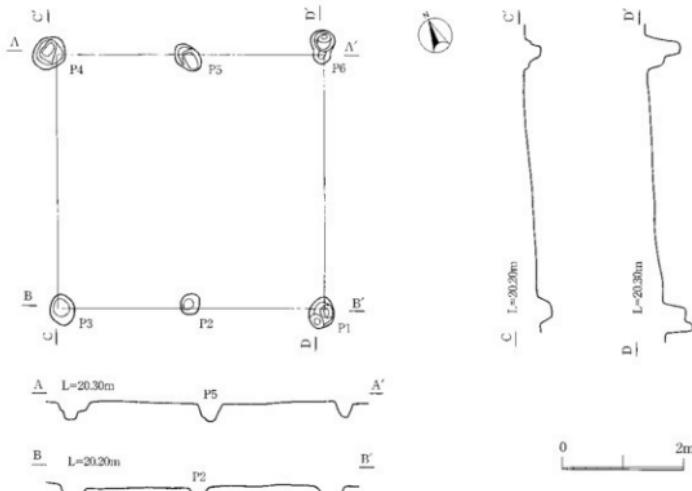
梁行2間、桁行5間の東西に長い建物で南北にそれぞれ4間の庇様の柱列が付く。南を正面と考えた場合、主軸はN-32°-Eを示す。柱間は南北の桁列を東側から見ていくと、南北列とも2.1m、1.8m、2.1m、4間目は北列が1.8m 南列が2.3m、5間目が北列2.1m、南列1.6mである。梁行は1.9~2.0mである。庇列は南側列が、1.8m、2.1m、2.1m、2.4m、北側列が1.8m、2.1m、2m、2.3mである。古墳時代の9号住居跡と重複し、同住居跡の床を掘り込んでいる。柱穴のP1~P4は柱痕が明瞭で周囲の詰め土も褐色土と暗褐色土のやや不明瞭な瓦層となっている。出土遺物はP9の埋没土中から古瀬戸平施片、P2から土師質土器小皿が出土している。

3号掘立柱建物跡（第62図）

梁行1間、桁行2間の建物で、南を正面と考えた場合、主軸はN-21°-Eを示す。柱間は南北の梁行4.2m、桁行2.1~2.3mで、ほぼ方形である。

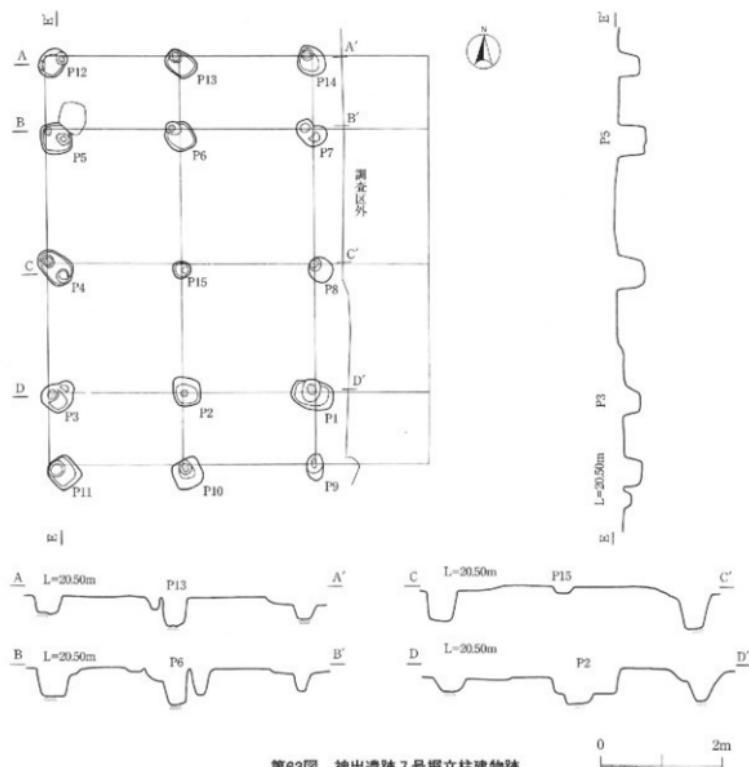
7号掘立柱建物跡（第63図）

I 9・10グリッドに位置する。遺構確認面表層に焼土、炭化物が広範囲に分布しており、焼失家屋と判断される。1号礎石建物と重複関係にあり、1号礎石建物が新しい。同建物とは北面の柱筋及び南北軸を描えしており、強い相互関連が窺われる。平面形式は、柱穴が調査区外へ更に延びている可能性が高く不確定である。



第62図 神出遺跡3号掘立柱建物跡

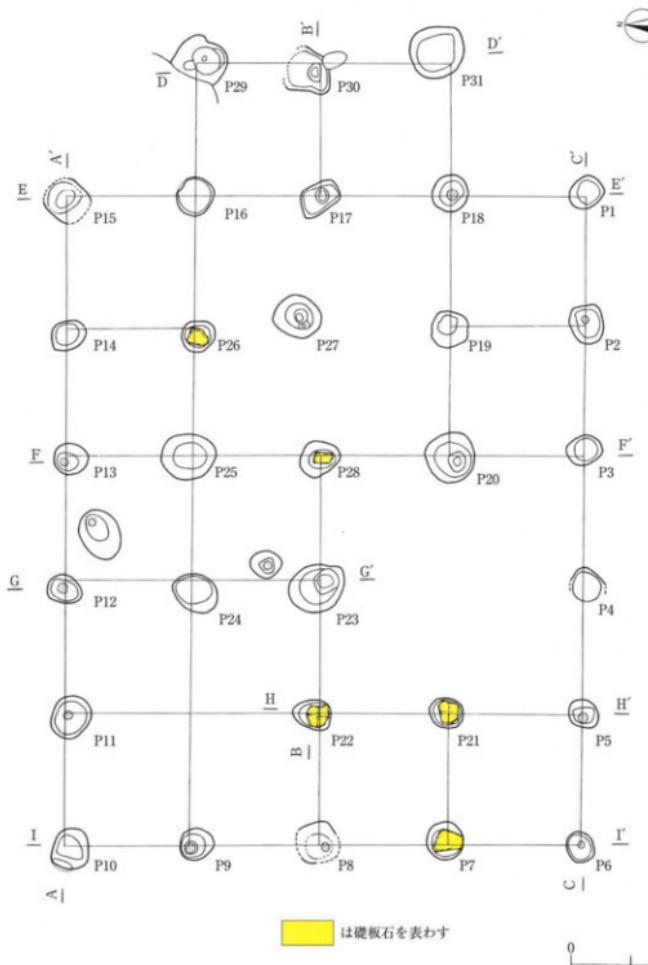
るが、現状では南北軸がほぼ正方位を示す東西2間(4.20m)、南北2間(4.20m)の総柱建物で、南北に庇が付いている。柱間寸法は母屋が2.10m(7尺)の等間、庇の出は南北とも1.20m(4尺)であり、西側柱列(P3~5・11~12)の掘形内には、柱筋に近接して床桁の東柱と推察される柱痕が確認されている。



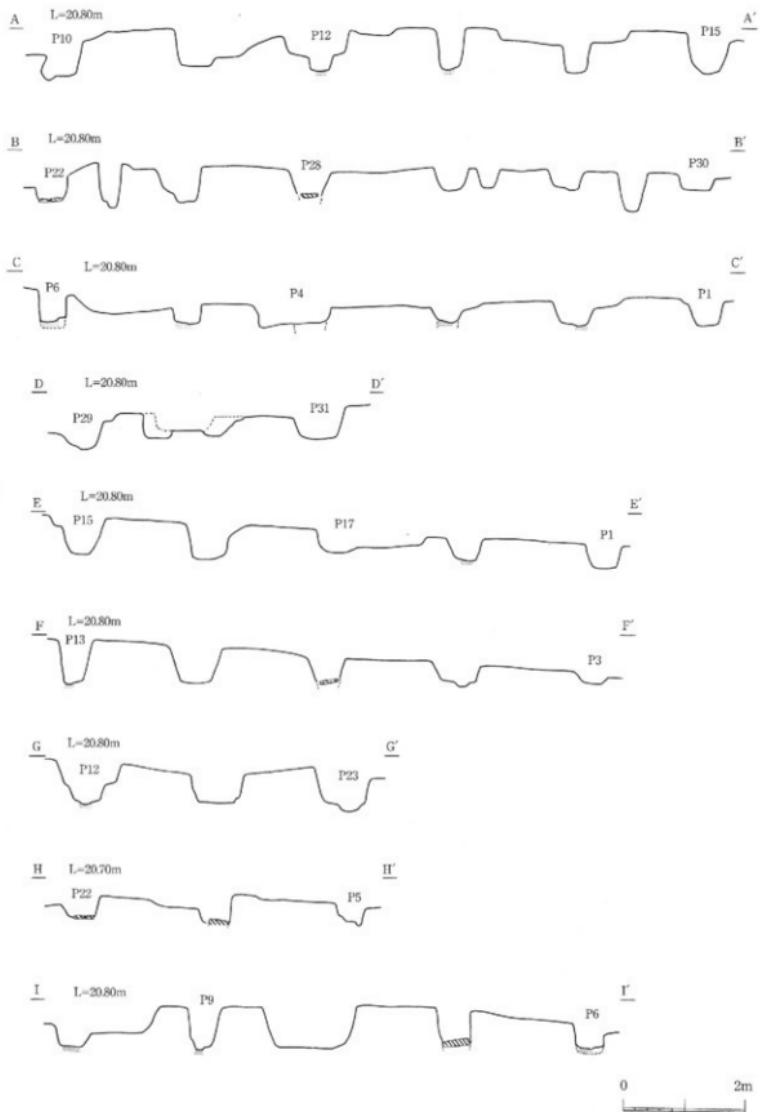
第63図 神出遺跡7号掘立柱建物跡

9号掘立柱建物跡 (第64・65図・写真図版10)

柱穴群の中で大きくしっかりととした掘り方を持つ一群に注目して、柱穴間の距離と方向の検討を行っていくと、ほぼ2.1mの柱間、N-2°-Wの傾きを示す一群が遺跡の中央部に存在する。規模は4間×5間で、東側に2間×1間分張り出しの付いた東西方向に長い建物となる。柱掘り方は径50cm前後で平面形は方形気味である。底面に礎板状の板石を入れている柱穴が5箇所(P7, 21, 22, 26, 28)あり、礎板状の石は1辺30~40cm、厚さ5cm程の大きな雲母片岩である。礎板石は内区で4か所残存し、P21・22は柱の荷重で板石に十字のひびが入っていた。他のピットにも礎板石を入れていたかどうか捉えられなかったが、覆土から雲母片岩の破片の出土した柱穴もありその可能性がある。外区別では底面に柱あたりのやや汚れた硬化部を残



第64図 神出遺跡 9号掘立柱建物跡(1)



第65図 神出遺跡 9号掘立柱建物跡 (2)

す柱穴が9か所確認され、1か所（P7）だけ礎板石を入れていた。P27は柱筋が通らず、P4とP23の間に柱穴はなかった。他遺構との切り合い関係は、P4が3号火葬墓より古く、4号溝はP11とP22の間にあったと考えられる柱穴を壊している。10号竪穴と重複し先後関係がある。出土遺物は、P24から常滑窯の小片が出土している。

10号掘立柱建物跡（第67図・写真図版10）

遺跡の中央部、柱穴群や竪穴遺構の密集する地域に、平面方形の東西棟を確認した。規模は梁行2間、桁行3間を確認し、梁行方向柱間約1.9m、桁行方向柱間約2.0mである。南北方向柱列を南から見てN-27°-Eの傾きを示し、11号掘立柱建物跡と軸線を同じくする。重複関係は、P9が551号土坑よりも新しい。

11号掘立柱建物跡（第66図・写真図版10）

1間×1間の方形で、柱穴規模は径30~40cm、柱間は東西方向2.5m、南北方向2.3mである。南北軸線N-27°-Eの傾きで10号掘立柱建物跡と位置や向きの点で関連が考えられる。

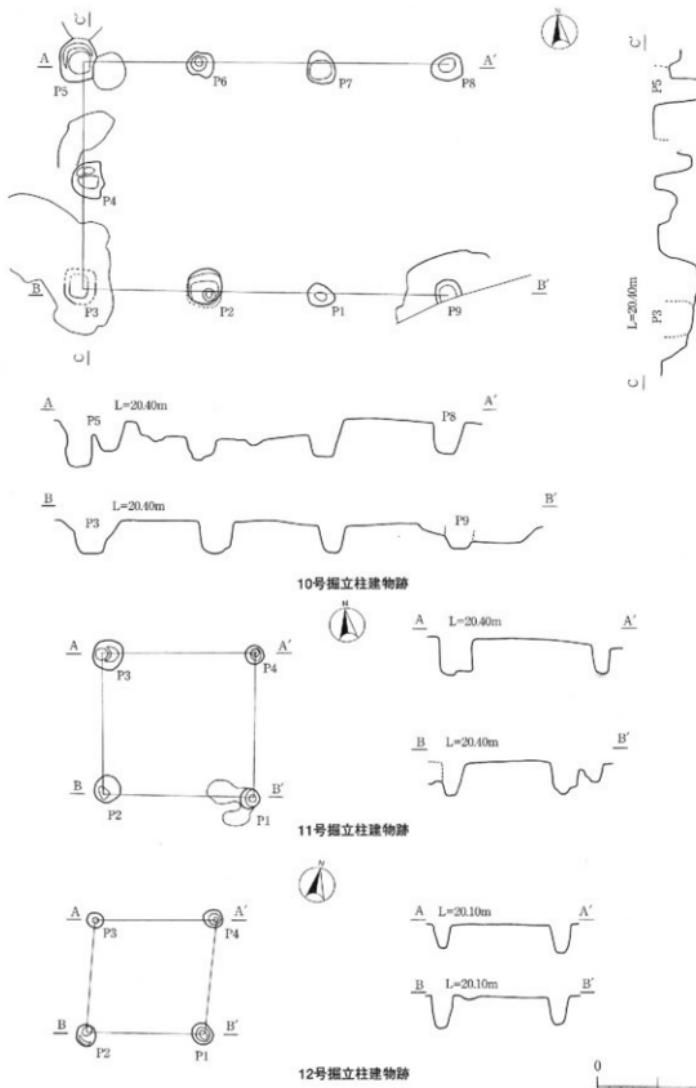
12号掘立柱建物跡（第66図・写真図版10）

1間×1間の方形で、柱穴規模は径約30cm、柱間は東西方向1.9~2.0m、南北方向1.83mである。南北軸線N-3°-Wの傾きで、礎石建物に関連すると考えられる地形の削平・整地の範囲内に立っている。

（2）1号礎石建物跡（第67図・写真図版11）

I 9~I 10グリッドに位置する。後世の遺構（10・12号溝等）や擾乱等によって、遺構の西側大半が削平されており、遺存する礎石と根石は図示したNo 1~10までである。この礎石は筑波石を加工した物であり、礎石上には柱位置が確認されなかった。したがって、平面形式や柱間寸法は定かではなく、柱の据え方は「石場建て柱」ではなく「石置土台」であったかもしれない。

南北軸がほぼ正方位を示す東西2間以上、南北3間（6.30m）の純柱建物で、石束列が西面を除く3面に部分的に確認されている。この石束は底もしくは縁束（濡れ縁）と考えられ、本米は4面に配されていた可能性が高い。間口と奥行については不明瞭であるが、東柱列の中央間（No 4~5）を両脇より30cm（1尺）広く取っており、一つの可能性として東面を間口、東西列を奥行として考えられる。柱間寸法はNo 4~5が2.40m（8尺）、他は2.10m（7尺）の等間であり、石束の出は1.20m（4尺）と推察される。時期は不明瞭であるが、前述した事実関係と7号掘立柱建物の調査状況より、本建物は7号掘立柱建物が焼失した後に礎石建物として再構築されたものと推察される。



第66図 神出遺跡10~12号掘立柱建物跡



第67図 神出遺跡1号碑石建物跡

(3) 柱穴群 (第68図・写真図版21)

本遺跡の中央部は緩やかな馬の背状の尾根地形で南・北それぞれの側に下る傾斜地形となっている。南側の緩斜面の標高20.5m 地点から標高20m 弱地点は比較的平坦で、南北幅20m 弱、東西幅55m の平場となっている。方眼グリッドでは、J 5～J 9、H 5～H 10グリッドの地点に当たる。この平坦な地形上には総数約400本の柱穴状ピットがあいている。調査時に柱穴列として捉えられた掘立柱建物跡4棟以外に、掘立柱建物跡が存在した可能性は大きい。そこで、この地域の柱穴群の図面と遺跡内で確認されたすべての柱穴の計測表を掲載する。柱穴から出土している遺物はP629からかわらけ、P631から砾石、P930から青磁片が出土している。P629出土かわらけは強い火熱を被っており、古瀬戸片や他の遺構出土のかわらけに見られた強い火を受けた痕跡と共通している。この焼けたかわらけは柱穴を掘って柱を立てた際に入ったか、建物の倒壊や柱の抜き取り等の後に入ったかのどちらかと考えられるので、この柱穴を掘る以前か柱穴が機能しなくなる前にこの一帯は火災にあって可能性がある。

柱穴一覧表 (1)

番号	位置	長径×短径×深さ(cm)	出土 遺物
1	E 4	38×32×30	
2	E 4	37×34×32	
3	E 4	55×36×36	
4	E 5	46×42×15	
5	E 5	34×34×44	
6	E 5	35×33×34	
7	E 5	55×40×44	
8	E 6	39×33×27	
9	E 8	40×32×36	
10	E 8	45×40×46	
11	E 8	33×25×52	
12	E 8	35×32×32	
13	E 8	35×35×54	
14	E 8	20×18×54	
15	E 8	30×25×41	
16	F 8	34×32×31	
17	F 8	57×45×62	
18	F 8	52×41×46	
19	E 8	30×28×30	
20	F 4	27×25×37	
21	F 4	28×23×20	
22	F 4	37×35×35	
23	G 4	36×21×26	
24	G 4	23×25×13	
25	G 5	17×17×26	
26	F 5	24×19×18	
27	F 5	44×36×40	土師器片(占墳)
28	F 5	24×20×21	
29	G 5	45×39×36	
30	G 5	37×33×55	
31	G 6	39×23×26	
32	G 6	43×32×27	
33	G 6	52×28×26	かわらけ、土師器小片(占墳)
34	G 6	23×22×23	
35	G 6	19×18×14	
36	G 6	33×22×15	
37	G 7	35×18×49	
38	G 7	40×25×23	
39	G 7	44×34×20	
40	F 7	26×20×29	
41	F 7	31×20×17	
42	G 7	25×24×23	
43	G 6	16×34×16	
44	F 7	34×28×12	
45	F 7	24×20×34	

番号	位置	長径×短径×深さ(cm)	出土 遺物
46	F 6	30×25×33	
47	F 6	35×30×27	
48	F 6	21×21×36	
49	F 6	18×16×22	
50	G 6	25×21×15	
51	G 6	39×32×10	
52	G 6	25×22×16	
53	G 6	25×21×14	
54	G 7	20×19×15	
55	G 7	24×23×13	
56	G 7	28×27×32	
57	F 7	27×25×33	
58	F 7	28×27×28	
59	F 7	23×21×14	
60	F 7	31×27×32	
61	F 7	31×27×24	
62	F 7	30×26×62	
63	G 7	44×36×17	
64	G 7	23×22×29	
65	G 7	33×26×20	
66	G 7	33×27×23	
67	G 7	59×37×17	
68	G 7	40×36×15	
69	G 7	40×36×25	
70	G 7	30×28×29	
71	G 7	29×26×24	
72	G 7	27×23×36	
73	G 7	28×27×18	
74	G 6	32×24×32	
75	G 6	49×43×39	
76	G 6	32×29×19	
77	G 6	46×49×39	
78	G 6	40×33×28	
79	G 6	39×38×30	
80	G 7	34×26×22	
81	R 2	40×27×28	
82	Q 2	20×19×53	土師質土器小皿(四角)
83	Q 3	18×17×37	
84	Q 3	29×18×27	
85	Q 2	27×24×37	
86	Q 2	26×23×15	
87	Q 2	34×26×61	
88	Q 3	29×28×93	
89	O 2	24×18×45	
90	O 2	18×15×42	

柱穴一覧表（2）

番号	位置	長径×短径×深さ(cm)	出土 通物	番号	位置	長径×短径×深さ(cm)	出土 通物
91	O3	46×21×25		156	M2	42×33×44	
92	N3	38×30×21		157	M2	32×26×23	
93	O2	24×21×20		158	M2	24×19×14	
94	L1	29×24×24		159	M2	32×27×-	
95	L1	32×31×26		160	M2	27×25×6	
96	L1	46×37×77		161	M1	37×29×18	
97	L1	35×24×72		162	M1	27×26×16	
98	L1	29×25×30		163	M1	26×25×10	
99	L1	30×25×46		164	M2	28×26×-	
100	L1	46×41×38	S B3-P3	165	M2	34×32×19	
101	L1	27×22×9		166	M2	23×20×19	
102	M1	26×25×19		167	M2	33×25×21	
103	L2	39×33×35		168	M2	28×25×13	
104	L2	56×49×28		169	N2	30×23×14	
105	L2	53×30×59		170	N2	18×17×15	
106	L2	36×33×-		171	M1	33×29×8	
107	L2	29×26×15		172	M1	49×32×32	
108	L2	29×25×48		173	M1	29×28×18	
109	L2	53×35×31	S B3-P5	174	M1	23×22×9	
110	L2	38×29×53		175	M1	32×18×12	
111	L2	40×38×45		176	M1	42×36×39	
112	L2	39×37×33		177	M1	25×19×37	土器器縁片(平安)の塊
113	L2	26×21×15		178	M1	40×26×45	
114	L2	36×34×40		179	N1	27×23×26	
115	L2	33×27×11		180	M1	34×30×15	
116	L2	56×44×33		181	M1	30×24×29	
117	L2	55×51×25		182	M1	23×18×20	
118	L2	39×33×58	S B3-P6	183	M1	24×23×19	
119	L2	41×30×-		184	M1	54×46×21	
120	L2	35×30×64		185	M1	27×26×13	
121	L2	26×28×20		186	M1	30×25×23	
122	L2	47×33×36		187	M1	36×28×27	
123	L1	25×22×25		188	M1	24×22×-	
124	L2	36×35×60		189	M1	25×24×-	
125	L2	36×35×37	土器器片(平安)、土縫	190	M1	39×32×18	
126	L2	50×44×65		191	M1	27×24×10	
127	L2	32×28×21		192	M1	20×19×-	
128	M2	59×55×48		193	M1	40×34×19	
129	L2	38×33×7		194	M1	25×18×18	
130	M2	59×51×18		195	M1	22×16×17	
131	L2	40×35×69		196	N1	42×36×-	
132	L2	40×32×40		197	N1	60×50×48	
133	M1	44×38×26		198	N1	24×21×9	
134	L1	32×28×30		199	N2	27×25×27	
135	M1	42×32×53		200	N2	25×18×-	
136	M1	23×21×16		201	N2	26×25×13	
137	M1	30×25×21		202	N2	38×35×10	
138	M1	31×25×27		203	N2	45×36×8	
139	M1	35×33×40		204	N1	33×27×-	
140	M1	37×27×18		205	N2	45×35×25	
141	M2	42×38×24		206	N3	30×26×10	
142	M2	36×28×6		207	N2	36×32×17	
143	M2	40×36×14		208	N3	34×25×23	
144	M2	32×31×10		209	N3	37×34×12	
145	M2	28×27×9		210	N2	41×29×16	
146	M2	41×30×9		211	M2	49×36×11	
147	M2	31×30×30		212	M2	24×23×26	
148	M2	43×30×-		213	M2	29×27×24	
149	M2	33×18×7		214	M2	24×24×19	
150	M2	27×24×-		215	M2	52×35×12	
151	M2	34×30×36		216	M2	34×32×10	
152	M2	42×30×42		217	N2	38×31×-	
153	M2	38×28×16		218	N2	68×38×65	
154	M2	40×38×20		219	N2	48×24×15	近世陶器片
155	M2	37×33×36		220	N2	34×27×13	

柱穴一覽表 (3)

番号	位置	長×幅×高さ(cm)	出土遺物	番号	位置	長×幅×高さ(cm)	出土遺物
221	N2	62×34×17		286	I7	30×29×40	土師器細片
222	N2	28×24×-		287	I7	50×43×54	土師器細片
223	M2	32×31×23		288	I7	32×25×17	常滑片
224	M2	34×27×19		289	I6	55×39×45	
225	M2	32×27×14		290	I6	31×24×46	土師器小片
226	M2	44×34×20		291	-	-	鉄錫天目輪片
227	M2	27×27×24		292	I8	26×26×23	土師器坏片(古墳)
228	M2	21×20×29		293	I6	49×41×28	須恵器片軋削工具製品(平安)
229	M2	44×34×9		294	I6	41×26×-	土師器細片
230	M4	32×29×32		295	I6	74×68×34	S B9-P 30
231	M4	28×24×16		296	I6	25×23×40	
232	M5	35×29×45		297	-	-	
233	M5	22×18×32		298	-	-	
234	-	-		299	I4	23×17×58	
235	L4	38×24×27		300	H4	44×30×35	土師器小片
236	L4	30×26×65		301	H4	43×31×44	割削削除工具磨耗部分山型片
237	-	-		302	H5	52×45×-	土師器坏片(古墳)、平衡形四角
238	K4	39×35×27		303	I6	24×22×39	土師器片(古墳)、黑色土器
239	K4	57×48×41		304	H6	43×33×49	
240	-	-		305	-	-	常滑片
241	-	-		306	H6	42×32×41(34)	土師器細片
242	-	-		307	H6	35×31×27	不明土製品
243	-	-		308	H5	32×30×55	土師器小片(古墳)
244	-	-		309	I6	51×39×42	土師器細片
245	-	-		310	I6	29×28×-	土師器細片
246	-	-		311	I6	38×28×-	土師器小片(平安)
247	-	-		312	I6	44×43×44	土師器細片、土玉
248	-	-		313	K7	49×45×112	
249	-	-		314	K8	43×36×-	
250	N4	42×34×46		315	-	-	土師器小片
251	O2	46×31×18		316	K8	25×23×15	
252	P1	38×27×15		317	K8	51×56×20	
253	P1	30×28×32		318	K8	40×35×43	土師器細片、秋葉輪細片
254	M1	42×38×-		319	K8	25×23×22	
255	M1	39×37×-		320	K8	26×23×36	
256	-	-		321	-	-	
257	L2	27×20×21		322	K8	22×17×33	
258	M1	30×25×28	S I6-P 10	323	K8	25×18×24	
259	J7	38×30×14		324	K8	25×24×20	
260	J7	24×21×10		325	-	-	
261	L7	52×34×25	萬文十割片、土師器細片(古墳)	326	-	-	
262	I8	48×43×35	土師器燒片(古墳)	327	-	-	
263	I8	73×71×50	土師器細片(古墳、平安)	328	-	-	
264	I8	39×31×74		329	-	-	
265	I8	52×51×53		330	-	-	
266	I8	23×20×34		331	-	-	
267	I8	28×25×30		332	-	-	
268	I8	20×18×62		333	-	-	
269	I8	32×19×60		334	J8	32×27×49	
270	-	-		335	J8	27×24×44	
271	-	-		336	J8	25×21×45	鉛向、須恵器片
272	-	-		337	J8	24×18×27	
273	-	-		338	J8	32×30×30	
274	M7	43×36×38		339	J8	33×30×30	
275	J8	29×25×26	古窯戸平陶片	340	I9	36×35×5	
276	L8	38×34×55		341	I7	26×25×28	
277	L8	40×38×47		342	I7	46×44×56	
278	I4	40×37×31	土師器小片(古墳)	343	I7	30×23×33	
279	H4	47×46×-		344	I7	29×21×30	
280	H6	23×23×61	土師器小片(古墳)	345	I7	31×19×26	
281	I6	65×59×63		346	I7	35×-×29	
282	I6	32×27×20	内耳鍍片	347	I7	36×26×44	
283	I6	45×36×44	土師器細片(古墳、平安)	348	I7	76×70×60	
284	I6	63×54×40	土師器細片、常滑片	349	I7	39×26×21	
285	I6	40×37×33	土師器細片	350	I8	36×33×36	

柱穴一覧表 (4)

番号	位置	長径×短径×深さ(cm)	出土遺物
351	I 9	36×27×24	
352	G 4	65×46×22	平面形四角
353	G 4	30×32×18	
354	-	-	平面形四角
355	G 4	50×-×13	平面形四角
356	G 4	52×43×11	
357	G 4	44×30×24	
358	G 4	50×42×27	
359	G 4	41×38×36	
360	G 4	25×24×13	
361	G 4	51×34×17	
362	G 4	31×29×18	
363	G 4	54×46×23	
364	G 4	28×21×-	
365	G 4	32×23×49	
366	G 4	21×18×-	
367	H 4	-×34×13	平面形四角
368	H 4	35×22×49	
369	H 4	25×15×36	
370	G 4	42×30×24	斜向
371	G 4	46×30×44	
372	G 4	24×25×56	
373	G 4	22×21×55	
374	G 4	20×18×60	
375	G 4	30×22×43	
376	H 4	19×18×37	
377	H 4	25×21×46	
378	H 4	52×43×53	
379	H 4	54×48×15	
380	H 4	27×27×41	
381	H 4	31×29×-	
382	H 4	56×40×-	
383	H 4	36×33×-	
384	H 4	31×27×-	
385	H 4	25×21×-	
386	H 4	25×22×-	
387	H 4	50×39×-	
388	-	-	平面形四角
389	H 4	23×19×-	
390	G 4	44×39×18	平面形四角
391	G 4	47×43×57	
392	G 4	36×-×36	
393	G 5	28×25×23	斜向
394	G 4	30×26×20	
395	H 4	22×21×9	
396	H 5	31×21×11	
397	H 5	60×47×37	
398	H 5	18×14×28	
399	H 5	29×28×23	
400	H 5	29×16×14	
401	H 5	32×30×20	
402	G 5	16×15×22	
403	G 5	84×69×37	
404	G 5	35×34×22	
405	G 5	36×29×20	
406	G 5	34×31×21	
407	G 5	54×45×15	
408	H 5	39×38×18	
409	H 5	39×35×35	
410	H 5	33×30×-	
411	-	-	
412	H 5	28×19×15	平面形四角
413	H 4	22×21×39	平面形四角
414	H 4	32×31×37	平面形四角
415	H 4	27×24×15	平面形四角
416	H 4	61×36×30	
417	H 4	44×43×33	
418	H 4	27×23×10	
419	H 4	45×35×19	
420	H 4	48×35×42	
421	H 4	44×31×35	
422	H 4	35×25×27	
423	I 4	28×25×34	斜向
424	I 4	30×25×4	
425	H 4	36×30×-	
426	H 4	28×25×35	
427	H 4	68×52×39	
428	G 4	-×28×-	
429	H 5	60×43×51	
430	H 5	25×23×39	
431	H 5	36×25×57	
432	H 5	81×68×49	
433	H 5	56×41×46	
434	H 5	55×39×48	
435	-	-	
436	H 5	41×37×37	
437	G 5	27×27×14	
438	G 5	35×21×13	
439	G 5	52×45×16	
440	G 5	40×28×18	
441	H 5	25×21×32	
442	H 5	33×24×23	
443	G 5	37×36×29	斜向
444	G 5	44×32×17	
445	H 5	34×29×13	
446	H 5	37×31×28	
447	H 5	26×24×29	
448	G 5	27×23×18	
449	G 5	30×28×28	
450	G 5	29×27×16	
451	H 5	51×39×62	
452	H 5	48×36×20	
453	H 5	30×23×44	
454	H 5	25×22×17	
455	H 5	40×28×25	
456	H 5	41×38×-	
457	H 5	25×24×19	
458	H 5	35×28×64	
459	H 6	48×40×43	
460	I 6	54×36×39	
461	H 6	31×23×13	
462	I 6	56×45×46	
463	H 6	23×19×26	
464	H 6	63×57×30	平面形四角
465	H 6	25×23×51	
466	H 6	49×37×35	平面形四角
467	H 6	32×27×52	平面形四角
468	H 6	54×34×24	
469	H 6	30×23×28	
470	H 6	59×51×53	
471	H 6	28×23×48	
472	H 6	32×27×23	
473	-	-	
474	H 6	30×23×-	
475	H 6	32×15×-	
476	H 6	32×25×26	
477	H 6	31×25×21	
478	H 6	28×23×56	
479	I 6	32×29×39	
480	H 6	40×30×38	平面形四角

柱穴一覧表（5）

番号	位置	長径×横径×深さ(cm)	出土遺物	番号	位置	長径×横径×深さ(cm)	出土遺物
481	I 6	33×32×58	平面形四角	516	I 6	60×53×29	
482	I 4	23×22×42		547	I 6	25×24×35	平面形四角
483	I 6	32×20×54		548	I 7	52×43×47	
484	I 4	35×29×28		549	I 7	54×37×65	
485	I 6	41×31×32	土師器小片(古墳)	550	I 7	40×32×50	
486	I 4	40×31×27	平面形四角	551	I 7	48×38×73	斜向柱
487	I 4	20×19×38		552	I 7	50×43×24	
488	I 4	23×18×33		553	I 7	32×27×30	
489	I 4	58×-×63	同番号I 6にあり	554	I 7	25×24×42	
490	I 4	75×46×32	斜向	555	I 7	40×34×15	
491	I 6	48×42×66		556	I 7	31×26×14	
492	I 5	32×25×35		557	I 7	31×26×32	
493	I 5	30×24×30		558	I 7	36×-×26	
494	I 5	55×-×66		559	I 7	32×25×45	
495	I 5	35×25×60		560	I 7	44×30×41	
496	I 6	34×27×32		561	I 7	43×43×27	
497	I 6	32×28×60		562	I 7	38×34×49	
498	I 6	36×34×40		563	H 7	70×58×76	S E10-P5, 平面形四角
499	I 6	41×36×38		564	H 7	35×26×20	
500	I 6	21×19×38		565	H 7	32×25×47	
501	I 6	25×22×52		566	H 7	31×21×41	
502	I 6	41×32×42		567	H 6	43×31×39	
503	I 6	44×38×54		568	H 6	30×30×30	
504	I 6	29×21×23		569	H 6	54×40×35	
505	I 6	32×26×11		570	H 6	61×63×-	
506	I 6	29×17×-		571	-	-	
507	I 6	33×33×24		572	H 6	41×38×37	
508	I 6	33×31×62		573	H 6	39×32×24	
509	I 6	36×29×47		574	L 10	67×36×23	
510	I 6	35×34×53		575	L 10	51×40×48	
511	I 7	43×35×46		576	L 10	37×32×29	
512	I 7	37×36×50		577	L 10	41×37×35	
513	I 7	45×40×59		578	H 6	24×22×52	斜肉
514	I 6	32×29×55		579	L 10	37×34×13	
515	I 6	46×28×23		580	L 10	50×45×38	
516	I 6	80×57×37		581	L 10	44×40×7	
517	I 7	78×19×46		582	L 10	55×41×34	
518	I 7	34×30×35		583	L 10	34×35×59	斜肉
519	I 7	40×39×72		584	L 10	31×-×40	
520	I 6	35×34×34		585	L 10	37×27×-	
521	I 6	43×34×24		586	L 10	32×36×32	
522	I 7	22×13×35		587	L 10	28×26×23	
523	I 7	31×26×53		588	K 10	36×35×41	
524	I 7	23×12×-		589	K 10	33×32×30	
525	I 6	31×27×10		590	K 10	43×34×53	
526	I 6	30×27×54		591	K 10	27×22×43	
527	I 6	50×36×	土師器小片(古墳)	592	K 10	44×29×30	
528	I 6	19×16×-		593	I 6	39×34×51	平面形四角
529	I 6	33×25×30		594	I 6	39×32×57	
530	I 6	54×35×-	平面形四角	595	I 6	50×42×52	
531	I 6	43×34×15		596	I 6	36×34×29	
532	I 6	32×36×-		597	I 6	37×32×-	斜肉
533	I 6	31×31×61	斜向柱	598	I 6	41×27×-	
534	I 6	32×23×56		599	I 6	46×46×38	土師器断片
535	I 6	50×48×70	土師器小片(古墳)	600	I 6	42×32×55	斜肉
536	I 6	43×38×52		601	I 6	60×35×45	
537	I 6	30×26×37		602	I 6	43×31×66	斜向
538	I 6	38×21×42		603	I 6	44×27×37	
539	I 6	34×29×51		604	H 6	24×19×67	
540	I 6	26×22×17		605	H 6	19×15×50	
541	I 6	20×13×37		606	H 6	43×25×39	平面形四角
542	I 6	26×21×50		607	I 6	46×37×-	
543	I 6	32×28×54		608	I 6	64×59×-	
544	I 6	60×53×67		609	H 6	100×84×50	
545	I 6	23×22×35	平面形四角	610	-	-	

柱穴一覧表（6）

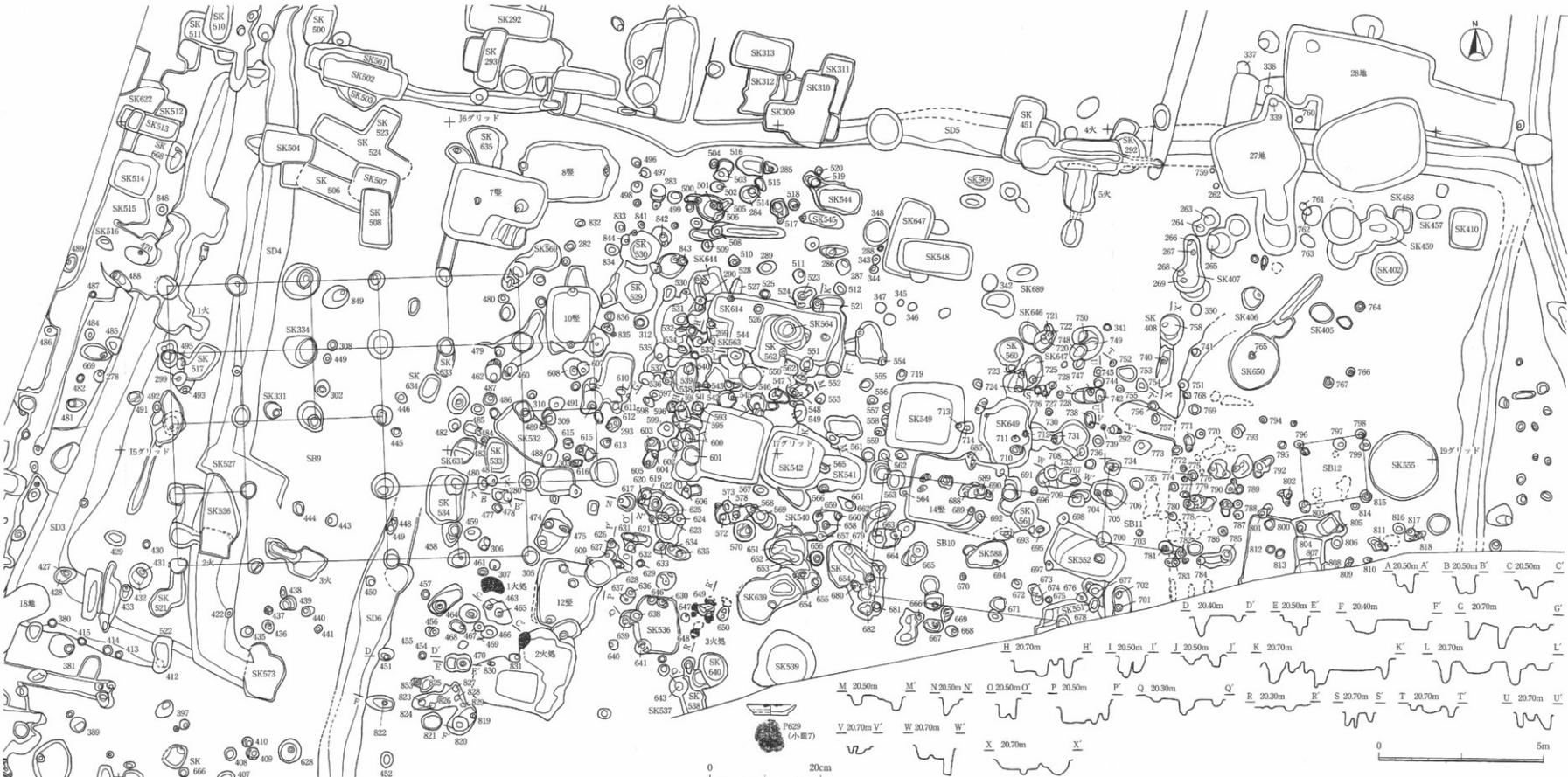
番号	位置	長径×短径×厚さ(cm)	出土遺物	番号	位置	長径×短径×厚さ(cm)	出土遺物
611	I 6	37×26×52		676	H 7	33×29×14	
612	I 6	38×32×36		677	H 7	47×37×72	
613	I 6	34×30×52		678	H 7	45×31×18	
614	I 6	32×27×30		679	H 7	50×39×82	
615	I 6	40×31×63		680	H 7	37×29×45	
616	H 6	36×21×15		681	H 7	32×24×	
617	H 6	54×53×48	土師器片	682	H 7	45×40×-	
618	H 6	43×34×17		683	H 7	32×25×70	
619	H 6	31×26×61		684	H 7	56×51×59	
620	H 6	22×20×96		685	H 7	52×34×47	
621	H 6	32×19×31		686	H 7	41×-×50	
622	H 6	45×37×64	6世紀初頭土師器坏片	687	H 7	24×18×23	
623	H 6	28×22×115	土師器片 P622之同 破体	688	H 7	23×12×65	
624	H 6	38×35×30	平面形四角	689	H 7	30×26×80	
625	H 6	45×45×35		690	H 7	25×-×41	
626	H 6	21×22×60		691	-	-	平面形四角
627	H 6	32×30×74		692	H 7	40×36×40	
628	H 6	30×21×46		693	H 7	36×22×42	
629	H 6	29×28×39	かわらけ (国Ne7)	694	H 7	22×15×37	
630	H 6	22×21×23		695	H 7	66×52×57	
631	H 6	54×26×64	砾石	696	H 7	30×23×17	
632	H 6	-×33×19	平面形四角	697	H 7	28×23×23	
633	H 6	33×26×47	平面形四角	698	H 7	36×31×23	
634	H 6	36×28×49	平面形四角	699	-	-	
635	H 6	33×27×53		700	H 7	45×42×56	S B12-P2
636	H 6	31×27×21		701	H 8	23×21×28	
637	H 6	40×34×15		702	H 8	22×19×29	
638	H 6	33×30×33		703	H 7	21×19×28	
639	H 6	35×29×12		704	H 7	62×38×15	
640	H 6	30×28×44		705	H 7	21×17×19	
641	H 6	48×43×48		706	H 8	29×20×22	
642	H 6	38×29×35		707	H 7	60×65×84	
643	H 6	36×34×20		708	H 7	50×50×39	平面形四角
644	H 6	35×-×30		709	H 7	54×-×18	
645	H 6	41×35×50	平面形四角	710	I 7	40×29×62	
646	H 6	50×37×32		711	I 7	23×18×42	
647	H 6	34×26×45		712	I 7	19×13×26	
648	H 6	27×24×29		713	I 7	28×26×36	
649	H 6	35×29×17		714	I 7	35×30×15	
650	H 7	35×29×22	平面形四角	715	I 7	25×26×24	平面形四角
651	H 6	50×35×70		716	I 7	32×20×46	
652	H 6	63×40×-		717	I 7	33×28×24	
653	H 7	50×45×62		718	-	-	平面形四角
654	H 7	42×29×62		719	I 7	36×29×19	
655	H 7	26×25×52		720	I 7	27×27×53	
656	H 7	48×41×16		721	I 7	23×21×16	
657	H 7	34×29×30		722	I 7	25×23×33	
658	H 7	24×23×33		723	I 7	25×18×48	
659	H 7	33×28×35		724	I 7	23×20×56	
660	H 7	29×22×17		725	I 7	21×22×26	
661	H 7	38×34×26		726	I 7	24×21×40	
662	H 7	40×-×20	土師器坏片 (古墳)	727	I 7	19×14×12	
663	H 7	84×53×62		728	I 7	23×21×35	
664	H 7	35×26×37		729	I 7	23×23×24	
665	H 7	52×48×25		730	I 7	22×19×18	
666	H 7	40×30×25		731	I 7	41×30×39	平面形四角
667	H 7	62×40×41		732	I 7	47×34×24	平面形四角
668	H 7	40×33×18		733	H 7	31×33×18	平面形四角
669	H 7	49×37×41		734	H 8	27×23×61	
670	H 7	23×15×30		735	H 8	36×49×65	S B11-P3, 平面形四角
671	H 7	46×34×48	S B10-P1	736	I 7	36×34×19	
672	-	-		737	-	-×-×26	平面形四角
673	H 7	33×30×25		738	I 7	52×34×-	
674	H 7	36×32×44		739	I 9	15×15×22	
675	H 7	40×36×28		740	I 8	23×22×47	

柱穴一覽表(7)

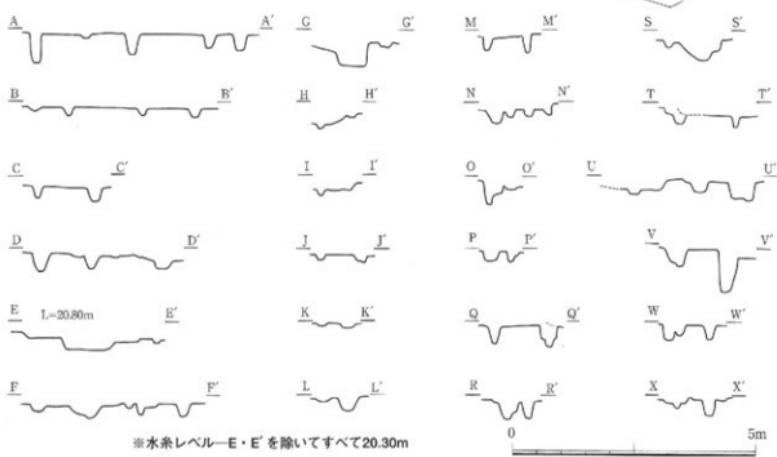
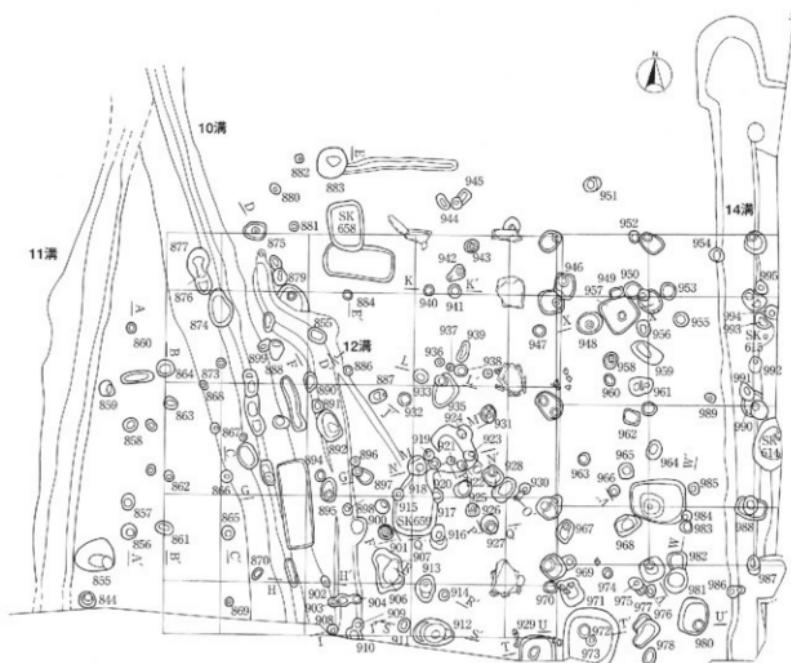
番号	位置	長径×短径×深さ(cm)	出土遺物	番号	位置	長径×短径×深さ(cm)	出土遺物
741	I 8	27×22×42		806	II 8	40×34×19	
742	I 8	40×28×42	平面形四角	807	H 8	71×—×29	平面形四角
743	I 8	28×21×31		808	H 8	47×—×22	平面形四角
744	I 8	27×22×20		809	H 8	20×19×7	
745	I 7	32×27×42		810	H 8	28×17×9	
746	I 7	21×16×40	斜向	811	H 8	35×26×30	
747	I 7	36×29×18		812	H 8	27×26×13	
748	I 7	57×45×50		813	H 8	31×26×22	
749	I 7	42×34×34		814	H 8	23×23×26	
750	I 7	47×26×42		815	H 8	38×32×44	S B12-P1, 平面形四角
751	I 8	35×31×36		816	H 8	34×34×17	
752	I 8	21×19×15		817	H 8	26×22×36	
753	I 8	63×49×22		818	H 8	32×16×21	
754	I 8	22×24×15		819	H 6	18×16×38	
755	I 8	43×34×32		820	H 6	19×44×23	
756	I 8	33×26×14		821	H 6	64×54×30	
757	I 8	32×26×30		822	H 5	87×48×44	
758	I 8	18×12×44		823	H 5	20×17×—	平面形四角
759	—	—		824	H 5	19×15×—	平面形四角
760	—	—		825	H 5	59×38×34	
761	I 8	20×19×		826	H 5	16×15×27	平面形四角
762	—	—		827	H 6	23×17×24	平面形四角
763	—	—		828	H 6	20×15×—	平面形四角
764	I 8	30×29×		829	H 6	15×11×—	
765	I 8	23×21×31		830	H 6	19×14×66	
766	I 8	27×26×15		831	H 6	33×25×43	
767	I 8	34×28×23		832	I 6	39×29×33	
768	I 8	24×23×21		833	I 6	33×29×33	
769	I 8	55×32×6		834	I 6	44×34×46	
770	I 8	29×27×18		835	I 6	18×13×27	
771	I 8	40×33×6		836	—	—	
772	I 8	34×29×20		837	I 6	29×27×23	
773	I 8	52×45×24		838	I 6	50×39×40	
774	H 8	41×38×20		839	I 6	37×29×23	
775	H 8	21×16×—		840	I 6	31×22×16	平面形四角
776	H 8	30×28×43		841	I 6	16×15×39	
777	H 8	28×21×35		842	I 6	52×42×50	
778	H 8	34×27×40		843	I 6	28×26×46	
779	II 8	23×20×34		844	M 7	44×32×32	
780	H 8	24×23×9		845	H 5	39×34×29	
781	H 8	48×39×46		846	G 4	24×20×26	
782	H 8	36×30×32	S B11-P1	847	G 5	46×44×4	
783	H 8	26×24×35		848	I 5	33×32×39	
784	H 8	28×26×44		849	—	—	
785	H 8	61×48×53		850	G 4	32×26×25	
786	II 8	30×29×20		851	G 4	16×11×29	
787	H 8	27×26×37		852	G 4	12×10×14	
788	H 8	27×26×35		853	G 4	25×22×23	
789	H 8	28×23×20		854	—	--	
790	H 8	34×26×18		855	H 9	25×18×30	
791	H 8	65×56×—		856	H 9	31×29×32	
792	H 8	70×59×41		857	H 9	32×26×36	
793	I 8	42×34×20		858	H 9	35×26×43	
794	I 8	22×21×15		859	H 9	33×32×22	
795	I 8	24×24×48		860	I 9	19×18×60	
796	I 8	27×25×40	S B12-P3	861	H 9	35×25×16	
797	I 8	39×38×20		862	H 9	22×19×15	
798	I 8	32×29×49	S B12-P4	863	H 9	27×22×16	
799	I 8	34×32×41		864	I 9	37×32×5	
800	H 8	35×34×28		865	H 9	28×26×29	
801	H 8	33×28×39		866	H 9	25×24×25	
802	H 8	33×24×29		867	H 9	20×19×4	
803	H 8	36×33×55	S B12-P2, 平面形四角	868	H 9	19×12×25	
804	H 8	32×29×29		869	H 9	17×16×12	
805	H 8	27×—×87	平面形四角	870	H 9	27×16×22	

柱穴一覧表 (8)

番号	位置	長径×短径×高さ(cm)	出土遺物	番号	位置	長径×短径×高さ(cm)	出土遺物
871	H9	56×38×8		934	I9	26×23×27	
872	H9	13×13×5		935	I9	70×54×25	鉄片
873	I9	19×17×8		936	I9	17×17×-	
874	I9	76×48×24		937	I9	15×15×-	
875	I9	35×33×15		938	I9	25×23×-	鉄片
876	I9	28×-×22		939	I9	45×21×9	
877	I9	60×44×24		940	I9	19×18×4	
878	I9	44×34×40		941	I9	27×26×19	
879	I9	36×28×30		942	I9	29×25×61	
880	I9	25×18×12		943	I9	46×24×16	
881	I9	17×16×8		944	I9	35×20×-	
882	I9	14×14×22	角柱	945	I9	46×22×-	
883	I9	65×59×27		946	I10	53×43×19	
884	I9	18×17×-	土師器粗片(古墳)	947	I10	24×23×-	
885	I9	39×24×30		948	I10	49×45×38	
886	I9	19×19×10		949	I10	29×20×7	角柱
887	H9	36×24×12		950	I10	37×33×21	
888	I9	40×30×21	土師器小片	951	I10	35×27×-	
889	I9	28×19×18		952	I10	21×21×20	
890	I9	38×28×17		953	I10	34×32×8	
891	H9	26×22×-		954	I10	39×27×-	
892	H9	65×44×22		955	I10	30×28×18	
893	H9	32×24×17		956	I10	33×27×-	
894	H9	21×21×-		957	I10	20×18×18	
895	H9	48×30×7	古漁戸鉢片	958	I10	32×27×7	
896	H9	29×18×8		959	I10	70×34×37	
897	H9	45×30×25		960	I10	22×17×7	
898	H9	24×21×-		961	I10	48×35×46	
899	H9	45×40×44		962	H10	31×29×-	
900	I10	30×27×25		963	H10	24×24×8	
901	H9	34×39×-		964	H10	41×29×27	
902	H9	26×14×6		965	H10	33×39×30	
903	H9	30×24×-		966	I10	22×21×28	
904	H9	28×17×21		967	H10	43×32×13	
905	H9	40×-×-		968	H10	56×39×92	
906	H9	33×32×-		969	H10	29×29×22	
907	H9	24×22×-		970	H10	26×22×15	
908	H9	21×20×15		971	H10	54×53×26	
909	H9	26×25×10		972	H10	25×24×30	
910	H9	-×30×9		973	H10	19×18×24	
911	H9	29×21×14		974	H10	19×18×10	
912	H9	85×54×10		975	H10	26×24×19	
913	H9	56×42×40		976	H10	24×18×17	
914	H9	21×20×37		977	H10	42×-×5	
915	H9	24×20×27		978	I10	59×38×22	土師器細片
916	H9	35×23×38	古墳時代土師器小片	979	H10	36×24×-	
917	H9	30×22×32		980	H10	75×58×33	
918	H9	42×40×25		981	H10	50×48×14	
919	H9	22×21×36		982	H10	38×37×10	
920	H9	25×22×18		983	H10	27×24×32	
921	H9	17×14×14		984	H10	20×20×24	
922	H9	21×16×22		985	H10	22×20×32	
923	H9	22×19×22		986	H10	37×24×15	
924	H9	19×16×27		987	H10	40×25×12	
925	H9	36×34×19		988	H10	66×40×21	
926	H9	26×24×22		989	H10	23×16×16	
927	H9	41×36×46		990	H10	52×45×20	
928	H9	12×35×52		991	I10	42×26×40	
929	H10	74×-×30		992	I9	34×25×21	
930	H10	22×19×-	青磁輪片(青磁No1)	993	I9	38×24×-	
931	H9	23×16×-		994	I9	33×26×15	鉄鋤
932	H9	27×25×22		995	I9	27×24×-	
933	I9	32×24×5					



第68図 神出遺跡柱穴群(1)



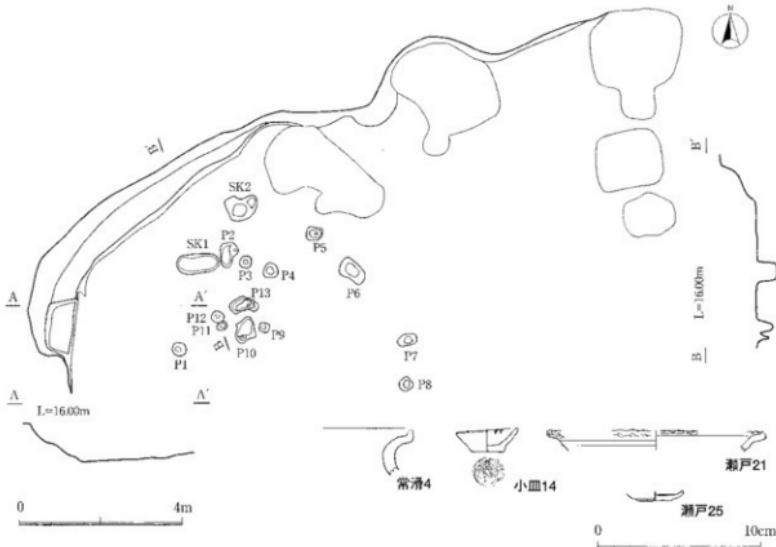
第69図 神出跡柱穴群(2)

(4) テラス状遺構

本遺跡の南部の傾斜地に2段のテラス状遺構が見られる。南向きの傾斜地には南から浅く谷が入っており、南の低地から見て谷の左側部分の地山を削り込んで造成されている。上の段のテラスを2号テラス、下の段を1号テラスと呼び、低地（台地下水田面）からの比高差は、それぞれ9m、13mである。

1号テラス（第70図・写真図版12）

1号テラスは、F8グリッドの南部からE8グリッド北部にかけて位置し、斜面を75~90cmの深さまで削り込んで、東西方向8m、南北方向6.5mの平坦面を造っている。平坦面上には、土坑が2基、柱穴状ピットが10か所、地下式壇2基が確認された。テラス面を覆っていた堆積土は、地形の傾斜面上部からの自然流入土で、整地や盛土の堆積は見られなかった。出土遺物は古瀬戸片、常滑片、土師質土器小皿・内耳鍋片等の中世の遺物に混じって、古墳時代前期の壺口縁部片や6世紀頃の赤彩された土師器高环片、平安時代の土師器片等が混入している。古瀬戸片は、折縁深皿、折縁中皿、天目茶碗、縁種小皿でいずれも藤沢編年後二期（1380年～1420年）のものである。

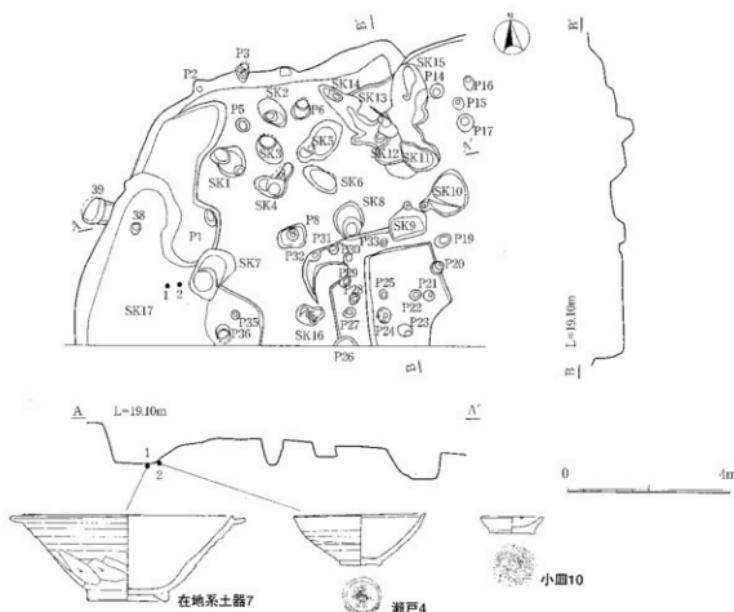


第70図 神出遺跡1号テラス状遺構・出土遺物

2号テラス（第71図・写真図版12）

1号テラスの上位に傾斜面を深さ40~70cm削り込んで、幅12m、奥行き10mの平坦面を造っている。平坦面上には、土坑が17基、柱穴状ピットが39か所確認された。出土遺物はH9グリッドから、古瀬戸瓶（蕨手連続文の梅瓶）、折縁皿片、平碗片、常滑片、硯石片、スタンプ文のついた火舎が出土している。テラスの南側の17号土坑からは古瀬戸平碗1個体分が、須恵質で断面三角形の低い高台のついた須恵質の折縁深皿とともに出土している。形態的に瀬戸の折縁皿、技法的に山茶碗系の在地系土器である。テラス上に開い

た柱穴状の3号ピットからは上質土器小皿が強い火を受けた状態で出土している。



第71図 神出遺跡2号テラス状造構・出土遺物

(5) 壁穴造構

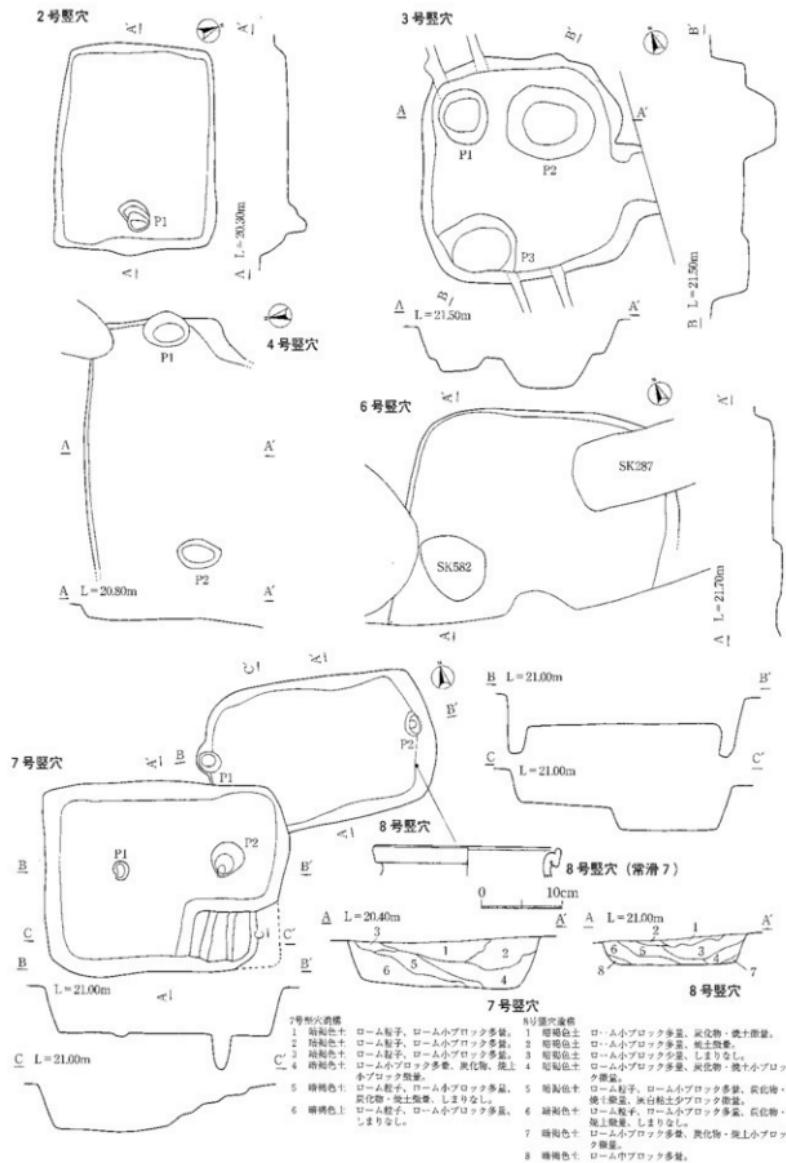
中世の城跡や集落、墓域等で見られる方形に掘り込まれ出入り口施設を持っている壁穴を方形壁穴造構と総称して呼ぶことが多い。これらについては、出土遺物の少さなどから時期や性格がはつきりしていないが、通常の土坑や土坑墓と較べてある程度の大きさと規格性があり、中世を通じて形態変化しながら存在する。本遺跡の例では、規模はおよそ2m以上、地山削り出しのスロープ状の出入り口施設や柱穴の掘り込みを底面に持つ特徴がある。方形であるが出入り口施設を持たない深い土坑と比較して掘り込みは浅く、古代の住居跡の床と同じように硬化面を残すものもある。全部で10基がそれと認識できる。ここではその他に調査時に壁穴造構としたものも含めてこれらをまとめて報告することとする。

1号壁穴造構（第72図）

本跡はL3～M3グリッドに位置する。規模は長軸3.1m 短軸2.4m、深さ0.1mを測る。ピットではなく残存状態が悪いが方形気味の平面形である。

2号壁穴造構（第72図・写真図版19）

本跡はI1グリッドに位置する。規模は長軸2.25m 短軸1.81m、深さ0.32mを測る。ピットは1か所、径



第72図 神山遺跡 2～4、6～8号竖穴・8号竖穴出土遺物

26cm、深さ26cmの柱穴状である。

3号竪穴造構（第72図・写真図版19）

本跡はM5～N5グリッドに位置する。規模は長軸2.4m 短軸2.15m、深さ0.35mを測る。ピットは3か所、P1は径0.9cm 深さ0.4cm、P2は径0.6cm 深さ0.18cm、P3は径1.08cm 深さ0.37cm。平面形は、角の丸い方形である。

4号竪穴造構（第72図）

本跡はJ5～J6グリッドに位置する。規模は長軸3m以上、短軸1.9m以上、深さ0.30mを測る。ピットは2か所柱穴状で、P1は径0.47cm、P2は径0.72cm。東壁の南部には内側に突出する地山の削り残しがある。

5号竪穴造構（第72図）

本跡はL7グリッドに位置する。9号溝に切られており、南壁は残存していない。規模は長軸3.12m、短軸2.7m以上、深さ0.25mを測る。平面形は、角の丸い方形。

7号竪穴造構（第72図・写真図版19）

本跡はJ6グリッドに位置する。8号竪穴と重複し規模は長軸2.8m 短軸1.95m、深さ0.56mを測る。ピットは2か所、P1は、径0.23cm、深さ5cmで柱を設置することはできない深さである。P2は径0.23cm 深さ0.44cmである。平面形は長方形で南東コーナーに地山削り残しの階段施設を付設する。覆土はローム粒子、ローム小ブロックを多量に含む埋め戻し堆積土層である。

8号竪穴造構（第72図・写真図版19）

本跡はJ6グリッドに位置する。9号竪穴造構と重複している。規模は長軸2.55m 短軸1.65m、深さ0.35mを測る。ピットは2か所、壁際に接してある。P1は径20cm 深さ45cm。P2は径24cm深さ34cm。覆土中から常滑甕口縁部片が出土している。常滑甕は中野編年の6a期で13世紀第3四半世紀頃の遺物である。

9号竪穴造構（第73図・写真図版19）

本跡はM7グリッドに位置し、26号地下式廻によって南壁を壊されている。規模は長軸2.7m以上で柱穴位置から推測すると約3m、短軸1.88m、深さ0.53mを測る。ピットは2か所あり柱穴状である。柱穴の心々間で1.5mの長さを測る。P1は径28cm 深さ40cm。P2は径26cm 深さ36cm。西壁中央部に20°の傾斜角度を持ち竪穴外に1.3m程突出した出入り口施設を持つ。出入り口の斜面から床の中央付近まで硬化面が広がっている。

10号竪穴造構（第73図・写真図版19）

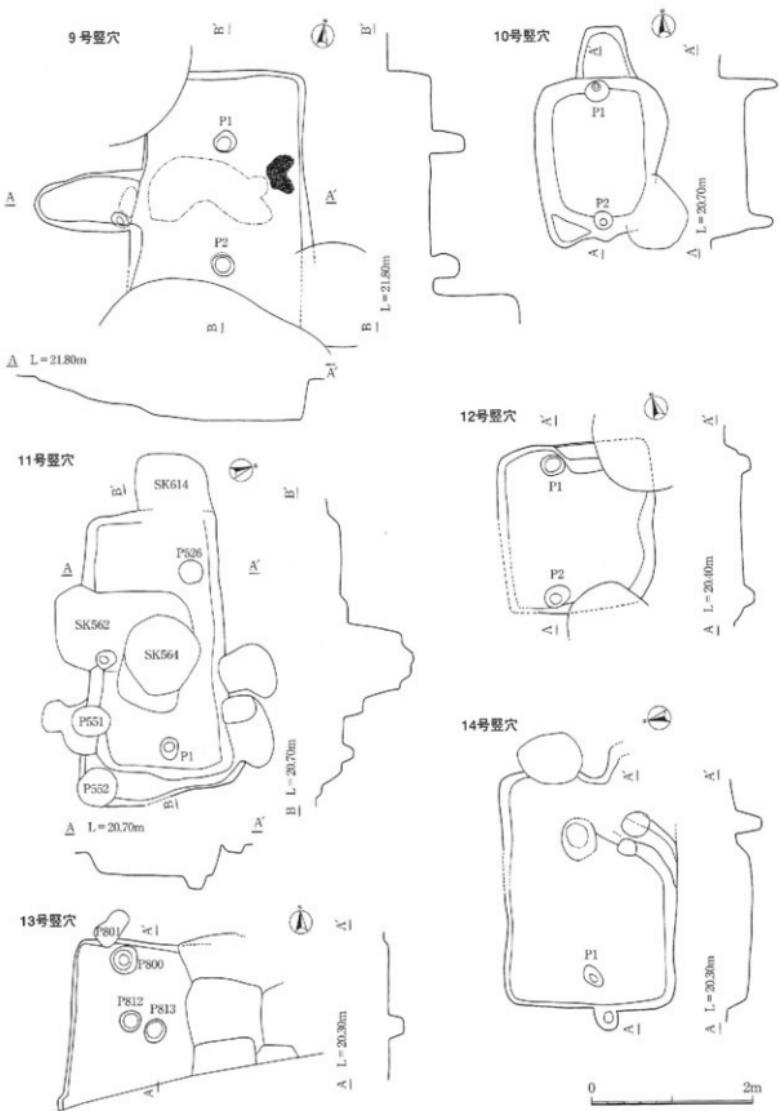
本跡はJ6グリッドに位置する。規模は長軸1.53m 短軸1.15m、深さ0.31mを測る。ピットは2か所、壁際に接してある。P1は径24cm 深さ52cm。P2は径23cm 深さ32cm。柱穴の心々間で1.5mの長さを測る。北壁東寄りの竪穴外に0.6m程突出した浅い掘り込みがあり、出入り口施設の可能性がある。出土遺物は底面から体部の器高のある深い内耳鍋が出土している。

11号竪穴造構（第73図）

本跡はJ6～J7グリッドに位置する。複数の土坑に掘り込まれており、東側半分と北壁だけが残存している。規模は長軸2.5m以上、短軸1.4m、深さ0.35mを測る。ピットは1か所確認され、径24cm、深さ14cmである。

12号竪穴造構（第73図・写真図版19）

本跡はI6グリッドに位置する。規模は長軸1.95m 短軸1.6m、深さ0.18mを測る。ピットは2か所、壁寄りにある。P1は径24cm 深さ12cm。P2は径25cm深さ13cm。



第73図 神出跡 9~14号至穴・出土遺物

13号竪穴遺構（第73図）

本跡は18グリッドに位置する。東壁を複数の土坑に切られ、南壁は調査エリアの外にある。規模は長軸2m以上、短軸1.4m以上、深さ6cmである。

14号竪穴遺構（第73図・写真図版19）

本跡は17グリッドに位置する。規模は長軸2.85m、短軸2.1m、深さ0.25mを測る。ピットは2か所、径20cmと40cm、深さ32cm。

（6）地下式壙

1号地下式壙（第74図・写真図版17）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は竪坑長軸0.7m、短軸0.5m、深さ0.84m、主室長軸1.62m、短軸1.02m、底面積1.44m²を測る。竪坑から主室方向に向かう方向を主軸として、主軸方位は、N-47°-Wを示す。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

2号地下式壙（第74図・写真図版17）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は竪坑長軸0.48m、短軸1.31m、深さ0.75m、主室長軸1.23m、短軸0.95m、底面積0.97m²を測る。主軸方位は、N-47°-Wを示す。出土遺物は瀬戸系陶器（志戸呂）の折縁皿（第38図No38）が覆土から、縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

3号地下式壙（第74図・写真図版17）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は竪坑長軸0.54m、短軸0.47m、深さ0.65m、主室長軸2.4m、短軸2.05m、底面積3.99m²を測る。主軸方位は、N-20°-Wを示す。竪坑、主室とも底面は平らで、竪坑と主室には0.4mの段差がある。覆土中から内耳鉢（第103図No6）、古瀬戸折縁皿（第99図No22）、常滑片口鉢（第101図No1）が出土している。片口鉢は二次的な被熱を受けて橙色、古瀬戸折縁皿は釉が風化している。

4号地下式壙（第74図・写真図版17）

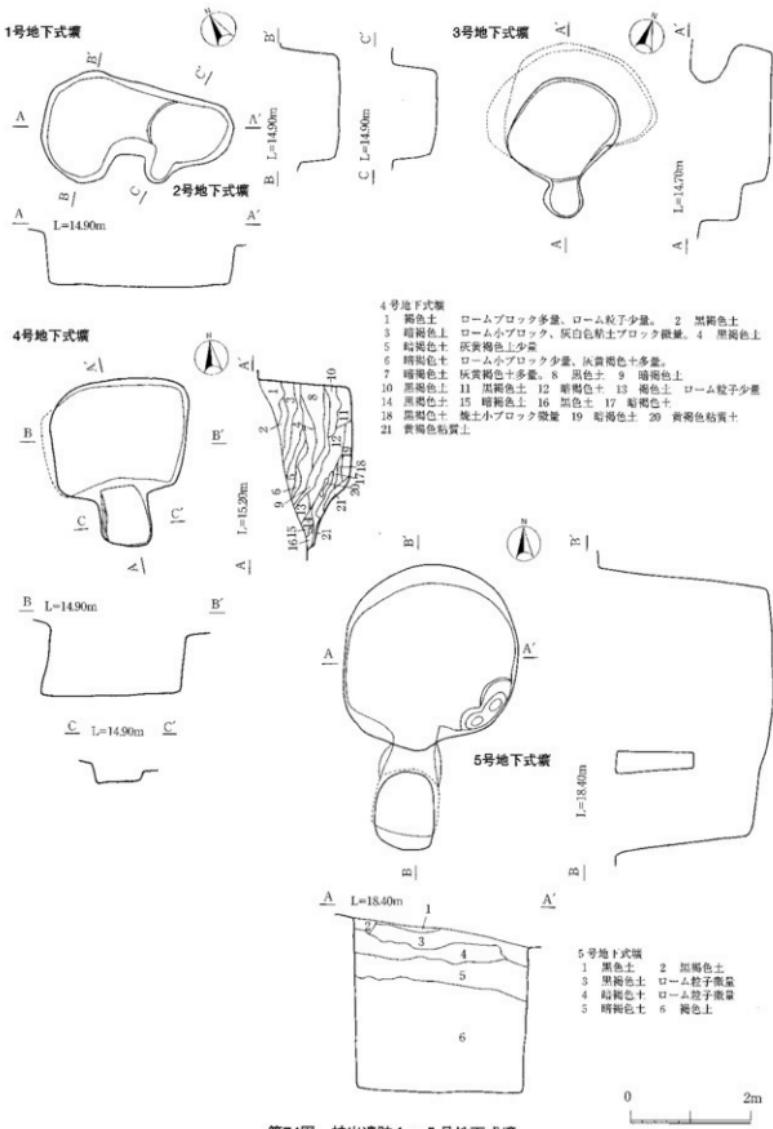
本跡はG8グリッドに位置する。規模は竪坑長軸0.93m、短軸0.69m、主室長軸2.34m、短軸1.53m、深さ1.5m、底面積3.44m²を測る。主軸方位は、N-10°-Wを示す。竪坑と主室には0.65mの高低差があり、竪坑底面は主室に向かって傾斜している。覆土は竪坑の傾斜にそった流入土と天井崩落土、その後の埋没土である。遺物は出土していない。

5号地下式壙（第74図・写真図版17）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は竪坑長軸1.3m、短軸1.08m、深さ2.36m、主室長軸2.74m、短軸2.3m、底面積5.54m²を測る。主軸方位は、N-170°-Wを示す。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

6号地下式壙（第75図・写真図版17）

本跡はG8グリッドに位置する。竪坑が2か所あるが、2基の地下式壙の重複と考えられる。土層断面観察では竪坑から主室を見て、右側の竪坑の主室が左側の竪坑の主室を切っている。よって古い地下式壙を6A号地下式壙、新しい方を6B地下式壙と呼ぶ。規模は6A号が竪坑長軸1.48m、短軸0.54m、深さ0.56m、主室長軸2.3m、短軸1.83mを測る。6B号が竪坑長軸1.0m、短軸0.61m、深さ0.58mを測る。調査中、單独遺構と捉えていたため古くて深い地下式壙の底面の立ち上がり面で東壁の掘り込みを止めていたため規模は不明である。6A号地下式壙の主軸方位はN-168°-Wを示す。6A号地下式壙の竪坑は竪坑の降り口手前部分と主室との間に段差がある。主室と竪坑底面の高低差は0.23mである。6B地下式壙竪坑出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。遺構の埋没に近い時期の遺物としては上師質土器



第74図 神出遺跡1～5号地下式壙

小皿（第102図 No 6）、白磁碗（第98図 No 7）片が覆土から出土している。

7号地下式壙（第75図・写真図版17）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は豎坑長軸0.58m、短軸0.45m、深さ0.32m、主室長軸2.75m、短軸2.0m、底面積5.27m²を測る。主軸方位は、N-169°-Wを示す。豎坑底面は主室に向かって傾斜している。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

8号地下式壙（第75図・写真図版17）

本跡はG8グリッドに位置し、9号地下式壙を掘り込んでいる。規模は豎坑長軸1.0m、短軸0.68m、深さ1.0m、主室長軸3.08m、短軸2.21m、底面積5.28m²を測る。主軸方位は、N-97°-Wを示す。主室と豎坑底面の高差は0.14mである。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

9号地下式壙（第75図・写真図版17）

本跡はG8グリッドに位置し、8号地下式壙に主室の一部を掘り込まれている。規模は豎坑長軸0.71m、短軸0.69m、深さ1.7m、主室長軸3.05m、短軸1.64m、底面積5.02m²を測る。主軸方位は、N-153°-Wを示す。出土遺物は覆土中から縄文土器片、土師器・須恵器小片が出土している。

10号地下式壙（第76図・写真図版17）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は豎坑長軸0.9m、短軸0.7m、深さ0.45m、主室長軸2.61m、短軸1.95m、底面積4.47m²を測る。主軸方位は、N-77°-Wを示す。主室が主軸方向に長い出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

11号地下式壙（第76図）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は豎坑長軸1.94m、短軸0.87m、深さ0.98m、主室長軸2.93m、短軸2.18m、底面積6.51m²を測る。主軸方位は、N-73°-Wを示す。豎坑の降り口手前部分に豎坑底面より0.24m高い段差がある。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

12号地下式壙（第76図・写真図版17）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は豎坑長軸0.7m、短軸0.7m、深さ0.5m、主室長軸1.68m、短軸1.43m、底面積2.06m²を測る。主軸方位は、N-158°-Wを示す。豎坑底面と主室との間に0.5mの段差がある。出土遺物は覆土から内耳鉢（第103図 No 8）、土師質土器小皿（第102図 No 9）古瀬戸平輪（第99図 No 6）が出土している。

13号地下式壙（第76図・写真図版17）

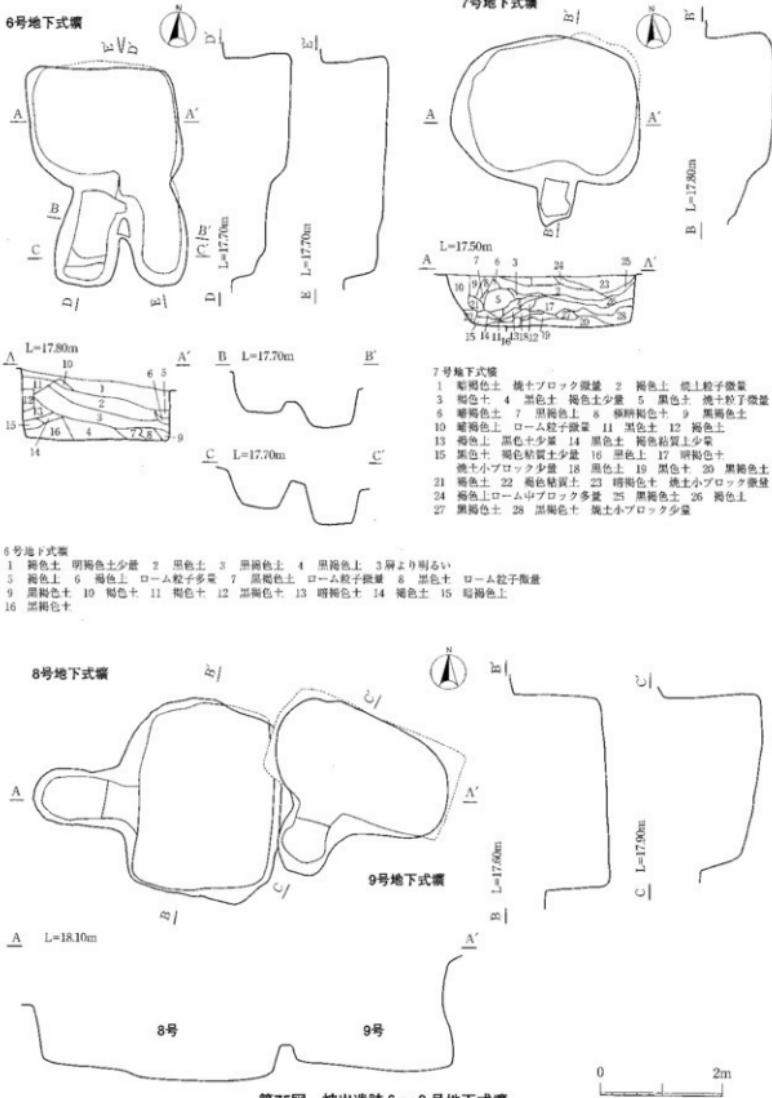
本跡はG8グリッドに位置する。規模は豎坑長軸0.72m、短軸0.68m、深さ0.74m、主室長軸2.04m、短軸2.03m、底面積3.69m²を測る。主軸方位は、N-109°-Wを示す。豎坑底面と主室底面は、ほぼ同じ高さである。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

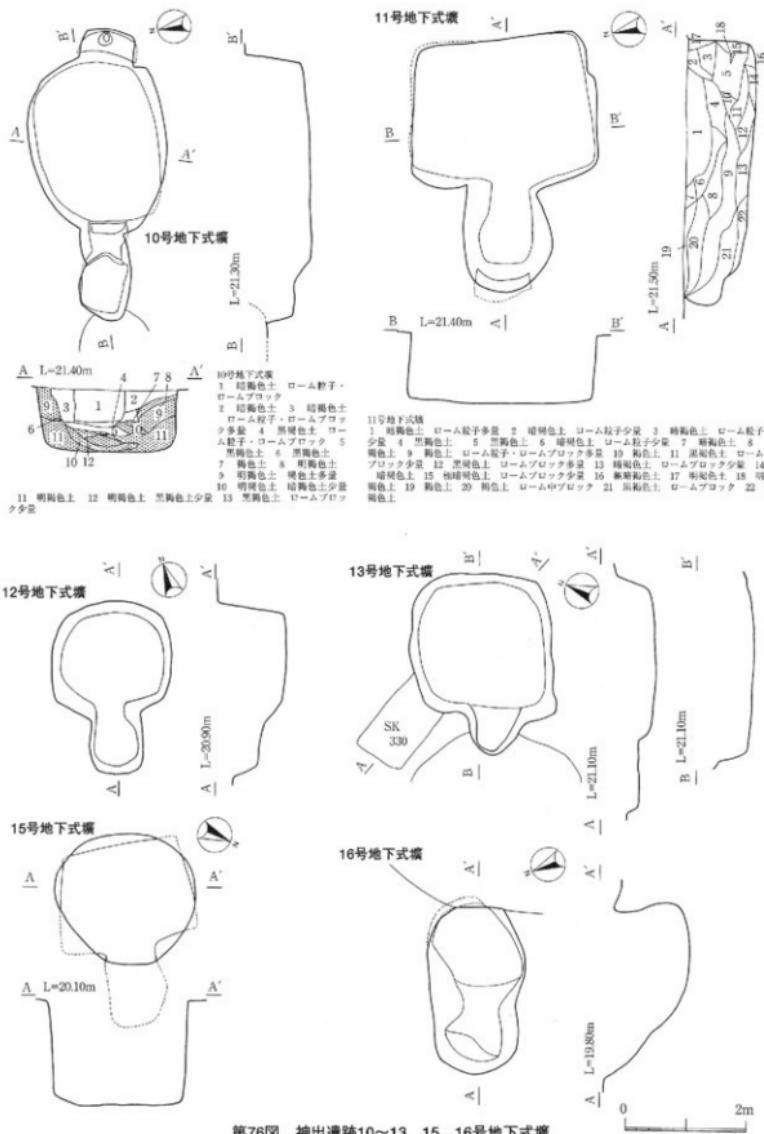
14号地下式壙

本跡はG8グリッドに位置する。規模は長軸2.86m、短軸2.02mを測る。主軸方位は、N-35°-Wを示す。平面不整形である。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

15号地下式壙（第76図）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は豎坑長軸1.2m、短軸0.94m、深さ1.7m、主室長軸2.17m、短軸1.63m、底面積3.46m²を測る。主軸方位は、N-64°-Wを示す。調査当初土坑として調査を行った旧番号は、49号土坑である。出土遺物は土師質土器小皿が2点覆土中から出土している。





第76図 神出遺跡10~13、15、16号地下式櫛

16号地下式壙（第76図）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は堅坑長軸0.92m、短軸0.9m、深さ0.7m、主室長軸1.15m、短軸1.40mを測る。主軸方位は、N-115°-Wを示す。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

17号地下式壙（第77図）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は堅坑長軸0.98m、短軸0.78m、深さ1.5m、主室長軸2.2m、短軸1.83m、底面積3.37m²を測る。主軸方位は、N-27°-Wを示す。堅坑と主室底面は、ほぼ同じ高さである。出土遺物は覆土中層に堅坑から流れ込むようにして大量のヤマトシジミとオオタニシが、その貝層中から土師質土器小皿（第102図No21）や内耳鍋片が出土している。その他に覆土中からは縄文時代から平安時代の土器小片が出土している。

18号地下式壙（第77図・写真図版17）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は堅坑長軸1.23m、短軸0.96m、深さ1.56m、主室長軸2.45m、短軸2.0m、底面積2.90m²を測る。主軸方位は、N-71°-Wを示す。堅坑と主室底面は、ほぼ同じ高さである。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

19号地下式壙（第77図・写真図版18）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は堅坑長軸0.94m、短軸0.56m、深さ0.63m、主室長軸3.43m、短軸1.84m、底面積5.38m²を測る。堅坑底面は、主室底面の同じ高さまで掘り込まれた後、土が入れられ堅坑底面は0.3m程高まりを持っている。堅坑底面と主室の間にもう一段の段差がある。主軸方位は、N-118°-Wを示す。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

20号地下式壙（第77図・写真図版18）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は堅坑長軸1.03m、短軸1.02m、深さ1.56m、主室長軸2.93m、短軸2.48m、底面積7.33m²を測る。主軸方位は、N-137°-Wを示す。覆土は、大きく4層に分層される。上から1層はローム主体の比較的均質な土層でやわらかく埋め戻し土のようである。2層は、粘土や暗褐色土を主体とした小ブロック単位の流入もしくは投げ入れ土層。3層は地下式壙の天井落下土層。4層は堅坑底面に三角堆積した、ロームブロック土層である。堅坑の途中に小さなドーム状の天井の横穴が開いていた。

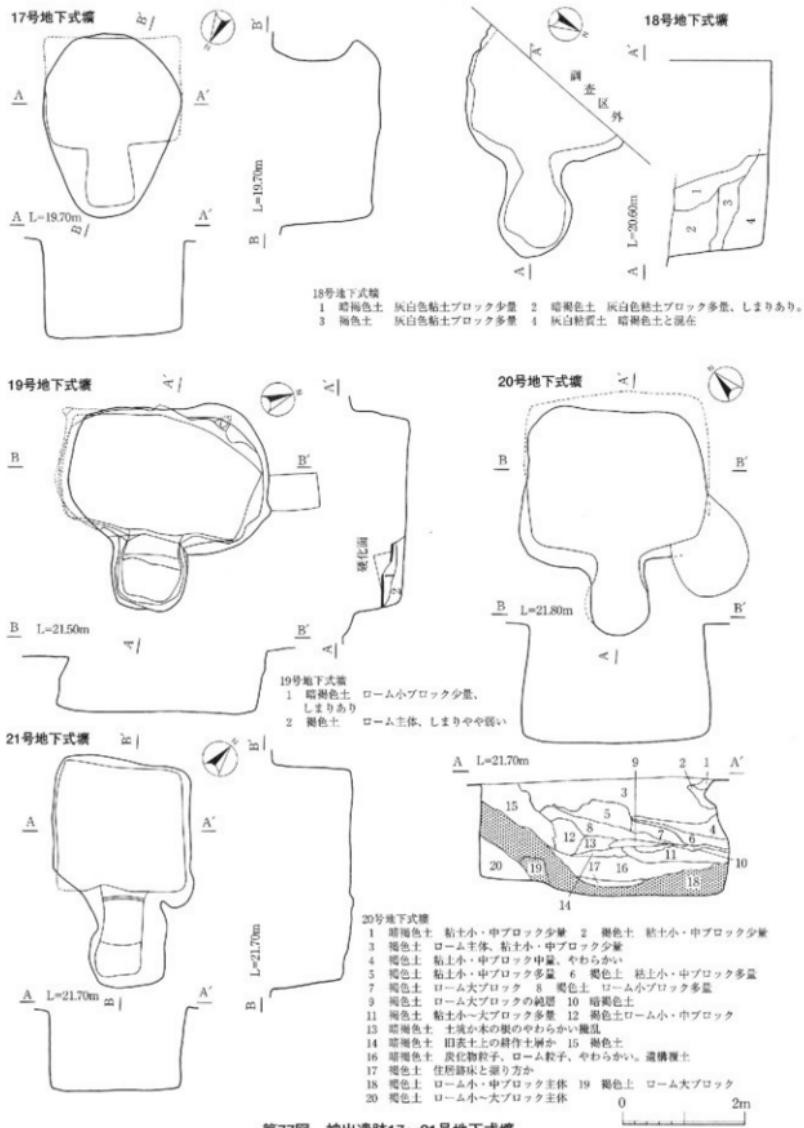


21号地下式壙（第77図・写真図版18）

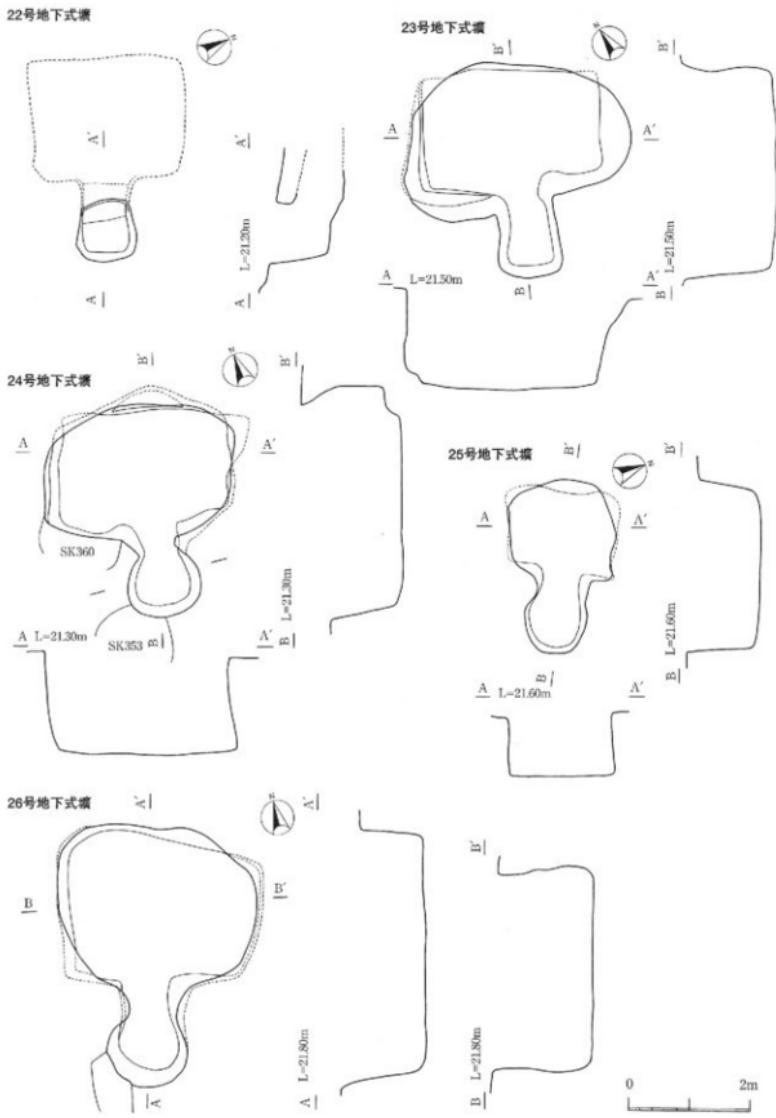
本跡はG8グリッドに位置する。規模は堅坑長軸1.23m、短軸0.73m、深さ1.33m、主室長軸2.2m、短軸2.14m、底面積4.24m²を測る。主軸方位は、N-143°-Wを示す。堅坑と主室底面は、ほぼ同じ高さである。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

22号地下式壙（第78図）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は堅坑長軸0.75m、短軸0.48m、深さ0.98m、主室長軸約2.5m、短軸約2.0m、底面積約4.78m²と推測される。主軸方位は、N-68°-Wを示す。主室は完掘できなかったため主室規模の数値は、上位落ち込み面で推定した数値である。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。



第77図 神出遺跡17～21号地下式構造



第78図 神出遺跡22~26号地下式塚

23号地下式塚（第78図・写真図版18）

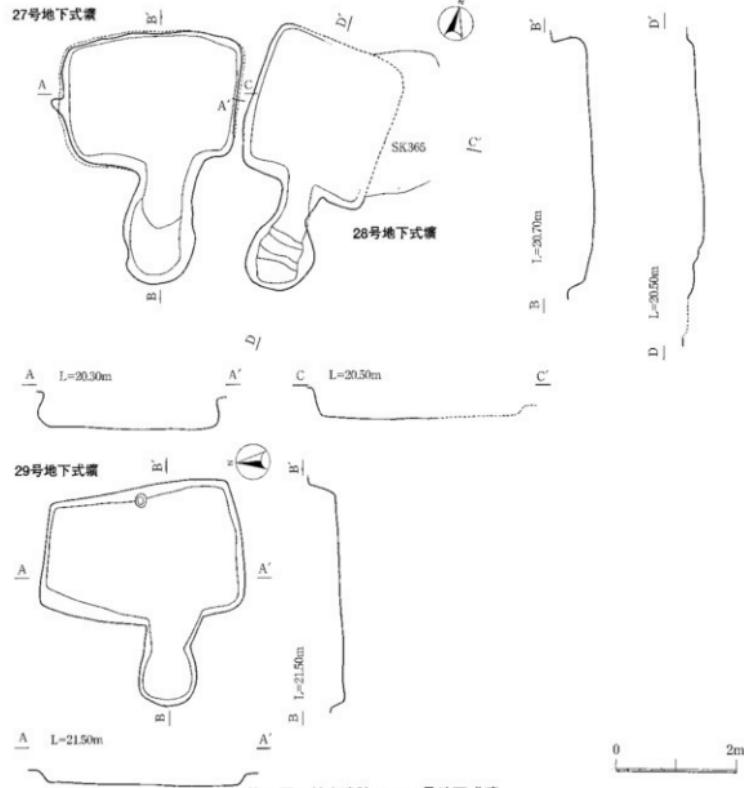
本跡はG 8 グリッドに位置する。規模は堅坑長軸1.1m、短軸0.75m、深さ1.53m、主室長軸2.89m、短軸2.06m、底面積5.31m²を測る。主軸方位は、N-146°-Wを示す。堅坑と主室底面はほぼ同じ高さである。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

24号地下式塚（第78図）

本跡はG 8 グリッドに位置する。規模は堅坑長軸0.90m、短軸0.87m、深さ1.22m、主室長軸2.83m、短軸1.81m、底面積5.20m²を測る。主軸方位は、N-160°-Wを示す。堅坑と主室底面はほぼ同じ高さである。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

25号地下式塚（第78図・写真図版18）

本跡はG 8 グリッドに位置する。規模は堅坑長軸1.0m、短軸0.84m、深さ1.16m、主室長軸1.8m、短軸1.28m、底面積2.30m²を測る。主軸方位は、N-120°-Wを示す。堅坑と主室底面はほぼ同じ高さである。出



第79図 神出遺跡27~29号地下式塚

土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

26号地下式壙（第78図・写真図版18）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は堅坑長軸0.97m、短軸0.9m、深さ1.42m、主室長軸3.12m、短軸2.47m、底面積6.64m²を測る。主軸方位は、N-155°-Wを示す。堅坑と主室底面はほぼ同じ高さである。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

27号地下式壙（第79図・写真図版18）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は堅坑長軸1.28m、短軸0.8m、深さ0.29m、主室長軸2.72m、短軸2.0m、底面積4.94m²を測る。主軸方位は、N-169°-Wを示す。堅坑と主室底面はほぼ同じ高さである。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

28号地下式壙（第79図・写真図版18）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は堅坑長軸1.1m、短軸0.69m、深さ0.32m、主室長軸2.18m、短軸2.1m、底面積4.63m²を測る。主軸方位は、N-175°-Wを示す。堅坑底面は主室に向かって降りる2段の低い階段状になっている。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

29号地下式壙（第79図・写真図版18）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は堅坑長軸0.81m、短軸0.8m、深さ0.22m、主室長軸3.11m、短軸1.90m、底面積5.53m²を測る。主軸方位は、N-87°-Wを示す。堅坑と主室底面はほぼ同じ高さである。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

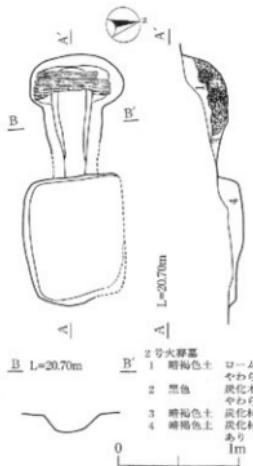
(7) 火葬墓（火葬遺構）

1号火葬墓（第80図・写真図版13）

本跡はJ5グリッドに位置し、3号溝によって一部を掘り込まれている。規模は主土坑が長軸0.7m、短軸0.6m、深さ0.5mを測る。主土坑と直交方向に主土坑の底面よりも0.17m掘り下げて幅0.25m、長さ0.8mの溝を切っている。溝は土坑の壁をくり抜いて外に突出し、溝の先端は方形の土坑と接続している。外の方形土坑の規模は、下端で長軸0.9m、短軸0.7mである。方形の土坑から主土坑を向いた方向を主軸方位とするとき、N-113°-Eである。主土坑の覆土は下層から炭化材層、火葬骨片の極少量混在する暗褐色土層が堆積している。溝や方形の土坑は空気の流入口のあるいは焚き口的な役割か。



第80図 神出遺跡1号火葬墓



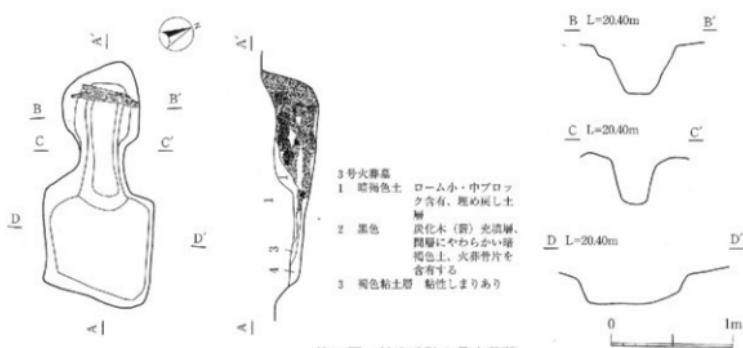
第81図 神出遺跡 2号火葬墓

3号火葬墓 (火葬遺構) (第82図・写真図版13)

本跡は15グリッドに位置する。規模は長軸0.7m、短軸0.66m、深さ0.4mを測る。主土坑と直交方向に主土坑の底面よりも0.30m掘り下げて幅0.21m、長さ1.03mの溝を切っている。溝は土坑の壁をくり抜いて外に突出しているよう、溝の先端は方形の土坑と接続している。方形土坑の規模は下端で長軸0.8m、短軸0.79mでほぼ方形である。主軸方位はN-63°Wである。主土坑、方形土坑とも底面は地山の粘土層が露出している。主土坑の覆土は最下層にぶい褐色粘土の薄い堆積があり、その上に形のくずれた炭化材層、さらに褐色の粘土層をはさんで厚い炭化木の充填層が堆積している。火葬骨片は炭化木の充填層の間隙にやわらかい暗褐色土層が入っておりその中に少量含有されている。火葬骨片の総量は200gを計る。

4号火葬墓 (火葬遺構) (第83図・写真図版13)

本跡はJ7グリッドに位置する。5号火葬墓が本跡の覆土を掘り込んでいる。規模は長軸1.92m、短軸1.03m、深さ0.53mを測る。主土坑長軸中心線上に底面よりも10m低く掘り込んで、幅0.35m、長さ2.5mの

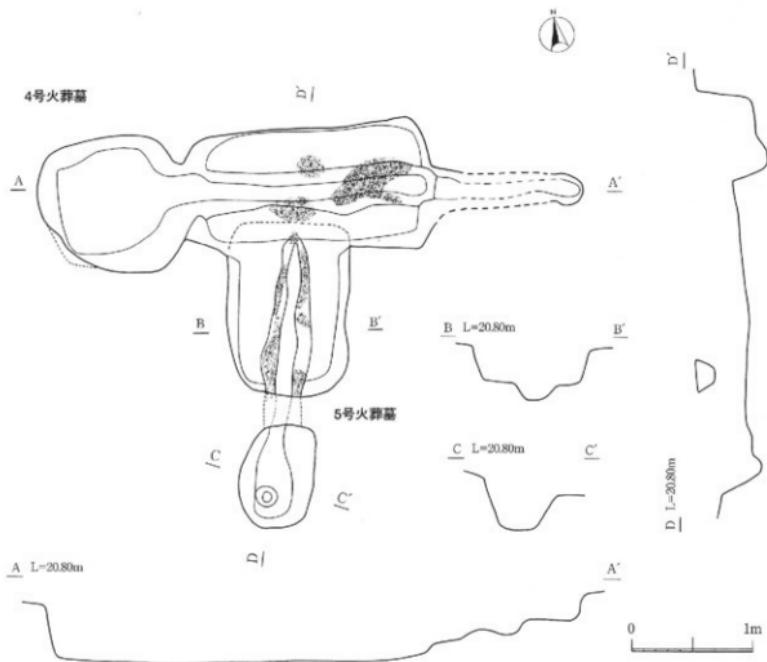


第82図 神出遺跡 3号火葬墓

溝を切っている。主土坑の外に延びた溝の先端の一方は方形の土坑と接続している。もう一方の先端は、主土坑外に0.9m程のびて、0.3m程上がりつており煙道のような役割を果たしているように観察された。土坑内には炭化材層を下層とし、上層にローム主体の埋め戻し土層が堆積している。底面や溝内は著しく赤変、焼土化している。

5号火葬墓（火葬遺構）（第83図・写真図版13）

本跡はJ7グリッドに位置する。4号火葬墓の覆土を掘り込んで構築している。規模は長軸1.5m、短軸0.98m、深さ0.3mを測る。主土坑の長軸方向で土坑の底面よりも低い高さに幅0.3m、長さ2.35mの溝を切り、溝は土坑の南壁をくり抜いて外に1m突出している。外に延びた溝は長軸0.85m、短軸0.62mの方形の土坑と接続している。主土坑底面の溝内壁が著しく焼土化している。



第83図 神出遺跡4・5号火葬墓

6号火葬墓（第84図）

本跡はK8グリッドに位置する。393号土坑によつて掘り込まれており遺存状態が悪く炭化物を含んだ焼土化した落ち込みとして確認された。炭化材片とともに火葬骨片が総重量90g採取され、火葬墓主土坑の一部と判断した。規模は残存全長0.55mを測る。

7号火葬墓（火葬遺構）（第84図・写真図版13）

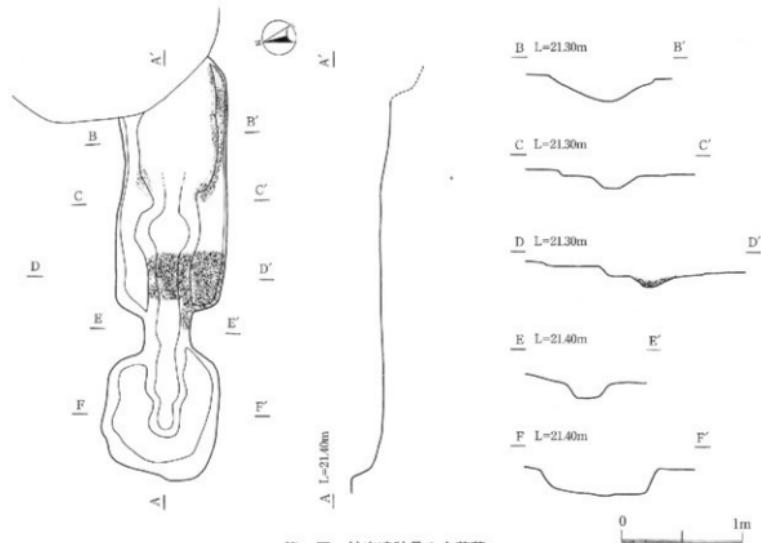
本跡はK8グリッドに位置する。270号土坑によって掘り込まれている。主土坑の規模は長軸0.95m 短軸0.52m、深さ0.09mを測る。土坑と直交方向に土坑の底面よりも低い高さに幅0.34mの溝を切り、溝は主土坑の底面を0.01m程掘り込んでいる。主土坑にくい込んだ溝の内壁から底面が焼土化している。



第84図 神出遺跡6・7号火葬墓

8号火葬墓（火葬遺構）（第85図・写真図版13）

本跡はK7～K8グリッドに位置する。東側の一部を耕作溝によって掘り込まれている。規模は長軸2.1m、短軸0.9m、深さ0.25mを測る。主土坑長軸中心線上に底面よりも約0.01m低く掘り込んで、幅0.35m、残存長2.2mの溝を切っている。主土坑の外に延びた溝の先端は長軸0.85m、短軸0.62mの方形の土坑と接続している。主土坑内には炭化材が堆積しており、底面や溝内は著しく焼土化している。



第85図 神出遺跡8号火葬墓

(8) 溝・道状遺構

本遺跡からは、溝状遺構が9条、道状遺構が6条確認されている。道状遺構としたものは溝の埋没途上に踏みしめられたような硬化面の連続的な検出によって判断したもので、形態的には溝の形態と同一であるが、開発点の呼称に従った。以下に各遺構について詳述する。

1号道（第86図）

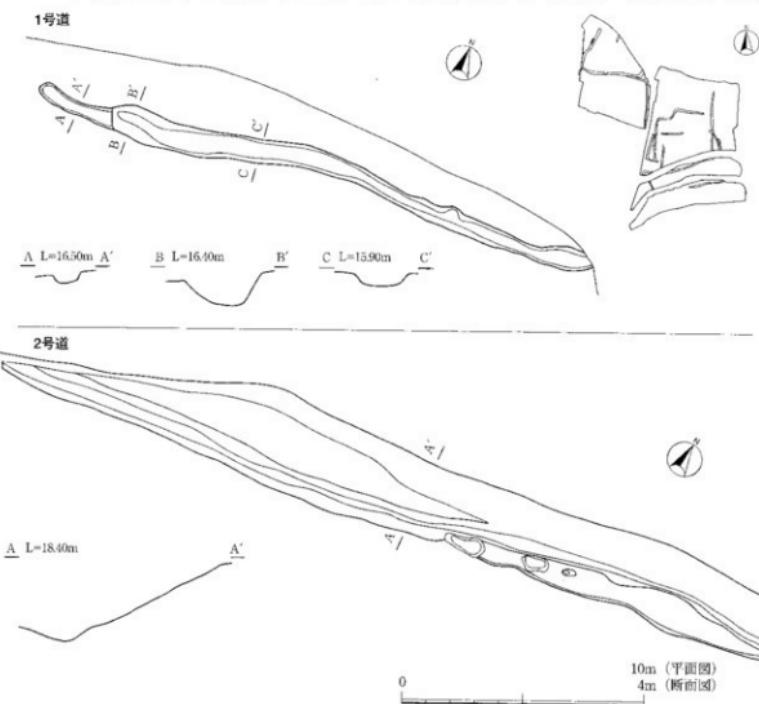
本跡は遺跡南部の標高16.5~15mの傾斜地であり、緩やかに東に傾斜して掘削されている。西端はG7グリッド付近からほぼ東に向かって延び、G9グリッド地点でエリア外に延びている。長さ24m、幅1.1m、深さ0.01m、断面形は逆台字形である。

2号道（第86図・写真図版20）

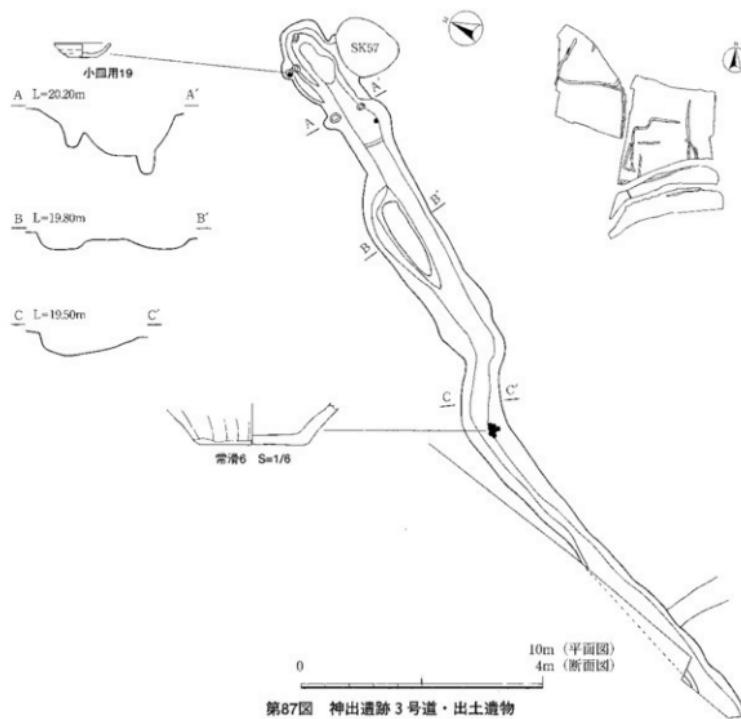
本跡は遺跡南部の南面した緩やかな傾斜地上にあり、等高線に平行しながらわずかに西が高くに東に傾斜して掘削されている。西端はH6グリッド付近からほぼ東に向かって延び、H9グリッド地点でエリア外に延びている。長さ34m、幅1.0~1.5m、深さ0.2m、断面形は浅い皿状である。

3号道（第87図・写真図版20）

本跡は遺跡中央部の南面した緩やかな傾斜地下にあり、等高線に平行して北が高くに南に傾斜して掘削されている。北端はR2グリッド付近からほぼ南に向かって延び、O1グリッド地点でエリア外に延びてしま



第86図 神出遺跡1・2号道



第87図 神出遺跡3号道・出土遺物

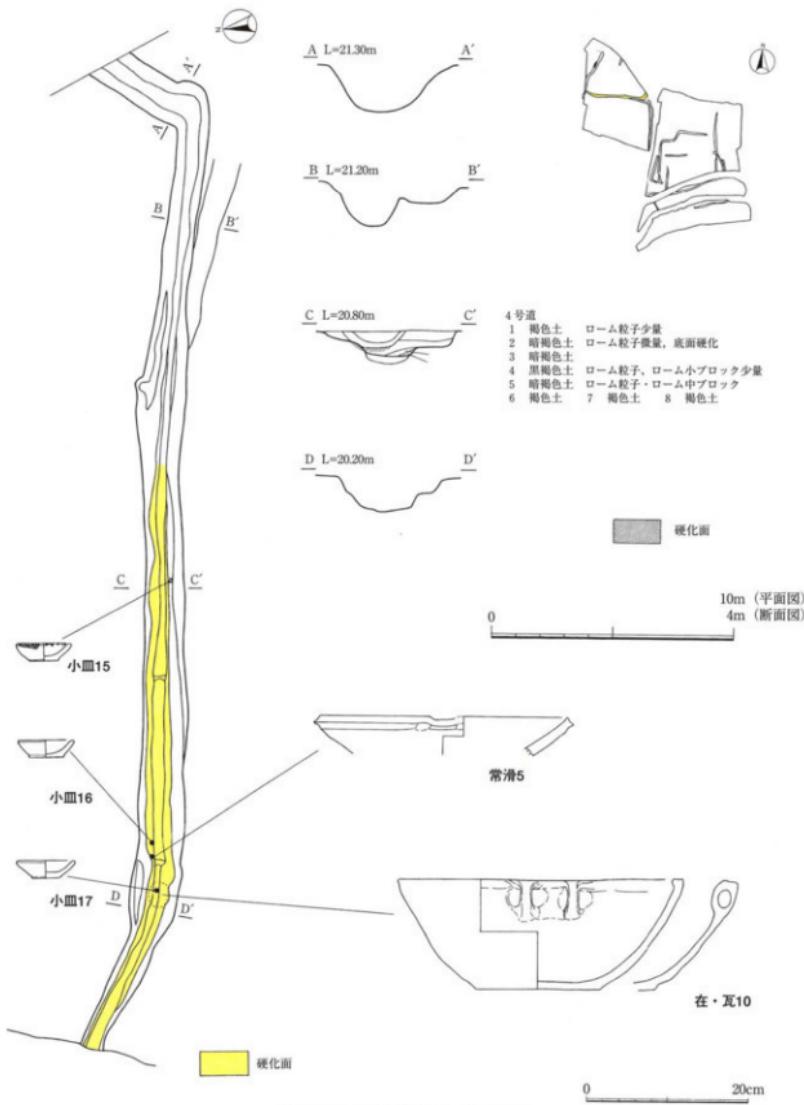
っている。長さ34m、幅0.9~2.4m、深さ0.2~0.6m、断面形は浅い皿状である。出土遺物は、土師質土器小皿（No8,18,19,20）、常滑片口鉢（No2=常滑No6）、古瀬戸平椀片（瀬戸系No3）、内耳鉢片、近世陶磁器片少量が覆土から出土している。

4号道（第88図・写真図版20）

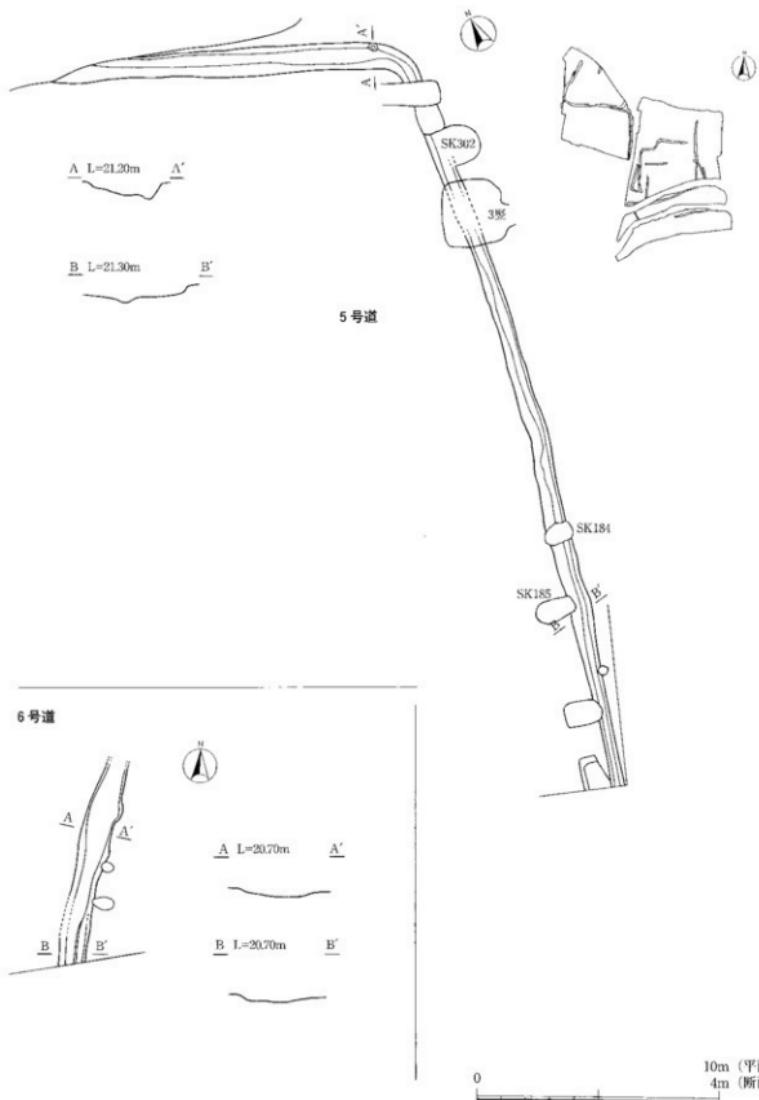
本跡は遺跡西部の西下がりに傾斜した台地緩斜面上にあり、等高線に直交して西下がりに傾斜して掘削されている。東端はM5グリッド付近からほぼ東に向かって延び、O1グリッド地点でエリア外に延びている。長さ41m、幅1.0~1.6m、深さ0.5m、断面形は逆台字形である。5号道がM5グリッド付近から重なってきており覆土の上層を掘り込まっている。出土遺物は内耳鉢（在・瓦No10）、土師質土器小皿（小皿No15・16・17）、常滑片口鉢片（常滑No5）、古瀬戸片、土師質土器の羽笠片、鉄滓等が出土している。

5号道（第89図）

本跡は遺跡中央部にあり、南端はK4グリッド付近から北に向かって延び、N5グリッド地点で西に90°向きを変え、4号道と重なって西に延びている。長さ45m、幅0.5~1.1m、深さ0.2m、断面形は浅い皿状である。出土遺物は近世陶磁器片、土師質土器小皿（No22）が覆土から出土している。



第88図 神出遺跡4号道・出土遺物



第89図 神出遺跡 5・6号道

6号道（第89図）

本跡は遺跡中央部の南面した緩傾斜地上にあり、北が高く南に向かって傾斜して掘削されている。西端はJ5グリッド付近から南に向かって延び、II5グリッド地点でエリア外に延びている。長さ9m、幅1.2m、深さ0.01m、底面が平坦で硬化しており道路として捉えた。4号溝や11号溝とともに柱穴状の小穴群の広がる地域を区画するような位置にある。

1号溝（第90図・写真図版20）

本跡は遺跡南部の南面した緩やかな傾斜地上にあり、北が高く南に向かって傾斜して掘削されている。北端はII4グリッドのエリア外から南に向かって延び、G4グリッド地点で再びエリア外に延びている。長さ6m、幅0.7m、深さ0.01m、断面形は浅い皿状である。

2号溝（第90図）

本跡は遺跡北西部の北下がりの地形上にあり、南端はQ3グリッド付近から北東に向かって延び、R3グリッド地点でエリア外に延びている。長さ6m、幅1.6m、深さ0.3~0.4m、断面形は浅い皿状である。出土遺物は近世陶磁器片、古瀬戸瓶子片、内耳鉢片、龍泉窯系蓮弁文青磁碗片（No3・4）が出土している。

3号溝（第90図・写真図版20）

本跡は遺跡中央部にあり、北端はK5グリッドから南に向かって18m延び、L7グリッドで東に向かって屈曲し1.5m延びて地形の流先でその後は追うことができない。幅1.1~1.3m、深さ0.3m、断面形は逆台形で底面は浅い皿状である。

4・9号溝（第90図・写真図版20）

本跡は遺跡中央部にあり、東端はK9グリッドから西に向かって直線的に19m延び、L7グリッドで南に屈曲し7m、再び西にクランク状に屈曲し9m延び、再度南に向かって屈曲しそのまま南へ28m延びて今度は東へ屈曲し、地形の流先でその後は追うことができない。総延長64m、幅1.6m、深さ約0.5m、断面形は逆台形である。調査時点では4号・9号と別番号を付したが同一の連続した溝である。出土遺物は古墳時代の土師器坏片が多く、古瀬戸梅瓶小片、近世陶磁器片が出土している。

5号溝（第91図・写真図版20）

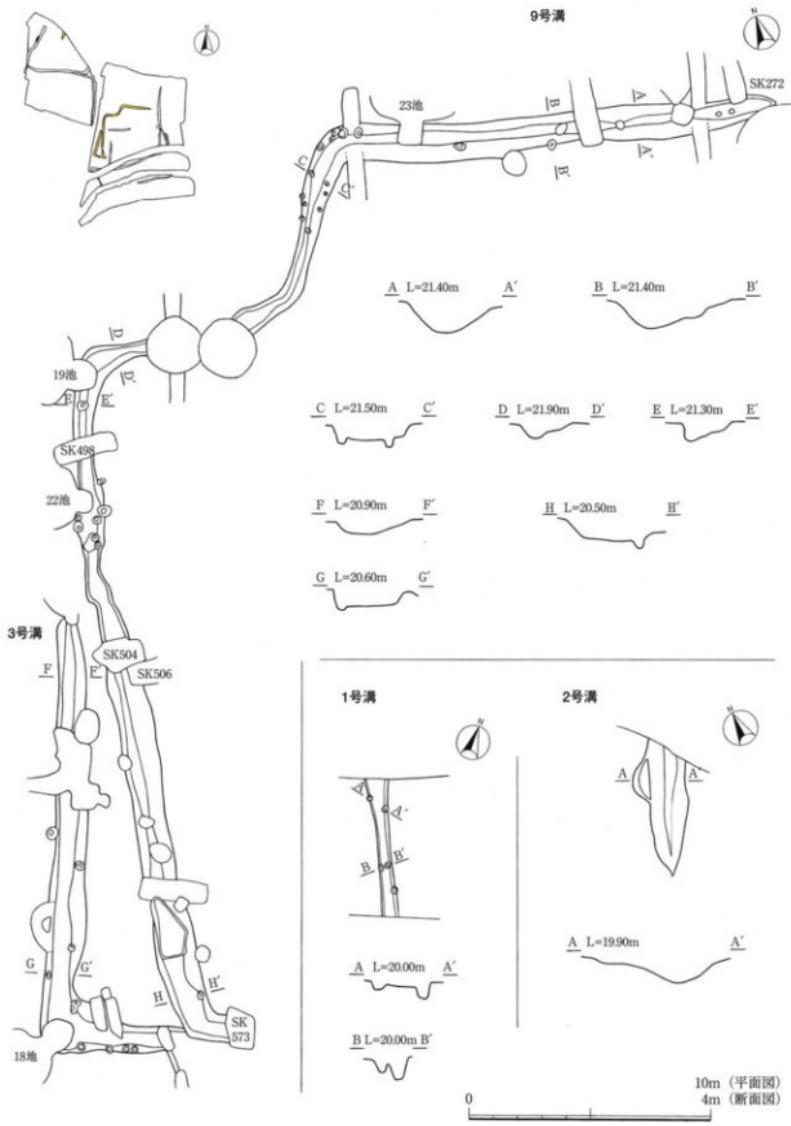
本跡は遺跡中央部にあり、東端はJ9グリッドから西に向かって37m延び、J5グリッドから先の接続は不明である。多くの土坑や地下式壙に掘り込まれている。幅0.6~1.2m、深さ約0.01m、断面形は浅い皿状である。

10号溝（第91図・写真図版20）

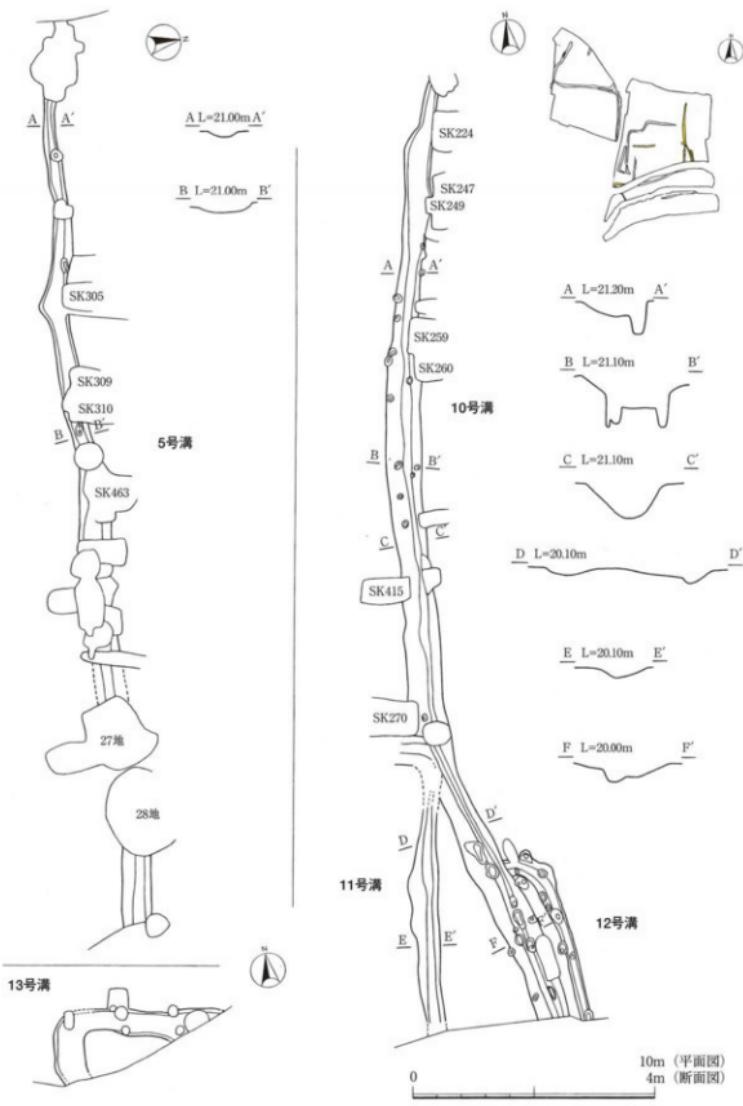
本跡は遺跡東部にある南北方向に延びる溝で、東西方向に延びる台地の尾根状地形を分断している。北端はM9グリッド付近からはば南に向かって延び、I9グリッド地点で刺柵エリアの外に延びている。北端は自然の傾斜地形で流失してしまっている。長さ39m、幅0.5~1.4m、深さ0.6m、断面形は「V」状で、時期不明の長方形土坑によって何か所も掘り込まれている。出土遺物は近世陶磁器片や磁石片が出土している。

11号溝（第90図）

本跡は遺跡中央部の南側の平坦面上にあり、南に緩やかに傾斜して、I9グリッド地点で調査エリアの外に延びている。北部は削平を受けているものの、5号溝と接続しているように地山の汚れた範囲が観察された。長さ9m、幅0.6~0.9m、深さ0.3m、断面形は浅い皿状である。出土遺物は近世陶磁器片や常滑片（No8）、古瀬戸片が出土している。



第90図 神出遺跡 1~4、9号溝



第91図 神出遺跡 5、10~13号溝

12号溝（第91図・写真図版20）

本跡は遺跡中央部の緩やかな傾斜地の東端にあり、北が高く南に緩やかに傾斜して掘削されている。北端はJ9グリッド付近から南南東に向かって延び、19グリッド地点で調査エリア外へ延びて、10号溝と接続している。長さ7.5m、幅0.4~0.8m、深さ0.1m、断面形は浅い皿状で、時期不明の長方形土坑や火葬墓によって掘り込まれている。4号溝や11号溝とともに柱穴状の小穴群の広がる地域を区画するような位置にある。

13号溝（第91図）

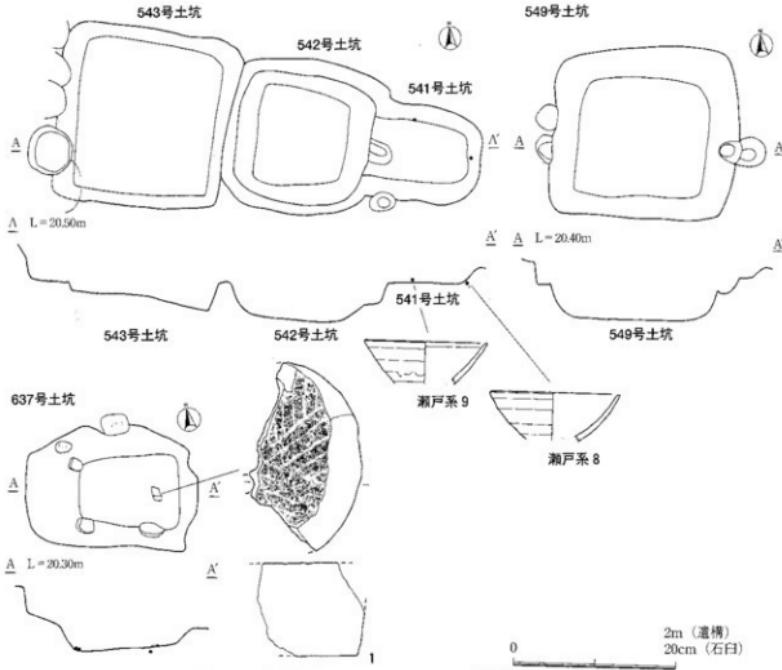
本跡は遺跡南西部、H4グリッドにある。長さ東西方向7m、南北方向3m、幅1m、深さ0.02m、断面形は浅い皿状である。

（9）土坑

本遺跡からは、総数670基余りの土坑が確認・調査されている。その中で形態や切り合ひ関係、覆土の状態、出土遺物等から、中世に所属すると判断された土坑についてまず図を掲載し、その他の時期のはっきりしていないものについては土坑を形態別に分類し、その中から代表的な例を掲載することとする。なお、土坑の規模や覆土中の遺物等については土坑一覧表を参照いただきたい。

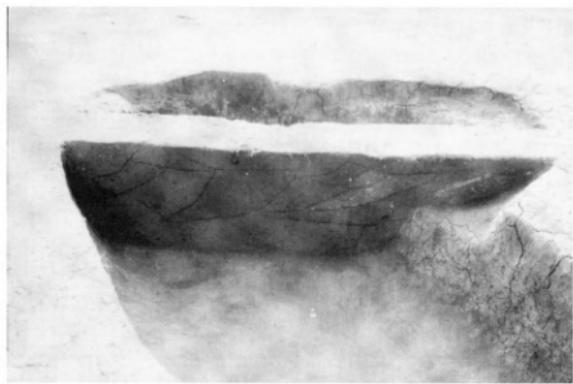
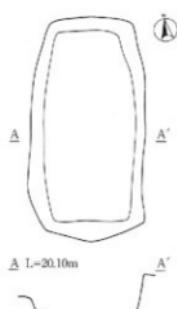
中世の方形土坑（第92図・第4表・写真図版15・16）

541号土坑は底面から古瀬戸平椀片（No8-9）が出土している。542号土坑からも古瀬戸碗片が出土し、形態や覆土の点からも類似している。543号土坑も方形で50cmを越える掘り込みというように、このページの

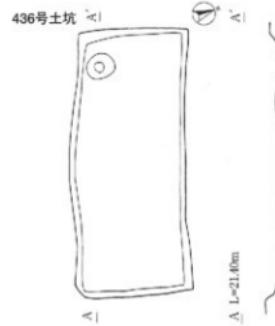
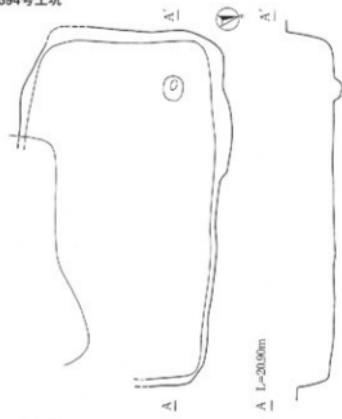


第92図 神出遺跡541~543、549、637号土坑・出土遺物

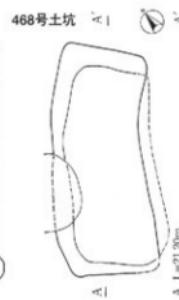
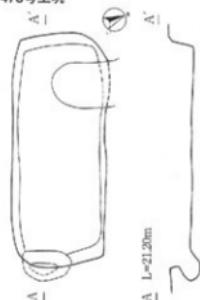
68号土坑



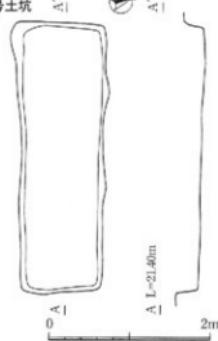
394号土坑



478号土坑



435号土坑



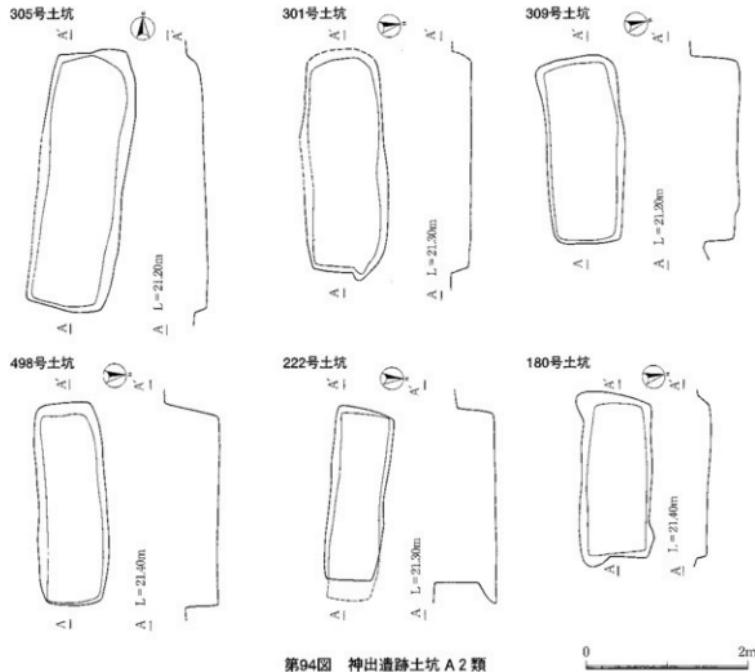
第93図 神出遺跡土坑A1類

図に掲載した土坑は時期や性格が限定できそうな土坑である。637号土坑からは、石臼片と板状の筑波石が出土しているが、板状の石は平坦な面上に円形に平滑に整形した痕跡が残っており、礎石もしくは9号掘立柱遺物跡で使われているような礎盤石の廃棄されたものの可能性がある。石臼は区画が六分割、副溝5~6本、ふくみがないので下白である。時期的には古瀬戸の平椀等が15世紀代の遺物であり、15世紀後半頃の年代が推測できる。

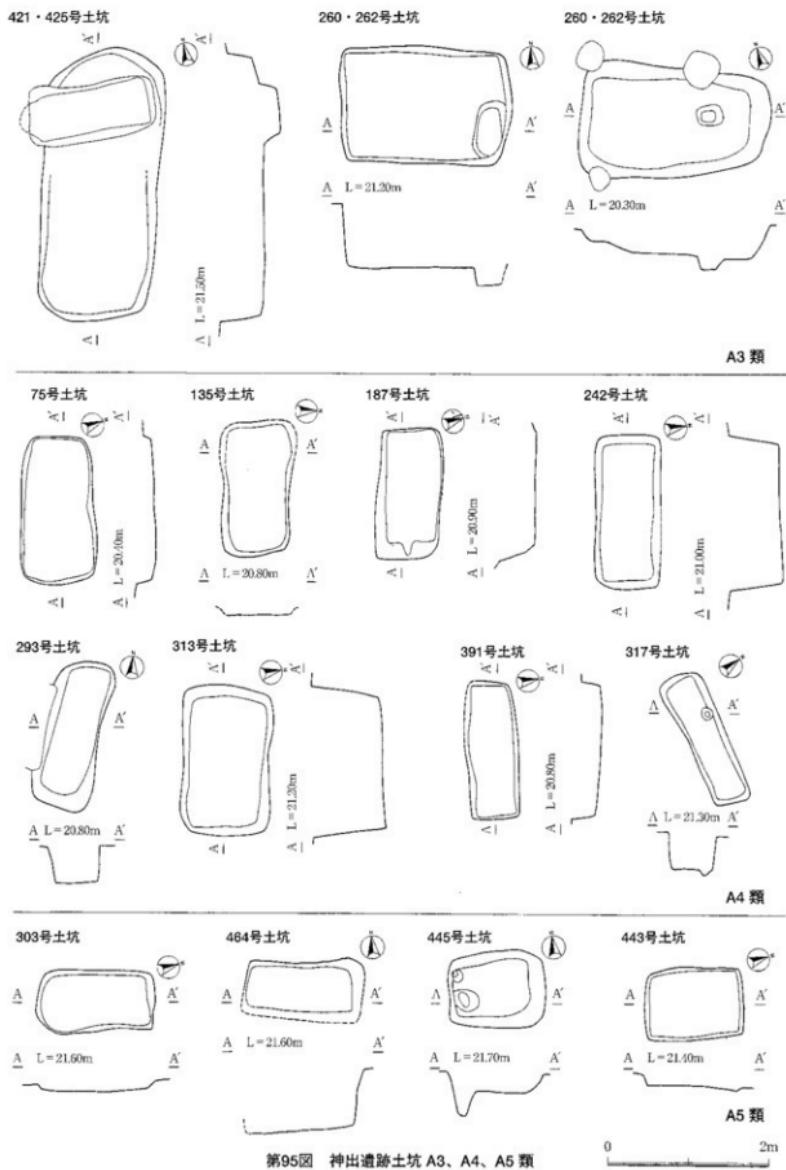
その他の土坑（第80図・第4表・写真図版16）

その他の土坑とは、古墳時代～平安時代の土坑を除いた、邊構にともなう出土遺物に乏しいものを対象とした。これらの大部分は切り合い関係から見て中世以降の時期になると考えられるものが多い。分類は、平面形と規模から行った。平面形態から、円形のものと長方形の2種類に分かれる。それぞれの中で大きいものから小さいものまで数値を限って規模別に分けた。以下は土坑の分類基準である。

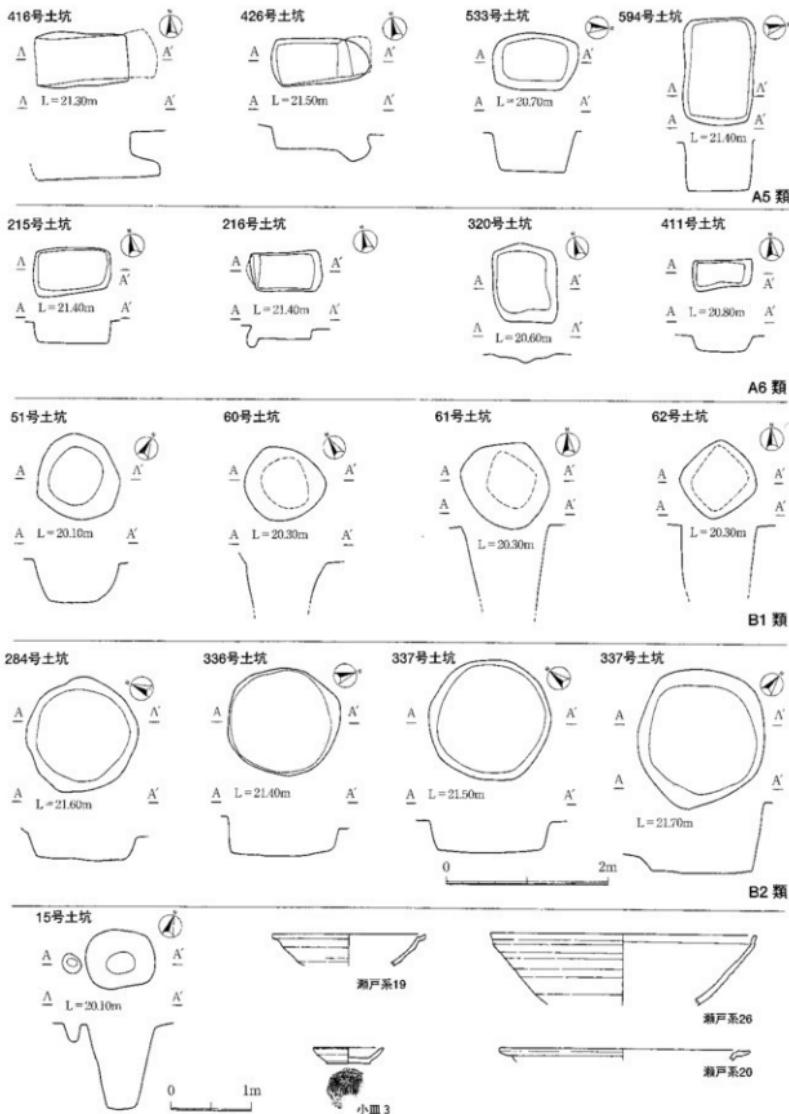
- A1 長方形で長さ3m以上、巾1m以上のもの。（第93図）
- A2 長方形で長さ2m以上、巾1m以上のもの。（第94図）
- A3 長方形で長さ2m以上、巾1m以下のもの。（第95図）
- A4 長方形で長さ1.5~2mのもの。（第95図）
- A5 長方形で長さ1.5~1mのもの。（第95・96図）
- A6 長方形で長さ1m以下のもの。（第96図）



第94図 神出遺跡土坑A2類



第95図 神出遺跡土坑 A3、A4、A5類

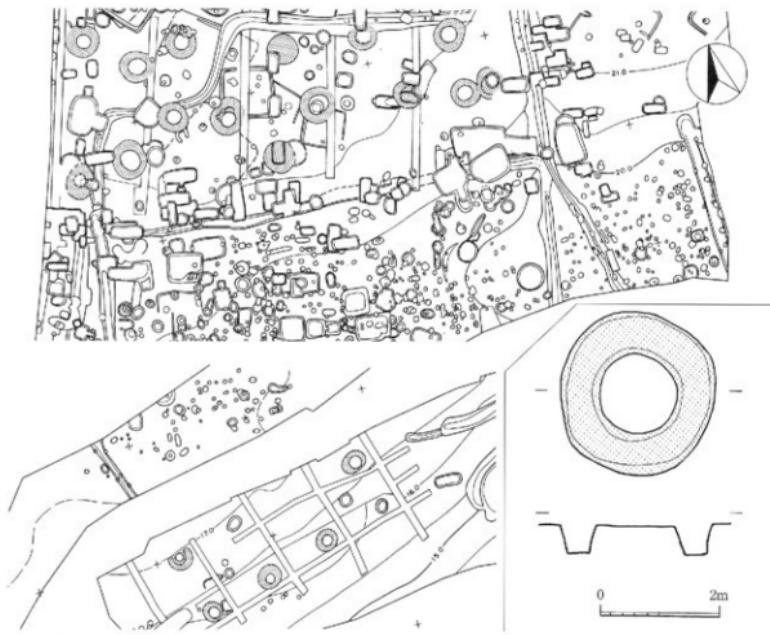


第96図 神出遺跡土坑 A5、A6、B1、B2 類、15号土坑・出土遺物

B1 円形で直径1.4m以上のもの。(第96図)

B2 円形で直径1.4m以下のもの。(第96図)

以上の土坑は時期・性格が不明なものがほとんどであるが、円形のB2類のタイプで人骨片が出土しているものがあり、このタイプの中には墓壙の可能性のあるものもある。B1類の中で555・171号土坑からは古墳時代6世紀初頭前後の時期の遺物が出土しており、大形で円筒形土坑の中にはこの時期の屋外貯蔵施設的な性格の予測されるものも含んでいる。長方形A類については中世の遺構を掘り込んでいるものが多く、A4類に属する146号土坑からは近代の軍関係のバッヂ状金屬製品、A5類の658・659号土坑からは6枚ずつ寛永通宝が出土している。658号土坑のものは初鑄年1636年の古寛永4枚、1668年からの寛永通宝の文鏡2枚であり、1668年以降の年代が考えられる。659号土坑のものは6枚とも新寛永で1697年以降の年代が考えられる。A6類の中の63号土坑からは永樂錢とともに古瀬戸削し皿片、瀬戸・美濃天目碗が出土しており16世紀以降の年代が考えられる。つまり長さが1.5m以下の長方形土坑の中には江戸時代の墓壙になるものや、1.5~2.0mの長方形土坑の中には近代の土坑になるもの、径1.4以下円形土坑の中には時期不明であるが骨を残存させるような条件の墓壙があるということがわかる。その他にも近現代において畑内にぶどう棚を作る際に掘られるコンクリート支柱穴や、樹木周囲に掘られた径約2.5mのリング状の溝(第97図参照)が遺跡中央部と南部の斜面上で等間隔に20数箇所確認された。



第97図 神出遺跡近・現代の果樹園跡

第4表 神出遺跡土坑一覧表(1)

番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ(m)	出 土 遺 物 そ の 他
1	F - 5	不整長方	1.80×0.60×0.05	
2	F - 5	不整長方	1.15×0.95×0.15	
3	G - 6	方 形	0.09×0.09×0.25	
4	F-G - 6	円 形	0.09× - ×0.20	
5	G - 7	長方形	2.10×0.75×0.35	
6	G - 8	楕円形	1.28×0.82×0.61	
7	G - 9	長方形	1.50×1.30×0.65	須恵器甕、高杯、瓶(平安)、繩文片
8	G - 9	不整長方	1.20×1.01×0.15	
9	G - 9	不整長方	2.10×1.80×0.21	須恵器甕(平安)
10	G - 9	長方形	2.00×0.90×0.24	繩文-土師器片(平安)
11	G - 1 0	隅丸長方	1.05×0.70×0.20	内耳鏡片
12	G-F - 10	不整円形	0.80×0.52×0.21	
13	G - 4	隅丸長方	0.80×0.45×0.11	
14	H - 5	楕円形?	(1.24)×1.12×0.58	
15	G - 5	円 形	0.87×0.73×1.00	かわらけ、常滑片、古瀬戸片、内耳鏡片、刀子、茶臼片
16	H - 5	円 形	1.60× - ×0.70	内耳鏡片、古瀬戸綠釉皿
17	H - 5	楕円形	0.90×0.72×0.30	
18	G - 6	不整円形	0.70× - ×0.20	
19	H - 7	楕円形	0.90×0.70×0.33	土師器、須恵器(平安)片、須恵器口縁片(古墳)
20	G-H - 7	長楕円形	0.90×0.50×0.15	土師器細片、繩文土器片
21	H - 7	長楕円形	1.32×0.55×0.20	繩文土器片(前期)
22	-	楕円形	0.90×0.60×0.20	
23	H - 7	長楕円形	0.45×0.25×0.20	
24	H - 7	方 形	0.60×0.42×0.20	
25	H - 7	長楕円形	2.00×0.80×0.20	土師器坏(古墳)
26	H - 7	隅丸長方	1.15×0.90×0.15	かわらけ、内耳鏡片
27	H - 7	楕円形	0.75×0.55×0.30	
28	H - 7	楕円形	0.55×0.40×0.05	
29	H - 7	楕円形	0.60×0.44 0.25	
30	H - 7	楕円形	0.70×0.50×0.30	
31	H - 7	不整方形	0.35× - ×0.20	
32	H - 7	隅丸長方	1.20×0.95×0.25	
33	H - 7	不整形	1.70×0.52× -	土師器細片(古墳)
34	H - 8	不整形	1.02×0.79×0.12	
35	H - 8	不整円形	1.07×0.84×0.38	
36	H - 8	楕円形	0.60×0.50×0.09	
37	H - 10	円形?	2.14×(1.35)×0.32	土師器片(平安)
38	H - 10	楕円形	0.73×0.69×0.17	
39	H - 10	楕円形	0.89×0.73×0.23	常滑鉢、繩文片、土師器・須恵器細片(平安)
40	H - 10	円形	0.75×0.65×0.45	繩文、土師器細片
41	H - 10	楕円形	(1.16)×0.87×0.18	繩文土器片、土師器網片(古墳)
42	H - 10	円形	0.48×0.44×0.27	繩文土器小片(前期)、土師器小片(平安)
43	-	楕円形?	2.23×1.25× -	繩文土器片(阿玉台)、須恵器片(平安)
44	R - 2	方 形	(1.48)×(1.43)×0.15	
45	R - 2	不整形	(1.90)×(1.90)×0.18	
46	Q - 2	方 形	1.84×(1.80)×0.10	
47	Q - 2	楕円形	1.85×(1.90)×0.12	内耳鏡片
48	Q - 2	長方形	1.87×0.71×0.13	
49	Q - 2		3.14×2.28×0.70	かわらけ、内耳鏡片、15号地下式棗に変更
50	Q - 3	楕円形	0.78×0.31×0.14	
51	Q - 3	円 形	1.03×1.01×0.52	
52	Q - 3	方 形	0.63×0.61×0.14	
53	Q - 3	円 形	0.47×0.41×0.15	
54	P - 2	楕円形?	1.39×1.31×0.74	
55	P - 2	楕円形	1.56×1.40×1.25	

神出遺跡土坑一覧表（2）

番号	位位置	平面形	長軸×短軸×深さ(m)	出土遺物その他
56	P-2	楕円形	1.09×0.78×0.32	
57	Q-3	不整形	2.46×2.35×1.30	内耳銅片
58	P-3	楕円形	0.88×0.47×0.10	
59	O-3	長円形?	0.90×0.94×	60号土坑に切られている。
60	O-3	円形	0.96×0.94×	
61	O-3	円形	1.10×1.05×	
62	O-3	正方形	0.87×0.82×	
63	O-3	円形	0.70×0.55×0.20	瀬戸御し皿、土師器細片
64	O-3	円形	0.98×0.96×0.46	
65	O-3	隅丸長方	1.51×0.77×0.42	
66	P-4	正方形	1.22×0.96×0.50	
67	P-4	不整形	(0.52)×1.34×0.25	須恵器体部片（平安）、68号土坑に切られている。
68	P-4	長方形	2.78×1.42×0.59	
69	P-4	正方形	1.04×0.88×0.36	焼瓦片
70	O-2	隅丸長方	1.35×0.75×0.26	
71	O-2		1.56×1.28×1.50	内耳銅片、かわらけ、17号地下式櫛に変更
72	O-2		2.30×1.92×1.60	須恵器体部片
73	O-2	円形	2.05×1.95×1.55	土師器・須恵器片、内耳銅片？
74	N-3	長方形	2.64×0.87×0.20	土師器小片
75	N-3	長方形	1.84×0.94×0.25	
76	N-3	不整形	(1.00)×1.03×0.06	二枚貝（しじみ）、内耳銅片
77	N-3	不整形	0.85×0.61×0.10	
78	N-3	楕円形	1.16×0.83×0.31	土師器片（古墳・平安）
79	N-3	楕円形	0.73×0.40×0.22	瓦質土器小片
80	O-3	楕円形	0.89×0.61×0.31	
81	O-3	楕円形	0.94×0.56×0.28	
82	O-3	楕円形	1.10×0.60×0.23	
83	N-3	円形	0.45×0.43×0.16	
84	N-4	長方形	1.51×0.64×0.37	
85	O-4	楕円形	0.62×0.43×0.85	土師器坏（古墳）
86	O-4	円形	0.72×0.62×0.20	
87	O-4	方形	0.72×0.68×0.39	土師器坏、甕、高坏（古墳）、砥石、
88	N-4	長方形	0.88×0.62×0.21	土師器坏、甕、高坏（古墳）
89	N-4	隅丸長方	1.38×0.63×0.47	
90	N-4	方形？	-×1.76×0.22	
91	N-4.5	円形	2.10×2.00×0.25	土師器片（古墳）、古式須恵器片
92	N-5	長方形	0.66×0.50×0.21	土師器坏（古墳）
93	N-4.5	不整形	1.68×1.20×0.49	土師器片（古墳）
94	N-5	長方形	1.21×0.63×0.16	
95	N-5	円形	1.70×1.53×0.24	
96	N-2	楕円形	1.48×1.22×0.17	
97	N-2	楕円形	0.98×0.77×0.14	
98	M-2	不整形	1.00×0.96×0.16	内耳銅片、土師器片（古墳）
99	M-2	長方形	2.47×1.93×0.25	
100	L-1	長方形	2.48×1.53×0.80	
101	L-2	楕円形	1.18×1.00×0.32	土師器細片（古墳・平安）
102	L-2	円形	0.43×0.39×0.15	瀬戸碗、栗付碗（近世）
103	L-3	不整形	1.35×0.75×0.54	
104	L-3	楕円形	1.07×0.72×0.94	
105	L-3	楕円形	0.97×0.72×0.78	土師器片（古墳～平安）、須恵器（平安）
106	L-3	円形	0.59×0.35×	赤彩陶（古墳）
107	M-3	小整形	1.88×0.97×0.10	土師器小片（古墳）
108	M-3	楕円形	0.91×0.59×0.43	
109	M-3	長方形？	0.74×0.63×0.33	土師器小片（古墳）
110	M-3	円形	0.59×0.52×0.87	土師器坏、土玉（古墳）

神出跡土坑一覧表 (3)

番号	位	面	形	長軸×短軸×深さ(m)	出土 遺物 その他の
111	N - 2		正方形	1.58×1.56×0.20	かわらけ片
112	M - 3		楕円形	0.55×0.53×0.20	
113	M - 3		不整形	1.63×0.86×0.19	
114	M - 3		楕円形	0.88×0.37×0.11	
115	M - 3		楕円形	0.43×0.34×0.16	
116	M - 3		円 形	0.63×0.57×0.29	
117	M - 3		円 形	1.10×1.03×0.35	
118	M - 3		円 形	0.57×0.56×0.43	
119	L - 3		楕円形	1.05×0.97×0.10	
120	M - 3		円 形	1.00×0.90×0.40	土師器壺体部片 (古墳)
121	L - 3		楕円形	2.02×0.85×0.10	土師器片 (平安)
122	L - 3		楕円形	1.88×0.45×0.07	土師器系切り底坏片、壺体部片 (平安)
123	M - 3		長方形	1.06×0.74×0.20	かわらけ
124	M - 3		長方形	0.97×0.61×0.15	土師器壺体部小片
125	M - 3		長方形	0.90×0.68×0.22	土師器・須恵器小片 (平安)
126	M - 3・4		隅丸長方	1.44×0.90×0.38	土師器細片、近世陶磁器細片
127	M - 4		長方形	1.50×0.75×0.32	土師器細片、近世陶磁器細片
128	-		-	-	
129	M - 3		隅丸長方	1.00×0.58×0.19	
130	M - 3		楕円形	1.00×0.66×0.26	瀬戸焼、土師器坏片 (古墳)
131	M - 4		長方形	1.38×0.75×0.15	
132	M - 4		長方形	0.92×0.64×0.15	
133	M - 4		長方形	1.90×0.72×0.39	
134	M - 4		長方形	1.33×1.22×0.17	
135	M - 4		長方形	1.95×0.82×-	
136	M - 3		隅丸長方	0.83×0.79×0.11	
137	M - 4		不整形	1.57×1.32×0.22	
138	M - 4		正方形	1.08×0.77×0.20	
139	N - 4		円 形	0.86×0.74×0.50	
140	M - 4		長方形	1.45×0.72×0.12	近世陶磁器片
141	N - 4		不整形	1.92×1.75×0.16	近現代瓦片
142	N - 4		不整形	1.64×0.33×0.20	
143	M - 4		楕円形	1.25×0.70×0.50	土師器ミニチュア壺
144	M - 4		不明	0.65×0.60×0.58	土師器細片 (古墳)
145	N - 4		楕円形	2.02×1.03×0.66	
146	N - 4		長方形	1.39×0.88×0.59	海軍関係バッヂ (近代) 近代の墓坑か
147	M - 4		長方形	1.42×0.94×0.22	
148	M - 4		長方形	2.20×0.89×0.28	内耳錦片、近世陶磁器片、古瀬戸片
149	M - 4		方 形	1.00×0.38×0.74	土師器 (古墳)
150	M - 4		方 形	1.30×1.22×1.06	近世陶磁器片
151	-		-	-	土師器繩片 (平安)
152	M - 4		隅丸長方	1.93×1.12×0.68	近世瀬戸、不明土製品
153	-		-	-	
154	L - 3		楕円形	1.14×0.88×0.18	
155	L - 4		不整形	1.47×0.92×0.10	土師器細片 (平安)
156	L - 4		円 形	0.98×0.84×0.76	
157	K - 4		長方形	1.34×0.78×0.16	土師器細片 (古墳)
158	K - 4		長方形	1.36×0.74×0.17	近世陶磁器片 (光明町)
159	K - 4		不整形	1.50×0.96×0.14	土師器壺片
160	K - 4		正方形	0.44×0.38×0.22	土師器細片 (古墳)、かわらけ、輕石片
161	K - 4		円 形	0.95×0.91×0.50	
162	K - 5		不整形	1.54×1.46×0.34	土師器細片 (古墳)、貝 (オオタニシ)
163	K - 5		不整形	1.00×0.52×0.77	土師器壺、椀、ミニチュア壺・脚台 (古墳)
164	L - 5		円 形	1.21×1.08×0.34	かわらけ
165	L - 5		正方形	0.51×0.48×0.58	

神出遺跡土坑一覧表(4)

番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ(m)	出 土 漢 物 そ の 他
166	L-5	長方形	0.97×0.52×0.36	土師器坏、楕、須恵器壺体部片(古墳)
167	L-5	楕円形	0.65×0.39×0.27	土師器細片(平安)
168	L-5	円 形	0.99×0.93×0.08	土師器壺片(古墳)
169	M-5	楕円形	0.92×0.68×0.14	
170	M-5	円 形	1.10×1.06×0.11	土師器細片(古墳、平安)
171	M-5	円 形	1.61×1.42×0.22	
172	M-5	楕円形	0.80×0.46×0.14	土師器坏、壺片(古墳)
173	M-6	長方形	0.97×0.71×0.47	
174	M-6	隅丸長方	1.43×0.78×0.71	
175	M-6	長方形	1.10×0.74×0.45	近世陶磁器、土師器細片
176	M-6	長方形	1.88×0.76×0.40	内耳鏡片
177	M-6	長方形	1.21×0.92×0.38	
178	M-6	円 形	0.60×0.57×0.65	
179	L-5	円 形	0.58×0.54×0.22	
180	L-5	長方形	2.00×0.86×0.18	
181	K-5	長方形	1.42×0.90×0.18	
182	K-5	正方形	1.30×1.28×0.24	近代すり鉢
183	K-5	長方形	1.46×0.90×1.32	土師器細片(古墳)、灰釉陶器長頸瓶
184	K-5-6	楕円形	1.12×0.80×0.50	土師器細片(古墳、平安)
185	K-5	楕円形	1.44×0.84×1.20	
186	J-K-5	長方形	2.48×0.66×0.38	常滑片、堺・明石系削鉢・土師器・須恵器細片
187	J-5	長方形	1.62×0.80×0.52	
188	J-5	長方形	1.54×0.80×0.18	
189	J-5	長方形	1.26×0.67×0.63	近世陶片
190	J-5	正方形	0.86×0.84×0.60	常滑片
191	L-4	円 形	0.78×0.75×0.61	土師器細片、壺、鉢、須恵器壺
192	Q-2	楕円形	0.90×0.58×0.38	土師器細片(古墳)
193	Q-2	円 形	1.20×0.97×0.38	かわらけ
194	Q-2	正方形	1.20×1.07×0.54	
195	P-2	正方形	1.05×0.91×0.52	
196	N-2	長方形	0.64×0.41×0.91	土師器壺片(古墳)
197	M-4	不整形	0.81×0.56×0.16	
198	L-3	不整形	1.14×0.78×0.88	かわらけ、常滑片
199	L-3	楕円形	0.83×0.67×0.55	
200	L-3	楕円形	0.66×0.56×0.42	
201	K-4	円 形	0.74×0.62×0.32	
202	N-2	楕円形	1.24×0.77×0.19	
203	M-N-4	楕円形	1.44×1.10×0.28	
204	M-4	長方形	1.26×0.77×0.19	
205	M-4	長方形	0.05×0.32×0.37	
206	M-5	楕円形	0.60×0.32×0.35	
207	O-4	円 形	0.58×0.54×0.14	
208	N-O-2	円 形	1.43×1.21×0.14	
209	O-2	楕円形	0.90×(0.13)×0.25	
210	L-11	長方形	0.84×0.52×0.67	
211	K-11	楕円形	0.72×0.57×0.27	
212	-	-	-	
213	K-11	長方形	1.12×0.60×0.53	
214	K-11	長方形	1.14×0.58×0.57	須恵器壺体部片
215	L-11	長方形	0.96×0.57×0.28	
216	L-11	長方形	0.90×0.45×0.20	
217	L-11	長方形	1.25×0.58×0.21	
218	L-11	長方形	1.10×0.63×0.42	
219	M-9	不整形	1.37×0.73×0.42	
220	M-9	長方形	2.10×0.68×0.75	近世陶磁器片

神出遺跡土坑一覧表（5）

番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ(m)	出 土 遺 物 そ の 他
221	M-9	長方形	(0.37)×0.74×0.15	
222	M-9	不明	1.07×—×0.73	
223	M-9	長方形	1.50×0.81×0.14	
224	M-9	L字形	2.00×0.77×0.82	
225	M-9	長方形	1.28×0.55×0.64	近世陶器、土師器細片
226	M-9	小整形	1.95×0.64×0.72	
227	M-9	長方形	1.37×0.53×0.36	鐵鍋片、土師器細片
228	L-10	正方形	0.80×0.65×0.18	
229	L-10	不整形	1.70×0.70×0.20	
230	K-10	長方形	2.76×0.77×0.58	
231	K-10	円 形	1.60×0.53×1.03	近世陶磁器、土師器細片（平安）
232	K-10	長方形	1.32×1.00×—	繩文土器片、土師器片（平安）、近代瓦片
233	—	—	—	土師器碗（古墳）
234	K-10	長方形	3.00×2.00×0.76	近世陶磁器片
235	K-10	長方形	2.10×0.90×—	土師器細片
236	K-11	長方形	0.84×0.43×0.26	
237	L-10	椭円形	1.22×0.69×0.43	土師器細片（古墳、平安）
238	L-10	長方形	1.72×0.80×0.19	土師器細片
239	—	—	—	
240	—	—	—	
241	K-10	長方形	1.13×0.82×0.35	
242	K-10	長方形	1.93×0.81×0.64	
243	K-9	長方形	1.45×0.52×—	土師器細片（平安）
244	K-9	方 形	0.46×(0.45)×0.24	
245	M-9	円 形	1.07×—×0.71	
246	M-9	不整形	—×0.71×0.09	
247	L-10	長方形	2.20×0.93×0.44	土師器・須恵器細片（平安）
248	L-10	隅丸長方	0.80×0.40×0.36	
249	L-10	長方形	1.61×0.70×—	土師器細片、古式須恵器片
250	K-10	長方形	1.33×0.95×0.34	
251	K-10	正方形	2.34×0.92×0.15	
252	K-10	正方形	1.30×1.18×—	
253	K-10	不 明	1.37×0.25×—	
254	—	—	—	
255	K-10	長方形	1.64×0.70×0.20	
256	K-10	正方形	0.50×0.43×0.35	
257	K-10	長方形	1.00×0.85×0.50	
258	K-10	不 明	—×—×0.41	
259	K-10	長方形	1.60×0.77×0.70	
260	K-10	長方形	2.13×0.54×0.50	古墳～中世の土器細片混入
261	K-10	長円形	1.65×0.79×0.93	瀬戸（近世）、磁管
262	K-10	椭円形	0.59×0.44×1.00	
263	K-10	長方形	1.70×0.67×0.36	
264	K-9	長方形	1.23×0.54×0.50	土師器片（古～平）、湘西産須恵器、灰釉陶器
265	K-9	長方形	1.25×0.70×0.28	青磁片、近世陶磁器、須恵器片（外面同心円文）
266	K-9	長方形	0.56×0.33×0.14	
267	K-9	長方形	1.26×(0.68)×0.38	
268	K-9	長方形	1.87×1.07×0.70	
269	K-9	長方形	1.06×0.63×0.69	
270	—	—	—	砥石、灰釉陶器（平安）、土師器片、土玉
271	—	—	—	
272	L-8	長方形	1.76×0.78×0.23	土師器片（平安）
273	L-8	長方形	1.92×0.94×0.55	土師器細片
274	K-8	長方形	1.35×0.61×0.62	土師器細片、近代煉瓦・コンクリート片
275	L-8.9	長方形	1.41×0.90×0.77	土師器細片（古墳、平安）、墨書き土器「官？」

神出遺跡土坑一覧表（6）

番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ(m)	出 土 遺 物 そ の 他
276	L-10	不整形	0.47×0.37×0.46	
277	L-10	不整形	1.67×1.38×0.43	吉瀬戸盤の足片
278	L-10	正方形	1.09×1.00×0.77	土師器片（古墳、平安）
279	L-8	円 形	1.13×1.17×0.31	灰釉皿（平安）、土師器細片（平安）
280	L-8	長方形	1.75×0.82×0.71 (1.22)×(0.66)×0.10	土師器細片（古墳、平安）、礫石片
281	L-8	長方形	—	
282	L-8	長方形	1.51×(0.56)×0.50	
283	L-8	長方形	4.19×0.59×0.13	土師器片（古墳、平安）
284	L-8	円 形	1.89×1.83×0.54	
285	L-8	方 形	(2.38)×(1.27)×0.10	
286	K-9	長方形	1.26×1.10×0.78	
287	K-8	長方形	2.45×0.85×0.30	絞文土器片、土師器細片（平安）
288	K-9	長方形	3.67×0.86×0.77	かわらけ、土師器・須恵器細片
289	L-8	長方形	1.25×0.54×0.40	
290	K-8	長方形	1.23×0.51×0.58	土師器細片（古墳、平安）、古瀬戸片
291	J-7	長方形	3.25×1.06×0.27	近世瀬戸片、常滑片、鉄釘
292	J-7	長方形	2.70×0.95×0.51	
293	J-7	長方形	1.85×0.64×0.74	
294	J-7	円 形	0.91×0.88×0.52	
295	J-7	楕円形	— ×0.47×	
296	J-7	長方形	2.12×0.76×0.43	近世陶磁器片、古瀬戸片、土師器細片
297	J-7	不 明	(0.68)×(0.45)×0.10	
298	J-7	不整形	0.75×0.54×	
299	J-7	楕円形	0.63×0.32×	
300	J-7	不 明	(0.55)×0.66×	
301	J-7	長方形	2.72×1.25×0.24	
302	M-6	円形？	2.08×1.60×0.44	須恵器裏片（古墳）
303	K-6	長方形	1.41×0.77×0.15	土師器細片（古墳、平安）
304	K-L6	長方形	0.46×0.81×0.15	
305	J-7	長方形	3.12×1.13×0.42	
306	J-7	円 形	0.94×0.89×0.27	
307	J-7	円形？	(1.83)×(1.08)×0.13	
308	J-7	不 明	(0.95)×(0.32)×0.22	
309	I-8-J-7	長方形	2.31×0.92×0.60	土師器・須恵器小片（平安）、中・近世陶磁器片
310	I-J-8	長方形	2.26×1.05×0.65	土師器片、近世陶磁器片
311	J-8	長方形	2.15×0.99×0.31	
312	J-7	長方形	1.38×1.00×0.08	
313	J-7	長方形	1.85×1.06×0.90	近世陶磁器片、土師器片（平安）
314	K-6-7	楕円形	1.20×0.90×0.21	
315	N-2-3	不整形	1.22×0.58×0.32	土師器片（古墳）、土玉
316	K-7	長方形	0.84×0.99×1.04	近世陶磁器
317	L-11-12	長方形	1.74×0.46×0.42	
318	J-7	不 明	(0.48)×0.70×0.19	
319	M-4	不整形	1.80×0.76×0.16	
320	M-4	長方形	0.98×0.80×0.12	
321	M-3	楕円形	1.22×0.60×0.13	
322	M-3	隅丸長方	1.10×0.45×0.06	
323	M-3	長方形	1.39×0.60×0.33	
324	M-3	長方形	1.15×0.70×0.23	
325	—	—	—	
326	—	—	—	
327	—	—	—	
328	Q-2	楕円形	1.30×0.96×0.10	
329	J-5	円 形	1.10×1.08×	
330	L-4	長方形	1.50×0.86×0.20	

神出遺跡土坑一覧表 (7)

番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ(m)	出 土 遺 物 そ の 他
331	M - 4	円 形	0.49×0.45×0.74	
332	-		-	土師器細片(古墳)
333	G - 6	円 形	1.20×1.06×0.16	
334	-		-	
335	-		-	
336	J - 7	円 形	1.42×1.35×0.48	土師器・須恵器片(平安)、
337	M - 6	円 形	1.51×1.46×0.42	土師器坏・壺片(古墳)
338	M-L - 6	円 形	1.22×1.21×0.15	土師器小片(古墳、平安)
339	M - 6	方 形	0.94×0.92×	土師器片
340	L - 6	長方形	1.46×1.14×0.12	
341	L - 6	不規円形	1.73×1.40×0.23	土師器・須恵器片(古墳、平安)
342	-		-	
343	-		-	
344	-		-	
345	-		-	
346	M - 6	長方形	1.63×0.91×0.05	
347	-		-	
348	M - 6	円 形	1.05×0.89×0.35	
349	L - 6	椭円形	2.05×(0.96)×0.75	土師器・須恵器細片(平安)
350	-		-	
351	L - 8	椭円形	0.80×0.70×0.28	
352	L - 8	円 形	1.06×0.98×0.34	
353	L - 8	円 形	1.33×1.31×0.98	繩文土器片、土師器細片(古墳)、筑波石小塊
354	K-L - 8	椭円形	1.76×1.42×0.73	近世陶磁器片、土師器細片
355	K - 8	長円形	(1.44)×0.74×0.15	
356	L - 8	円 形	1.70×1.64×0.87	
357	L - 8	椭円形	- × ×0.33	
358	L - 8	不明	1.13×0.60×0.42	
359	L - 8	不明	- × - ×0.32	
360	L - 8	長方形	1.35×0.64 × -	
361	K - 6	円 形	1.60×1.35×0.27	
362	M - 8	円 形	0.83×0.78×0.18	
363	M - 8	円 形	0.89×0.81×0.36	繩文土器(前期)、土師器片(平安)
364	M - 8	円 形	0.98×0.91×0.58	土師器細片(平安)
365	L - 9	椭円形	2.67×2.26×1.17	土師器赤彩坏(古墳)
366	M - 6	円 形	1.66×1.51×0.70	土師器細片(古墳、平安)、須恵器(平安)
367	-		-	土師器細片(古墳)
368	N - 6	円 形	1.11×0.98×0.32	繩文土器片、土師器細片(平安)
369	-		-	
370	K - 8	椭円形	1.23×1.10×0.19	
371	J - 8	椭円形	1.53×1.20×0.30	土師器細片(古墳、平安)、鉄片、銅鏡(皿)状製品
372	J - 8	円 形	1.10×1.07×0.31	
373	-		-	
374	-		-	
375	-		-	
376	J - 8	長円形	1.40×0.58×0.24	
377	M - 8	椭円形	1.36×1.04×0.26	弦生土器片?、土師器細片
378	M - 8	円 形	0.75×0.70×0.23	土師器細片(平安)、筑波石塊
379	M - 9	円 形	1.00×0.88×0.22	土師器片(古墳)
380	L - 9	円 形	1.03×0.93×0.15	繩文土器片、土師器片
381	L - 9	椭円形	0.58×0.53×0.48	土師器細片
382	M - 9	円 形	0.74×0.67×0.14	
383	L - 9	円 形	1.04×0.93×0.12	土師器片(平安)、土師器片(古墳)、古式須恵器片
384	L - 9	椭円形	0.73×0.53×0.55	
385	M - 9	円 形	0.93×0.85×0.38	

神出遺跡土坑一覧表（8）

番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ(m)	出 土 遺 物 そ の 他
386	—	—	—	繩文土器片、土師器片(古墳)
387	L-8	楕円形	0.80×0.66×0.15	
388	L-9	楕円形	0.80×0.78×0.18	
389	L-9	円 形	0.90×0.83×0.10	
390	L-9	長方形	0.96×0.67×0.26	土師器細片
391	J-10	長方形	1.68×0.90×0.34	
392	—	—	—	
393	—	—	—	
394	T-9	長方形	4.42×2.60×0.70	
395	S-T-9	長方形	3.45×2.38×0.53	土師器片(古墳)
396	T-9	不 明	1.70×0.67×0.30	
397	T-9	不 明	1.70×0.60×0.47	
398	T-9	楕円形	0.90×0.70×0.55	土師器片(古墳)、常滑片口鉢片 土師器片、占満戶平椀、灰陶器(平安) 土師器蓋小片
399	—	—	—	繩文土器小片、土師器片(古墳)、須恵器(平安)
400	S-9	不整形	1.00×0.68×0.58	
401	S-9	不 明	1.05×0.60×0.15	
402	S-9	円 形	0.96×0.96×0.17	
403	S-9	円形?	0.95×0.90×0.15	土師器微細片
404	J-8	長円形	2.00×0.40×0.17	土師器・須恵器細片
405	J-8	円 形	0.73×0.61×0.10	
406	J-8	円 形	0.67×0.64×0.30	
407	—	—	—	土師器片(古墳、平安)
408	J-8	楕円形	1.30×1.46×0.28	土師器片(古墳前期、後期)
409	—	—	—	
410	—	—	—	
411	K-9	長方形	0.74×0.37×0.20	土師器細片(平安)
412	K-10	円 形	0.83×(0.61)×0.82	
413	K-9	長方形	1.62×0.65×0.57	
414	K-9	長方形	0.70×0.52×0.60	石片
415	—	—	—	
416	K-9	長方形	1.14×0.64×0.55	
417	K-9	長方形	1.93×1.05×0.74	土師器細片
418	K-9	長方形	1.52×0.80×0.82	
419	K-9	長方形	2.09×0.76×0.71	
420	L-10	長方形	1.75×0.80×0.36	
421	L-9	長方形	(2.21)×1.43×0.45	土師器細片(古墳、平安)、土師器碗(平安)
422	L-9	方 形	0.56×0.46×0.12	
423	L-9	方 形	(0.73)×0.77×0.60	
424	L-9	楕円形	1.32×0.39×0.32	
425	L-9	長方形	1.56×0.76×0.63	
426	L-10	長方形	1.21×0.58×0.48	
427	L-10	長方形	0.84×0.57×0.13	
428	L-9	円 形	1.41×1.25×1.08	
429	L-9-10	方 形	1.44×(1.13)×0.30	
430	L-9-10	不整形	1.45×(0.90)×0.57	
431	L-10	長方形	2.02×0.90×0.48	
432	M-10	長方形	0.90×0.43×0.44	
433	M-7-8	長方形	2.35×0.80×0.20	
434	M-8	長方形	1.50×0.84×0.20	繩文土器片、土師器細片(平安)
435	M-8	長方形	3.32×1.08×0.30	繩文土器片、土師器細片(古墳)、古式須恵器片
436	M-8-9	長方形	3.31×1.45×0.15	
437	M-8	正方形	0.87×0.76×0.10	
438	M-8	円 形	0.55×0.55×0.23	
439	M-8	不整形	1.73×0.73×0.17	
440	M-8	長方形	0.73×0.44×0.17	

神出遺跡土坑一覧表（9）

番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ(m)	出 土 遺 物 そ の 他
441	M-8	長方形	1.31×1.17×0.28	土師器坏、壺片(古墳)
442	M-8	円 形	0.54×0.54×0.15	
443	M-8	長方形	1.22×0.90×0.21	
444	M-8	長方形	0.88×0.37×0.14	
445	M-L-8	長方形	1.18×0.95×0.27	須恵器壺片(平安)、内耳鍋片?
446	L-8	長方形	3.13×1.30×0.45	土師器碗(平安)
447	L-8	不整形	0.52×0.48×0.38	
448	K-9	楕円形	1.71×0.62×0.37	鐵片、土師器細片(平安)
449	-	-	-	土師器細片(古墳、平安)
450	-	-	×	×0.68
451	-	-	-	常滑片、土師器細片(平安)
452	-	-	-	近世陶磁器片、土師器細片、灰釉陶器碗
453	-	-	-	
454	-	-	-	
455	-	-	-	近世陶磁器片、古漬戸片、鉄釘
456	J-8-9	楕円形	0.93×0.71×0.44	
457	S-9-10	楕円形	0.73×0.40×0.25	つくば石蹠
458	S-9	楕円形	0.78×0.60×0.08	土師器細片(古墳、平安)
459	S-9	長方形	0.70×0.67×0.25	土師器片(古墳、平安)、須恵器片(平安)
460	M-8	円 形	0.42×0.37×0.24	
461	M-8	不整形円形	0.67×0.65×0.58	繩文土器片、土師器細片(古墳、平安)
462	L-9	長方形	0.52×0.32×0.08	
463	L-8	楕円形	(0.70)×1.54×0.31	
464	L-8	長方形	1.46×0.80×0.82	
465	L-8	不整形	(1.44)×0.91×0.36	土師器壺体部片(古墳)
466	I-9	長方形	0.90×0.70×0.12	縄文土器片、土師器細片(古墳)
467	I-9	不整形	2.05×1.05×0.37	繩文土器片、土師器細片
468	I-9	長方形	2.80×1.05×0.93	
469	I-9	楕円形	1.50×1.10×1.20	
470	K-8	不整形	1.40×0.85×0.15	土師器・須恵器片(平安)、つくば石蹠片
471	K-8	円 形	2.47×2.47×-	土師器細片(古、平)、土師質土器鉢片・古漬戸片
472	K-8	楕円形	0.75×0.60×0.26	土師器細片(古墳、平安)、須恵器鏡片
473	K-8	円 形	0.80×0.66×0.22	
474	-	-	-	
475	-	-	-	
476	M-9	円 形	1.27×1.10×0.33	
477	M-9	楕円形	1.00×0.56×0.22	
478	M-9	長方形	2.85×1.17×0.31	繩文土器細片、土師器細片
479	M-9	長方形	0.80×0.70×0.25	
480	-	-	-	近世磁器片、土師器細片、古漬戸片
481	-	-	-	
482	-	-	-	
483	K-8-9	不 明	(1.10)×0.90×035	
484	K-8	長方形	0.90×0.70×0.11	土師器高台付坏(平安)
485	K-8	長方形	1.50×0.80×0.17	土師器細片(古墳、平安)、瀬戸片
486	K-8	長方形	1.70×0.73×0.64	
487	M-8	円 形	1.08×1.00×0.26	土師器細片(平安)
488	M-8	円 形	1.34×1.33×0.35	
489	-	-	-	土師器片(古墳)
490	-	-	-	
491	M-7	長方形	1.20×0.69×-	土師器碗片(平安)
492	M-7	楕円形	1.24×0.83×0.30	
493	-	-	-	土師器細片(古墳、平安)、須恵器片
494	K-6	正方形	0.88×0.75×0.50	
495	K-6	長方形	1.20×0.67×0.58	近世陶磁器片、土師器小片(古墳)

神出遺跡土坑一覧表 (10)

番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ(m)	出 土 遺 物 そ の 他
496	K - 6	長方形	0.88×0.57×0.20	
497	J - 6	長方形	1.50×0.68×0.22	
498	J - 6	長方形	2.55×0.84×0.65	
499	J - 6	円形?	1.90×1.30×0.21	
500	J - 6	楕円形	1.35×0.86×0.20	土師器・須恵器片(平安)
501	J - 6	長方形	0.63×0.90×0.37	
502	J - 6	長方形	2.72×0.75×	常滑窯体部片、土師器細片
503	J - 6	不 明	1.35×0.62×0.54	
504	J - 6	不 明	(0.43)×0.73×	近世唐津片、常滑片、土師器細片
505	I - 6	長方形	1.65×1.00×0.25	近世陶磁器片、土師器細片
506	-	-	-	
507	-	-	-	
508	-	-	-	
509	J - 6	不 明	2.25×1.30×0.35	土師器細片、近世陶磁器片、古瀬戸片
510	J - 6	楕円形	1.35×0.85×0.66	
511	J - 6	長円形	1.50×0.95×0.56	
512	J - 6	長方形?	0.80×0.54×0.15	
513	I-J - 6	長方形	1.90×0.75×0.60	
514	I-J - 6	長方形	1.40×1.34×0.54	
515	I-J - 6	不整形	1.00×0.92×0.29	常滑窯体部片、土師器細片(古墳)、瓦片、刀子片
516	I - 6	楕円形	0.95×0.60×0.44	
517	I - 6	楕円形	1.20×0.75×0.30	
518	I - 5	不整形	1.68×0.65×0.73	土師器坏(古墳)
519	J - 4	長方形	1.26×0.67×0.32	
520	J - 4-5	方 形	0.92×(0.34)×0.63	
521	I - 5	不整形	0.86×0.67×0.26	
522	H - 6	楕円形	1.06×0.68×0.40	
523	H - 5	楕円形	0.72×0.55×	
524	G-II - 5	不整形	0.78×1.14×0.32	
525	H - 5	不整形	2.06×1.08×0.50	
526	I - 5	不整形	2.50×1.25×0.25	内耳鍋片、古瀬戸片
527	I - 5	長方形	2.72×1.05×0.46	
528	-	-	-	古瀬戸瓶底片
529	J - 6	楕円形	(1.45)×1.35×0.45	
530	J - 6	円 形	1.19×(1.30)×0.49	土師器細片(平安)、灰釉陶器腕片
531	J - 6	長方形	1.57×0.94×0.36	
532	J - 6	長方形	1.88×1.17×0.26	常滑窯片、土師器細片(占、平)、須恵器(平安)
533	I-J - 6	長方形	1.06×0.68×0.50	土師器細片(古墳)
534	I - 5-6	長方形	1.76×1.14×0.54	砥石、土師器細片(古墳)
535	I - 6	長方形	(1.73)×(1.10)×0.33	近世瀬戸片、古瀬戸鉢片、土師片、鐵鏹、常滑窯片
536	H - 7	長方形	1.70×1.37×0.10	かわらけ、内耳鍋片、铁腕輪小片
537	H - 7	円 形	0.60×0.57×0.23	内耳鍋片、常滑小片、土師器小片(古墳)
538	-	-	-	内耳鍋片、常滑片、須恵器系陶器片
539	H - 7-8	円 形	2.05×1.80×0.55	砥石、綠釉小皿(鐵輪)、古瀬戸片
540	H - 8	不整形	0.80×0.40×0.13	
541	I - 7	楕円形?	(1.42)×1.15×0.19	古瀬戸平腕・瓶子片、常滑片、灰釉陶器片、須恵器片
542	I-J-6-7	正方形	1.82×1.66×0.68	古瀬戸腕片、かわらけ、常滑片(SK535常滑片と同一個体)
543	I-J - 6	正方形	2.20×1.98×0.62	
544	I - 8	楕円形	1.40×0.80×0.30	
545	I - 8	長円形	1.32×0.47×0.20	
546	-	-	× × 0.18	
547	-	-	× × 0.45	
548	-	-	× × 0.40	
549	J - 7	正方形	2.29×2.12×0.70	土師器細片(平安)
550	I-J - 7	不整形	1.20× - × 0.24	古瀬戸合子体部片(575号土坑と同一個体)

神出遺跡土坑一覧表 (11)

番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ(m)	出 土 遺 物 そ の 他
551	I - 7	不 明	(2.20) × (0.73) × 0.30	古瀬戸壺子・片口片、土師器細片(平安)
552	I - 7・8	長方形	2.35 × 1.40 × 0.43	古瀬戸壺子底部片、常滑片
553	I - 7・8	楕円形	1.12 × 0.84 × 0.14	
554	J - 7	円 形	0.96 × 0.96 ×	
555	I-J - 9	円 形	2.13 × 2.11 × 0.24	土師器壺片(古墳)、砾石
556	G - 5	方 形	1.00 × 0.85 × 0.22	
557	G - 5	長方形	1.25 × 0.84 × 0.09	
558	G - 6	円 形	0.60 × 0.55 × 0.17	
559	-	-	-	土師器・須恵器細片(平安)、常滑片
560	J - 7	円 形	0.86 × 0.85 × 0.35	土師器細片(古墳)
561	I - 7	不整円形	0.82 × 0.79 × 0.32	土師器細片(古墳)
562	I - 7・8	隅丸長方	1.65 × 1.00 × 1.24	古瀬戸縁粗小皿、内耳鍋片、かわらけ
563	I - 7	隅丸長方	0.80 × 0.68 × 0.15	
564	I - 8	円 形	1.18 × 0.90 × 1.24	繩文土器片、土師器小片(古墳、中近世不明土製品)
565	L - 8	楕円形	1.35 × 1.00 × 0.25	土師器細片(古墳、平安)、つくば石
566	-	-	-	
567	-	-	-	
568	-	-	-	古瀬戸瓶片、土師器細片
569	-	-	-	
570	I - 8	-	2.50 × 0.98 × 0.25	土師器細片(古墳、平安)
571	H - 8	円 形	0.59 × 0.53 × 0.53	
572	-	-	-	
573	H - 6	不整形	1.57 × 1.17 × 0.08	
574	I - 7	不整形	- × 1.18 × 0.65	
575	L - 8	円 形	0.60 × 0.55 × 0.18	古瀬戸合子底部片
576	L - 8	円 形	1.07 × 1.07 × 0.40	土師器小片(古墳)
577	L - 8	円 形	1.08 × 1.08 × 0.70	繩文土器片、土師器小片(古墳、平安)
578	K - 8	楕円形	0.74 × 0.71 × 0.27	
579	K - 8	長方形	1.10 × 0.57 × 0.28	
580	K-L - 8	長方形	1.35 × 0.74 × 0.29	
581	K - 8	円 形	1.07 × 1.07 × 0.15	
582	K - 8	楕円形	0.80 × 0.75 × 0.37	かわらけ?
583	K - 8	円 形	1.27 × 1.00 × 0.70	
584	-	-	-	
585	L - 8	不整形	2.15 × (2.12) × 0.30	
586	L - 8	不整形	(1.50) × 1.13 × 0.16	
587	L - 8	不整形	1.15 × 0.47 × 0.12	
588	H - 8	楕円形	1.33 × 0.83 × 0.25	かわらけ、すざ入り焼土塊
589	-	-	-	古瀬戸天日輪、土師器小片(古墳)
590	-	-	-	
591	K - 8	隅丸長方	1.82 × 0.83 × 0.71	
592	L - 9	不整形	1.20 × 0.70 × 0.40	
593	L - 9	不整形	2.64 × 1.05 × 0.25	
594	L - 8	長方形	1.31 × 0.88 × 0.62	
595	L - 8	正方形	0.90 × 0.83 ×	近世瀬戸系すり鉢片、
596	K - 6	長方形	1.13 × 0.76 × 0.61	土師器片(古墳)
597	K - 7	長方形	1.84 × 0.96 × 1.10	
598	K-L - 6	不整形	0.96 × 0.90 × 0.51	38号住居跡のP.3
599	L - 7	楕円形	0.54 × 0.43 × 0.60	
600	S - 9	楕円形	0.60 × 0.55 × 0.13	
601	K - 7	円 形	2.03 × 1.50 × 0.37	
602	M - 7	楕円形	1.20 × 1.05 × 0.20	
603	M - 7	円 形	1.20 × 1.10 × 0.67	
604	M - 8	楕円形	1.05 × 0.96 × 0.47	
605	M - 8	円 形	0.66 × 0.66 × 0.25	繩文土器片

神出遺跡土坑一覧表 (12)

番号	位 置	平 面 形	長 軸×短 軸×深 さ(m)	出 土 遺 物 そ の 他
606	L - 8	円 形	0.83×0.68×0.70	土師器細片(平安)、純文土器片
607	L - 8	椭円形	0.90×0.64×0.16	純文土器片、土師器細片
608	-	-	-	黒漆石剥片、かわらけ
609	M - 7	円 形	0.39×0.37×0.08	かわらけ
610	L - 8	不整 形	1.10×0.56×0.55	
611	-	-	-	
612	-	-	-	
613	M - 7	不整 形	2.16×1.30×0.30	
614	I - 7	長 方 形	1.20×0.90×0.45	
615	L - 10	椭円形	0.70×0.50×0.22	
616	L - 11	椭円形	1.11×0.56×0.20	
617	-	-	-	
618	I - 4	長 方 形	1.53×0.51×0.35	
619	I - 4	不整 形	1.12×0.53×0.38	
620	J - 4	方 形	- ×0.58×0.15	
621	J - 4	不整 形	1.10×0.67×0.16	
622	J - 6	不整 形	1.05×1.00×0.60	
623	I-J - 6	不整 形	1.00×0.85×	
624	I-J - 6	不整 形	1.50×0.75×	
625	-	-	-	
626	G-H - 5	円 形	0.83×0.71×0.20	
627	G - 5	円 形	1.10×1.10×0.39	
628	H - 6	円 形	0.72×0.69×0.42	
629	I - 5	円 形?	0.84×0.83×0.15	
630	I - 5・6	隅丸長方	1.11×0.57×0.22	
631	I-J - 6	椭円形	0.88×0.67×0.35	
632	J - 6	不整 形	(0.88)×0.47×0.29	
633	J - 5	長 方 形	(0.95)×0.55×0.23	
634	J - 5	長 方 形	0.88×0.53×0.27	
635	J - 6	不整 形	(1.22)×1.20×0.12	
636	I - 6	方 形	(1.40)×(0.60)×	
637	I - 6	長 方 形	2.13×1.50×0.78	石臼片、石塊
638	I - 6	長 方 形	1.11×0.88×0.06	
639	H - 7・8	椭円形	2.00×1.24×0.70	土師器小形甕(古墳)
640	H - 7	椭円形	1.00×0.80×0.45	
641	H - 8	不整 形	0.70×0.47×0.16	二次焼成を受けた糸切り底かわらけ
642	-	-	-	
643	J - 7	椭円形	1.15×0.74×0.21	
644	-	-	-	
645	-	-	-	
646	J - 7	円 形	0.63×0.52×0.17	
647	J - 7	椭円形	1.10×0.67×0.15	
648	J - 7	不整円形	0.97×0.76×0.28	
649	J - 7	不整円形	1.46× - ×	
650	J - 8	椭円形	1.76×1.50×0.23	
651	-	-	-	
652	-	-	-	
653	-	-	-	
654	II - 8	椭円形	1.25×0.60×0.18	
655	-	-	-	
656	-	-	-	
657	-	-	-	
658	-	-	-	
659	-	-	-	
660	-	-	-	

神出遺跡土坑一覧表(13)

番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ(m)	出 土 遺 物	そ の 他
661	—	—	—	—	—
662	—	—	—	—	—
663	—	—	—	—	—
664	—	—	—	—	—
665	G-II-5	楕円形	1.00×0.49×0.11	—	—
666	H-6	不整形	0.75×0.55×0.10	—	—
667	G-6	楕円形	0.85×0.64×0.05	—	—
668	I-6	—	0.91×0.55×0.37	—	—
669	I-5	楕円形	0.90×0.54×	—	—
670	—	—	—	—	—
671	—	—	—	—	—

神出遺跡1号テラス土坑一覧表

番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ	出 土 遺 物	そ の 他
1	F-8	楕円形	1.02×0.46×0.46	—	—
2	F-8	不整形	0.81×0.47×0.18	—	—

神出遺跡2号テラス土坑一覧表

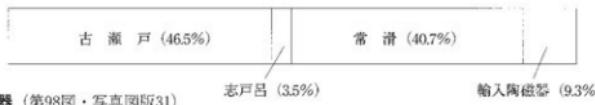
番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ	出 土 遺 物	そ の 他
1	G-8	楕円形	0.76×0.67×—	内耳銅片(厚さ6.3mm)	—
2	G-8	楕円形	0.82×0.48×—	—	—
3	G-8	楕円形	0.76×0.56×—	常滑鉢片、古瀬戸大皿、御皿	—
4	G-8	円 形	0.48×0.48×0.61	—	—
5	G-8	楕円形	1.08×0.74×—	—	—
6	G-8	楕円形	0.96×0.48×—	砥石(泥岩質)	—
7	G-8	楕円形	1.28×0.80×—	—	—
8	G-8	楕円形	0.86×0.72×—	常滑鉢?(赤焼き、外側面に指頭痕)	—
9	G-9	長方形	0.90×0.70×0.18	—	—
10	G-9	楕円形	1.18×0.86×—	—	—
11	G-9	不整形	1.03×0.53×0.33	—	—
12	G-9	不整形	0.67×0.64×0.26	—	—
13	G-9	不整形	0.60×0.40×0.36	—	—
14	G-85	楕円形	0.52×0.34×—	常滑壺体部片	—
15	G-9	不整形	0.80×0.32×—	—	—
16	G-8	楕円形	0.68×0.43×—	—	—
17	G-8	不整形	6.04×2.86×—	古瀬戸平碗、須恵質鉢	—

(10) 出土遺物

中世以降の出土遺物は、土器、石製品、金属製品その他のが出土している。以下、種類ごとに分類して掲載する。

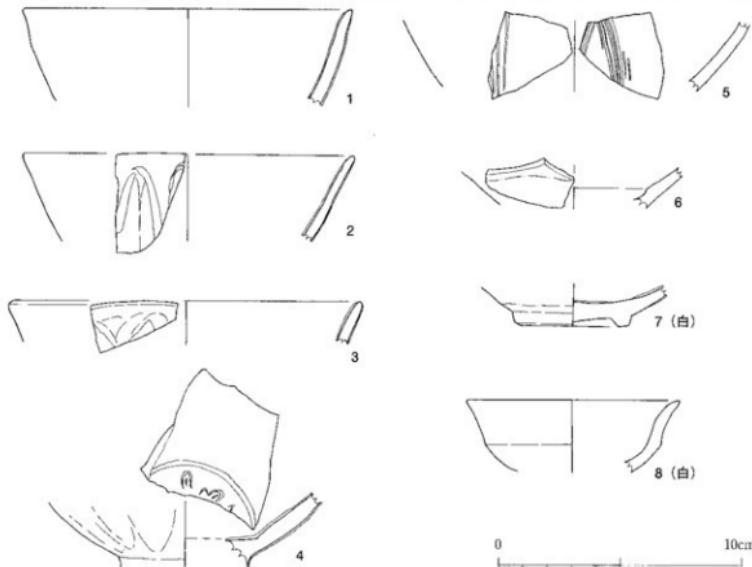
土器は輸入陶磁器、瀬戸系施釉陶器、常滑、瓦質土器、在地の鍋やかわらけ等が出土している。

在地の製品を除いた陶磁器類の出土比率は下記のグラフのようになり、古瀬戸・常滑の出土量が多い。



輸入陶磁器（第98図・写真図版31）

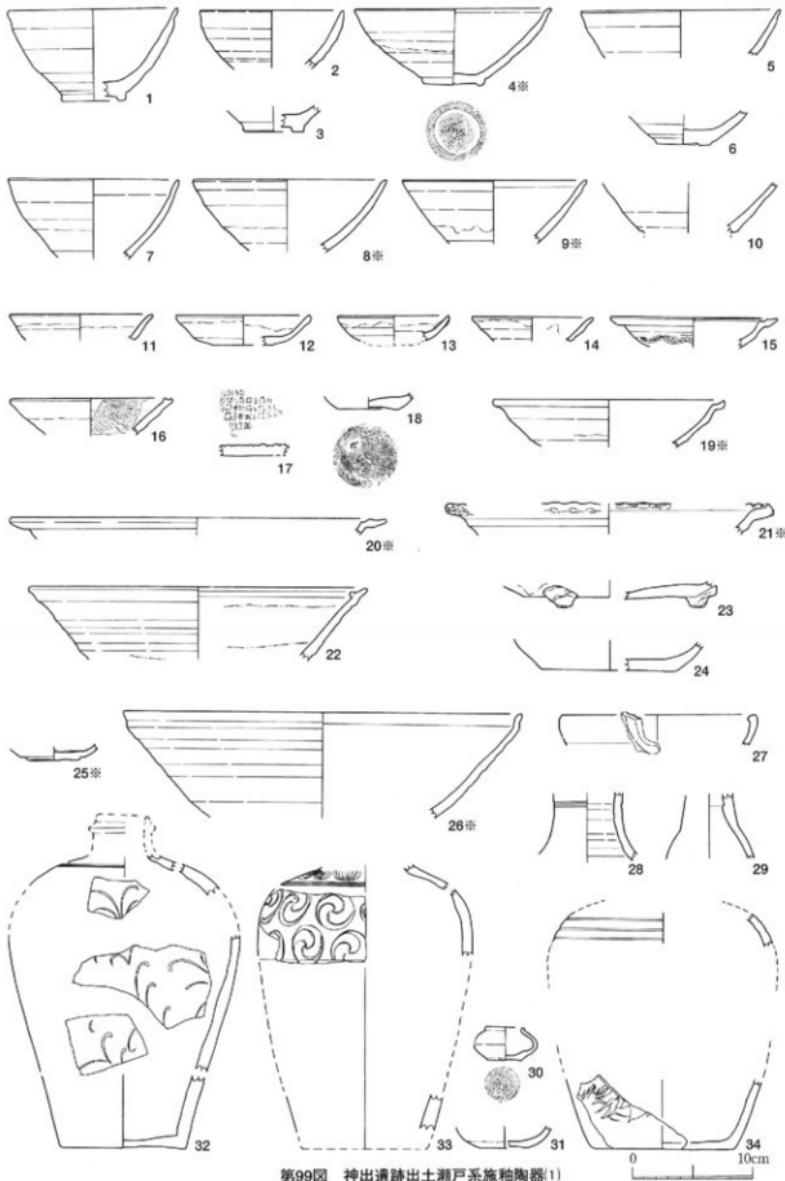
全部で7点破片で出土している。最も古いものは無文の龍泉窯系青磁碗（図98-1）で通常内面に画花文や雲文を持つタイプとされ、12~13世紀前半代の年代が与えられている。図98-5は13世紀前半代の同安窯系青磁碗で内外面に描書きが入っている。鎌倉介文の龍泉窯系青磁碗は図98-2,3,4とも13世紀後半~14世紀前半の年代が与えられる。白磁は図98-7の碗が13世紀前半代のもので内面に露胎圈を持っている。図98-8の白磁



第98図 神出遺跡出土輸入陶磁器（白）は白磁、その他は青磁

神出遺跡出土輸入陶磁器観察表

番号	種類	器種	口径	器高	式様	残率	胎	色調	器形・技法の特徴、その他の	台帳番号	出土地点	備考
1	青磁	碗			10	緻密	灰白	無；灰オーリーブ		266	P930	龍泉窯系
2	青磁	碗			5	緻密	灰白	鶴嘴弁文、灰オーリーブ色輪		281	SK265	龍泉窯系
3	青磁	碗			5	緻密	灰白	鶴嘴弁文、灰オーリーブ色輪	I-5類	282	SD2	龍泉窯系
4	青磁	碗			5	緻密	灰白	灰オーリーブ胎、I-5類		283	SD2	龍泉窯系
5	青磁	青磁皿			5	緻密	灰白	内外面描書き文、灰オーリーブ色輪		284	J6G	同安窯系
6	青磁	段皿			5	緻密	灰	無；灰オーリーブ		285	Q2G	
7	白磁	碗			20	緻密	灰白	内面に露胎圈、重頭		286	東式6 13世紀後半	
8	白磁	小碗	8.7		20	緻密	灰白			287	SK535 15世紀半	



第99図 神出遺跡出土瀬戸系施釉陶器(1)

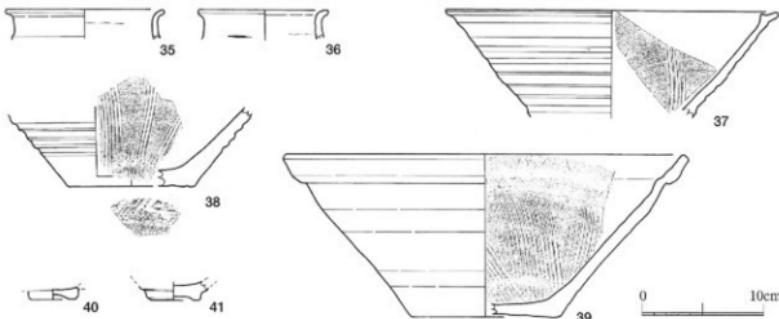
小椀は最も新しく15世紀後半代のものである。

瀬戸系施釉陶器 (第99図・写真図版31)

神出遺跡中央部~南側台地斜面部にかけて瀬戸系施釉陶器が総点数40点以上出土した。その多くは土坑や掘立柱建物跡、地下式窯等から破片で出土した廃棄遺物であるが、強い二次火熱を受けた個体も見られ、この地区の古瀬戸を使用した遺構は火災にあっていると考えられる。3号掘立柱建物跡や方形の土坑中の古瀬戸平椀片は、これらの遺構が平椀の廃棄以前の時期であることを示す資料となり、掘立柱建物で古瀬戸は使用されていた可能性が考えられる。器種は壺・瓶・碗・皿・鉢・合子・香炉類等で古瀬戸等の寝窓期のものが主体であるが、大窓期の瀬戸・美濃、近世瀬戸も見られる。寝窓期のものは、瓶類に古いものが見られるが主体は15世紀代である。すり鉢、志戸呂は15世紀後半の静岡県金谷町三ツ沢窯出土物に類似したもので、古瀬戸製品と比較して身分がかった印象を受ける。古瀬戸瓶類は、巴文装飾の鉄釉と巻手文装飾の灰釉の2点が出土し、14世紀初め頃(古瀬戸中期様式Ⅱ期頃)のものである。他の遺物と較べ古く、釉はげも見られ伝世品の可能性もある。口縁部に打ち欠きが見られたので藏骨器として利用したものが再度破片になって中世~近世の遺構覆土中に散った可能性もある。平椀は古瀬戸後期様式の前半代(後I~II期)のもので、折線皿や卸し皿類は後期様式の後半代、祖母巻窯は寝窓期の15世紀後半に出現し、この個体も後IV期頃か。茶陶関係では茶入れ底部片(第99図31)が出土しており、当時の高級陶器の部類に入るらしい。

神出遺跡出土瀬戸系施釉陶器観察表

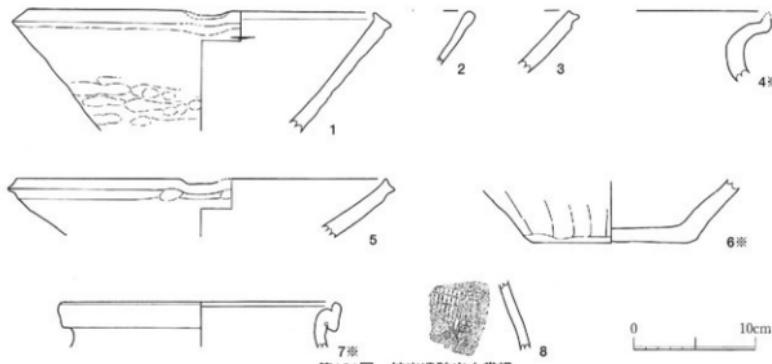
番号	種類	器種	口径	高さ	底径	厚み	胎	上	色	調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備考
1	古瀬戸	平椀	(13.3)	7.5	(4.8)	2.0			浅黄釉	青白		247	D11G	
2	古瀬戸	天目碗	12						橙			228	SK589	輪・鉄釉
3	古瀬戸	平椀		5	10				淡黃白	付高台		334	3号遺	火薙
4	古瀬戸	平椀	16.3	6.3	5	8.0	黒色微粒、白色丸彫少量		にい湯	削り出し高台、高台端部の余切り弧未開窓		244	2号SK57	
5	古瀬戸	平椀	(16.4)						灰白			276	SB2	無・淡褐色
6	古瀬戸	平椀		4.5	2.0				灰白			276	基下式	
7	古瀬戸	平椀	(12.8)						研磨黒色			277	SK399	志戸呂
8	古瀬戸	平椀	(16)						淡黄			217	SK541	
9	古瀬戸	平椀	(15.2)						淡黃			216	SK541	
10	古瀬戸	平椀		2.0					灰・武鉢			245	2号SK58	
11	古瀬戸	綠釉盤	(11.8)						淡黃白			318	G6G	灰釉
12	古瀬戸	緑釉盤	(11.2)						淡黃白			316	SK562	火鉢
13	古瀬戸	祖母巻小皿	(9.2)						淡黃白			315	SK361	鉄釉
14	古瀬戸	祖母巻小皿	(10)						灰白	二次被熱痕跡有り		317	表模	鉄釉
15	古瀬戸	折線皿	13.8						灰白	体部外強機械引き波文		278	FTG	
16	古瀬戸	鉢皿		10					淡黃			319	SK63	
17	古瀬戸	鉢皿		19					灰白			309	SB8	
18	古瀬戸	碗		5	40	黒色微粒			淡黃			219	SK542	
19	古瀬戸	鉢皿中足	(19)						5	白色微少量		298	SK15	
20	古瀬戸	緑釉盤	(31)						5	灰白		209	SK15	
21	古瀬戸	過急渦	(27)						5	淡黃		311	チラス1	
22	古瀬戸	折線皿	37.8						5	暗褐色微粒・柄小帯	にい湯	195	渦切削	
23	内瀬戸	皿		(14.2)	10	黑色微粒少量			5	灰白		248	EG9	
24	古瀬戸	皿	(12.4)	10	白色微粒小飛				5	灰白		249	E11G	
25	古瀬戸	小鉢	4	30					5	灰	内底面全施釉	331	チラス1過急渦	
26	古瀬戸	折線皿	(33)						10	黑色微粒粒子少量	灰白	207	SK15	
27	古瀬戸	滑付片	(16.5)						5			332	SK480	灰釉
28	古瀬戸	花瓶		10					灰白	表面灰釉の風化		327	G6G	灰釉
29	古瀬戸	唐草花瓶		5					灰白	外腹の灰釉・内底面淡薄灰斑有り		332	G8G	灰釉
30	古瀬戸	合子	31	27	28	6.0	黒色微粒極少量		灰白			307	SE575-50	
31	古瀬戸	茶入	(3.8)	15					褐灰	外腹褐色、断面暗灰色		333	EG9	
32	古瀬戸	茶入	10.4	30					灰白	素手文		280	G7G	灰釉
33	古瀬戸	茶入		30					白色絞少飛	灰白	肩部運交文、体部巴文	279	SL39	灰釉(白色)
34	古瀬戸	茶入	11.4	10					白色絞極少量	灰・黒灰	邊・灰釉	308	GSG	鉄釉
35	古瀬戸	緑釉盤	(13)						5	灰		329	G7G	灰釉
36	古瀬戸	青白合子		5					灰白			330	IG6	灰釉
37	古瀬戸	折線皿	(27.4)						15	白色微粒極少量	素面	269	DGG	志戸呂
38	古瀬戸	茶入		(10.4)	10	白色粒子			灰白	底部回転条切り		270	基下式	志戸呂
39	瀬戸	掛鉢	33.4	13.4	12.3	6.0	黒色微粒子多量			淡黃白	高台部露胎	267	SK595	世耕
40	東山茶器	天目碗		4	10							313	SK63	鉄釉
41	龍山茶器	天目碗		4	10				灰白	高台部露胎		314	SK15	鉄釉



第100図 神出遺跡出土瀬戸系施釉陶器(2)

常滑 (第101図・写真図版30)

常滑の総量は実測図の8点のほか写真の35片ほどで、壺・広口壺・壺・片口鉢の体部片である。8号堅穴遺構出土の壺口縁は、中野・赤羽編年の中6a期=13世紀の第3四半世紀、出土の体部に格子目文スタンプの押印されているものは5期あるいは6a期で13世紀の中頃、398号土坑出土の鉢は7期の無高台14世紀前半で、古瀬戸と較べてやや古い時期のものが目立っている。



第101図 神出遺跡出土常滑

神出遺跡出土常滑観察表

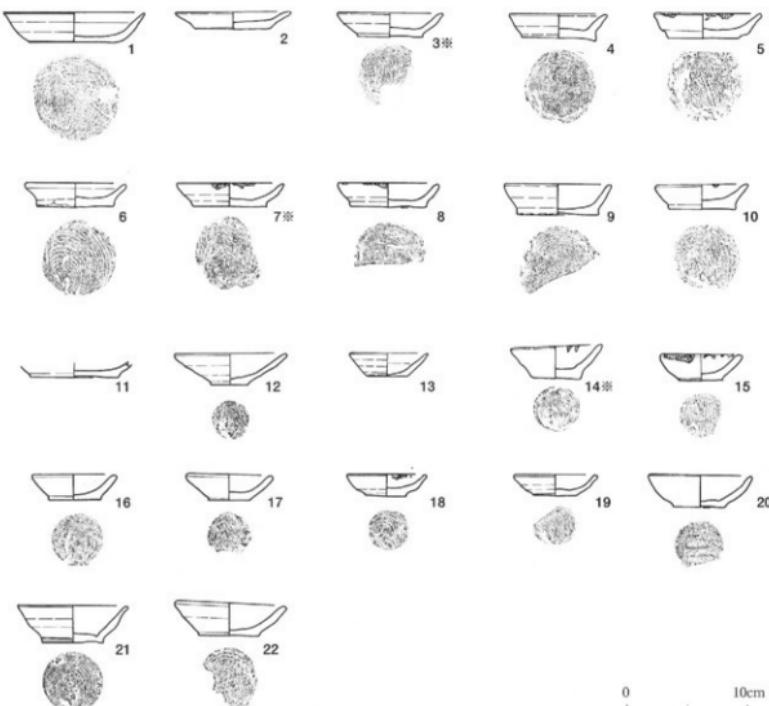
番号	種類	器種	口径	器高	底径	保存率	胎土	色調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土東北	備考
1	常滑	片口鉢	8		10	透・半透明、白・灰色較 程(外側) 内面は褐色。二次被焼か れ等				196	片口下縁	
2	常滑				5	白色紋・壺	KTS-18			233	SB8	中野編年(2)
3	常滑				5	白色紋・壺	褐	口縁部が角形往來口は幅広く張り出し弱い		232	SK398	
4	常滑				5	白色微粒・壺	灰褐			238	1号テラス	
5	常滑	片口鉢	(31.8)		10	白色微粒・壺中量	灰褐・白			234	4号道	
6	常滑	片口鉢			14	20	白色紋中量	灰褐	底部半透明・白色粒・羅の砂目、内面平滑	312	3号道	
7	常滑	広口壺	(23.2)		3	白色紋・幾微	暗白			191	8号堅穴	
8	常滑	壺			3	白色紋・美	KTS-78			254	SD11	

在地系土器 (第102-103図・写真図版30)

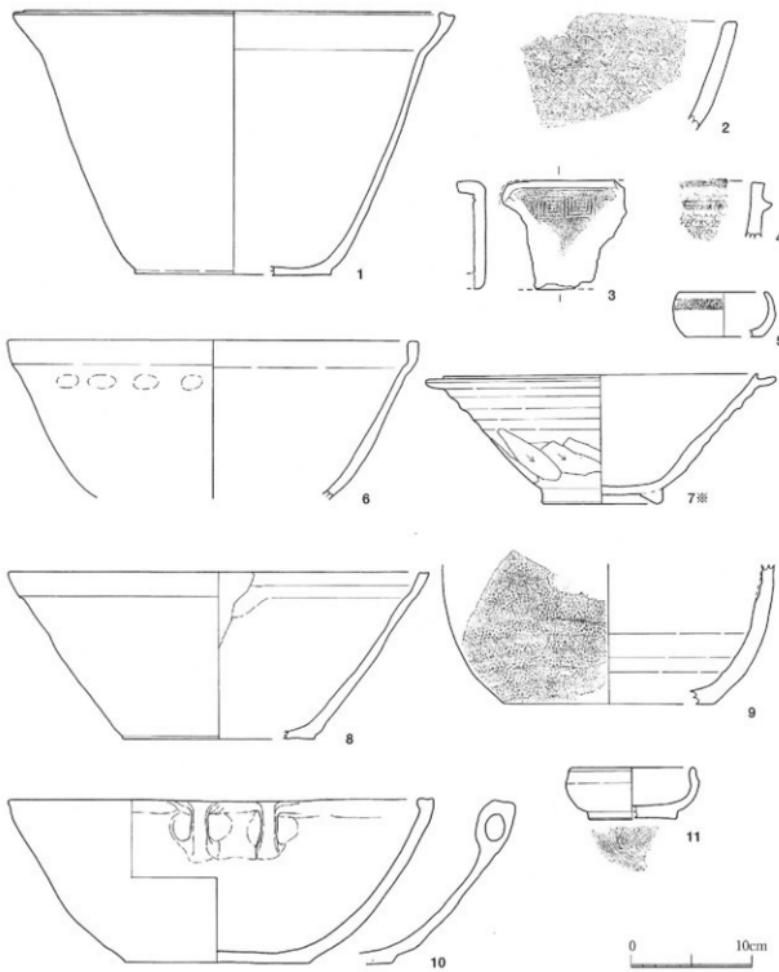
かわらけ類は掘立柱建物跡、土坑、地下式横、溝等から出土している。底径が大きく器高の低いタイプ

神出遺跡出土土師質土器小皿觀察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎	土	色	器形・技法の特徴、その他の	台帳番号	出土地点	備考
1	土質土器	小皿	11.6	2.5	7	80	透明・半透明微粒	橙	底部回転糸切り		203	SB2	
2	土質土器	小皿	(9.6)	1.4	(6)	40	半透明微粒、赤褐色微粒	褐	底部ヘラ削り、内面見込み指ナデ		204	SP8	
3	土質土器	小皿	8.8	2	5.4	60	金雲母、赤褐色微粒	褐	底部回転糸切り		205	SK15	
4	土質土器	小皿	8	2	6	100	半透明・白色微粒	橙	底部回転糸切り		211	SK139	
5	土質土器	小皿	8.8	2.1	5.8	95	赤褐色粒中・少量	暗灰	灯明皿、二次被熱による器壁の著しい荒れ		225	SK641	
6	土質土器	小皿	8.5	1.9	6.2	90	透明・白色粒少量	褐			197	角下式6	
7	土質土器	小皿	8.8	2	6.2	70	やや砂っぽい	明褐	灯明皿、二次被熱による器壁の著しい荒れ		226	PE29	
8	土質土器	小皿	(8.4)	1.9	(6.4)	60	白色微粒	褐	底部回転糸切り		230	3号遺	
9	土質土器	小皿	8.8	2.5	6.8	60	雲母微粒粒少量	褐~橙	回転糸切り		198	3号軒端	
10	土質土器	小皿	7.7	2.1	5.6	80	赤褐色粒少量	褐~深褐色	明暗部以外に全体に微いスミ状の炭化物付着		241	2号テラスP3櫻塚	
11	土質土器	小皿	—	—	7.2	40	透明・白色微粒子	橙	底部回転糸切り痕		218	SK	
12	土質土器	小皿	8.8	2.6	3	60	半透明・白色・赤褐色色微粒	明褐	底部回転糸切り		263	PR2	
13	土質土器	小皿	6.7	2	3.4	100	灰色粒少量、赤褐色粒多量	体	内部内面微波状成形痕、底部済塑痕撲毛		200	背下式15	
14	土質土器	小皿	7.8	2.8	4	100	白色・金雲母微粒	褐	底部回転糸切り		306	テラス1 灯明皿	
15	土質土器	小皿	6.8	2.2	3.6	100	金雲母片、赤褐色粒	褐	底部回転糸切り、口縁部タール状付着物		232	4号遺 灯明皿	
16	土質土器	小皿	6.8	2.1	4.3	100	透明・半透明粒多量	褐	底部回転糸切り		234	4号遺	
17	土質土器	小皿	7.2	2.2	3.5	100	透・半透明粒多量、金雲母	褐	底部回転糸切り		233	4号遺	
18	土質土器	小皿	6.5	1.8	3.3	100	金雲母微粒子	橙~黑色	底部外側一部被熱黒化		228	3号遺	
19	土質土器	小皿	(6.9)	(1.7)	3.5	100	金雲母微粒子	暗褐	底部回転糸切り		227	3号遺	
20	土質土器	小皿	(8.5)	2.7	4.1	100	半透明・黄白色粒子	褐	底部済塑痕あり、内面一部黒化		229	3号遺	
21	土質土器	小皿	9.2	3	5	100	金雲母微粒	明褐	底部回転糸切り		210	墓下式7	
22	土質土器	小皿	9.2	2.7	5.2	100	半透明、灰・白色粒多量	褐	見込み第一方向指ナデ		236	5号遺	



第102図 神出遺跡出土土師質土器小皿



第103図 神出遺跡出土在地系土器、瓦質土器

(図102の4～10)とやや小振りで底径が小さいタイプ(13～19)の二つに大きく分かれる。それぞれA類、B類とする。A類は灯明皿として利用した痕跡のあるものが多いが、灯明痕跡以外に強い火熱を受けたものがある。B類は、3・4号道の覆土から出土しており、3号道の覆土中の遺物には中世の遺物以外に近世の陶磁器類が混じるためやや新しい時期の遺物と考えられる。A・B類以外のものは個体数が少なく分類が難しいが、個別に見ていくとNo 1～3は底径が大きく器高が低く、A類の特徴に近いが体部が開いて立ち上

神出遺跡出土内耳鍋・瓦質土器観察表

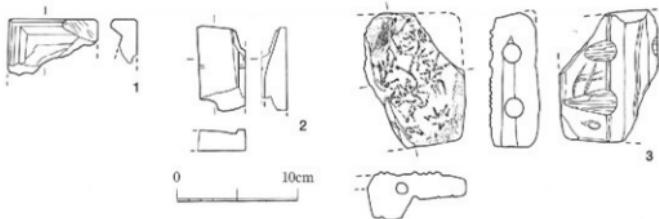
番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎土	色調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備考
1	土師瓦器	内耳鍋	(36.4)	21.6	(16)	40	透明・白色釉、雲母微粒	暗褐色	外側に全体にコゲ・スス付着	192	10号墳穴	
2	土師瓦器	火盆		10		10	白色釉、白色粒	褐色		242	2号テラスP2	
3	瓦質土器	火鉢	9			10	雲母粒、白色粒子	黑色	外側に雷文	274	SI4	
4	土師瓦器	火鉢			5	雲母粒	褐色			250	B5G	
5	瓦質土器	小鉢	(7.2)	3.7	(6.4)	20	微砂粒多量	灰	外側には2条の沈線間に斜面文のスタンプ	251	G6G	
6	土師瓦器	内耳鍋		30		10	白色粒子少量、雲母粒多量	褐色		194	35号下室	当面スリット
7	陶質土器	片口鉢	25.9	10.6	10.6	40	半透明・白色織	灰	運元炎焼成、後き締めや甘い	243	2号SK17	
8	土師瓦器	内耳鍋	34.8	13.7	16	20	半透明・織、雲母微粒多量	明褐色		199	四号窯跡	
9	瓦質土器	盤		17.3		10	雲母粒多量	暗褐色	体部外側に径2mmの小突起の雲母模様	262	SI32	
10	土師瓦器	内耳鍋	35	13.2	15.2	70	半透明・白色織	褐色	3内耳、体部外側スス付着	235	4号道	
11	土師瓦器	小鉢	(10.5)	4.3	(7.4)	35	立つ含有物無し	褐色	底部圓板系切り、内外側ともスス付着	226	SK536	

がりが緩やかで形態に違いがある。No 1・2は掘立柱建物跡の柱穴内から出土しており、遺構の切り合いで関係からは古い一群となろう。No 1は2号掘立柱建物跡の柱穴中から出土しているが、別の柱穴中から古瀬戸平碗片が出土しており15世紀前半以降の時期となろう。No 3は古瀬戸折縁皿や大窓期の天目碗片等とともに15号土坑から出土している。17号地下式壙出土のNo21は、土浦市寄居遺跡1号地下式壙出土のものと類似し15世紀末頃のものであろう。

在地の鍋は堅穴遺構や地下式壙、溝の覆土から出土している。第103図 No 1 の内耳鍋は10号堅穴遺構から出土しているもので体部に深さがあり15世紀前半頃の古手のものと考えられる。No 6、8、10の内耳鍋は15世紀後半頃のものか。No 11は内耳鍋やかわらけ等と同じ焼成の土師質土器の小鉢で外側に煤が付着し15世紀代に火災にあっている一群の土器と同じ時期のものか。

No 7の片口鉢は胎土が在地的で還元炎焼成の須恵器のような土器である。2号テラス面に確認された17号土坑の中から出土している。底部は、断面逆三角形の付高台で、体部は直線的に開き、口縁部で外反し鉗状となる。まるで瀬戸の片口鉢を模したような器形である。古瀬戸後二期の平碗、常滑片、石製硯片、スタンプ文の押された瓦質火鉢片等中世の遺物とともに出土しており、15世紀前半頃の廐棄坑への投棄遺物と考えられる。観察表を補足すると胎土は半透明・白色の1~3mmの大の織を中心には大きいもので8mm大を含み1mm以下の粒子も比較的多く含有している。まるで雲母を含まない種類の古代の新治産須恵器の胎土のようである。最も形の似た古瀬戸の片口鉢と比較すると、片口鉢は山茶碗や小皿とともに後期様式の始め頃まで無釉陶器として残存し、灰黒色ないし灰色の発色で体部外側を搔き上げ、断面逆三角形の高台を付けている。胎土中に白色の織を含むものもあるとされている。瀬戸の山茶碗系の無釉陶器の可能性もあるが、胎土・焼成の点から在地産と推測される。しかし、これまで同様の技法的特徴を持つ在地の製品は知られていない。

その他に產地不明の瓦質土器が出土している。No 2・4・5は、中世の時期のものと思われ、それぞれ



第104図 神出遺跡出土石製品

神出遺跡出土石製品観察表

番号	種類	名稱	径	厚さ	孔径	残存率	石 質	台帳番号	出土地点	備考
1	石製品	硯	74	23	70	-	粘板岩	213	SK539	
2	石製品	硯	18	30	-	-	粘板岩	246	2号カラス	
3	石製品	滑石印版	56	42	12	46.8	滑石	265	表探	

連續スタンプ文が押されている。No 3・9は近世の瓦質土器と思われ、No 3は方形の火鉢、No 9は甕か壺形であろう。

石製品 (第104図・写真図版31)

石製品は、硯石3点、砥石12点、滑石印版1点が出土している。硯石3点は、粘板岩製で滋賀県の高島産とされるものに類似している。砥石は、仕上げ砥が2点で内1点は京都鳴滝産である。荒砥は瓶文岩製の沼田砥と考えられるもの、泥岩質のもの、両側に鋸目に入った幅6cmもある幅広のもの等が出土地してい。No 3の滑石印版は滑石製のスタンプ状の製品である。捺み部分に捺みと直交して貫通孔が2か所、捺みと平行して末貫通孔が1か所空いている。印面には樹枝状のやや不明瞭な絵柄が浮彫りされており、印面に向かって左半分と右半分に欠けている。裏面には刃傷にも見える線状の掘り込みが4か所入り、捺み部の頭と鋸に捺みと平行に太めの沈線が入っている。鎌倉の中世の遺跡からの出土例が多く、鎌倉以外では博多で出土しているものが知られるだけで、地方での出土はまだないときれている。鎌倉の出土例の中に金箸が刺さっていたものがあるとのことで焼き印や墨継染め用の版等の説がある。本遺跡のものは残念ながら表探遺物で遺構に伴っていない。本遺跡の中で印版の使用地点を強引に推測するならば、H.5グリッド内に長軸約70cm、短軸約40cmの不整形の平坦で赤褐色化した火床が3か所確認されておりこの遺構との関連が推測される。

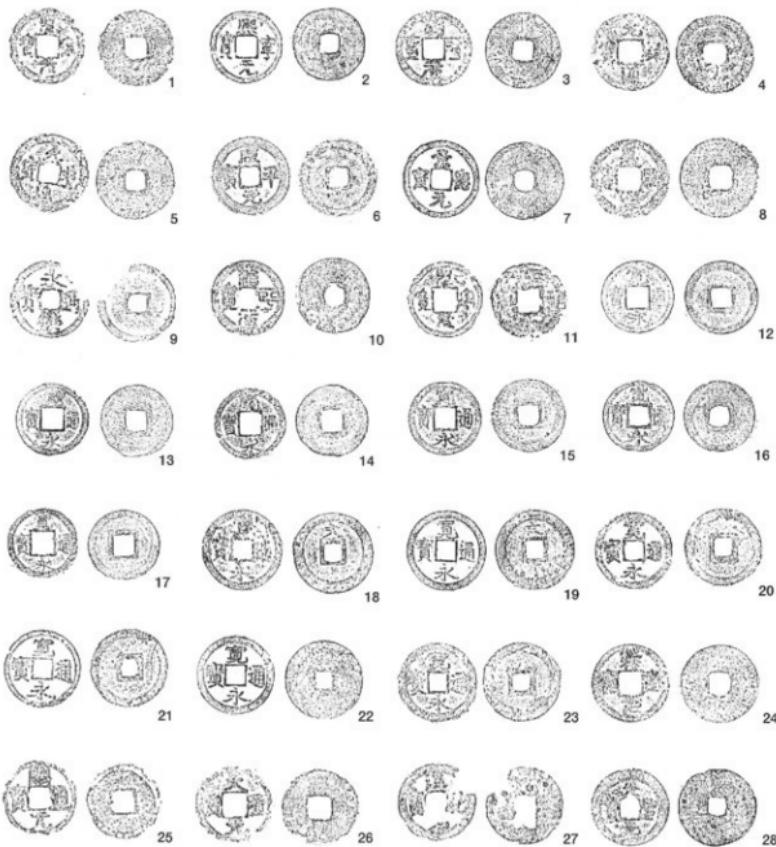
(第68図)

金属製品 (第105図・図版31)

鉄製品30点以上と銅鏡28点が出土している。鉄製品は全体に遺存状態が悪く形状不明なものが多い。釘状、刀子状、鍵片かと思われるものや鍔管、近代のバッジ状のものも出土している。銅鏡は渡来鏡16点と寛永通宝12点である。

出土錢貨観察表

番 号	種 別	初鑄年 (西暦)	外 径 (cm)	内 径 (cm)	厚 さ (cm)	重 量 (g)	出 土 地 点
1	聖宋元寶	1101年	2.3	0.65	0.11	3.03	1号獨立柱建物跡
2	聖宋元寶	1068年	2.25	0.6	0.12	3.09	1号獨立柱建物跡
3	治平元寶	1064年	2.37	0.62	0.11	3.36	17号地式焼
4	元符通寶	1096年	2.44	0.68	0.11	4.15	17号地式焼
5	元豐通寶	1075年	2.43	0.6	0.08	2.97	17号地式焼
6	崇寧元寶	1101年	2.43	0.57	0.1	3.51	21号地下式焼
7	豐寧元寶	1004年	2.4	0.6	0.1	2.5	21号地下式焼
8	不 明		2.5	0.69	0.11	2.72	21号地式焼
9	永樂通宝	1406年	2.44	0.53	0.12	3.16	63号土坑
10	治平元寶	1064年	2.3	0.59	2	3.43	536号土坑
11	聖宋元寶	1101年	2.3	0.7	0.08	1.76	536号土坑
12	寛永通宝	1667年	2.27	0.68	0.1	2.75	669号土坑
13	寛永通宝	1697年	2.27	0.63	0.09	2.53	669号土坑
14	寛永通宝	1697年	2.27	0.67	0.08	1.89	659号土坑
15	寛永通宝	1697年	2.28	0.62	0.09	2.63	659号土坑
16	寛永通宝	1697年	2.22	0.62	0.08	2.51	659号土坑
17	寛永通宝	1697年	2.22	0.63	0.08	1.9	659号土坑
18	寛永通宝	1668年	2.48	0.58	0.12	3.76	3号幕張
19	寛永通宝	1668年	2.48	0.56	0.12	3.35	3号毫筆
20	寛永通宝	1668年	2.4	0.56	0.13	3.64	3号毫筆
21	寛永通宝	1668年	2.4	0.58	0.13	3.53	3号毫筆
22	寛永通宝	1668年	2.42	0.56	0.11	3.16	3号紅磚
23	寛永通宝	1668年	2.42	0.54	0.13	3.6	3号毫筆
24	天聖元寶	1023年	2.43	0.68	0.1	3.3	3号道
25	開元通宝	960年	2.32	0.66	0.11	2.3	P201
26	天聖元寶	1023年	2.4	0.75	0.09	2.06	中央地区表土
27	淳化元寶	990年	2.41	0.66	0.08	1.89	中央地区表土
28	天聖元寶	1023年	2.48	0.57	0.11	3.91	西区表土

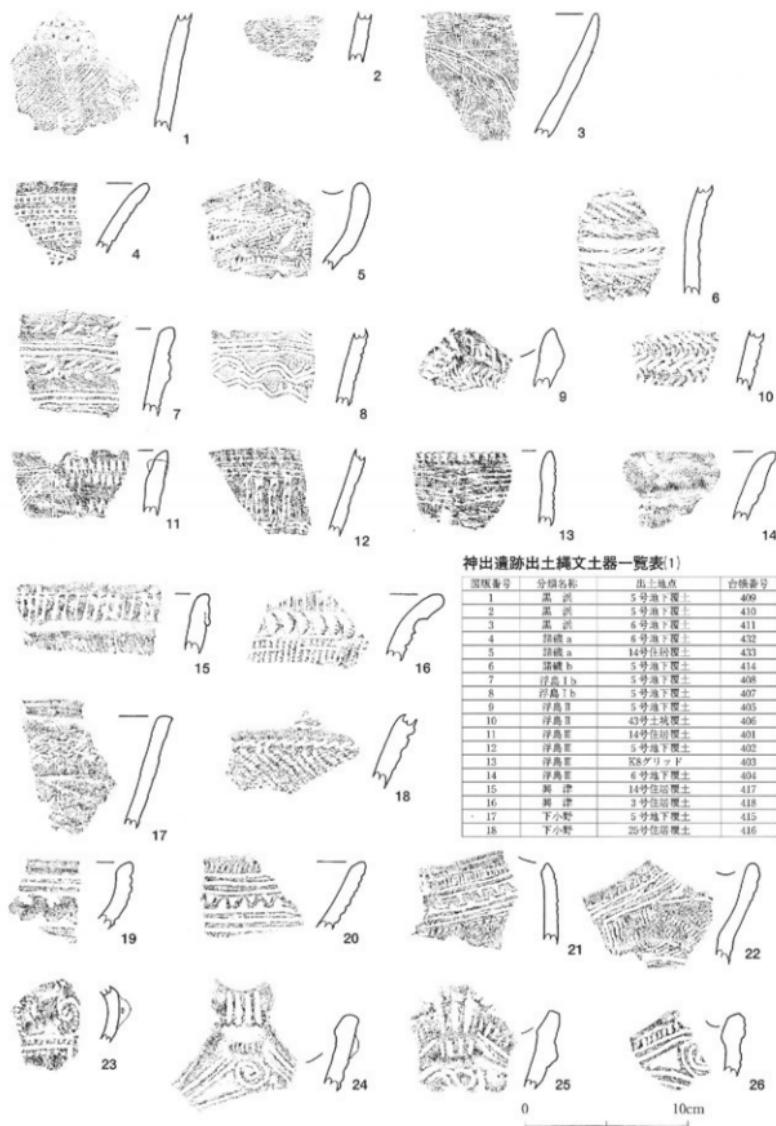


第105図 神出遺跡出土銭貨



4. 遺構外出土遺物 (第106-107図・写真図版32)

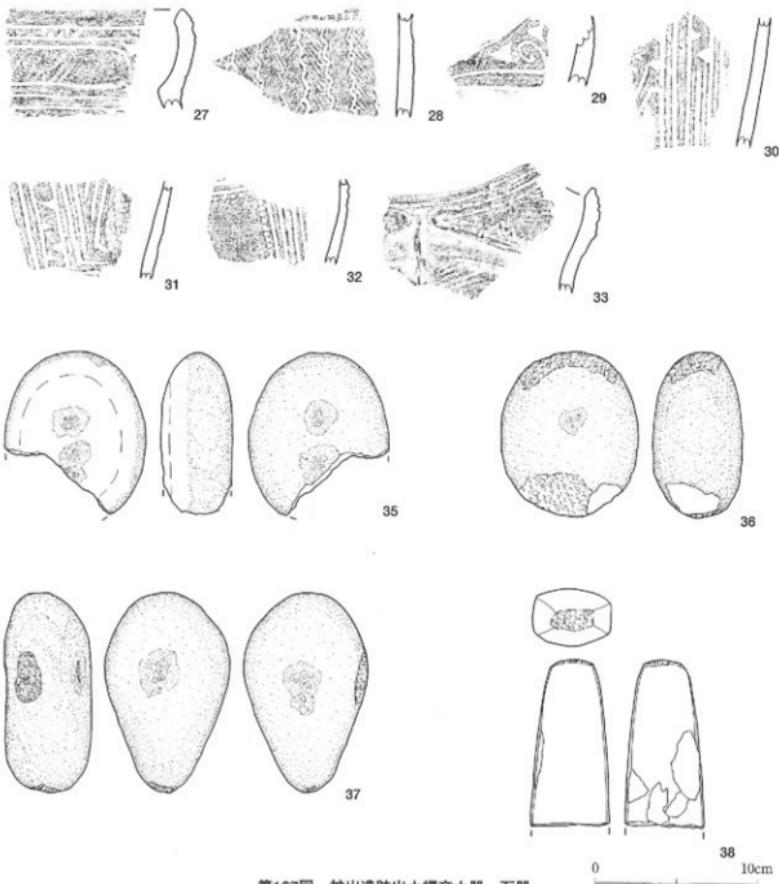
縄文土器は、古墳時代～近世の各遺構の覆土中に混入しており、遺物収納箱3箱分程出土している。しかし、調査範囲内に縄文時代の遺構はまったく発見できなかった。おそらく、自然の土壤流失、古墳時代以降の住居や土坑の掘り込み、中世の地形の掘削・削平、各遺構の掘り込みによって本来あったはずの縄文時代の遺構は流失してしまい確認できないものと考えられる。縄文土器は前期前半～中期前葉の時期の遺物で、前期前葉の五領ヶ台期のものが比較的多い。石器も数点出土している。以下に拓・実測図と一覧表を掲載する。



神出遺跡出土繩文土器一覽表(1)

圖版番号	分類名稱	出土地点	台帳番号
1	圓 瓢	5号池下層土	409
2	圓 瓢	5号池下層土	410
3	圓 瓢	6号池下層土	411
4	梯級 a	6号池下層土	432
5	梯級 a	14号住居層土	433
6	梯級 b	5号池下層土	414
7	浮島 I b	5号池下層土	408
8	浮島 II b	5号池下層土	407
9	浮島 III	5号池下層土	405
10	浮島 III	43号住居層土	406
11	浮島 III	14号住居層土	410
12	浮島 III	5号池下層土	402
13	浮島 III	5号池下層土	403
14	浮島 III	6号池下層土	404
15	圓 舟	14号住居層土	417
16	圓 舟	3号池下層土	418
17	下小舟	5号池下層土	415
18	下小舟	25号住居層土	416

第106図 神出遺跡出土繩文土器



第107圖 神出遺跡出土繩文土器・石器

神出遺跡出土繩文土器一覽表(2)

圓版番号	分類名稱	出土地點	台帳番号	圓版番号	分類名稱	出土地點	台帳番号
19	五領ヶ台	6号地下覆土	420	27	五領ヶ台	6号地下覆土	426
20	五領ヶ台	5号地下覆土	421	28	五領ヶ台	6号地下覆土	428
21	五領ヶ台	14号住居号覆土	423	29	五領ヶ台	39号上坑	430
22	五領ヶ台	5号地下覆土	422	30	五領ヶ台	5号地下覆土	429
23	五領ヶ台	5号地下覆土	425	31	五領ヶ台	5号地下覆土	431
24	五領ヶ台	2号住居號土	424	32	五領ヶ台	5号地下覆土	412
25	五領ヶ台	6号地下覆土	434	33	五領ヶ台	441号土坑覆土	413
26	五領ヶ台	8号地下覆土	427				

神出遺跡出土繩文時代石器觀察表

番号	種類	名 称	長さ	厚さ	幅	比重	石 質	重 量	台帳番号	出土地點	備考
35	石器	磨石	10	4.4	8.2	70	砂岩	470g	419	SK15	内外標準
36	石器	磨石	10.2	5.5	8.4	100	安山岩	690g	423	SK473	
37	石器	磨石	12.3	5.3	7.7	100	安山岩	650g	424	B5地下穴	
38	石器	磨石	(10.2)	4.9	4.9	100	砂岩	300g	426	D11G	

第3節 調査のまとめ

本遺跡は縄文時代から古墳時代、平安時代、中世、近世、近代までの人間活動の痕跡が繰り返し刻まれた遺跡である。古代の遺構は、古墳時代前期・後期平安時代の竪穴住居跡から成る集落である。中世の遺構は掘立柱建物跡や溝、方形堅穴造構等館跡にかかわるような遺構、さらに地下式塙や火葬墓といった墓に関連する遺構も見られる。その他に近世の土坑墓や土坑、時期不明の礎石建物跡等、近代の土坑や果樹栽培の跡が見られる。検出された遺構数は、古墳時代の竪穴住居跡20軒、平安時代の竪穴住居跡22軒、中世の掘立柱建物跡8棟、地下式塙29基、火葬遺構（火葬墓）5基、堅穴造構12基、溝13条、テラス状遺構2か所、時期不明の礎石建物跡1棟、その他土坑約460基、柱穴約980本である。

古墳時代の竪穴住居跡は、古墳時代前期の1軒を除いてほとんどが5世紀後半から6世紀前半の大型の住居跡で、台地平坦面の最高地点を中心に分布している。出土遺物は在地産土師器と搬入土師器、搬入須恵器、平安時代の集落は9世紀後半から10世紀代が中心で、遺構の遺存状態が悪く出土遺物もやや少ないものの灰釉陶器は細片で多く出土している。中世の掘立柱建物跡は、柱穴状のピットが数多く確認されたもの明瞭に建物の配列として捉えられたものが少なく、柱間や柱列の不規則な掘立柱建物跡は相当存在していたものと推測される。方形堅穴造構や地下式塙、柱穴、土坑は出土遺物がとほしく時期の決定の困難なものが多い。

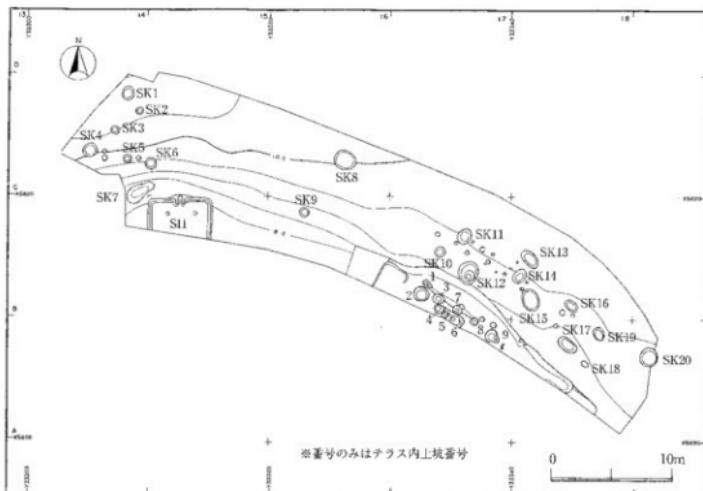
出土遺物は古墳時代の土師器、須恵器、土製品、平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器、中世の輸入陶磁器、古瀬戸、常滑、土師質土器、土製品、金属製品、遺構外から縄文土器片・石器等が出土している。本遺跡は台地縁辺の傾斜地形という立地環境であるが古代と中世の遺構が検出され、当時の人々の生活の跡が確認された。古代の遺構は古墳時代後期から平安時代の竪穴住居跡で、古墳時代後期1軒、奈良時代1軒、平安時代1軒である。出土遺物は7世紀後半の土師器、8世紀前半の土師器・須恵器、9世紀代の土師器、須恵器、灰釉陶器である。中世に属すると考えられる遺構は火葬墓1基、粘土張り土坑2基である。火葬墓は、南側の谷を狭んで隣接する台地上に立地する神出遺跡から7基確認されており、掘立柱建物跡等との切り合の関係から16世紀前後の時期のものと推測されており、本跡のものも同時期頃の可能性が考えられる。粘土張り土坑は、近世に見られる六文錢を伴うような円形プランではなく方形プランで内壁が火熱を受けており墓壙の可能性もあるが、性格は不明としておく。中世の時期の出土遺物は火葬墓から骨片、遺構外から古瀬戸平碗小片が出土している。その他に時期不明の溝1条と土坑13基が検出された。



第4章 中居遺跡

第1節 遺跡の概要

神出遺跡の台地はさらに南東に延び、狭い尾根状地形になっているが、中居遺跡はその尾根状地形の南斜面の裾部にある。検出された遺構は竪穴住居跡1軒、土坑29基、テラス状の自然平坦面1か所を数える。住居跡や土坑の確認されたテラス面は、標高8mで、水田面との比高差は4mを測る。



第108図 中居遺跡全体図

第2節 遺構と遺物

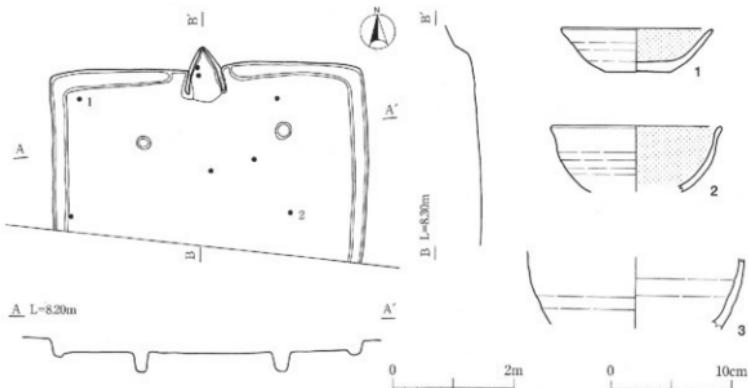
1 竪穴住居跡

1号竪穴住居跡（第109図・写真同版33）

本住居跡は、B14グリッドに位置する。南半分は調査エリア外に延びている。規模は東西方向5.06mで、主軸はN=0°を示す。残存する壁高は25cmを測り、塗溝掘り方上幅0.2mで竈部分を除いて全周している。主柱穴は、2本で北壁から1.1m、東西壁からそれぞれ1.4m離れた床上にあり、径23~28cm、深さ約35cmである。カマドは確認面上場で0.75m竪穴外に突出する。袖部の外側最大幅は1.4mで内壁は焼上化して残存しており、燃焼室中央部奥壁から、約0.9m離れた内側へ向かって左中央に支脚が残存していた。出土遺物は、9世紀代の須恵器が多く、土師器は壺、内黒坏・碗が覆土中から出土している。

中居遺跡1号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	基高	底径	残存高	胎	土	色	調	器形・技法の特徴	その後	台帳番号	出土地点	備考
1	土師壺	坪	(129) 3.6	1.2	半通明2多段				褐色	内黒			1	SI1	
2	土師器	高环	11.2	4.8	20	白色微粒少量			褐色	内黒			2	SI1	内外面擦耗
3	須恵器	長颈瓶			5	白色粒・同微粒少景			褐色	内面長孔吹き出し多い			3	SI1	



第109図 中居遺跡 1号住居跡・出土遺物

2 テラス状遺構 (第110図・写真図版34)

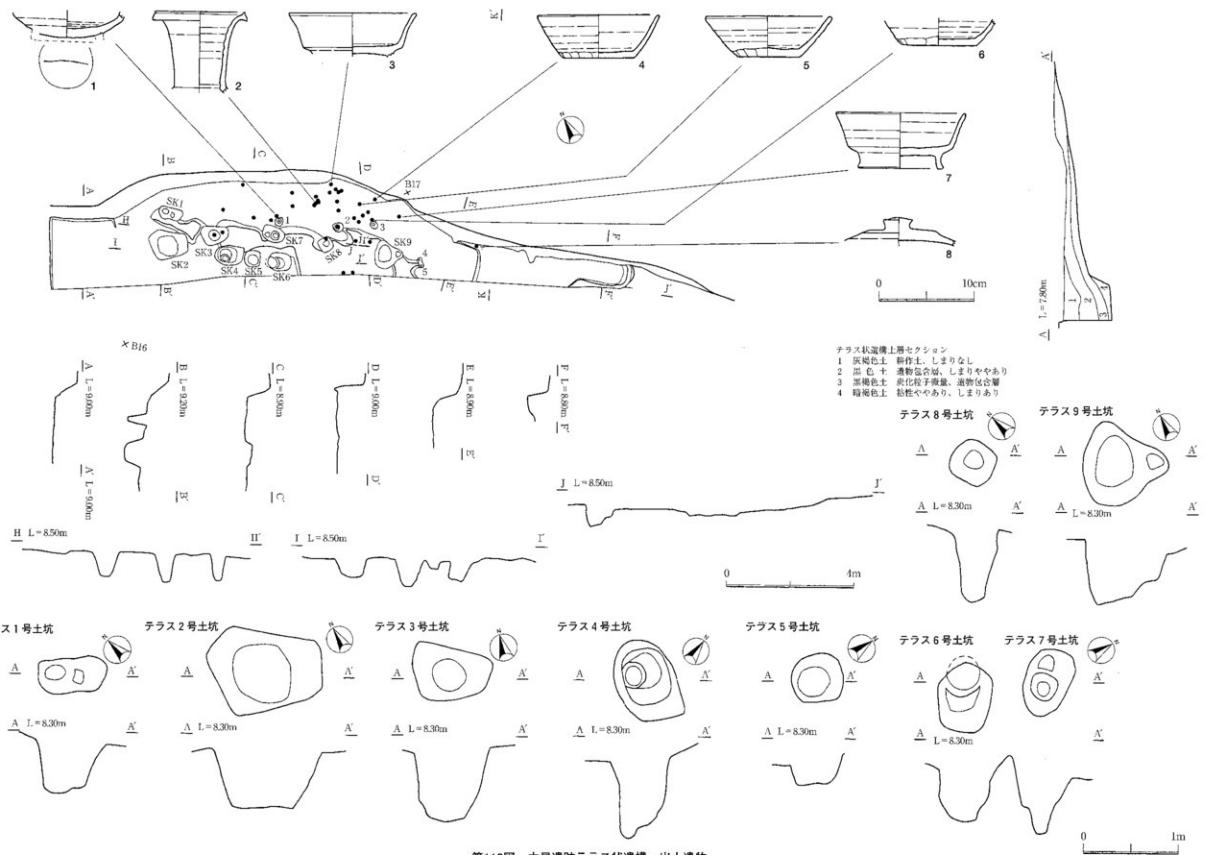
台地裾部の緩やかな傾斜が標高9m付近で急に傾斜角度を強め、高さ約2mの崖面となって下り、崖下は底面が平坦なテラス状地形となっている。このテラス面は平安時代以降に埋没したらしく、須恵器を中心とする遺物が、耕作土の下の黒色土・黒褐色土層から出土している。平坦面上には土坑9基が確認されたが遺物はほとんど出土しなかった。テラス状遺構を覆っている自然堆積層から出土している須恵器は、壺・高台付壺・壺・長頸瓶で9世紀前半代を中心とした時期の遺物である。No.1の須恵器高台付壺は胎土中に海綿骨針、チャート繊を含み木葉下産、No.2長頸瓶の胎土は精良で在地のものではなく、猿投産灰釉陶器に較べると長石分の融出が目立ち、自然釉は黒からオリーブ、一部金色光沢を放つ、同一個体と見られる体部片はまるで常滑焼の焼き色を呈しており、須恵器であれば原始灰釉の段階、灰釉陶器とするならば猿投産でも遠江産でもない地域の製品かと見られる。その他の須恵器は、雲母粒を含む新治産と新治産で雲母を含まない胎土のものが出土している。

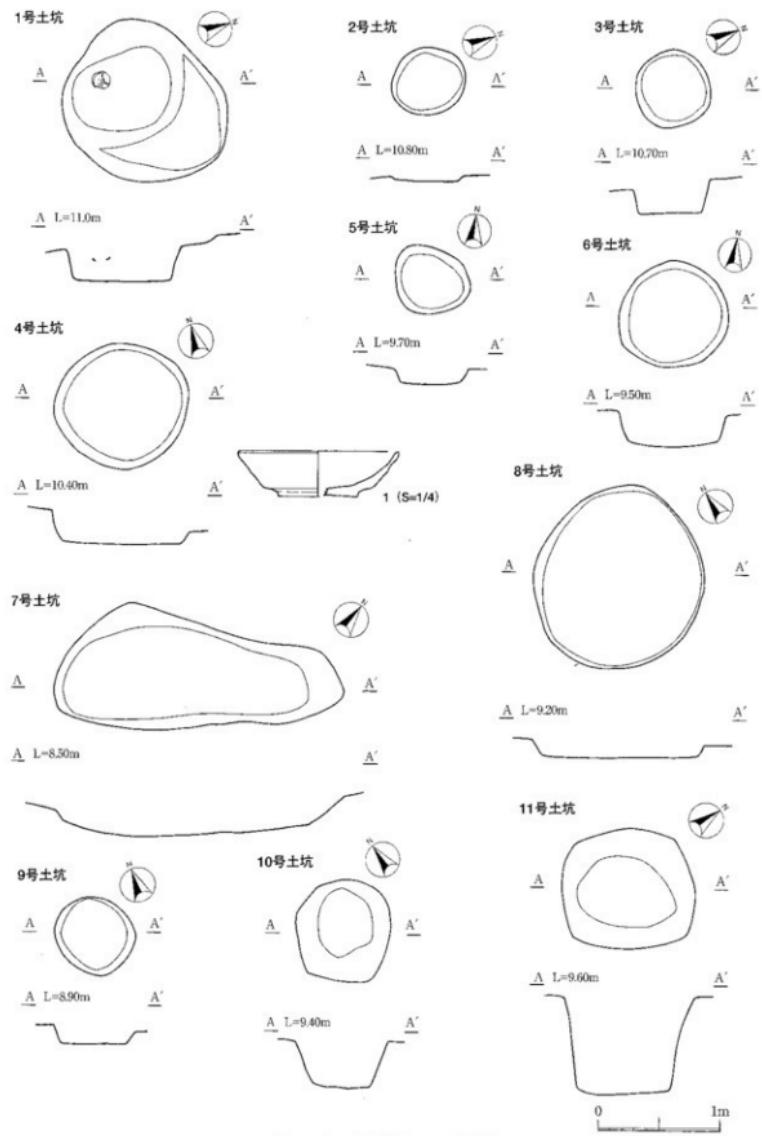
中居遺跡テラス状遺構出土遺物観察表

番号	種類	口径	高さ	底径	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	古墳番号	出土点	備 考
1	須恵器 高台付壺			50	白色、白色蘚少量、海綿骨針	褐色		13	テラス上 木葉下産	
2	須恵器 長頸瓶	9.5		20	黑色微粒少量	オーブル	表面灰色～褐色、頭部一段接合	19	テラス上	
7	須恵器 高台付壺 (13.4)			40	透明、白色微粒子	灰色		11	テラス上 新治産	
4	須恵器 壺 (12.9)	4.6	7.6	60	實母粒微粒子中量	灰色	底部回転ヘラ切り離し後押さえ	5	テラス上 新治産	
5	須恵器 壺 (13.3)	4.3	6.4	60	半透明、白色微	灰色		7	テラス上 新治産	
6	須恵器 壺			50	雲母粒、透明、白色粒中量	灰色	底部回転ヘラ削り	4	テラス上 新治産	
7	須恵器 高台付壺			60	白色角躍最大3mm、半透明粒	灰色	底部回転ヘラ切り離し	12	テラス上 新治産	
8	須恵器 壺			70	透明、半透明	灰色		14	テラス上 新治産	

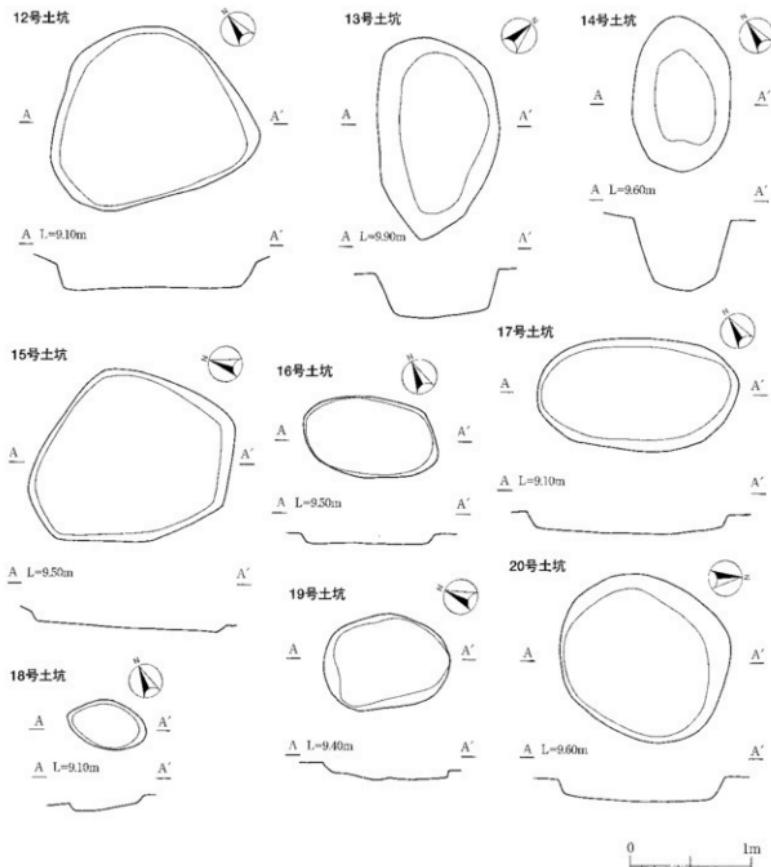
表5 中居遺跡テラス内土坑一覧表

番号	位 置	平面形	長幅×短幅×深さ	出土遺物
1	B-16	楕円形	1.38×1.20×0.24	
2	B-16	楕円形	0.64×0.54×0.03	
4	B-16	円 形	0.63×0.61×0.10	
5	B-16	楕円形	1.13×1.03×0.18	
6	AB-16	円 形	0.66×0.53×0.12	
7	B-16	不整形	2.38×0.79×0.21	
8	A-16	円 形	1.47×1.40×0.10	
9	A-16	扇丸方型	0.68×0.65×0.11	





第111図 中居遺跡1~11号土坑



第112図 中居遺跡12~20号土坑

3 土坑（第111・112図）

29基の土坑のうち、9基はテラス面から、残り20基が遺跡内の緩斜面上から検出された。分布は、調査区西側の1号住居の北西側に6基、調査区東側のテラス状造構の上の緩斜面上に10基、その間に2基と3群に分かれる。出土遺物は住居跡と同じ9世紀代の遺物が中心である。

中居遺跡土坑出土遺物観察表

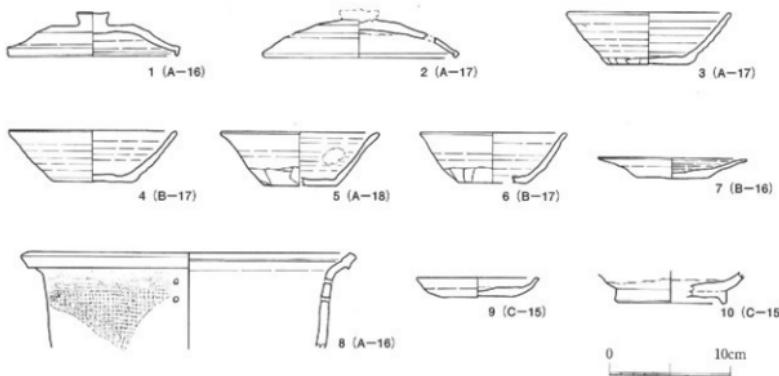
番号	種類	器種	口径	高さ	底性	保存率	胎土	色調	器形・技法の特徴	その他の特徴	白紙番号	出土地点	備考
1 土師器	壺	(13.3)	(6.6)	40	半透明	灰・白色粒子	褐~青色	内面被熱痕あり			22	SK4	不明

表6 中居遺跡土坑一覧表

番号	位 置	平面形	長軸×短軸×深さ	出土遺物
1	C-13	楕円形	1.38×1.20×0.24	
2	C-13	楕円形	0.64×0.54×0.03	
4	C-13	円 形	0.63×0.61×0.10	
5	C-13	楕円形	1.13×1.03×0.18	
6	C-14	円 形	0.66×0.55×0.12	
7	BC-13	不整形	2.38×0.79×0.21	
8	C-15	円 形	1.47×1.40×0.10	
9	B-15	隅丸方型	0.68×0.65×0.11	
10	B-16	隅丸方型	0.83×0.73×0.37	
11	B-16	方 型	1.01×1.00×0.80	
12	B-17	不整形	1.71×1.42×0.20	
13	B-17	不整形	1.66×0.96×0.36	
14	B-17	不整形	0.21×0.75×0.54	
15	B-17	不整形	1.80×1.44×0.10	
16	B-17	楕円形	1.11×0.67×0.07	
17	A-17	楕円形	1.66×0.82×0.17	
18	A-17	楕円形	0.66×0.40×0.90	
19	A-17	楕円形	1.04×0.75×0.11	
20	A-18	円 形	1.47×1.28×0.18	

4 その他グリッド出土遺物 (第113図・写真図版34)

No 5の須恵器は、体部下端手持ちヘラ削り、底部一方向ヘラ削り調整を行っているが、底部の調整時に体部を逆さにして左手（右ききの場合）の親指と中指で体部を摘んだ際に、中指を当てた内面がへこんでし



第113図 遺構外グリッド出土遺物

中居遺跡グリッド出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	底厚	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土場所	備考
1	須恵器	盞	(13.9)	3.6	40	透明・白色粒子、雲母粒子極少量	青灰色	内面に火燐板		16		新治産
2	須恵器	盞	(16)	—	30	半透明角窓・微粒	青灰色	内面に透位土重ね焼き痕跡		15	A17-3層 瓶ノ内か	
3	須恵器	甌	(13.5)	4.3	(65)	40	雲母微粒子多量	黒色	内外面黒色タール状物質付着	6	A17-3層	新治産
4	須恵器	甌	(13.8)	4.2	(65)	55	半透明・白色微粒	暗灰色	底部回転切り離し無調整	8	A17-3層 新治産	
5	須恵器	甌	(13)	4.4	(62)	40	雲母微粒子多量	灰色	底部1方向ヘラ削り	9	A17-3層 新治産	
6	須恵器	甌	(12.0)	4.2	(58)	30	青母微粒子多量	灰色	体部下端手持ち、底部1方向ヘラ削り	10	A17-3層 新治産	
7	須恵器	甌	(12.2)	1.7	59	60	白色粒子、雲母微粒子少量	灰褐色	底部一方向ヘラ削り	17	B16G2層 新治産	
8	須恵器	甌	(27.6)	—	10	半透明・白色粒、雲母微粒子少量	灰-褐色			20	鏡付3層 新治産	
9	土師器	小甌	10.1	1.6	5.8	90	半透明・灰色粒子	明褐色	底部	21	C15G	
10	火燐陶器	甌	—	—	9.2	20	微分微粒子極少量	灰白色		18	C15G2層	

まっている。そのため内面に粘土を詰めて補修し、外面の突出部を体部下端へラ削り時に削っているようで、制作工程のわかる資料である。No 8 の須恵器甕は体部に縦方向に 2 カ所、焼成後の穿孔をあけている。破片のためその他の側にも孔があけられていたのかは不明である。No 9 は端部に平坦面を持つ土師器小皿、No 10 はやや大ぶりな灰釉陶器碗片である。

第 3 節 調査のまとめ

中居遺跡は神出遺跡の南東部の尾根状地形の南斜面の裾部に位置している。地形は、緩やかな斜面と自然の營力によって造られたテラス状の自然平坦面からなり水田面との比高差は 4 m を測る。検出された遺構は竪穴住居跡 1 軒、土坑 29 基で、ほとんどは平安時代 9 世紀頃の遺構と考えられる。住居跡や土坑の確認されたテラス面は、自然堆積で埋没しており、埋没土層中から 9 世紀代の須恵器を中心とした遺物が出土している。

第5章 考 察

第1節 神出遺跡古墳時代集落跡について

神出遺跡の古墳時代の集落に係わる、出土遺物・堅穴住居跡の構造・「貯蔵穴」状の土坑を検討し、古墳時代の集落の変遷について概観する。

1. 出土遺物と時期区分

出土遺物の中で最も多く出土している土師器は前期のものが少量と中期末から後期前半代のものが大量に出土している。須恵器はTK208～TK10, TK217が出土し、主体はMT15である。須恵器の年代観はTK23～TK47を5世紀の第4四半世紀、MT15を6世紀第1四半世紀、TK10を6世紀第2四半世紀と考え、古墳時代中期と後期の境を須恵器のTK23以降、つまり土師器の須恵器模倣壺出現以後を後期と考えておく。

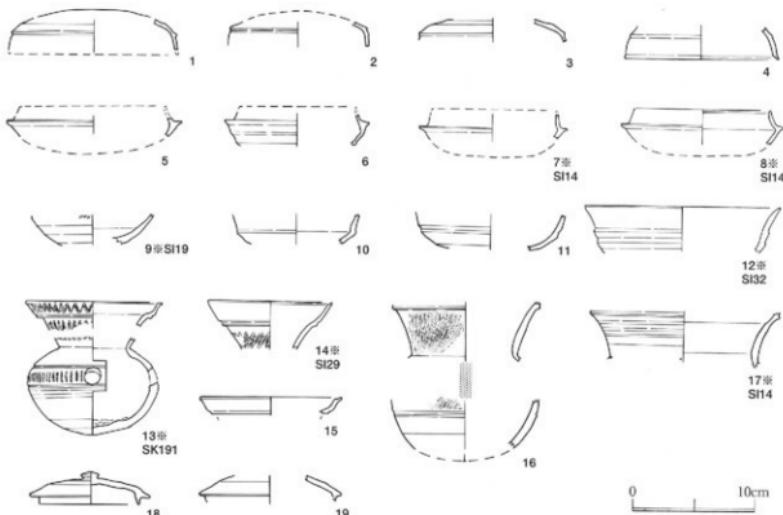
前期の土師器は34号住居と63号土坑から出土しており出土量はたいへん少ないがこれらをⅠ期の土器とする。

5世紀後半の土師器の中で最も古手のものは、29号住居出土の小さな平底を持つ赤彩壺である。29号住居からは深身の赤彩壺、木製品模倣高壺等とともにTK208～TK23頃の須恵器小形断片が出土している。木製品模倣高壺の脚部は短脚化前のもので、同様に脚部の長い高壺は32号住居からも出土している^(注1)。これらをⅡ期の段階の土器と考えることとする。壺・瓶・高壺・小形の壺類は赤彩を施すことが基本のようで、赤彩壺は外面に赤色塗装し、粘土・焼成は牛久市のヤツノ上遺跡群^(注2)出土遺物等とも共通した在地生産の土器と見られる。

次のⅢ期の土師器の中で主体となるのは赤彩蓋模倣壺、短脚傾向の高壺、炉で使用した痕跡のある壺といった組み合わせのもので、4・14号住居等から出土している。須恵器も壺の細片が見られ、大形化して稜線のシャープさのなくなりつつある個体はMT15段階のものと考えてよいかと思われる。赤彩土器は11個体中8個体で70%である。いまだ、赤彩土器主体の時期である。中には赤く焼き上がる鉄分の多い土を使ったものも見られ、このような個体は成形技法や細部のつくりから在地産のものと区別されるので、他の地域からの搬入・流通品と考えられる。具体的には28号住居3番の土器がそれに当たり、内底面の丁寧な放射状ヘラ磨き、底部のヘラ削り、鉄分の粒子だけが目立った赤く焼き上がる精製土の使用が観察される。県内ではひたちなか市の武田遺跡群や真壁町の八幡前遺跡等では共通した特徴のものがそれぞれ在地製品に混じって見られる。このⅡ～Ⅲ期を土師器壺の特徴から、赤彩の個体が非常に目立つ時期、「赤彩土器の時期」と呼ぶことができよう。

次の段階の土師器壺の組成がよくわかるのは9号住居である。住居はすでにカマドを持っている。壺・瓶はいわゆる貯蔵穴と呼ばれる出入り口ピット直下にあけられた深い穴の中に落ち込むようにして大量24点も出土している。壺は身厚模倣形態のものが5割出土しており、赤彩率は20%と低く無赤彩の土器が多い。内底面の放射状ヘラ磨きはやや難なものが多い。19号住居は短脚高壺と赤彩蓋模倣壺、赤彩口縁部外反壺、及びTK10頃の須恵器高壺が出土している。この一括土器をIV期「赤彩と無赤彩の混ざった時期」と考える。

V期の土器は、38号住居の柱抜き取り穴に一括で廃棄されていた壺・壺類で、壺は内外面黒色処理された個体だけで赤彩・無赤彩土器を含まない。壺は体部下端ヘラ磨きが施されており、常緑形壺への移行形態と考えられる。壺の特徴から「黒色土器の時期」と呼べよう。IV期からV期への変化が急激であり、間にもう一段階あるかもしれない。



第114図 神出遺跡出土古墳時代須恵器

※印は各遺構ページより再掲載したもの

神出遺跡古墳時代須恵器観察表

番号	種類	器種	口径	器高	残存率	胎	土	色調	台帳番号	出土地点	備考
1	須恵器	壺蓋			5	白色微粒、鉄分粒	暗灰	293	E11-19	MT15~	
2	須恵器	壺蓋			5	白色微粒	灰	294	SK383	MT15か	
3	須恵器	壺蓋			5	白色粒少量	青灰	295	E10-16		
5	須恵器	壺	(11.9)	5	白色微粒	暗青灰	291	地下式4	MT15~TK10		
6	須恵器	壺	(9.6)	5	白色微粒、鉄分粒	灰	290	SI21	MT15か		
7	須恵器	壺	(10.3)	5	白色微粒	灰	292	S114	MT15か		
8	須恵器	壺	(11.1)	5	白色微粒	灰	289	S114	MT15~TK10		
9	須恵器	無蓋高壺			5	白色微粒多量、白色粒	暗灰	300	S119時	MT15~TK10	
10	須恵器	無蓋高壺			5	白色微粒、白色粒	青灰	301	D5G	TK10	
11	須恵器	無蓋高壺			5	白色耀	灰	302	SK379		
12	須恵器	無蓋高壺	(16)	5	白色微粒、白色襯	青灰	296	S132	TK47~MT15		
14	須恵器	越	(10.3)	5	白色粒中量、黑色微粒	暗灰	297	S129	TK23か		
15	須恵器	越	(11.7)	5	白色微粒	黒灰	299	SK392	TK10		
16	須恵器	蓋		10	鉄分粒	黒~灰	298	SK19	TK47~MT15		
18	須恵器	蓋	9.9	2.7	25	白色微粒、白色粒多量	灰	303	地下式21		
19	須恵器	蓋	(11.8)	5	白色微粒極少量	青灰	304	D11-20			

次に各時期の絶対年代を考える上で、細片を含めて出土須恵器の全体を見ておきたい。産地の特定は難しが、目視観察で推測するならば、2種類に分かれるようである。ひとつは胎土が白色微粒を主体にして青灰色を呈するもので、少量の鉄分粒子を含む固体もある。器面は地色の青灰色上に胎土中の鉄分が多いため全体に黒灰色を上掛けされたような発色のもので、これまで胎土分析で陶邑産とされているものに近い。もう一方はきめの細かい明るい灰色の地に、歴史時代の灰釉陶器長頸瓶の無釉部に見られるような明るいオリーブ色の薄い自然釉と鉄分に由来する黒色の自然釉が掛かった器面発色のもので、この個体は実測図でも通常の須恵器壺の形態と異質で、地方産おそらく猿投周辺の製品かと思われる。胎土・焼成において在地的な

特徴のある個体は見られず、16番の壺以外は陶器編年上で位置付けを考えてよいものと思われる。各須恵器の陶器編年上の位置付けは以下のようになる。蓋壺類は、口径値の大きなものばかりで、棟線のシャープさが弱いものもあり、MT15～TK10段階と考えられる。14番の壺は、13番の壺と較べ頸部が細くTK208～TK23頃、13番の壺はTK23頃であろうか。12番の無蓋高壺はTK23～TK47、9,10,11の高壺、15の壺はTK10段階頃、18・19の壺は7世紀第2四半世紀頃のものかと思われる。

2. 積穴住居跡の構造

古墳時代の積穴住居跡は、前期の住居跡1軒、後期のもの19軒確認された。ここでは前期の1軒（1群とする）を除いた中期末から後期前半代のものを対象とする。中期末から後期前半代の住居のうち確実に時期の先後関係の捉えられるのは29→28→26号住居と29→32号住居だけである。最も古い29号住居は大形で四本の柱穴に貯蔵穴、おそらく炉を持っていたものと考えられる。28号住居も基本的に同じ構成と考えられるが貯蔵穴の位置に違いが見られる。28号住居の貯蔵穴は4世紀末から5世紀第3四半世紀頃にかけて通常見られるコーナーに寄ったタイプであり、他の住居跡とは異系列である。32号住居も基本的構成は同じだが出土遺物にやや新しさが見られる。26号住居は床面の一部の残存が見られただけで、炉か竈かはわからず、貯蔵穴の掘り込みもみられなかった。以下切り合ひ関係の見られない住居を含めて、住居の構造に差異や変化が見られるかを検討する。住居構造の中で貯蔵穴と出入り口の施設の位置関係は、積穴住居跡の構築時の特徴が最もよく残されていると考えられる。貯蔵穴は出入り口施設と関連が深く、特にこの時期のものは出入り口のはしご施設の下に掘り込まれており、出入り口施設の作り直しが認められなければ貯蔵穴も住居構築当初から存在していたことになる。出土遺物から住居跡の廃絶時期や存続時期がいつ頃かわかるのと同じように、住居跡の構築時期がいつ頃か示す資料として貯蔵穴や出入り口施設の位置関係は重要な視点と考えられる。よつて以下に、貯蔵穴とその他の施設の位置関係を分析の視点にして住居を分類することとする。

Ⅰ群 29号住居跡は比較的大形で4本主柱穴と貯蔵穴を持っているが、貯蔵穴の位置に注目してみると、中軸線から向かって右に少しづれている。同じ特徴は18・32号住居にも見られ、いずれも竈をもたない、これをⅡ群とする。18・32号住居は、貯蔵穴周囲に周堤状の高まりを持ち、出入り口ピットは貯蔵穴をまたいだ位置に開いている。周堤状の高まりは、Ⅲ群の中にも見られ、Ⅳ群の廃絶が出土遺物から見てⅡ群よりも新しいことを考えると、周堤状の高まりについてはより新しい段階のもの可能性が推測される。Ⅱ群に属する29号住居の出土遺物を見てみると土師器の壺・椀類に底部に平底壺、器高の深い椀が含まれ比較的古様が見られることは先に出土遺物の所で触れた。これらはおそらくTK208～TK23頃と思われる須恵器の壺口縁部片と同じ時期頃の遺物と考えてよいと思われる。32号住居の出土遺物には確実な模倣壺が見られるものの脚の長い高壺であり、18号住居の短脚化した高壺よりは古いと思われる。これらのことから住居跡の廃絶の時期は、29→32→18の順で新しくなり、29・32号住居で須恵器のTK23段階頃18号住居でMT15段階頃が廃絶の時期と考えておく。構築時期はTK208～TK23頃かと推測されるが29号住居と32号住居は重複しており存続期間が重なることはない。

Ⅲ群 4・14号住居は、貯蔵穴を中軸線上に持つタイプである。貯蔵穴周囲の周堤状の高まりはともに明瞭で、出入り口ピットは貯蔵穴をまたいだ位置に開いている。出土遺物の所で見たように、廃絶はMT15段階頃でⅢ群と考えられる。構築時期はⅡ群の構築時期よりは新しいと推測される。

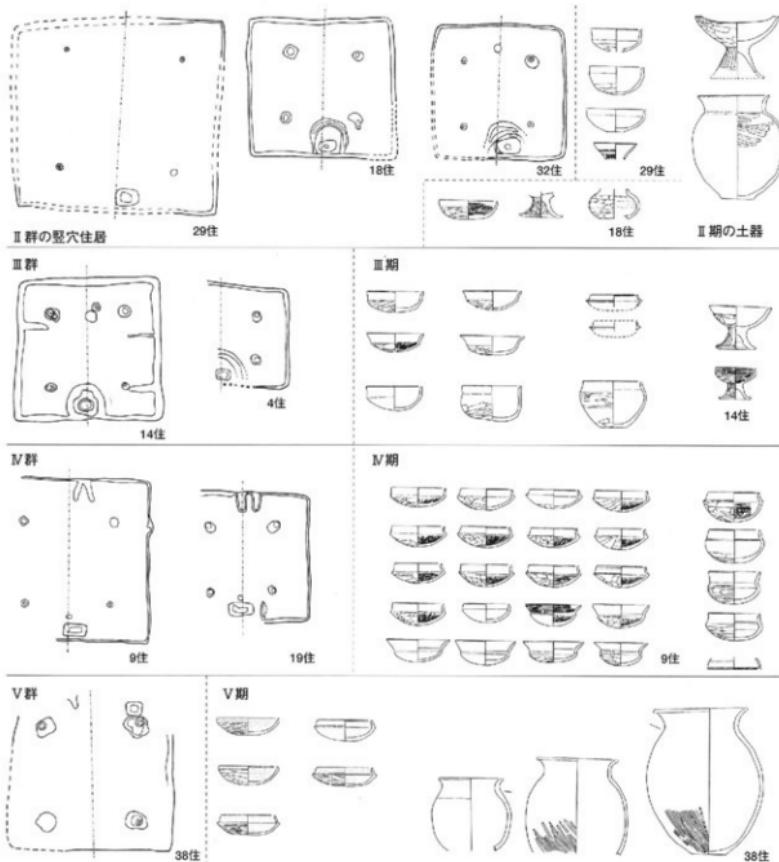
Ⅳ群 9・19号住居の貯蔵穴はⅢ群と同じ位置に開くが、貯蔵穴周囲に周堤状の高まりはみられない。竈を貯蔵穴対面に当たる北西壁に持っている。出土遺物からⅣ期の須恵器のTK10頃に廃絶しており、構築時

期はⅢ群よりは新しいと考えられる。

V群 38号住居の貯蔵穴は出入り口と離れ住居の奥の竈に向かって右側に掘られている。廃絶後に一括で投棄されたⅣ期の土器は最も新しい時期の遺物である。

各群の時期的な先後関係は、廃絶時の出土遺物から見てほなⅠ～Ⅳ期と呼び変えてよいと思われる。以上堅穴住居跡の構成要素の一つである貯蔵穴の位置にもとづいた構築時期の前後関係の推定をおこなつた。次に遺跡内に散在する貯蔵穴状の土坑について触れてみたい。

第115図の（85・87・88・92・110・163・166・172・197号の9基の土坑）は堅穴住居跡内の貯蔵穴に類似しているものの周囲に堅穴住居跡にかかる握り込みや柱穴さえ見られず、性格不明の土坑である。ここでこれらの遺構が堅穴住居跡の貯蔵穴である可能性について検討することとする。

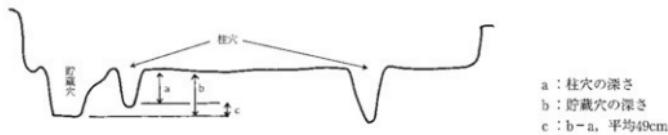


第115図 堅穴住居跡の構造変化

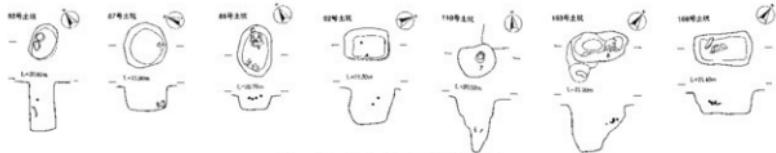
神出遺跡の5世紀後半から6世紀の前半頃の竪穴住居の中で柱穴と貯蔵穴の深さのはっきりしているもの9軒あり、貯蔵穴の深さは深いもので1.54m、浅いもので0.58m、平均1.08mである。これらの中で、柱穴の深さよりも貯蔵穴の深さの方が深いものが8軒ある。最も差の大きい18号住居の場合柱穴の底面よりも貯蔵穴の底は87cmも深く掘り下げられ、浅いもので32号住居の13cm、平均では49cmである。つまり平均で約50cmも、主柱の底面よりも貯蔵穴の底面の方が深いということである（第116図）。貯蔵穴状の土坑の確認面からの深さは、深いもので90cm、浅いもので10cm、平均44cmである。仮に住居跡の柱穴の底の深さまで、地形の流失や削平が行われてしまったとしても、貯蔵穴だけは充分残る可能性をこの点から理解できると思う。次にこれら貯蔵穴状の土坑の分布であるが、古墳時代の住居の分布と重ねてみたものが第118図である。神出遺跡の東西に馬の背状に延びる台地地形の最高地点にB群、C群がある。このうちB群が貯蔵穴状の土坑の分布範囲である。ほぼC群と似た方向性と分散状況で、あたかも竪穴住居跡の集落の分布を示すかのようである。貯蔵穴下半部だけが残るような地形の削平・流失についてはC群中の26号住居や23号住居の床が一部しか残存していないことやこの台地の縁辺に見られる常緑粘土層の露出などが挙げられる。つまり、古墳時代に集落として開かれてから平安時代、中世と長年の間地形の継続的な流失があったと推測される点と、B群の分布域はもともと台地の最も高い部分で特にこの範囲の削平が強かったと推測される点などからである。

また、これらの穴は単独の屋外土坑として考えることもできようが、この時期の屋外の貯蔵用の土坑は、牛久市ヤツノ上遺跡群で見られるような方形の竪穴遺構、あるいはひたちなか市の武田遺跡群でみられるような平面円形、円筒状のやや大きな土坑であり、これまでここで見られるようなタイプの報告例はない。以上のことから85号以下の土坑群については5世紀後半から6世紀前葉頃の竪穴住居跡の一般的に貯蔵穴と呼ばれる穴の下半部の残存と結論づけることとする。

では、なぜこのような深い貯蔵穴が屋内に掘り込まれるのかについてだが、貯蔵穴の用途・性格とかかわってくる問題である。常陸南部地方に限ってこの貯蔵穴について見てみると、弥生時代後期に、竪穴住居跡の出入り口施設の近く（出入り口施設が一本柱の斜めに掛けられた階段施設であるならその下の壁との間）に浅く窪む穴が見られるようになる。その後古墳時代前期から後期前半までは長方形気味の平面形である程度の深さを持つ穴がやはり出入り口施設と関連を持ちながら継続してつくられる。古墳時代前期の古い段階のものは、出入り口ピット脇で住居のコーナーから離れた場所につくられ、前期の末のものは5世紀前半のものと同じように住居跡のコーナー部に掘り込まれるようになる。5世紀前半でも新しい時期のものはコーナー部に複数つぐられるものも見られる。構造を詳しく見ると貯蔵穴の穴の縁に床面から深い二段掘り込みが確認できる。穴の周辺は特に硬化しているが、二段掘り込みの一端は数cm床から下がっており硬化が認められない、ここに炭化した板状のものが出土することなどから厚みのある板で覆われていたものと推測される。古墳時代前期にはこの穴の周辺で粘土塊が出土したり、ミニチュア土器が出土したりするが、土の堆積を見ると内部は空洞であったと考えられる。6世紀前半までのこの穴は、出入り口と関連の強い施設と

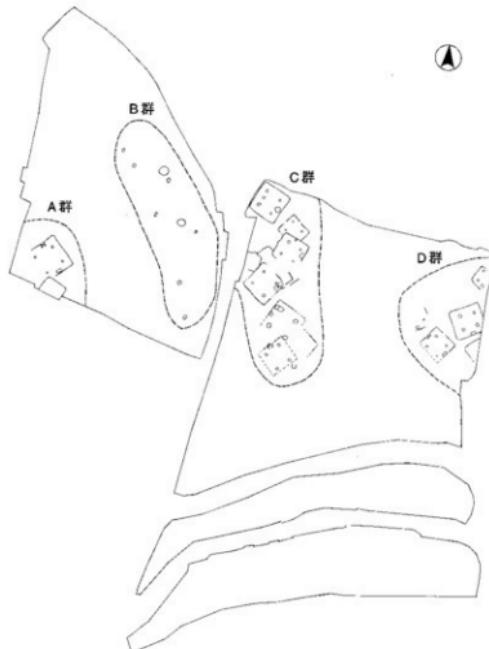


第116図 竪穴住居跡断面図



第117図 神出遺跡貯蔵穴状土坑

考えられるが、6世紀後半以降、同じような穴が竪窓に掘られる。竪窓は食器が置かれたり水甕が設置されたりする炊事場空間であり、6世紀後半段階のものは貯蔵穴という呼称も概に悪くないのかもしれない。古墳時代前期の玉造りの集落遺跡の工房的竪穴住居跡で、この穴が工作ピットと呼ばれているが、特に玉造りの住居跡にだけ見られるのではなく、一般的の竪穴住居跡にも普遍的に見られるので、周辺が非常に良く硬化していることと併せて作業場空間と考えることもできよう。また、益森健一氏が貯蔵穴を貯蔵埋納用ピットとされている点は山入り口施設との強い関連と貯蔵穴周辺の硬化が度重なる踏みしめによると考えられるので魅力ある説である。神出遺跡で確認された貯蔵穴が異常に深い理由はその性格と係わってくる問題であろう、他地域の例との比較検討は今後の課題である。



第118図 神出遺跡古墳時代の竪穴住居の分布

3 集落変遷

前期の竪穴住居跡1軒は、南側台地縁辺部に掘り込まれた粘土探掘坑1基がほぼ同時期と思われるが、その他に遺構を伴わず集落として継続しない。古墳時代後期の竪穴住居の分布は台地の最高地点を中心に分布が認められ、5世紀後半から6世紀中頃まで継続するようである。竪穴住居跡として掘り込みが残っているもの以外に貯蔵穴のみが残存して独立の土坑のように見えるものが9基（第118図分布図B群）あり、これらを合わせると竪穴住居跡からなる集落には4群の平面分布が捉えられる。

遺構の切り合いと遺構の特徴、そして出土遺物を参考にして各竪穴住居跡の存続幅の中でいくつかの時期を切り出してみると以下のようなになる。Ⅰ期は古墳時代前期、Ⅱ期は5世紀の第3四半世紀の後半頃から第4四半世紀頃、Ⅲ期は6世紀の第1四半世紀頃、Ⅳ期は6世紀第2四半世紀～中葉頃と考え

られる。本遺跡の古墳時代の集落は、古墳時代前期に小規模に開かれたあと、5世紀前半で一度断絶する。再び5世紀後半から入植が始まり、5世紀後葉頃から最盛期を迎える。その後集落は6世紀第2四半世紀頃に多くが廃絶し、からうじて6世紀中頃まで大形の住居跡がわずかに続いている。遺構外から7世紀代の須恵器がわずかに出土しているので、東出遺跡に見られる7世紀後半の竪穴住居跡等とともに居住が再び始まったようだ、これが8世紀前半で廃絶している住居跡につながっているものと考えられる。

注1 木製品の羽物盤を模倣した高杯は、同じ茨城県の総和町香取西遺跡出土のものがある。両耳の突出は香取西遺跡のものの方で明瞭で、共判遺物は脚と杯部とに接を持つ装飾性の高い高杯が出土しており、この高杯はTK216頃に見られ、新しくてもTK208頃までのものなので本跡のものよりも古い。牛久市ヤツノ上遺跡からは、舟形上器と呼ばれる（底面が橢円形に歪んだ壺の体下半部）で木製品の柄杓を模倣したとされるものが出土している。

注2 牛久市ヤツノ上遺跡群では土師器の平底の椀、杯類が比較的多く見られる。そこで共判する須恵器がTK208新段階～KM1が主体であり、時期的に神出遺跡の古い段階に一部重なる時期の遺跡である。

参考文献

1998年 新井和之『香取西遺跡発掘調査報告書』総和町教育委員会

1993年 橋村宣行「牛久市ヤツノ上遺跡出土の舟形土器について」『常陸』創刊号

第2節 神出遺跡中世の遺構と遺物について

神出遺跡からは掘立柱建物跡、テラス状遺構、方形竪穴遺構、地下式壇、火葬墓、溝塁中世の遺構が確認された。これらの遺構からは在地系の鍋やかわらけ以外に、搬入陶器の瀬戸・常滑、輸入陶磁器の青磁や白磁等中世の遺物が出土しており、各遺構の時期的位置づけがある程度可能である。これら中世の遺物と遺構間の切り合い関係から各遺構の時間的位置付けと遺構の總体としての遺跡の性格の変化について考えて見ることとする。

まず搬入陶器の中で生産時期が明瞭で比較的の出土量の多い古瀬戸について全体傾向を見る。最も古いものは古瀬戸中期様式14世紀初め頃の瓶子で、数量的に多いのは後期様式の15世紀前半代の平碗や15世紀後半代の折縁皿や卸し皿等、わずかに大盛期の天目茶碗がある。14世紀の瓶子は伝世後の納骨容器としての使用が推測され、15世紀後半代のものの中には食器類以外に仏具の花瓶や香炉、やや高級な小形の茶入れや根母懐壺等茶陶器が見られる。

常滑は片口鉢や壺・広口壺等の小片が少量出土しており、13～14世紀代の古瀬戸よりも古い時期のものが目立つ。

次に在地系土器であるが、かわらけは全体の1/4に灯明皿としての使用痕跡が観察され、形態的に大きく2種類に分かれる。底径が大きく器高の低いタイプは灯明皿として利用されており、火熱を受け掘立柱建物跡や土坑から出土している。底径が小さく体部に丸みをもつて底部傾斜の緩やかなものは溝や地下式壇から出土し、後者のタイプは近世かわらけに近い形態で比較的新しいものと考えられる。全体として見れば、古瀬戸の供伴する15世紀代のものと16世紀以降の時期のものに別れると思われる。

輸入陶磁器は、龍泉窯系青磁碗の古いもので12～13世紀前半代、鎌邊弁文の付いたものは13世紀後半～14世紀前半、白磁小碗は15世紀前半代である。輸入陶磁器の年代の下限が15世紀前半であることは、古瀬戸で15世紀後半の高級な茶入れがあることをあわせると、15世紀後半代に高級な輸入陶磁器や国産の施釉陶器を比較的多く取得できる階層の人々の存在を示すものと考えられる。

その他の遺物では、鎌倉で出土数の多い滑石製印判が注目される、おそらく破損した滑石製鍋から加工したもので新しくても14世紀頃の物と思われる。滑石製印判の使用の場を推測すると無数の柱穴群や豎穴遺構の占める空間に3カ所程火処の痕跡が見られ、周間に石臼や古瀬戸平碗片が入る作業用の土坑らしきものがあり、これらと共になんらかの製品製造のために使われていた可能性が考えられる。

次に各遺構について検討してみる。まず豎穴遺構についてであるが、これらの分布は南部の柱穴群や掘立柱建物跡と重なっている。豎穴遺構は方形で規模が小さく、埋め戻し堆積の覆土が多く、出土遺物もほとんどない等、粗獣的な性格を持っていたと考えににくい施設である。豎穴の底面に降りるために出入り口スロープ（9号豎穴）や階段（7号豎穴）を持ち、覆土に灰・炭化物の堆積は見られない。本跡8号豎穴遺構から中野編年の6a期（13世紀第3四半世紀頃）の常滑窯口縁部片が出土し、10号豎穴遺構からは、土師質土器の内耳鍋が出土している。10号豎穴遺構は、大形の9号掘立柱建物跡と重複した位置関係にあり同時存在是不可能である。10号豎穴遺構出土の内耳鍋は器高が高く体部の傾斜角度があり古手の内耳鍋で15世紀代のものであろう。よって出土遺物と大型の9号掘立柱建物跡との重複関係から、10号豎穴遺構は15世紀前半、9号掘立柱建物跡は15世紀後半頃と考えられる。15世紀後半頃には方形豎穴の占地空間から、大型の掘立柱建物跡の立つ空間になっていたと考えられる。一般的に方形豎穴は墓域と重なり灰・炭化物の大量堆積や埋め戻し堆積等から墓に関連する施設と考えられるものと、館址内にあり墓とは違う性格のものがあり、このものは墓に関連する施設ではなく館址内や開拓入植地などでの架設住居のような性格のもので、無数に聞く柱穴群の一部や方形の深い作業用の土坑や火処とともに、滑石製印版や石臼、砥石等を使用するなんらかの製品製造の場であった可能性が考えられる。

方形豎穴遺構を最も古い遺構群と考えたが、方形豎穴遺構に続く時期の遺構は配列の明瞭な掘立柱建物跡と考えられる。掘立柱建物跡群は、3号掘立柱建物跡柱痕穴から15世紀前半頃の古瀬戸平碗片とやや古いかわらけが出土しているもののおおよそ近い時期の遺構群と捉えられる。9号掘立柱建物跡のように柱穴掘り方底面に石製の礎板を入れている大形の掘立柱建物跡や礎石を持つ礎石建物跡では出土遺物の中でも最も豪華なものが使われていたと考えるのが自然である。掘立柱建物跡で、古瀬戸の一帯が使用されていたことを認めるとするならば、15世紀がその中心で特に15世紀後半代のものを含んでかなり強い火熱を受けた個体が目立つことから、15世紀末頃には掘立柱建物跡が焼失しているようである。礎石建物は、全容が不明であるが東側南北列の礎石配置から推測して方形造りの寺院建物のようなものが想定できる。礎石建物は9号掘立柱建物跡の掘り方底面の石製礎板と同質の石材を使用している点、同時期の可能性がある。礎石建物と同様な方形造りで柱穴が小さな掘り方の7号掘立柱建物跡が東側に接してあり、この掘立柱建物跡は礎石建物よりも古いと考えられ、火災を被っている。その他に掘立柱建物跡付近で火災に関係する遺構は、柱穴群とテラス状遺構である。

柱穴群は、掘立柱建物跡と較べ柱間寸法・方向が一定せず建物として明瞭な認識ができないが、その形状と覆土の堆積から建物の柱穴と認識されるので、不整配列の立柱による簡易な掘立柱建物跡と推測される。これらの柱穴群の出土遺物は極少なく、P629から土師質土器小皿（かわらけ）、P631から砥石、P930から青磁片が出土している。P629出土かわらけは強い火熱を被っており、古瀬戸片や他の遺構出土のかわらけに見られた強い火を受けた痕跡と共通している。この焼けたかわらけは柱穴を掘って柱を立てた際にに入ったか、建物の倒壊や柱の抜き取り等の後にに入ったかのどちらかと考えられるのでこの柱穴を掘る以前か柱穴が機能しなくなる前にこの一帯は火災にあってるのである。ただし柱穴群はあまりにも数が多すぎて、出土遺物に乏しくすべてが15世紀代とはいきれずそれ以前の14世紀のもの、あるいは16世紀のものがある可能性

は考えられるがそれを分離することは不可能である。

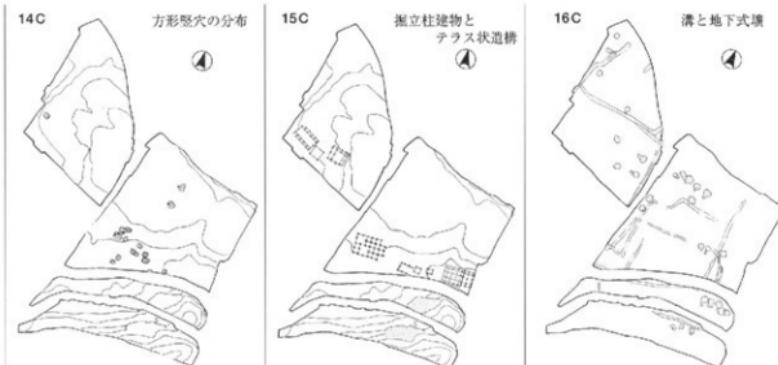
テラス状遺構は、神出遺跡の大形掘立柱建物跡の南側、低地に下る斜面に2段に削り込まれた人為的なテラス面である。上の段の1号テラス出土遺物は古瀬戸片、常滑片、土師質土器小皿・内耳鍋片等、古瀬戸片は、折縁深皿、折縁中皿、天目茶碗、縁軸小皿でいずれも藤沢編年後II期（1380年～1420年）のものである。2号テラス出土遺物は古瀬戸瓶子（狭手連続文の梅瓶）、折縁皿片、平椀片、常滑片、硯石片、スタンプ文のついた火舎が出土している。テラスの南側の17号土坑からは古瀬戸平挽1個体分が、須恵質で断面三角形の低い高台のついた須恵質の折縁深皿とともに出土している。形態的に瀬戸の折縁皿を模倣し、制作技法的には無釉の蓮足炎焼成の山茶碗系の技法であるが、在地の胎土を使った土器である。テラス上に開いた柱穴状の3号ピットからかわらけが強い火を受けた状態で出土している。テラス状遺構も掘立柱建物跡と同じように、15世紀代の後半の火災痕跡のかわらけが出土しておりほぼ同時期の遺構と推測される。

遺跡の南部の掘立柱建物跡等の焼失後の遺物はかわらけや内耳鍋であるがそれらは地下式壙や溝覆土から出土している。地下式壙は地下の横穴に遺体を仮土葬後一定期間を置いて再度正式な墓所に埋葬するための再葬施設と考えられている遺構である。本跡の地下式壙からは15世紀末頃の内耳鍋や16世紀頃のかわらけ片が出土し、古瀬戸片が少ないとからほぼ16世紀を主体としていると思われる。他の中世遺構との関係は、溝との関連があるよう地式壙竪坑を溝底面から掘り込んだものが多く溝の掘り込みを利用して掘削土量を少なくする工夫が見られる。

火葬遺構は、3号火葬遺構が9号掘立柱建物跡と重複関係があり、火葬遺構のほうが新しい。

溝は埋没過程の覆土中の遺物が内耳鍋やかわらけ等16世紀以降の時期のもので、道の側溝のように現況道路脇に長く延びているものと傾斜地形に直行し土地を区画するようなもの、中世の柱穴群を囲むような長方形配置のもの等がある。

以上のように中世の神出遺跡は、14世紀に常滑窯や滑石製印判、石臼や方形土坑を伴う簡素な建物からなる生産遺跡で始まり、輸入陶磁器・瀬戸系施釉陶器等最も豪華で量の多い遺物を出土している掘立柱建物跡や礎石建物の堂からなる15世紀代を経て、在地鍋やかわらけを主体とし地下式壙や火葬遺構等からなり墓域化する16世紀代と変化している。15世紀代に輸入陶磁器や瀬戸製品を比較的多量に取得できるような階層が居住していたであろうことが推測されるが、その居館としてふさわしいのは大形の掘立柱建物跡や礎石建物



第119図 神出遺跡中世の遺構群の変遷

等からなる空間であろう。

（参考文献）

- 1992年『長谷小路南遺跡』長谷小路南遺跡調査会
- 1993年『佐助ヶ谷遺跡（鎌倉税務署用地）発掘調査報告書』佐助ヶ谷遺跡調査団
- 1990年『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書5』鎌倉市教育委員会
- 1991年 嶩沢良祐『瀬戸古窯址群II—古瀬戸後期様式の續年—』『研究紀要X』瀬戸市歴史民俗資料館

CONTENTS

Preface	
Introductory Notes	
Explanatory Notes	
Contents	
Chapter I Introductory Chapter	
1. Background of the Research	1
2. Results of the Trial Excavation	1
3. Locations of the Sites and Their Archaeological Environment	4
4. Method and Progress of the Research	9
Chapter II Higashide Site	11
1. Outline of the Site	11
2. Structural Remains and Artifacts	12
3. Conclusion of the Research	18
Chapter III Jinde Site	19
1. Outline of the Site	19
2. Structural Remains and Artifacts	20
1 Kofun Period	20
2 Heian Period	44
3 On and after the Medieval Period	59
4 Artifacts Excavated outside the Structural Remains	132
3. Conclusion of the Research	135
Chapter IV Nakai Site	137
1. Outline of the Site	137
2. Structural Remains and Artifacts	137
3. Conclusion of the Research	144
Chapter V Consideration	145
1. Change of Settlements Occurred in the Late Kofun Period at Jinde Site	145
2. Structural Remains and Artifacts of the Medieval Period Excavated from Jinde Site	151

SUMMARIES

1. This book is an excavation research report relating to Higashide Site (street no. 1634), Jinde Site (no. 1582-1) and Nakai Site (no.1587), which are located in 1-chome, Koiwata-higashi, Tsuchiura City, Ibaraki Prefecture.
2. As the previous research accompanying preparation of a housing site conducted by the Northern Kanto Branch of KUMAGAI GUMI CO., LTD. and IBARAKI SEKISUI HEIM, the Board of Education of Tsuchiura City and the Archaeological Sites Research Association of Tsuchiura City conducted the excavation research in cooperation with Sambu Archaeological Research Institute.
3. The research was conducted from December 24, 1997 through June 30, 1998.
Classification of excavated artifacts and compiling the report were conducted from July 1, 1998 through March 31, 1999.
4. From Higashide site, 3 pit dwelling sites of the late Kofun period to the Heian period, and also medieval cremation burials, earthen pits and ditches were excavated. The excavated artifacts are: Haji ware of the latter half of the 7th century, Haji and Sue ware of the former half of the 8th century, and Haji, Sue and ash-glazed ware of the 9th century.
5. The structural remains excavated from Jinde site are as follows: settlement sites of the early and late Kofun period and the Heian period; sites of buildings with pillars embedded directly in the ground, ditches, square pit remains, underground pits for burial and cremation graves of the medieval period; and earthen pits, etc. of the pre-modern period. The excavated artifacts are: Haji and Sue ware and clay objects of the Kofun period; Haji, Sue and ash-glazed ware of the Heian period; and imported ceramics, Koseto ware, Tokoname ware, pottery characteristic of Haji ware, clay objects, stone-made objects and metal objects of the medieval period. Outside in the structural remains, fragments of Jomon pottery, stone implements, etc. were unearthed.
6. From Nakai site, a pit dwelling site, earthen pits and Sue ware of the Heian period were unearthed.
7. By the research of Jinde site, structural characteristics of pit dwelling sites belonging to the end of the 5th to the former half of the 6th centuries have been grasped. Besides, good results that a large amount of study data, such as the sites of buildings with pillars embedded directly in the ground of the medieval period and a large quantity of Seto ware of the 15th century, were accumulated have been obtained.
8. The artifacts, plans and photographs, etc. relating to this report are together in the custody of Kamitakatsu Kaizuka Furusato Rekishi no Hiroba.

CONTENTS

Preface

Introductory Notes

Explanatory Notes

Contents

Chapter I Introductory Chapter

1. Background of the Research	1
2. Results of the Trial Excavation	1
3. Locations of the Sites and Their Archaeological Environment	4
4. Method and Progress of the Research	9

Chapter II Higashide Site

1. Outline of the Site	11
2. Structural Remains and Artifacts	12
3. Conclusion of the Research	18

Chapter III Jinde Site

1. Outline of the Site	19
2. Structural Remains and Artifacts	20
1 Kofun Period	20
2 Heian Period	44
3 On and after the Medieval Period	59
4 Artifacts Excavated outside in the Structural Remains	132

3. Conclusion of the Research

Chapter IV Nakai Site

1. Outline of the Site	137
2. Structural Remains and Artifacts	137
3. Conclusion of the Resrch	144

Chapter V Consideration

1. Change of Settlements Occured in the Late Kofun Period at Jinde Site	145
2. Structural Remains and Artifacts of the Medieval Period Excavated from Jinde Site	151

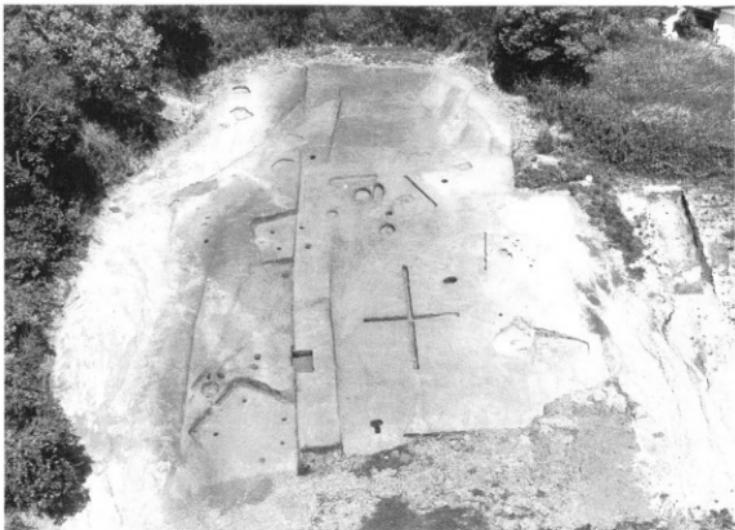
SUMMARIES

1. This book is an excavation research report relating to Higashide Site (street no. 1634), Jinde Site (no. 1582-1) and Nakai Site (no.1587), which are located in 1-chome, Koiwata-higashi, Tsuchiura City, Ibaraki Prefecture.
2. As the previous research accompanying preparation of a housing site conducted by the Northern Kanto Branch of KUMAGAI GUMI CO., LTD. and IBARAKI SEKISUI HEIM, the Board of Education of Tsuchiura City and the Archaeological Sites Research Association of Tsuchiura City conducted the excavation research in cooperation with Sambu Archaeological Research Institute.
3. The research was conducted from December 24, 1997 through June 30, 1998.
Classification of excavated artifacts and compiling the report were conducted from July 1, 1998 through March 31, 1999.
4. From Higashide site, 3 pit dwelling sites of the late Kofun period to the Heian period, and also medieval cremation burials, earthen pits and ditches were excavated. The excavated artifacts are: Haji ware of the latter half of the 7th century, Ilaji and Sue ware of the former half of the 8th century, and Haji, Sue and ash-glazed ware of the 9th century.
5. The structural remains excavated from Jinde site are as follows: settlement sites of the early and late Kofun period and the Heian period; sites of buildings with pillars embedded directly in the ground, ditches, square pit remains, underground pits for burial and cremation graves of the medieval period; and earthen pits, etc. of the pre-modern period. The excavated artifacts are: Haji and Sue ware and clay objects of the Kofun period; Haji, Sue and ash-glazed ware of the Heian period; and imported ceramics, Koseto ware, Tokoname ware, pottery characteristic of Ilaji ware, clay objects, stone-made objects and metal objects of the medieval period. Outside in the structural remains, fragments of Jomon pottery, stone implements, etc. were unearthed.
6. From Nakai site, a pit dwelling site, earthen pits and Sue ware of the Heian period were unearthed.
7. By the research of Jinde site, structural characteristics of pit dwelling sites belonging to the end of the 5th to the former half of the 6th centuries have been grasped. Besides, good results that a large amount of study data, such as the sites of buildings with pillars embedded directly in the ground of the medieval period and a large quantity of Seto ware of the 15th century, were accumulated have been obtained.
8. The artifacts, plans and photographs, etc. relating to this report are together in the custody of Kamitakatsu Kaizuka Furusato Rekishi no Hiroba.

写 真 図 版

東出遺跡

図版
1



1. 遺跡全景（空撮）



2. 1号住居跡（東より）



3. 1号住居跡カマド近景（東より）



4. 2号住居跡（東より）



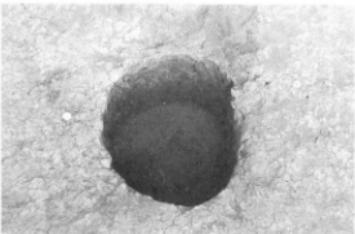
5. 3号住居跡（南より）

東出遺跡

圖版
2



1. 1号火葬墓



2. 10号土坑



3. 11号土坑



4. 13号土坑



5. 1号溝



6. 基本堆積土層



2住-1



1住



遺外-2



遺外-5

東出遺跡出土遺物

神出遺跡

圖版
3



1. 北区全景（空撮）



2. 西区全景（空撮）

神出遺跡

図版
4



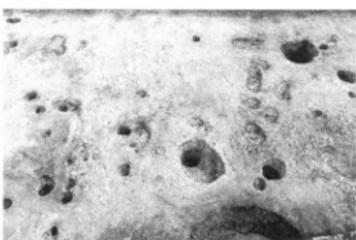
1. 中央区・南区全景



2. 南区全景（西より）



3. 南区全景（東より）



4. 中央区全景（北より）



5. 中央区全景（北より）



1. 4号住居跡遺物出土状況（南より）



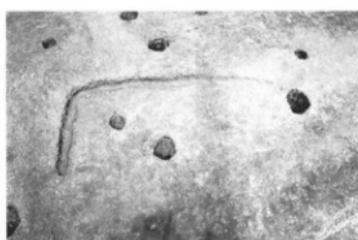
2. 同 完掘状況（東より）



3. 同 貯蔵穴土層断面（北より）



4. 同 貯蔵穴遺物出土状況（北より）



5. 5号住居跡完掘状況（南より）



6. 9号住居跡完掘状況（東より）



7. 同 貯蔵穴遺物出土状況（北より）



8. 14号住居跡遺物出土状況（東より）

神出遺跡

図版6



1. 14号住居跡完掘状況（東より）



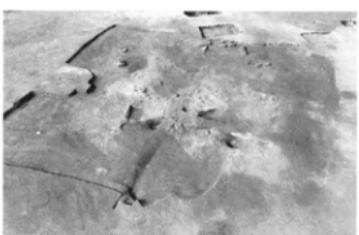
2. 同 貯藏穴遺物出土状況（東より）



3. 15・25号住居跡完掘状況（北より）



4. 18号住居跡完掘状況（南より）



5. 19号住居跡遺物出土状況（南より）



6. 20号住居跡完掘状況（南より）



7. 23号住居跡完掘状況（北より）



8. 28・29号住居跡完掘状況（南東より）



1. 31・32・34号住居跡遺物出土状況（西より）



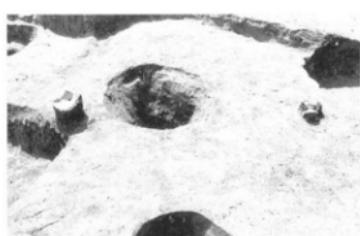
2. 32号住居跡遺物出土状況（南西より）



3. 同 遺物出土状況近景（西より）



4. 34号住居跡遺物出土状況（南東より）



5. 同 遺物出土状況近景（北東より）



6. 38号住居跡遺物出土状況（南東より）



7. 同 P-2 遺物出土状況近景（東より）



8. 39号住居跡完掘状況（南より）

神出遺跡

図版 8



1. 1号住居跡遺物出土状況（南より）



2. 2号住居跡完掘状況（南より）



3. 3号住居跡完掘状況（北東より）



4. 10号住居跡カマド完掘状況（南東より）



5. 11号住居跡完掘状況（南より）



6. 12号住居跡遺物出土状況（南より）



7. 13号住居跡遺物出土状況（南より）



8. 16号住居跡遺物出土状況（南より）



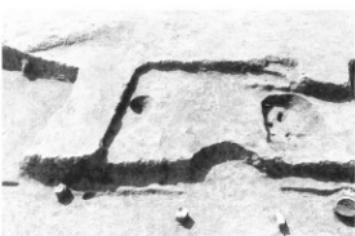
1. 17号住居跡遺物出土状況（南西より）



2. 21号住居跡遺物出土状況（南より）



3. 27号住居跡完掘状況（南より）



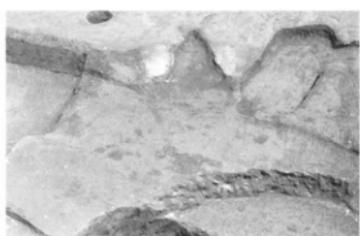
4. 31号住居跡完掘状況（東より）



5. 35号住居跡遺物出土状況（西より）



6. 36号住居跡完掘状況（北より）



7. 37号住居跡カマド完掘状況（南より）



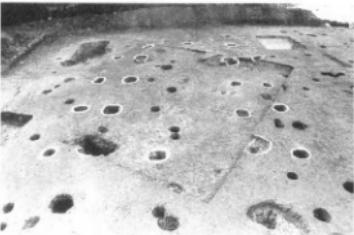
8. 40号住居跡完掘状況（南西より）

神出遺跡

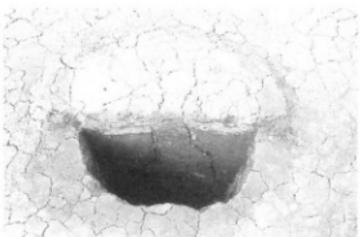
図版
10



1. 1号掘立柱建物跡完掘状況（西より）



2. 2号掘立柱建物跡完掘状況（東より）



3. 同 P-2 土層断面（南より）



4. 9号掘立柱建物跡 P-26確認状況（西より）



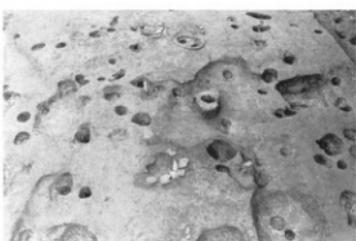
5. 9~12号掘立柱建物跡



1. 硬石建物跡



2. 同 確認状況（南より）



3. 同 調査状況（南より）



4. 硬石 No. 4 近景（南より）



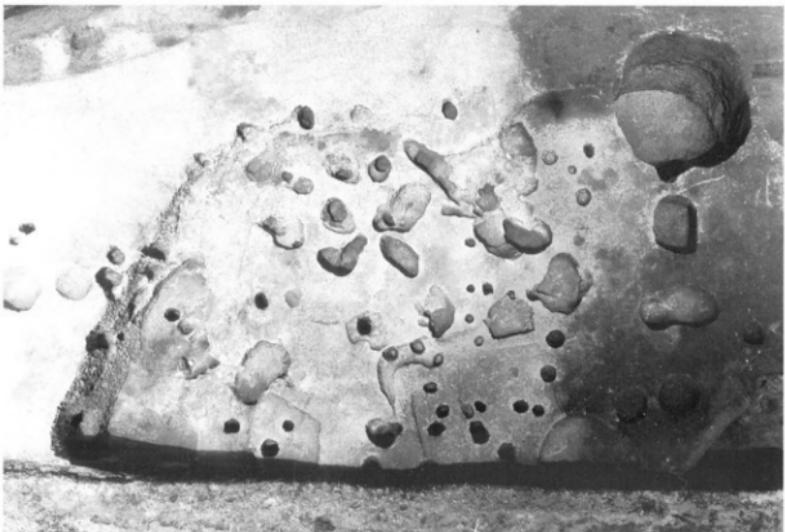
5. 硬石 No. 6 近景（南より）

神出遺跡

圖版
12



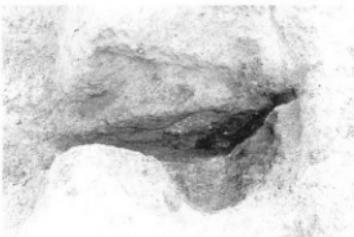
1. 1号テラス完掘状況



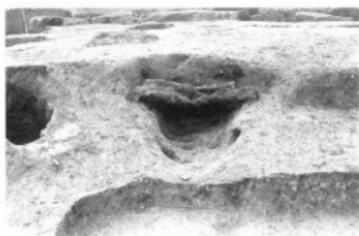
2. 2号テラス完掘状況



1. 1号火葬墓完掘状況（東より）



2. 1号火葬墓土層断面（北より）



3. 2号火葬墓完掘状況（東より）



4. 3号火葬墓完掘状況（東より）



5. 4号火葬墓完掘状況（西より）



6. 5号火葬墓完掘状況（南より）



7. 7号火葬墓完掘状況（南より）



8. 8号火葬墓完掘状況（東より）

神出遺跡

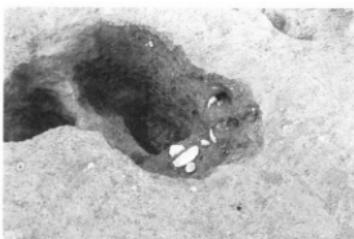
圖版
14



1. 85号土坑遺物出土状況（東より）



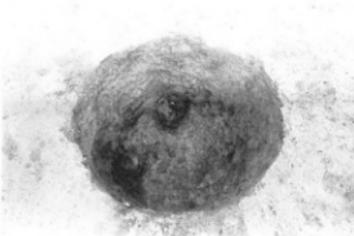
2. 110号土坑遺物出土状況（南より）



3. 163号土坑遺物出土状況（東より）



4. 165号土坑遺物出土状況（北より）



5. 191号土坑遺物出土状況（北西より）



6. 197号土坑遺物出土状況（西より）



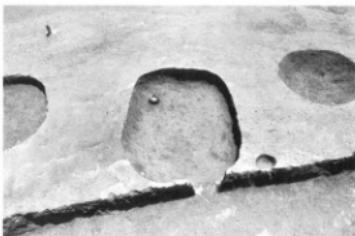
7. 596号土坑遺物出土状況（北より）



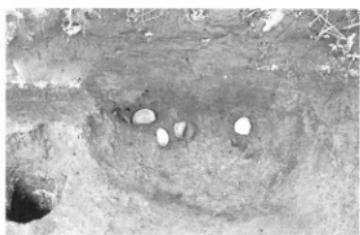
8. 639号土坑遺物出土状況（南より）



1. 354~359号土坑完掘状況（南より）



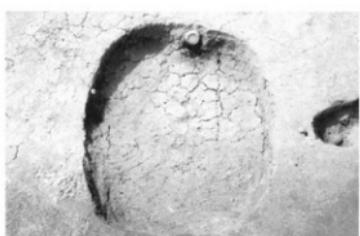
2. 371号土坑遺物出土状況（西より）



3. 614号土坑完掘状況（西より）



4. 615号土坑完掘状況（西より）



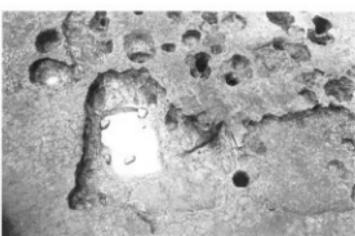
5. 159号土坑遺物出土状況（南より）



6. 164号土坑遺物出土状況（東より）



7. 549号土坑完掘状況（東より）



8. 637号土坑遺物出土状況（南東より）

神出遺跡

図版
16



1. 215~218号土坑完掘状況（東より）



2. 235・255~263号土坑完掘状況（西より）



3. 255~260号土坑土層断面（東より）



4. 298~301号土坑完掘状況（西より）



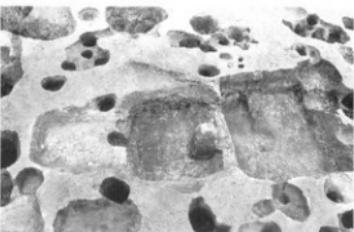
5. 365号土坑完掘状況（東より）



6. 410号土坑完掘状況（南より）



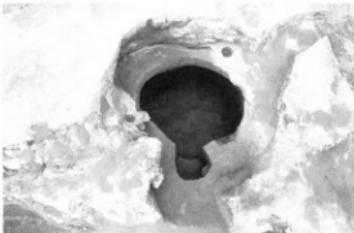
7. 509・622号土坑完掘状況（西より）



8. 541~543号土坑完掘状況（北より）



1. 1・2号地下式壙完掘状況（南より）



2. 3号地下式壙完掘状況（南より）



3. 4号地下式壙完掘状況（南より）



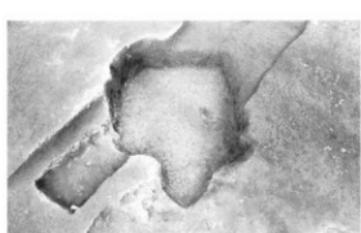
4. 4号地下式壙土層断面（東より）



5. 5～9号地下式壙完掘状況（空中より）



6. 12号地下式壙完掘状況（北より）



7. 13号地下式壙完掘状況（南西より）



8. 18号地下式壙完掘状況（北東より）

神出遺跡

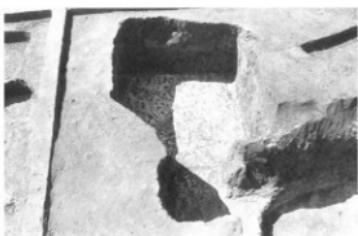
圖版
18



1. 19号地下式壙完掘状況（南西より）



2. 20号地下式壙完掘状況（西より）



3. 21号地下式壙完掘状況（南西より）



4. 23号地下式壙完掘状況（南西より）



5. 25号地下式壙完掘状況（東より）



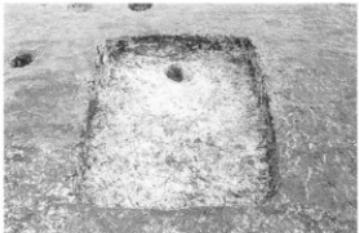
6. 26号地下式壙完掘状況（南西より）



7. 27号地下式壙完掘状況（南より）



8. 28号地下式壙完掘状況（南より）



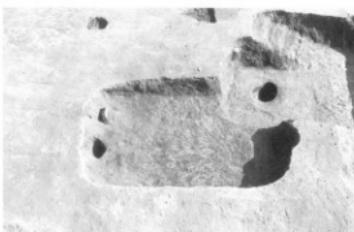
1. 2号竪穴遺構完掘状況（西より）



2. 3号竪穴遺構完掘状況（西より）



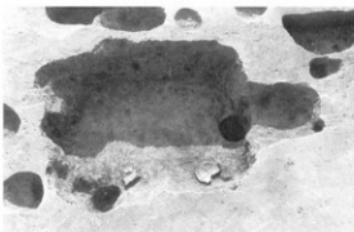
3. 7号竪穴遺構完掘状況（北より）



4. 8号竪穴遺構完掘状況（北より）



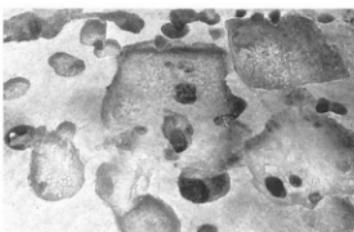
5. 9号竪穴遺構完掘状況（東より）



6. 10号竪穴遺構遺物出土状況（東より）



7. 12号竪穴遺構完掘状況（南より）



8. 14号竪穴遺構完掘状況（南より）

神出遺跡

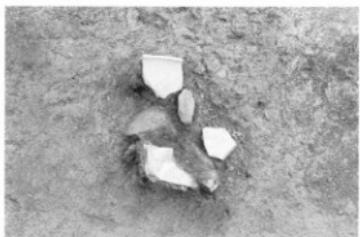
図版
20



1. 2号道完掘状況（東より）



2. 3・4号道完掘状況（東より）



3. 3号道遺物出土状況（東より）



4. 4号道遺物出土状況（西より）



5. 1号溝完掘状況（北より）



6. 3・4・5号溝完掘状況（北より）



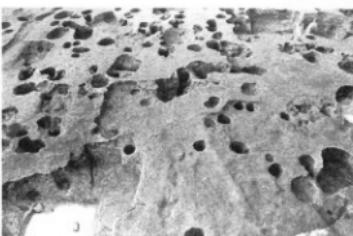
7. 10号溝土層断面（南より）



8. 12号溝完掘状況（南より）



1. H-6グリッド内ピット群完掘状況（南より）



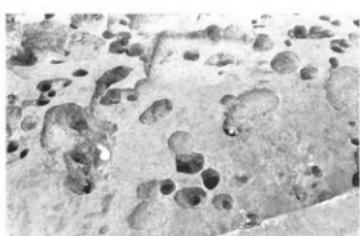
2. H-7グリッド内ピット群完掘状況（南より）



3. I-6グリッド内ピット群完掘状況（南より）



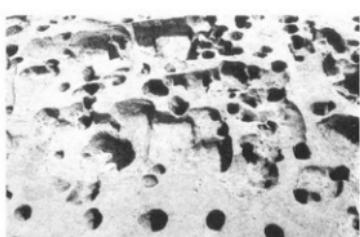
4. I-7グリッド内ピット群完掘状況（南より）



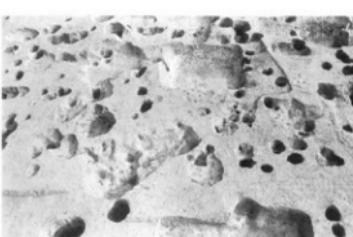
5. H-8グリッド内ピット群完掘状況（南より）



6. H-9グリッド内ピット群完掘状況（南より）



7. I-7グリッド内ピット群完掘状況（北より）



8. I-8グリッド内ピット群完掘状況（南より）

神出遺跡

圖版
22



9号住居跡出土遺物



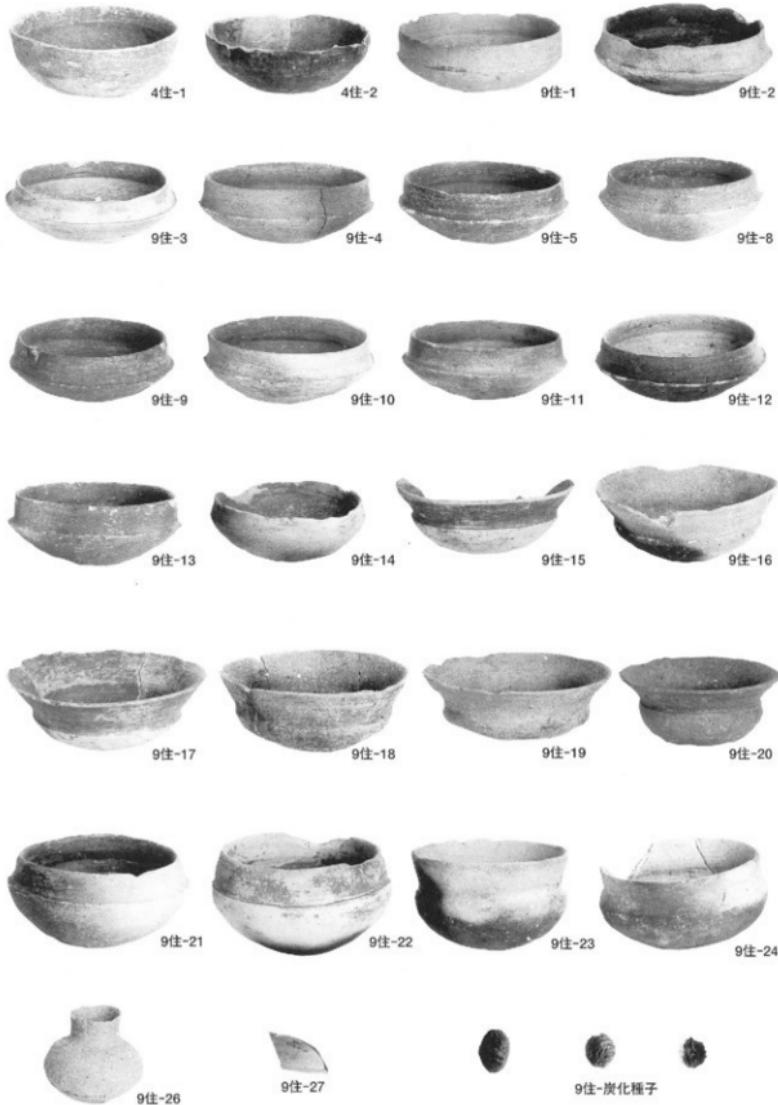
14号住居跡出土遺物



32号住居跡出土遺物

神出遺跡

圖版
23



4・9号住居跡出土遺物

神出遺跡

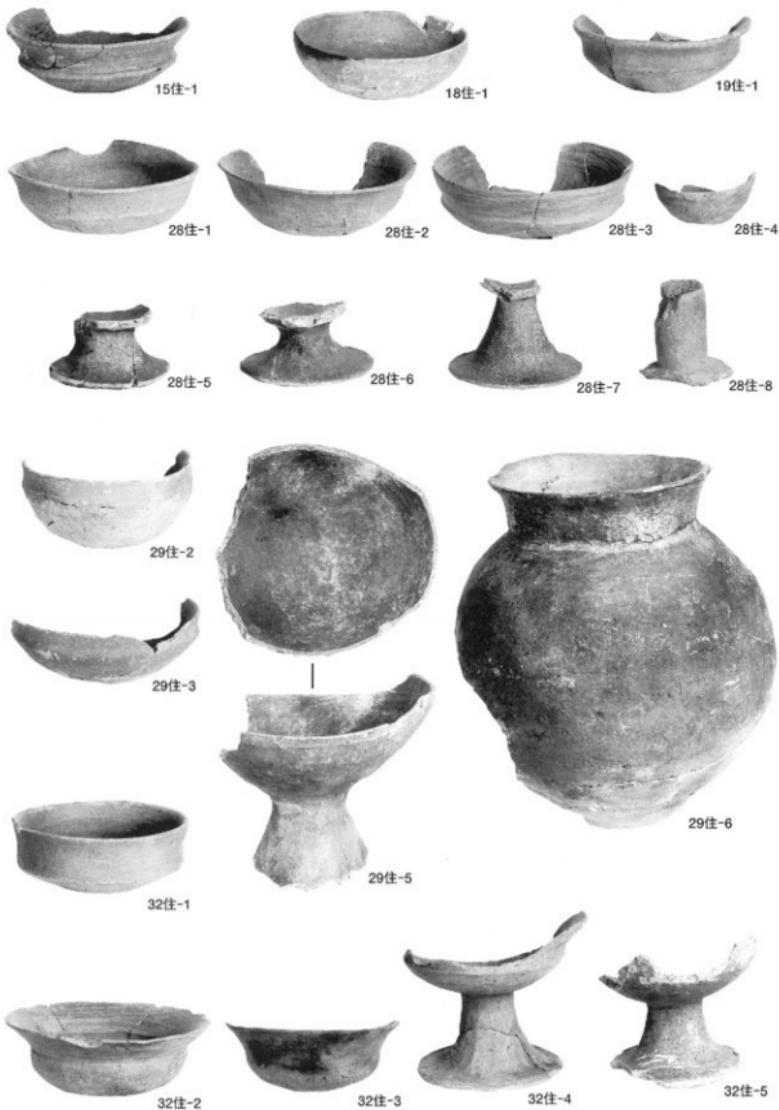
図版
24



9・14号住居跡出土遺物

神出遺跡

圖版
25



15・18・19・28・29・32号住居跡出土遺物

神出遺跡

圖版
26



32住-6



32住-7



32住-8



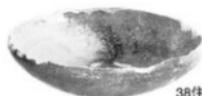
32住-9



34住-1



34住-3



38住-1



38住-2



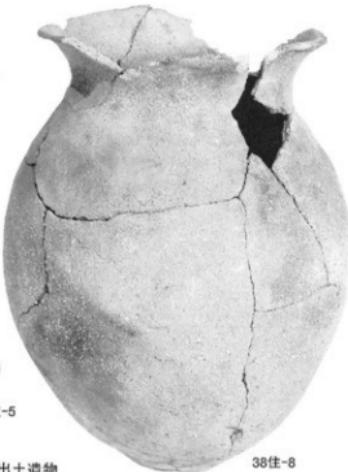
38住-3



38住-4



38住-5



38住-8

32・38号住居跡出土遺物



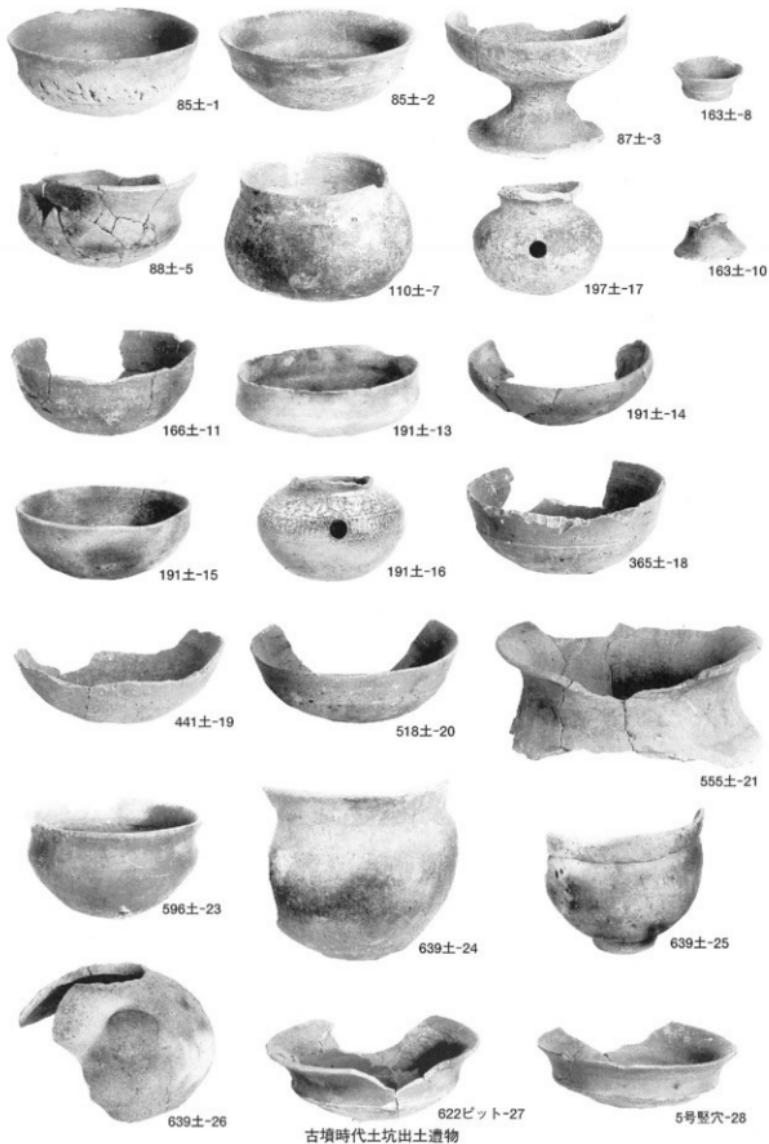
38・41号住居跡出土遺物



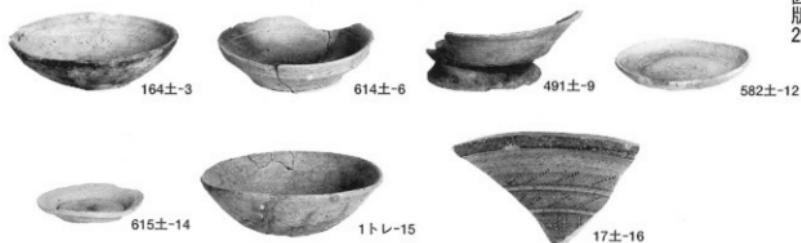
1・2・12・16・17・21・22・35・36・40号住居跡出土遺物

神出遺跡

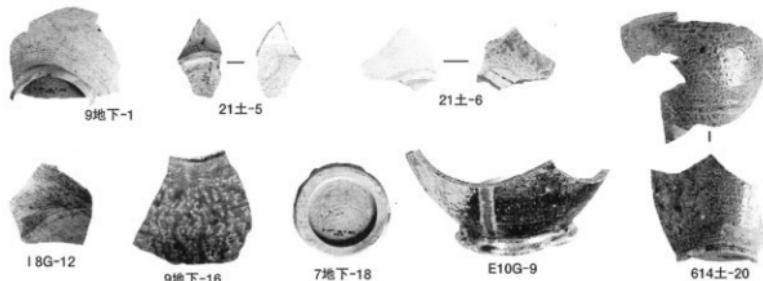
図版
28



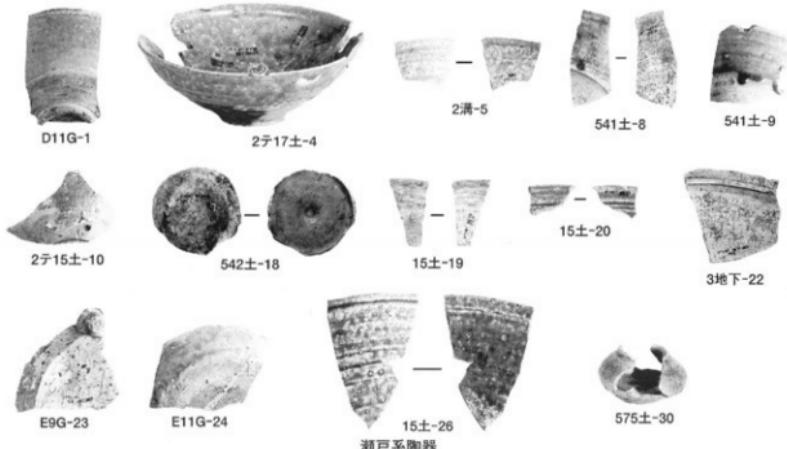
古墳時代土坑出土遺物



平安時代土坑出土遺物



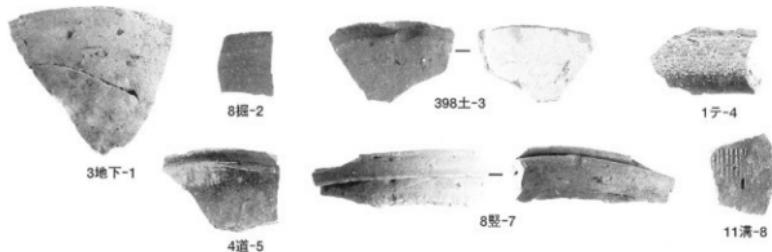
灰粗陶器



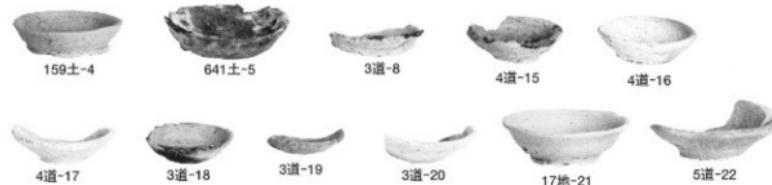
瀬戸系陶器

神出遺跡

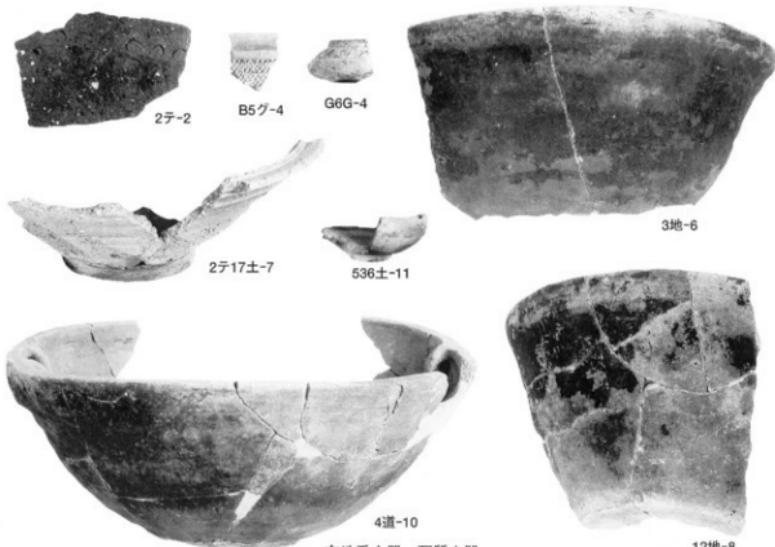
図版
30



常滑



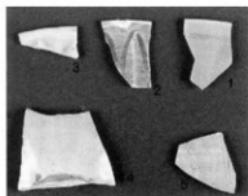
土師質土器 小皿



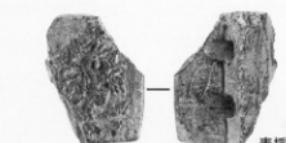
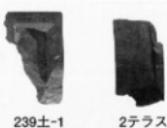
在地系土器・瓦質土器



古瀬戸



輸入陶磁器



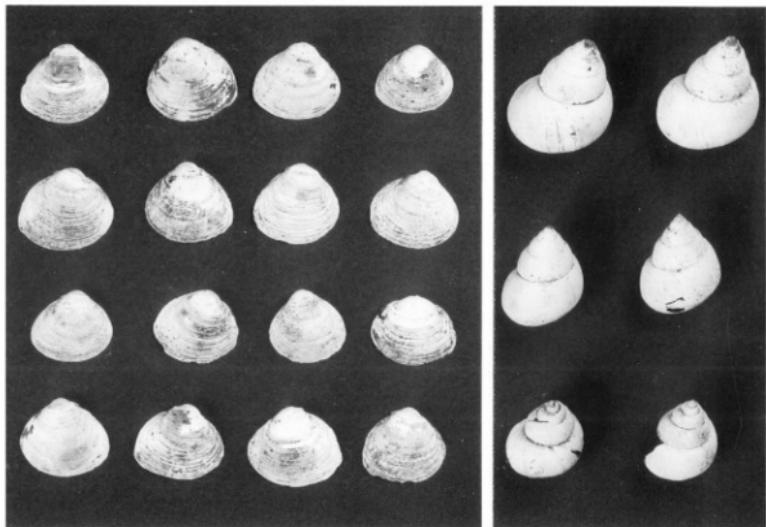
石製品



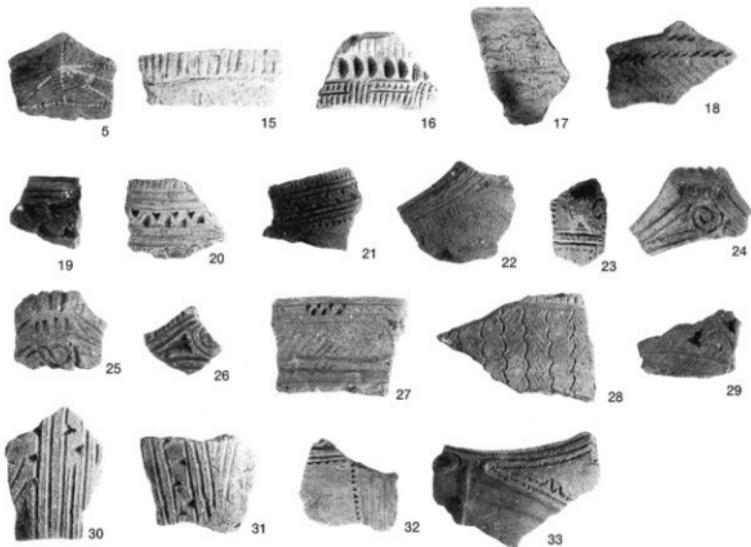
出土錢貨

神出遺跡

図版
32



17号地下式壙出土ヤマトシジミ・オオタニシ



遺構外出土遺物



1. 遺跡全景 (西より)



2. 1号住居跡遺物出土状況 (南より)



3. 1号土坑遺物出土状況 (南西より)



4. 7号土坑遺物出土状況 (南西より)



5. 14号土坑完掘状況 (南より)

中居遺跡

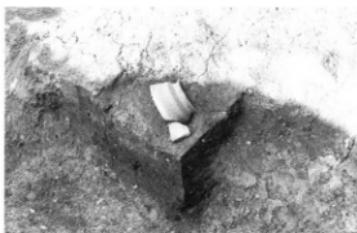
図版34



1. テラス状遺構遺物出土状況（西より）



2. テラス状遺構完掘状況（西より）



3. テラス状遺構遺物出土状況（南東より）



4. テラス状遺構遺物出土状況（南より）



Te-2



Te-4



Te-5



Te-7



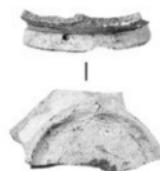
Te-8



Te-9



Te-10



Te-11

中居遺跡出土遺物

茨城県土浦市
東出・神出・中居遺跡

発行日 1999年10月29日

編集 土浦市教育委員会
土浦市遺跡調査会
山武考古学研究所

発行 土浦市遺跡調査会

問い合わせ先 上高津貝塚ふるさと歴史の広場
〒300-0811 茨城県土浦市上高津1843
TEL 0298(29)7111

印刷 (株) 文化総合企画
TEL 0476(93)0593



付図1 神出遺跡遺構配置図